

科目名	基礎化学
科目責任者	大場 浩
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	物質がどんな元素からどのような結合で構成されているか、物質の量や濃度計算、さらにどのような変化を示すか (化学反応) についての基礎的な内容が主である。日常環境内の化学的な事象にも言及する。
到達目標	1. 物質の構成元素とそれらの化学結合が理解できる。 2. 物質の量や濃度変化を化学反応に基づいて理解できる。 3. 酸、塩基と中和、酸化還元反応の基本が理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場 浩</p> <p>第 1 章 物質の構成、状態、分類および用途</p> <p>第 1 回：物質構成要素 (元素・原子・分子・イオン) と物質の三態</p> <p>第 2 回：元素の周期律表と原子構造</p> <p>第 3 回：化学結合と物質の分類・用途</p> <p>第 2 章 物質量、濃度および化学反応</p> <p>第 4 回：物質量と濃度計算 (1) (原子量・分子量・%・モル・モル濃度など) (中間試験：第 1 章の範囲 30 分)</p> <p>第 5 回：物質量と濃度計算 (2) (反応式の理解と反応生成物量の計算)</p> <p>第 6 回：酸と塩基、電離度、中和反応と塩、中和の計算問題</p> <p>第 7 回：酸化還元反応 (1) 酸化剤と還元剤</p> <p>第 8 回：酸化還元反応 (2) 金属の酸化還元反応、電池</p>

アクティブ ラーニング	特に物質量や濃度計算は、授業中、タイプの異なる演習問題出題し、個々の学生の板書を通して理解をはかる。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	中間試験（40%）、定期試験（60%）で評価する。
課題に対する フィード バック	毎回の提出のリアクションペーパーでの質問に答えるほか、課題の演習問題、中間試験の解答・解説や定期試験の解答例を提示する。
指定図書	なし。毎回到講義資料をパワーポイントで解説
参考図書	講義で紹介
事前・ 事後学修	講義でのポイントや演習問題を中心に事後学修を40分程度してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは、リアクションペーパーを介して受け付けています。
実務経験に 関する記述	なし
IT授業 の実施に ついて	

科目名	基礎物理学 (PT・OT 向け)
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択・作業選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間は物理法則に従って動いているため、人の運動やリハビリテーションに用いる道具・器械の働きを深く理解するためには物理学に関する知識が不可欠である。本科目は、理学療法学科・作業療法学科に所属する学生を対象とし、特に運動学系分野の前提となる力学の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 津森 伸一</p> <p>第 1 回： ガイダンス, 物理量とその表し方, 物理学で使うグラフと関数</p> <p>第 2 回： いろいろな運動</p> <p>第 3 回： さまざまな力(1) (重力, 張力, 垂直抗力)</p> <p>第 4 回： さまざまな力(2) (摩擦力, 弾性力, 圧力)</p> <p>第 5 回： 力のつり合いと運動の法則</p> <p>第 6 回： 物体の重心と回転運動</p> <p>第 7 回： 運動量, 仕事とエネルギー</p> <p>第 8 回： 総まとめ</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	パソコンと WebClass を用いて、授業用コンテンツの閲覧、小テストの実施、及びリアクションペーパーの作成や返信を行います。

評価方法	筆記試験 60%, 小テスト 30%, リアクションペーパー10%, 計 100%で評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。
課題に対するフィードバック	小テストはWebClass を用いて行い、解答後即座にテストの点数や解説が表示されます。リアクションペーパーはWebClass を用いて提出を行い、教員より個別に質問の回答やコメントを返信します。
指定図書	望月久, 棚橋信雄 編著 『PT・OT ゼロからの物理学』, 羊土社
参考図書	高等学校「物理基礎」「物理」教科書
事前・事後学修	① 授業前に指定された動画教材を閲覧しWebClass の小テストを行うこと (40分). ② 授業後に指定図書の演習問題を解いてみること (40分).
オープンエデュケーションの活用	NHK 高校講座「物理基礎」が公開するライブラリ (https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/) を用いた反転学習を行います。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9時～12時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取って下さい。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	

科目名	基礎物理学 (ST 向け)
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	音は波の一つであり、空気等の媒質の振動が伝搬することにより起こる物理現象である。言語聴覚分野は音響や音声といった「音」を対象とする学問分野であるため、深い理解のためには物理学に関する知識が求められる。本科目は、言語聴覚学科に所属する学生を対象とし、特に音響分野の前提となる波動の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 津森 伸一</p> <p>第 1 回： ガイダンス、波とは何か、波の種類とグラフ表現</p> <p>第 2 回： 振幅・振動数・波の速さと波の独立性、重ね合わせの原理</p> <p>第 3 回： 波の反射(自由端・固定端)と定常波</p> <p>第 4 回： 問題演習</p> <p>第 5 回： 音波、音の三要素</p> <p>第 6 回： (弦楽器の)弦の振動</p> <p>第 7 回： 音の大きさ(dB)</p> <p>第 8 回： 問題演習、総まとめ</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	パソコンと WebClass を用いて、授業用コンテンツの閲覧、小テストの実施、及びリアクションペーパーの作成や返信を行います。

評価方法	筆記試験 60%, 小テスト 30%, リアクションペーパー10%, 計 100%で評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。
課題に対するフィードバック	小テストはWebClass を用いて行い、解答後即座にテストの点数や解説が表示されます。リアクションペーパーはWebClass を用いて提出を行い、教員より個別に質問の回答やコメントを返信します。
指定図書	なし
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校「物理基礎」「物理」教科書 ・ 坂本真一, 蘆原郁:『「音響学」を学ぶ前に読む本』, コロナ社
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ③ 授業前に指定された動画教材を閲覧しWebClass の小テストを行うこと (40分). ④ 授業後に指定図書の演習問題を解いてみること (40分).
オープンエデュケーションの活用	NHK 高校講座「物理基礎」が公開するライブラリ (https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/) を用いた反転学習を行います。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3517 研究室</p> <p>時間：木曜日 9時～12時</p> <p>上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取って下さい。</p>
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	

科目名	統計学・疫学概論
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>〈隆朋也 担当分〉 医療分野で必要となるデータ処理方法としての統計学の基礎的事項について、問題を科学的に解決するための論理および手法を学びます。主に1つの変数について分析する手法を扱います。</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉 集団における健康問題の現状を明らかにし、因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論を学習する。具体的には疫学の歴史的背景、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学習する。</p>
到達目標	<p>〈隆朋也 担当分〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 <p>〈西川浩昭 担当分〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>隆朋也、西川浩昭</p> <p>〈隆朋也 担当分〉</p> <p>第1回： ガイダンス、母集団と標本 第2回： 分布を描く、分布の代表値 第3回： 分布の散布度 第4回： 正規分布 第5回： 母集団での平均値の推定 第6回： 割合に関する分布 第7回： 検定 第8回： 2グループの母平均値の差の検定</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉</p> <p>第9回 ガイダンス・疫学の概念と歴史、疫学の専門用語 第10回 疫学指標 第11回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究 第12回 疫学研究法② コホート研究 第13回 疫学研究法③ 症例対照研究 第14回 疫学的因果論、関連の指標 第15回 介入研究</p>
アクティブラーニング	WebClassを用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内のICT活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など

評価方法	<p>〈隆朋也 担当分〉 筆記試験100% 〈西川浩昭 担当分〉 原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)</p>
課題に対するフィードバック	<p>内容の解説を口頭や配布資料、WebClassへの提示などによって行う。</p>
指定図書	<p>〈隆朋也 担当分〉 高木廣文著 「ナースのための統計学 第2版」 医学書院 〈西川浩昭 担当分〉 日本疫学会 はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版 南江堂</p>
参考図書	<p>〈西川浩昭 担当分〉 中村好一 基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版 医学書院 2017 柳川 洋 疫学マニュアル 改訂7版 南山堂 丸井英二 疫学/保健統計 第3版 メヂカルフレンド社</p>
事前・事後学修	<p>〈隆朋也 担当分〉 事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと (15分)。事後学修として、教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと (25分)。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。授業で使用するスライドデータや関連資料を随時WebClassに掲載します。事前・事後学修に活用してください。</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉 衛生学・公衆衛生学の最低レベルの知識が必要になります。これについては各自で学習してください。</p> <p>各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>なし</p>
オフィスアワー	<p>時間については初回授業時に提示します。</p>
実務経験に関する記述	<p>なし</p>
対面授業の実施について	

科目名	社会福祉原論
科目責任者	川向雅弘
単位数他	2単位 (30 時間) 理学選択・作業選択 2セメスター 言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	前半は、社会福祉の基礎概念、理念、歴史等を学びます。後半は、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえ、さらに、事例をまじえて学習します。
到達目標	1. 「社会福祉とは何か」を説明できる。 2. 社会福祉の重要な理念を説明できる。 3. 現代社会の社会福祉の課題を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>川向雅弘</p> <p>第 1 回：社会福祉の基礎概念①「社会福祉」とは何か 第 2 回：社会福祉の基礎概念② ライフステージと社会福祉 第 3 回：社会福祉の基礎概念③ 社会福祉の対象とニーズ 第 4 回：社会福祉の理念①「自己決定」を考える 第 5 回：社会福祉の理念②「自立」を考える 第 6 回：社会福祉の理念③「ノーマライゼーション」を考える 第 7 回：社会福祉の歴史と展開① 戦前の社会福祉の歴史 第 8 回：社会福祉の歴史と展開② 高度経済成長期～社会福祉基礎構造改革期 第 9 回：社会福祉の歴史と展開③ 措置から契約へ 第 10 回：社会福祉の支援と課題① 低所得者支援の課題① 第 11 回：社会福祉の支援と課題② 低所得者支援の課題② 第 12 回：社会福祉の支援と課題③ 高齢者支援の課題 第 13 回：社会福祉の支援と課題④ 障害者支援の課題 第 14 回：社会福祉の支援と課題⑤ 制度のはざまの支援の課題① 第 15 回：社会福祉の支援と課題⑥ 制度のはざまの支援の課題②</p>
アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。自分自身の生活を周辺を見わたし社会福祉が必要な事象を意識をすること。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。 ・ 毎回の授業で Webclass を活用します。
評価方法	出席・リアクションの提出 50% 期末レポート 50%
課題に対するフィードバック	毎回の授業冒頭でリアクションペーパーを活用し前回の学びを振り返ります。
指定図書	山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』第 11 版、ミネルヴァ書房
参考図書	北川清一・川向雅弘編著『社会福祉への招待』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	<p>【事前学習】次回講義内容に該当する指定図書の頁を指示するので熟読しておくこと。関連する問題を新聞記事やインターネット等であたり授業に臨むこと (30 分程度)。</p> <p>【事後学修】講義後、30 分程度で授業を振り返りリアクションペーパーにまとめること。</p>

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	社会福祉学部所属の川向雅弘研究室（2705 研究室）にてオフィスアワーを設定します。詳細は初回授業時に提示します。 (masahiro-k@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は社会福祉実践経験を有する教員が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施に ついて	

科目名	基礎演習
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1単位(30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester
DP番号と科目領域	DP1教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	リハビリテーション専門職者をを目指す学生として、基本的な心構えと態度（スチューデントスキル）と、大学での学びを円滑に進めるための学習の基礎技能（スタディスキル）を学修する。授業を通して4年間の学びの基盤を作ることを目的とする。
到達目標	1. リハビリテーション専門職者をを目指す大学生としてのマナーや社会規範を身につけ実践できる。 2. 国際的視野に立ち、リハビリテーション専門職者に求められるコミュニケーションスキル、情報スキルの基礎を身につけ実践できる 3. 課題の発見と解決力を養う方法について知り、4年間の学びの基礎を理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p><u>3学科全体で実施</u></p> <p>第1回：オリエンテーション、建学の精神と本学での学び 新宮尚人 第2回：大学で学ぶということ、リハ専門職者としての必要な資質 新宮尚人 第3回：リハビリテーション専門職の国際支援・援助活動 鈴木達也ほか 第4回：情報倫理 津森伸一 第5回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル① 飯田妙子 第6回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル② 飯田妙子 第7回：発表・授業のまとめ 新宮尚人</p> <p><u>学科に分かれて実施</u> ※学科により内容や順番が変更になることがあります</p> <p>第1回：オリエンテーション、大学で学ぶ意義、大学での学修方法について学ぶ (事前事後学習の必要性、主体的学習など)</p> <p>第2回：社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルールについて学ぶ (研究室の訪ね方、メールの送り方含む)</p> <p>第3回：情報倫理および個人情報保護について学ぶ</p> <p>第4回：図書館の利用方法、文献検索の仕方について学ぶ</p> <p>第5回：文章要約の方法について学ぶ(論文や書籍に書かれている内容を理解しやすくまとめる)</p> <p>第6回：レポートの書き方、考察と感想、文献・資料の使い方について学ぶ</p> <p>第7回：資料整理の仕方、授業資料・ノートの活用について学ぶ(スライドの作り方含む)</p> <p>第8回：プレゼンテーション・ディスカッションについて学ぶ</p> <p>理学療法学科：矢倉千昭 作業療法学科：飯田妙子、鈴木達也、(栗田洋平) 言語聴覚学科：柴本 勇</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、授業中に問いかけを行います。また、スチューデントスキル、スタディスキル獲得のために、可能な範囲で演習を取り入れます。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	3学科全体：1-7回の内容でレポート提出50%、学科別：1-7回の内容でレポート提出50% なお、3学科全体の内容でのレポート評価に、ループリックは用いない。

課題に対するフィードバック	レポートもしくは発表に対してコメントをします。
指定図書	知へのステップ 第4版 -大学生からのスタディ・スキルズ-くろしお出版, 東京, 2015
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安としますが、事前学習は時間外でのグループの打ち合わせや準備なども含みます。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、大学生活で活用することで定着をはかるように努力してください。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う。 1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を 1 名配置し、教育の質を維持する。

科目名	発達心理学
科目責任者	松下 恵美子
単位数他	2単位 (30時間) 理学選択・作業選択・言語選択 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーションの専門職者に求められる発達心理学の基礎を学ぶ。
科目概要	リハビリテーションの専門職として、乳幼児期から高齢期までの生涯発達を見通しつつ、その発達課題とその援助を心理学的に理解する授業です。より理解を促すために DVD などを利用していきます。受動的に授業を受講するだけでなく、学んだことを主体的にまとめ、関連した事柄を調べることもします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの実践にかかわる発達心理学の基礎知識を身につける。 2. 子どもから高齢期の発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。 3. 発達が人やモノとの相互的にかかわりの中で起こることを理解し、説明できる。 4. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性を理解してその説明できる。
授業計画	<p><授業計画・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・評価の説明</p> <p>第 2 回：「発達心理学」とは～その目的を学ぶ</p> <p>第 3 回：胎児期・乳児期の発達 その 1～胎児の知覚を学ぶ</p> <p>第 4 回：胎児期・乳児期の発達 その 2～乳児期の母子関係の重要性について</p> <p>第 5 回：幼児期の発達 その 1～幼児期の遊びと第一反抗期の意味について</p> <p>第 6 回：幼児期の発達 その 2～自己意識と心の理論について</p> <p>第 7 回：児童期の発達 その 1～学習の始まりに不可欠なものについて</p> <p>第 8 回：児童期の発達 その 2～対人関係の基礎について</p> <p>第 9 回：青年期の発達 その 1～思春期の始まりについて</p> <p>第 10 回：青年期の発達 その 2～アイデンティティについて</p> <p>第 11 回：成人期の発達 大人の発達課題について</p> <p>第 12 回：高齢期の発達 高齢期の認知機能について</p> <p>第 13 回：発達心理学とリハビリテーションについて</p> <p>第 14 回：発達心理学と支援について</p> <p>第 15 回：まとめ</p>
アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを事後学修としてまとめていきます。

授業内のICT活用	特になし
評価方法	リアクションペーパー (20%)、試験 (80%)。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを次の授業でフィードバックします。
指定図書	渡辺 弥生監修 「よくわかる発達心理学」 ナツメ社 その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む (10分) 事後：授業の内容をまとめる (10分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	メンタルクリニックの臨床心理士としてカウンセリングをしています。1.6 検診、3 歳児検診の経験。小学校、中学校、高校、大学でのスクールカウンセラーの経験があります。
メディア授業の実施について	コロナ感染の拡大がある場合は、2つの教室をつかっているオンライン授業

科目名	保健医療福祉倫理学
科目責任者	富澤 涼子
単位数他	1単位 (15時間数) 理学選択・作業選択・言語選択 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	近年医学の進歩に伴い、生命誕生や途絶に医学が介入しはじめたことにより、単に医学だけでは解決できない多くの問題が浮き彫りになっている。この講義では、そのような諸問題を解決するための学問としての生命倫理学(バイオエシックス)の基礎を学ぶとともに、実際の医療やリハビリテーションの現場で生じる倫理的な問題に焦点を当て、グループディスカッション形式での演習を多く取り入れていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における倫理問題に気づくようになる。 2. 倫理的推論を行い、分析できる手法を身につける。 3. 専門家としての倫理的資質を養い、態度を身につける。 4. 共感をもって患者の視点に気づき、そして理解する。
授業計画	<p><担当教員名>富澤涼子、泉良太、俵祐一</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：倫理とは何か 富澤涼子 倫理とは何か、身近な例をもとに考える。</p> <p>第2回：生命倫理学の重要概念 富澤涼子 生命倫理において重要な概念となる功利主義と義務論、秘密保持について説明する。</p> <p>第3回：生命倫理学の重要概念 俵祐一 倫理の歴史的経緯とともに実験研究の倫理について説明する。</p> <p>第4回：生命倫理の諸問題（インフォームド・コンセント） 泉良太</p> <p>第5回：生命倫理の諸問題（医による危害） 富澤涼子</p> <p>第6回：生命倫理の諸問題（安楽死・尊厳死） 富澤涼子</p> <p>第7回：生命倫理の諸問題（緩和ケア・ホスピス） 富澤涼子</p> <p>第8回：生命倫理の諸問題（倫理的ジレンマ） 富澤涼子</p> <p>第4～8回は、それぞれのテーマを基に、グループディスカッションを行い、各グループで検討した内容を発表しあいことで、クライアントの視点、倫理的観点、倫理的態度を深める。</p> <p>※講義内容は、講義の進行等により、上記と異なる可能性もあります。</p>
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。
評価方法	グループワークへの参加度 (20%) プレゼンテーション (30%) レポート(ループリックを用いて評価する) (50%)

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーにより、各回の授業への関心、学修習熟度、疑問点などを確認します。必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスをを行います。
指定図書	吉川ひろみ著『生命倫理ワークブック』（三輪書店）
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に Webclass に掲示された資料を確認してください (第1～8回：各20分) ・授業後は講義内でテーマとなった生命・医療倫理の諸問題のディスカッション内容を振り返り、倫理的問題点の整理を行ってください。 (第1～8回：各20分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士・作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【富澤涼子】、【泉良太】、【俵祐一】を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	キャリアデザイン
科目責任者	金原一宏
単位数他	1単位（15時間） 理学必修・作業必修・言語必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することが態度と志向性を身につけなければならない。本講義は、卒業後の就職と人生設計に向け、またリハビリテーション専門職者としてどのように社会活躍し、人生を創造していくかを考えます。リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を再確認するとともに、キャリアデザインの重要性を理解し、「社会人基礎力」を身につけ、リハビリテーション専門職者としての具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描く志向性を身につけることを目標とします。
到達目標	1) リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を確認する 2) 自己分析, 就職先分析により具体的な人生設計を考えられるようになる 3) キャリアサロンの開催により、学生の職業意識を高めるとともに具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描けるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>金原一宏、佐野哲也、谷哲夫</p> <p>第1回：社会人としてのマナーを身につける 日常生活にて、挨拶や身だしなみ、礼儀作法を意識した生活を心がける。 外部講師：ハローワーク職員、佐野哲也</p> <p>第2回：コミュニケーションスキル 就職試験における面接技能を中心にコミュニケーションスキルをチェックする。事前に面接練習をして授業に参加する。 外部講師：ハローワーク職員、佐野哲也</p> <p>第3回：メンタルヘルス 健康的な生活には、性格やストレス特性を理解し、対応方法を学ぶことが必要である。授業では、メンタルヘルスの基礎知識を学ぶ。 佐野哲也</p> <p>第4回：自己分析 「自己分析」を行い、自分の性格特性を客観的に評価し、就職活動に結びつける。 谷哲夫</p> <p>第5回：文書技能を高める エントリーシートの書き方を中心に文章作成の技能を高める。授業前に各自のエントリーシートを作成して授業に参加する 金原一宏</p> <p>第6～8回：キャリアサロン 「キャリアサロン」を開催する。卒業生を含めた小グループを構成し、グループの中で卒業生による「キャリアデザイン」のレクチャーや「ソーシャルスキルトレーニング」としてのグループワークを行う。最後に、「キャリアサロン」で得た経験を今後の学生生活や就職活動にどのように生かすのかを文章にしてまとめる。 外部講師：ゲストスピーカー（卒業生）・全員</p> <p>受講生へ</p>

	<p>・自分のキャリアを考えることは、自分の一生をどう生きるかということを考えることでもあります。より良い人生を生きていくためにはどうすればよいか？またリハビリテーション専門職者としてのキャリアをどのように磨けばよいか？を考え、その実現のための手がかりを得てください。</p> <p>・授業の最後に満足度調査を行います。今回の「キャリアサロン」は、学生の皆さんに就職活動・人生設計を真剣に考える契機となることを願い企画した授業です。今後の「キャリアサロン」のあり方を検討する材料としたいのでご協力ください。</p>
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	なし
評価方法	<p>・リフレクションペーパーによる授業への取り組み 30%、</p> <p>・レポート提出と評価：70% (ルーブリックは用いない)</p>
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを確認し、フィードバックします。
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
参考図書	なし
事前・事後学修	<p>・授業前に Webclass に掲示された資料を確認してください (第1～8回：各20分)</p> <p>・授業後はポートフォリオを作成し、授業内容の復習をしてください。また、自己分析を深めながらキャリアパスのイメージを積み重ねてください。 (第1～8回：各20分)</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室（金原一宏）、3511 研究室（佐野哲也）、3406 研究室（谷哲夫）です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点から授業を行います。
対面授業の実施について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【金原一宏】、【佐野哲也】、【谷哲夫】を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	入門リハビリテーション英語 (PT)
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	1単位 (30 時間) 理学必修 3セメスター・4セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. リハビリテーションに関する英語の語彙を 150 語以上 (発音も含めて) 覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	<担当教員名> 土江綾、他 第1回：Becoming a therapist 第2回：The workplace 第3回：Sports 第4回：The elderly 第5回：Working with children 第6回：Computer workstations 第7回：Questionnaires 第8回：まとめ、中間テスト 第9回：Measurements 第10回：Joints 第11回：Posture 第12回：グループワーク① ((リハビリに関連する疾患・障害について) 第13回：グループワーク② (リハビリに関連する疾患・障害について) 第14回：発表会 第15回：まとめ、最終テスト
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、小テスト 20%、発表 20%、中間テスト 20%、最終テスト 30%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価 (プレゼンテーション)

指定図書	『Therapy Care: An English Course for Therapists』 by Jim Smiley, Michiyo Masui, & Tomoaki Asano (作者) (Perceptia Press 出版社) (ISBN 9784939130632)
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ(発音記号を含む)、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CD を活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習(パラレルリーディング、シャドーイング等)を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安:事前学修 30 分~1 時間、事後学修 30 分~1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	

科目名	入門リハビリテーション英語 (OT)
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語表現を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションに関する英語の語彙を 150 語以上 (発音も含めて) 覚える。 2. 簡単なリハビリテーションの指示、疾病・症例の説明を英語で行うことができる。 3. 英語でプレゼンテーションを行うことができる。 4. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。
授業計画	<p><担当教員名> 渥美陽子、パターソン・ドナルド、他</p> <p>第 1 回 : Becoming a therapist 第 2 回 : The workplace 第 3 回 : Sports 第 4 回 : The elderly 第 5 回 : Working with children 第 6 回 : Computer workstations 第 7 回 : Questionnaires 第 8 回 : まとめ、中間テスト 第 9 回 : Measurements 第 10 回 : Joints 第 11 回 : Posture 第 12 回 : グループワーク① (リハビリに関連する疾患・障害について) 第 13 回 : グループワーク② (リハビリに関連する疾患・障害について) 第 14 回 : 発表会 第 15 回 : まとめ、期末テスト</p>
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。 ・ 事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。 ・ Google 機能を用いてグループ発表の準備、発表を共同編集・同時参加型にする。
評価方法	クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、小テスト 20%、中間テスト 20%、発表・課題 30%、期末テスト 20%

課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間／期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Therapy Care: An English Course for Therapists』 by Jim Smiley, Michiyo Masui, & Tomoaki Asano（作者）（Perceptia Press 出版社）（ISBN 9784939130632）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べて確認し（発音記号を含む）、不明な点・課題を明らかにする。音声ファイルを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習を行う。表現の定着、内容の理解を深める。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	入門リハビリテーション英語 (ST)
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. リハビリテーションに関する英語の語彙を 150 語以上 (発音も含めて) 覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	<担当教員名> 土江綾、他 第1回: Introduction 第2回: Becoming a therapist 第3回: The elderly 第4回: Pronunciation 1 第5回: Pronunciation 2 第6回: Working with children 第7回: Speech disorder 1 第8回: まとめ、中間テスト 第9回: Speech disorder 2 第10回: Activities of daily living 第11回: Language 第12回: グループワーク① (リハビリに関連する疾患・障害について) 第13回: グループワーク② (リハビリに関連する疾患・障害について) 第14回: 発表会 第15回: まとめ、最終テスト
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、小テスト 20%、発表 20%、中間テスト 20%、最終テスト 30%

課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間／最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Therapy Care: An English Course for Therapists』 by Jim Smiley, Michiyo Masui, & Tomoaki Asano（作者）（Perceptia Press 出版社）（ISBN 9784939130632）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	

科目名	解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では入門解剖学として、下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べることができる。 2. 心臓血管系の構造と機能について述べることができる。 3. 内臓系の基本的な構造と機能について述べることができる。 4. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 5. 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、総論（人体の構成、細胞、組織）</p> <p>第 2 回：心臓血管系（血液、心臓の構造、）</p> <p>第 3 回：心臓血管系（心臓の血管、刺激伝道系、血管の構造）</p> <p>第 4 回：心臓血管系（循環路、リンパ系）</p> <p>第 5 回：呼吸器系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺）</p> <p>第 6 回：浜松医科大学での解剖学実習見学</p> <p>第 7 回：実習見学まとめ、中間テスト</p> <p>第 8 回：消化器系（消化管の管壁、腹膜、口腔、咽頭）</p> <p>第 9 回：消化器系（食道、胃、小腸、大腸）</p> <p>第 10 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）</p> <p>第 11 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第 12 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 13 回：運動器系（骨と骨格筋の構造、主な骨と骨格筋の名称、位置、作用）</p> <p>第 14 回：中間テスト</p> <p>第 15 回：総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内の ICT活用	本授業は、WebClass・タブレットアプリ(Visible Body など)・DVDなどの活用を取り入れて実施する。
評価方法	中間テスト(60%)、小テスト(30%)レポート(10点)を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』野村巖編、医学書院 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール(juchi-k@seirei.ac.jp)か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
メディア授 業の実施に ついて	場合によっては2教室で実施することがあります。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【俵祐一】、【高橋大生】を配置し、質疑応答に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	運動器解剖学																																
科目責任者	顧 寿智																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 1 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	医療職の中で理学療法士、作業療法士は最も運動器系の専門的な知識を要求される。組織学、解剖学用語をはじめとして、骨格、関節、靭帯、筋系などについて、標本、模型などの観察により、具体的に講義内容の理解を深めることを目的とする。英語の専門用語の修得も大切である。チャレンジしてみてください。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系の基本的なマクロ構造を述べることができる。 2. 全身骨の名称と構造を述べることができる。 3. 体肢の関節と靭帯の名称と構造を述べることができる。 4. 筋の名称と構造を述べることができる。 																																
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; width: 50%;">Aグループ</th> <th style="text-align: center; width: 50%;">Bグループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回： オリエンテーション、骨と筋の組織学、骨格系総論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 2 回：骨格系（頭蓋、）</td> <td>骨格系（脊柱、胸郭）</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：骨格系（脊柱、胸郭）</td> <td>骨格系（脊柱、胸郭）</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：骨格系（脊柱、胸郭）</td> <td>骨格系（頭蓋）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：骨格系（上肢の骨）</td> <td>骨格系（下肢の骨）</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：骨格系（下肢の骨）</td> <td>骨格系（上肢の骨）</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 中間テスト、関節靭帯・筋系総論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8 回：関節靭帯（下肢の連結）</td> <td>関節靭帯（上肢の連結）</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：関節靭帯（上肢の連結）</td> <td>関節靭帯（下肢の連結）</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：関節靭帯（その他の連結）</td> <td>関節靭帯（その他の連結）</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：筋系（上肢の筋）</td> <td>筋系（体幹の筋）</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：筋系（下肢の筋）</td> <td>筋系（上肢の筋）</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：筋系（体幹の筋）</td> <td>筋系（上肢の筋）</td> </tr> <tr> <td>第 14 回： まとめ、中間テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回： 総まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Aグループ	Bグループ	第 1 回： オリエンテーション、骨と筋の組織学、骨格系総論		第 2 回：骨格系（頭蓋、）	骨格系（脊柱、胸郭）	第 3 回：骨格系（脊柱、胸郭）	骨格系（脊柱、胸郭）	第 4 回：骨格系（脊柱、胸郭）	骨格系（頭蓋）	第 5 回：骨格系（上肢の骨）	骨格系（下肢の骨）	第 6 回：骨格系（下肢の骨）	骨格系（上肢の骨）	第 7 回： 中間テスト、関節靭帯・筋系総論		第 8 回：関節靭帯（下肢の連結）	関節靭帯（上肢の連結）	第 9 回：関節靭帯（上肢の連結）	関節靭帯（下肢の連結）	第 10 回：関節靭帯（その他の連結）	関節靭帯（その他の連結）	第 11 回：筋系（上肢の筋）	筋系（体幹の筋）	第 12 回：筋系（下肢の筋）	筋系（上肢の筋）	第 13 回：筋系（体幹の筋）	筋系（上肢の筋）	第 14 回： まとめ、中間テスト		第 15 回： 総まとめ	
Aグループ	Bグループ																																
第 1 回： オリエンテーション、骨と筋の組織学、骨格系総論																																	
第 2 回：骨格系（頭蓋、）	骨格系（脊柱、胸郭）																																
第 3 回：骨格系（脊柱、胸郭）	骨格系（脊柱、胸郭）																																
第 4 回：骨格系（脊柱、胸郭）	骨格系（頭蓋）																																
第 5 回：骨格系（上肢の骨）	骨格系（下肢の骨）																																
第 6 回：骨格系（下肢の骨）	骨格系（上肢の骨）																																
第 7 回： 中間テスト、関節靭帯・筋系総論																																	
第 8 回：関節靭帯（下肢の連結）	関節靭帯（上肢の連結）																																
第 9 回：関節靭帯（上肢の連結）	関節靭帯（下肢の連結）																																
第 10 回：関節靭帯（その他の連結）	関節靭帯（その他の連結）																																
第 11 回：筋系（上肢の筋）	筋系（体幹の筋）																																
第 12 回：筋系（下肢の筋）	筋系（上肢の筋）																																
第 13 回：筋系（体幹の筋）	筋系（上肢の筋）																																
第 14 回： まとめ、中間テスト																																	
第 15 回： 総まとめ																																	

アクティブ ラーニング	<p>本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。</p> <p>受講のための事前準備：赤青鉛筆</p>
授業内の ICT活用	<p>本授業は、WebClass・タブレットアプリ(Visible Body など)・DVDなどの活用を取り入れて実施する。</p>
評価方法	<p>中間テスト(50%)、小テスト(25%)、レポート(25%)を総合的に評価する。</p>
課題に対する フィード バック	<p>テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント</p>
指定図書	<p>『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』野村巖編、医学書院</p>
参考図書	<p>『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂</p>
事前・ 事後学修	<p>各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>自主学习として、図書館にあるDVD「目で見る解剖・生理」「目で見る医学の基礎」の受講を勧める。</p>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール(juchi-k@seirei.ac.jp)か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。</p>
メディア授 業の実施に ついて	<p>場合によっては2教室で実施することがあります。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【俵祐一】、【高橋大生】を配置し、質疑応答に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。</p>

科目名	神経解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	神経解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。 2. 感覚器系の構造と機能を述べることができる。 3. 内分泌器系の構造と機能を述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：神経系の概観、神経組織</p> <p>第 2 回：髄膜と脳室系、神経系の発生</p> <p>第 3 回：脊髄、脳幹</p> <p>第 4 回：脳幹、小脳</p> <p>第 5 回：大脳、伝導路</p> <p>第 6 回：脊髄神経</p> <p>第 7 回：解剖実験</p> <p>第 8 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 9 回：脊髄神経</p> <p>第 10 回：脳神経</p> <p>第 11 回：自律神経系</p> <p>第 12 回：感覚器系（皮膚、視覚、聴覚と平衡感覚）</p> <p>第 13 回：内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島）</p> <p>第 14 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 15 回：総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内の ICT活用	本授業は、WebClass・タブレットアプリ(Visible Body など)・DVDなどの活用を取り入れて実施する。
評価方法	中間テスト(60%)、小テスト(30%)レポート(10点)を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』野村巖編、医学書院
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール(juchi-k@seirei.ac.jp)か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
メディア授 業の実施に ついて	場合によっては2教室で実施することがあります。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【俵祐一】、【高橋大生】を配置し、質疑応答に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	言語聴覚解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーションの専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に習得している。
科目概要	言語聴覚解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系、嚥下発声、聴覚平衡感学などについて、標本、模型などの観察により、具体的に講義内容の理解を深めることを目的とする。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。 2. 嚥下発声の構造と機能を述べることができる。 3. 聴覚と平衡感覚器の構造と機能を述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：神経系の概観、神経組織</p> <p>第 2 回：神経系の発生、脊髄</p> <p>第 3 回：脊髄神経、髄膜と脳室系</p> <p>第 4 回：脳幹、小脳</p> <p>第 5 回：間脳、大脳</p> <p>第 6 回：伝導路、脳神経</p> <p>第 7 回：解剖実験、</p> <p>第 8 回：自律神経系</p> <p>第 9 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 10 回：咽頭、喉頭</p> <p>第 11 回：咽頭、喉頭</p> <p>第 12 回：咽頭、喉頭</p> <p>第 13 回：聴覚と平衡感覚</p> <p>第 14 回：まとめ、中間テスト</p>

	第 15 回 : 総まとめ
アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。
評価方法	中間テスト (60%)、小テスト (20%)、レポート (10%) 授業への取り組み (10%) を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
参考図書	相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授 業の実施に ついて	

科目名	人体機能学(動物性機能)
科目責任者	大林 雅春
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。本科目では、「生理学」のうち『動物性機能』を担当し、特に脳、神経・筋肉、感覚と刺激の受容、運動の調節に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	1. 脳の機能について説明できる。 2. 神経・筋の機能について説明できる。 3. 感覚の受容について説明できる。 4. 運動の調節について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第1回 オリエンテーション、神経系の基礎-1 (教科書第1, 12章) 第2回 神経系の基礎-2 (教科書第12章) 第3回 自律神経系-1 (教科書第13章) 第4回 自律神経系-2 (教科書第13章) 第5回 脳-1 (教科書第14章) 第6回 脳-2 (教科書第14章) 第7回 脳-3 (教科書第14章) 第8回 感覚-1 (総論) (教科書第15章) 第9回 感覚-2 (各論) (教科書第15章) 第10回 感覚-3 (各論) (教科書第15章) 第11回 筋収縮 (教科書第11章) 第12回 運動の調節-1 (教科書第8, 16章) 第13回 運動の調節-2 (教科書第8, 16章) 第14回 骨の生理学 (教科書第17章) 第15回 まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>
アクティブラーニング	WebClass に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立てること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表(レポート形式 or プレゼンテーション) などグループ学修形式の授業も取り入れる。
授業内のICT活用	毎回の授業で配る講義資料(紙媒体)は、GoogleDrive 上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。

評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第7版 南江堂
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いので、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立つこと。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。 生命科学教育シェアリンググループ（生理学問題集）や、その他の関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

授業内のICT活用	毎回の授業で配る講義資料（紙媒体）は、GoogleDrive上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。授業には、PCやタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。
評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第7版 南江堂
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いので、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜WebClassに掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オープンエデュケーションの活用	自主学習としてweb上の様々なサイトの活用を勧めます。 生命科学教育シェアリンググループ（生理学問題集）や、その他の関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	運動学 I
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	運動学の基礎的知識を習得する。人体の運動器の構造と機能, さらに身体運動の機構について学び, 病変によるその障害を分析・治療するための基礎を身につけることを目的とする。授業は, 講義および演習形式により進める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学に必要な構造 (名称) を知っている。 2. 特徴的な構造を説明できる。 3. 各関節の運動を説明できる。 4. 筋や靭帯の作用を理解する。 5. 上記について教科書で該当箇所を読み理解する。 6. webclass や教科書等にアクセスし自ら情報を得るで行動に移すことができる。 7. 自分の意見を述べるができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回: コースオリエンテーション, 運動学総論 (根地嶋) 運動学の理解に必要な用語の理解</p> <p>第 2 回: 運動学の基本原理 (根地嶋) 運動学の学修する共通事項の理解</p> <p>第 3 回: 下肢の運動-下肢帯と股関節の運動 (根地嶋) 骨盤と股関節に関する構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 4 回: 下肢の運動-膝関節の運動 (根地嶋) 膝関節の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 5 回: 下肢の運動-膝関節の運動 2 (根地嶋) 膝関節の構造と運動の理解</p> <p>第 6 回: 下肢の運動-足関節と足部の運動 (根地嶋) 足関節と足部の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 7 回: 体幹の運動-頸・胸・腰椎の運動 (根地嶋) 脊柱と胸郭の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 8 回: 下肢体幹のまとめ (根地嶋) これまでの理解の確認</p> <p>第 9 回: 上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 (根地嶋) 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 10 回: 上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 2 (根地嶋) 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解</p> <p>第 11 回: 運動器を構成する組織 (根地嶋) 骨, 関節, 靭帯, 腱, 筋などの構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 12 回: 関節運動と筋, これまでのまとめ (根地嶋) 関節と筋に関する理解, 知識の確認</p> <p>第 13 回: 上肢の運動-肘関節と前腕の運動 (佐野) 肘関節と前腕の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 14 回: 上肢の運動-手関節と手の運動 (佐野) 手関節と手の構造と運動の理解</p> <p>第 15 回: まとめ (根地嶋) これまでのまとめ, 理解の確認</p>

アクティブラーニング	Webclass の活用 (動画視聴, 学修ポイント問題集による事前事後学修)
授業内の ICT 活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用
評価方法	小テスト (25%), 単元テスト (60%), リアクションペーパー (15%)
課題に対するフィードバック	小テストの解説, リアクションペーパーの回答
指定図書	中村隆一, 斉藤宏, 長崎浩: 基礎運動学 (医歯薬出版) 弓岡光徳ら (訳): エッセンシャル・キネシオロジー (南江堂) *以下, OT 学科のみ購入 中島雅美, 中島喜代彦 (編): PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 (医歯薬出版) 中島雅美 (編): PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第2版 (医歯薬出版)
参考図書	なし
事前・事後学修	各回のテーマ (膝や足など) の解剖学, つまり骨や筋の構造, webclass にある問題集を事前に 20 分程度学修しておくこと。毎回の授業の振り返りを 20 分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者: 根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室: 3505 時間帯: 授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	本科目は, 基本的に 1 教室で実施する。もし, 履修者が 100 名を越える場合, 2 教室での遠隔授業とする。その場合, 遠隔教室における補助教員は【佐野哲也】とし, 質疑応答等に対応する。

科目名	運動学Ⅱ	
科目責任者	根地嶋 誠	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター (2021 年度入学生)	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	運動学Ⅰで学んだ知識を基に、運動学の基礎的知識を習得する。ヒトの姿勢や歩行の定義と評価の基礎、姿勢の神経制御、運動の学習過程、さらに姿勢と運動の分析について学修する。授業は講義と演習形式により進める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準的なヒトの姿勢・歩行を運動学および運動力学的な視点で説明できる。 2. 姿勢制御、運動学習の理論についてその概略を説明できる。 3. 姿勢、動作の観察・分析の基本的な考え方と方法を説明できる。 4. 上記について教科書で該当箇所を読み理解する。 5. webclass や教科書等にアクセスし自ら情報を得るで行動に移すことができる。 6. 自分の意見を述べることができる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学</p> <p>第 2 回：生体の構造と機能① 骨格筋の収縮・反射運動</p> <p>第 3 回：生体の構造と機能② 運動制御</p> <p>第 4 回：生体の構造と機能③ 運動生理</p> <p>第 5 回：バイオメカニクスの基礎 1, 単元テスト 姿勢の定義、姿勢に関する物理学 (重心・重心線)</p> <p>第 6 回：姿勢① 姿勢の安定要因、姿勢の分類</p> <p>第 7 回：姿勢② 姿勢制御機構, バランス評価</p> <p>第 8 回：姿勢③ 姿勢観察, 異常姿勢・姿勢分析の基礎</p> <p>第 9 回：バイオメカニクスの基礎 2, 単元テスト 歩行に関する物理学 (生体力学)</p> <p>第 10 回：歩行① 歩行の定義, 歩行観察, 歩行周期</p> <p>第 11 回：歩行② 運動学的分析, 運動力学的分析</p> <p>第 12 回：歩行③ 筋電図分析, 生理学的分析</p> <p>第 13 回：歩行④, 単元テスト 歩行観察, 異常歩行・歩行分析の基礎</p> <p>第 14 回：運動学習① 学習と記憶, 運動技能, 学習の諸理論</p> <p>第 15 回：運動学習② 運動学習の諸理論, 練習と訓練</p>	<p><担当教員名></p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢部広樹</p> <p>津森伸一, 根地嶋</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>津森伸一, 根地嶋</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>佐野哲也</p> <p>佐野哲也</p>

アクティブラーニング	WebClass を用いた動画および資料の提示，小テストを実施する。 授業はグループワークの形式を取り入れ，事前学習で学んだことを授業内で PC を用いてディスカッションまたはプレゼンテーションをする。 グループは初回授業時に提示します。
授業内の ICT 活用	姿勢観察・分析および歩行観察・分析に画像や動画を使用する。 グループワークディスカッション・プレゼンテーションに PC などを使用する。
評価方法	小テスト 25%，単元テスト 60%，リアクションペーパー15% 計 100 点
課題に対するフィードバック	各回の出席・リアクションペーパーは WebClass を用いて提出するものとし，質問や意見については内容に応じて返信する。 各回の進行度や理解度に応じて小テストを WebClass で行い，解答後に正解・解説と採点結果を適宜フィードバックする。
指定図書	中村隆一他著：基礎運動学 第 6 版補訂（医歯薬出版） ※運動学 I 指定図書 望月久，棚橋信雄 編著：PT・OT ゼロからの物理学（羊土社） ※基礎物理指定図書
参考図書	中島雅美，中島喜代彦（編）：PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第 3 版（医歯薬出版） 中島雅美（編）：PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第 3 版（医歯薬出版） 小柳磨毅他編：PT・OT のための運動学テキスト 基礎・実習・臨床（金原出版株式会社） 臨床歩行分析研究会監修：姿勢・動作・歩行分析 第 1 版（羊土社） 月城慶一他（訳）：観察による歩行分析（医学書院） その他は授業内で随時紹介する。
事前・事後学修	原則 40 分程度を目安に学修する。 事前学修として，動画および資料の閲覧や教科書の該当ページを読み，キーワードをまとめる。 事後学修として，授業で学んだ内容の演習問題を解き，理解度を確認し，疑問点をまとめて復習する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3505 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（makoto-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	本科目は，基本的に 1 教室で実施する。

科目名	運動学Ⅱ	
科目責任者	根地嶋 誠	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター (2022 年度入学生)	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	運動学Ⅰで学んだ知識を基に、運動学の基礎的知識を習得する。ヒトの姿勢や歩行の定義と評価の基礎、姿勢の神経制御、運動の学習過程、さらに姿勢と運動の分析について学修する。授業は講義と演習形式により進める。	
到達目標	7. 標準的なヒトの姿勢・歩行を運動学および運動力学的な視点で説明できる。 8. 姿勢制御、運動学習の理論についてその概略を説明できる。 9. 姿勢、動作の観察・分析の基本的な考え方と方法を説明できる。 10. 上記について教科書で該当箇所を読み理解する。 11. webclass や教科書等にアクセスし自ら情報を得るで行動に移すことができる。 12. 自分の意見を述べることができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第 1 回：オリエンテーション 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学	根地嶋誠
	第 2 回：生体の構造と機能① 骨格筋の収縮・反射運動	根地嶋誠
	第 3 回：生体の構造と機能② 運動制御	矢倉千昭
	第 4 回：生体の構造と機能③ 運動生理	矢部広樹
	第 5 回：バイオメカニクスの基礎 1, 単元テスト 姿勢の定義、姿勢に関する物理学 (重心・重心線)	津森伸一, 根地嶋
	第 6 回：姿勢① 姿勢の安定要因、姿勢の分類	矢部広樹
	第 7 回：姿勢② 姿勢制御機構, バランス評価	矢部広樹
	第 8 回：姿勢③ 姿勢観察, 異常姿勢・姿勢分析の基礎	矢部広樹
	第 9 回：バイオメカニクスの基礎 2, 単元テスト 歩行に関する物理学 (生体力学)	津森伸一, 根地嶋
	第 10 回：歩行① 歩行の定義, 歩行観察, 歩行周期	根地嶋誠
	第 11 回：歩行② 運動学的分析, 運動力学的分析	根地嶋誠
	第 12 回：歩行③ 筋電図分析, 生理学的分析	根地嶋誠
	第 13 回：歩行④, 単元テスト 歩行観察, 異常歩行・歩行分析の基礎	根地嶋誠
	第 14 回：運動学習① 学習と記憶, 運動技能, 学習の諸理論	佐野哲也
	第 15 回：運動学習② 運動学習の諸理論, 練習と訓練	佐野哲也

アクティブラーニング	WebClass を用いた動画および資料の提示，小テストを実施する。 授業はグループワークの形式を取り入れ，事前学習で学んだことを授業内で PC を用いてディスカッションまたはプレゼンテーションをする。 グループは初回授業時に提示します。
授業内の ICT 活用	姿勢観察・分析および歩行観察・分析に画像や動画を使用する。 グループワークディスカッション・プレゼンテーションに PC などを使用する。
評価方法	小テスト 25%，単元テスト 60%，リアクションペーパー15% 計 100 点
課題に対するフィードバック	各回の出席・リアクションペーパーは WebClass を用いて提出するものとし，質問や意見については内容に応じて返信する。 各回の進行度や理解度に応じて小テストを WebClass で行い，解答後に正解・解説と採点結果を適宜フィードバックする。
指定図書	中村隆一他著：基礎運動学 第 6 版補訂（医歯薬出版） ※運動学 I 指定図書 望月久，棚橋信雄 編著：PT・OT ゼロからの物理学（羊土社） ※基礎物理指定図書
参考図書	中島雅美，中島喜代彦（編）：PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第 3 版（医歯薬出版） 中島雅美（編）：PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第 3 版（医歯薬出版） 小柳磨毅他編：PT・OT のための運動学テキスト 基礎・実習・臨床（金原出版株式会社） 臨床歩行分析研究会監修：姿勢・動作・歩行分析 第 1 版（羊土社） 月城慶一他（訳）：観察による歩行分析（医学書院） その他は授業内で随時紹介する。
事前・事後学修	原則 40 分程度を目安に学修する。 事前学修として，動画および資料の閲覧や教科書の該当ページを読み，キーワードをまとめる。 事後学修として，授業で学んだ内容の演習問題を解き，理解度を確認し，疑問点をまとめて復習する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3505 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（makoto-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	本科目は，基本的に 1 教室で実施する。もし，履修者が 100 名を越える場合，2 教室での遠隔授業とする。その場合，遠隔教室における補助教員は【津森伸一】【矢倉千昭】【矢部広樹】【佐野哲也】とし，質疑応答等に対応する。

科目名	運動学演習
科目責任者	田中 なつみ
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門基礎
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	ヒトの身体機能を評価・治療するためには、解剖学、生理学および物理学の知識を運動学と関連付けていくことが重要である。本科目では、運動学で得た知識である骨のランドマーク、筋の起始停止、筋の走行、関節の動きを演習を通して学習することを目的とする。形態計測や主要な骨や筋の触診ができることにより、関節可動域測定や徒手筋力検査、ストレッチなど理学療法の基礎となる基本的な知識・技術を習得する。
到達目標	1. 形態計測ができる。 2. 骨のランドマークや骨格筋の触診ができる。 3. 筋の起始・停止や走行を理解し、関節運動や筋の機能について説明できる。
授業計画	<p><担当教員名> 田中なつみ, 矢部広樹, 高橋大生, 高山真希</p> <p><授業内容・テーマ等> 第1回: オリエンテーション 田中, 高山</p> <p>第2回: 形態計測, 上肢の骨格筋と運動1 (肩関節複合体の骨・骨格筋の触診と関節運動) 田中, 高山</p> <p>第3回: 上肢の骨格筋と運動2 (肘関節と前腕の骨・骨格筋の触診と関節運動) 田中, 高山</p> <p>第4回: 上肢の骨格筋と運動3 (手関節と手の骨・骨格筋の触診と関節運動) 田中, 高山</p> <p>第5回: 上肢の骨格筋と運動のまとめ 田中, 高山</p> <p>第6回: 形態計測, 下肢の骨格筋と運動1 (下肢帯の骨・骨格筋の触診と関節運動) 田中, 高山</p> <p>第7回: 下肢の骨格筋と運動2 (股関節の骨・骨格筋の触診と関節運動) 田中, 高山</p> <p>第8回: 下肢の骨格筋と運動3 (膝関節の骨・骨格筋の触診と関節運動) 田中, 高山</p> <p>第9回: 下肢の骨格筋と運動4 (足関節の骨・骨格筋の触診と関節運動) 田中, 高山</p> <p>第10回: 下肢の骨格筋と運動のまとめ 田中, 高山</p> <p>第11回: 体幹の骨格筋と運動1 (頸・胸・腰椎の骨・骨格筋の触診と関節運動)</p>

	<p style="text-align: right;">田中, 高山</p> <p>第12回: 体幹の骨格筋と運動2 (呼吸と胸部運動と触察)</p> <p style="text-align: right;">田中, 高山</p> <p>第13回: 形態計測: 実技の確認</p> <p style="text-align: right;">田中, 矢部, 高橋, 高山</p> <p>第14-15回: 骨格筋と運動のまとめ: 実技の確認</p> <p style="text-align: right;">田中, 矢部, 高橋, 高山</p> <p>※ユニフォームで参加してください</p>
アクティブ ラーニング	グループワークおよび実技演習
授業内のI CT活用	ipad解剖学アプリの活用, 実技動画
評価方法	自己学修ノート・リアクションペーパー (40%)・実技テスト (60%)
課題に対す るフィード バック	レポート・リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	青木隆明 (監): 「運動療法のための機能解剖学的触診技術」 上肢(メジカルビュー社) 青木隆明 (監): 「運動療法のための機能解剖学的触診技術」 下肢・体幹(メジカルビュー社) 理学療法評価学テキスト: 細田多穂著 南江堂
参考図書	小柳鷹毅・他 (編): PT・OTのための運動学テキスト (金原出版) 工藤慎太郎 (編): 機能解剖と触診 (羊土社)
事前・ 事後学修	各回のテーマに関する解剖学, 生理学および運動学の復習を事前学修として行う. 各回に実施した演習の練習や知識の整理と確認を事後学修として行う.
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3510 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (natsumi-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください.
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です.
メディア授業 の実施につ いて	

科目名	運動学演習 (OT)	
科目責任者	泉 良太	
単位数他	1 単位数 (30時間) 作業必修 3 セメスター	
DP番号と科目領域	DP4 専門基礎	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	作業の形態的、機能的側面の分析方法について学習する。作業分析・動作分析を行うため、運動学的基础知識を整理する。	
到達目標	1. 作業療法を実施する際に必要な解剖学的構造について、体表面から触知できる。 2. 触知した筋骨格の解剖学的・運動学的特徴について述べる事ができる。 3. 実際の動作について、運動学的に説明ができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 泉 良太、佐野哲也 第1回 : オリエンテーション 第2回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第3回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第4回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第5回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第6回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第7回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第8回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第9回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第10回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第11回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第12回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第13回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第14回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 第15回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也 *触診・視診が主となります。体表面が触知できる、運動が観察しやすい服装で参加してください。	

アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
評価方法	定期試験50%、知識習得テスト30%、ポートフォリオ20% 知識習得テストには、事前学習（解剖学・運動学）が含まれます。 ポートフォリオの評価にはルーブリックを用います。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ及び知識習得テスト返却時にフィードバックを実施します。
指定図書	中村隆一、他：基礎運動学 第6版 補訂、医歯薬出版、2012 青木隆明（監）：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版、メジカルビュー社、2011 青木隆明（監）：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢 改訂第2版、メジカルビュー社、2012 中島雅美：基礎から学ぶ解剖学ノート 第3版、医歯薬出版、2017 中島雅美、他：基礎から学ぶ運動学ノート 第2版、医歯薬出版、2016
参考図書	Visible Body（PC、タブレット、スマートフォンで使用可能な筋骨格の3Dモデルソフトです）
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に提示された箇所を予習し（解剖学・運動学）、WebClass内の小テストに回答してください（各20分2～15回目）。 ・授業後はポートフォリオを作成し、授業の復習を実施してください（各20分1～15回目）。 ・5回目、10回目、15回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください（各10分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	なし

科目名	人間発達学	
科目責任者	伊藤 信寿	
単位数他	1 単位 (30時間) 理学・作業必修 2 セメスター	
DP番号と科目領域	DP2専門基礎	
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。	
科目概要	人間発達学では、リハビリテーションの臨床実践に向けて、保健医療福祉の専門職者に求められる人の心身機能や身体構造、活動に関する人間発達の基本的な知識・理論を体系的に学習する。	
到達目標	(1) 発達とは、発達要因（遺伝と環境）、発達の基本原則、臨界期、発達段階（ライフステージ）について説明できる (2) 生後12ヵ月頃までの反射／反応や定型運動発達について説明できる (3) 新生児期から老年期までの発達について説明できる (4) 認知・言語発達について説明できる (5) 発達課題について説明できる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1回：コースオリエンテーション シラバスから学修内容を理解する 第 2回：反射と反応について 第 3回：反射と反応について 第 4回：反射と反応についてまとめ・小テスト 目標：運動の発達に必要な原始反射、立ち直り反応、平衡反応について理解する 事前学修：出生から12ヵ月までの原始反射、立ち直り反応、平衡反応についてまとめる 第 5回：運動の発達について 第 6回：運動の発達について 第 7回：運動の発達について（まとめ）・小テスト 目標：出生から12ヵ月頃までの定型運動発達について理解する 事前学修：出生から12ヵ月までの運動発達についてまとめる 第8回：知覚・認知機能の発達について 第9回：知覚・認知機能の発達について 第10回：知覚・認知機能の発達について（まとめ）・小テスト 目標：新生児から青年期までの知覚・認知の発達について理解する 事前学修：新生児から青年期までの知覚・認知の発達についてまとめる 第11回：老年期の発達 目標：発達の授業でなぜ老年期を学ぶのかを説明できる 事前課題：老年期に生じやすい疾患や症候を1つ選択し、病態と症状を理解する 第12回：言語機能の発達と障害 目標：言語獲得の発達基盤と阻害要因を理解する 事前課題：予めレジュメに目を通しておく 第13回：発達課題について 第14回：発達課題について 目標：各年齢における発達課題を理解する 事前学修：発達に影響を及ぼす要因についてまとめる 第15回：まとめ・小テスト 目標：反射／反応、運動発達、認知の発達について再確認する 事前学修：第14回までの復習	<担当教員名> 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 吉本好延 大原重洋 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿

アクティブ ラーニング	Think-Pair-Shareやグループワークを行っていく。
授業内のIC T活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。
評価方法	筆記試験（50%）、小テスト（30%）、グループワーク資料（20%）
課題に対す るフィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業中に回答する。 授業前半に小テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	リハビリテーションのための人間発達学（第3版）大城昌平（編著）メデカイルプレス
参考図書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之（監修） 医歯薬出版株式会社 人間発達とライフスタイル 辛島千恵子（編著） 理工図書
事前・ 事後学修	事前学修：WebClassで示す課題についてまとめる（40分） 事後学修：授業の配布資料と単元テストを復習する（20分）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
IT授業 の実施に ついて	なし

科目名	病理学概論 I
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学とは、基礎医学と臨床医学にまたがる学問で、病気の仕組み（原因、成り立ち、経過、転帰）を学習する。医療に携わる者にとって基本かつ必須の学問である。病理学は実際の医療の現場では、病理診断・解剖という形で病気の診断・治療・予防に貢献している。この講義では、病理学総論（病因論、細胞の傷害と修復、代謝障害、先天異常・老化、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍等）の知識を習得する。
到達目標	1. 各種疾患の病因と病態に関する基礎的知識を理解し説明できる。 2. 病気のメカニズムを組織・細胞の形態学的な変化として理解し説明できる。 3. 人体に備わる病態からの修復機構とともに生体防御機構について理解し説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第 1 回：ガイダンス、病理学とは？ 病因論 テキスト総論第 1 章、第 2 章、 第 2 回：退行性病変・進行性病変、代謝障害、テキスト総論第 3 章、第 4 章 第 3 回：循環障害 テキスト総論第 5 章 第 4 回：老化、先天異常・奇形 テキスト総論第 9 章、第 10 章 第 5 回：免疫、炎症・感染症 テキスト総論第 6 章、第 7 章 第 6 回：免疫、炎症・感染症 テキスト総論第 6 章、第 7 章 第 7 回：腫瘍 テキスト総論第 8 章 第 8 回：腫瘍 テキスト総論第 8 章</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>
アクティブラーニング	WebClass に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立てること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
授業内の ICT 活用	毎回の授業で配る講義資料（紙媒体）は、GoogleDrive 上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。
評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	〈標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野〉『病理学』医学書院（第4版） 編集：横井 豊治／村雲芳樹
参考図書	『シンプル病理学』 南江堂（第7版） 編集：笹野 公伸、岡田 保典、安井 弥 『なるほどなっとく! 病理学 病態形成の基本的なしくみ』 南山堂 小林正伸（著） 『病態生理学（第5版）（ナーシング・グラフィカー疾病の成り立ち(1)）』メディカ出版 編集：山内豊明 『標準病理学』 医学書院（第4版） 編集：坂本穆彦，北川昌伸，仁木利郎 『はじめの一步のイラスト病理学』 羊土社（第2版） 編集：深山 正久
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オープンエデュケーションの活用	自主学习として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。 関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	病理学概論Ⅱ
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学概論Ⅰ「病理学総論」で学んだ基本的な病変が、臓器別（循環器、呼吸器、消化器、内分泌系、泌尿器系、造血器、生殖器、皮膚、感覚器、脳・神経系、運動器）にどのように発現するのかについて、各臓器の組織や細胞の形態学的変化の観点から学んでいく。主に炎症性・腫瘍性病変にスポットを当てて学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種臓器の循環障害を理解し説明できる。 2. 各種臓器の代謝異常を理解し説明できる。 3. 各種臓器の炎症性疾患を理解し説明できる。 4. 各種臓器の腫瘍性疾患を理解し説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第1回：呼吸器、消化器、テキスト各論第2章、第3章 第2回：内分泌系、泌尿器系、テキスト第6章、第7章 第3回：造血系、生殖器、テキスト各論第6章、第8章 第4回：皮膚、感覚器 テキスト各論第9章 第5回：循環器 テキスト各論第1章 第6回：脳・神経系 テキスト各論第4章 第7回：運動器 テキスト各論第5章 第8回：まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>
アクティブラーニング	WebClass に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立てること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
授業内のICT活用	毎回の授業で配る講義資料（紙媒体）は、GoogleDrive 上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。
評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%
課題に対するフィ	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。

ードバック	
指定図書	〈標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野〉『病理学』医学書院（第4版） 編集：横井 豊治／村雲芳樹
参考図書	『シンプル病理学』 南江堂（第7版） 編集：笹野 公伸、岡田 保典、安井 弥 『なるほどなっとく! 病理学 病態形成の基本的なしくみ』 南山堂 小林正伸（著） 『病態生理学（第5版）（ナーシング・グラフィカー疾病の成り立ち(1)）』メディカ出版 編集：山内豊明 『標準病理学』 医学書院（第4版） 編集：坂本穆彦, 北川昌伸, 仁木利郎 『はじめの一步のイラスト病理学』 羊土社（第2版） 編集：深山 正久
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。 関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	臨床心理学
科目責任者	高柳 弘行
単位数他	理学・作業必修1単位(30時間)3セメスター、言語必修2単位(30時間)5セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	保健医療福4社の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に 理解している。
科目概要	1) パーソナリティ理論 2) 各発達期における典型的な心理的問題 3) 心理アセスメン ト 4) 心理的問題への介入技法 などについて学ぶ。
到達目標	1) 乳児期から老年期までの心理的問題や精神病理についての理解を深める。 2) 臨床心理学的アセスメント、臨床心理学的介入技法についての理解を深める。 3) 面接スキルやストレスマネジメント(リラクゼーション)などを体験してみる。 4) クライアントの立場に立ち、クライアントにとって取り組みやすく、回復への動機づけ を高める支援についての理解を深める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高柳 弘行</p> <p>1) 臨床心理学の概要、パーソナリティ理論(類型論) 2) パーソナリティ理論(特性論、力動論) 3) エリクソンの生涯発達論、乳幼児期の心理的問題 4) 発達障害、アセスメント(面接法・観察法・検査法)、知能・発達検査の事例 5) 児童期の心理的問題、応用行動分析 6) クライアント中心療法、遊戯療法 7) 思春期の心理的問題、アンガーマネジメント 8) 精神分析療法、アサーション 9) ストレスマネジメント(リラクゼーション) 10) 青年期の心理的問題、心理検査バッテリー 11) 統合失調症、SST、家族心理教育 12) 中年期の心理的問題、マインドフルネス、森田療法 13) 認知行動療法、動機づけ理論 14) 老年期の心理的問題、認知症、回想法 15) 家族療法、コミュニティ心理学</p>
アクティ ブラーニ ング	心理検査、ロールプレイ、リラクゼーションなどの身体感覚技法、ストレス・コーピング (対処法)や認知・行動記録、などを授業にて実施。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験80% リアクションペーパー20%

課題に対するフィードバック	授業中において実施したリアクションペーパーやアクティブラーニングについて、授業においてフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・事後学修	授業内容の要点、アクティブラーニングなどを20分事後学修して下さい。
オープンエデュケーションの活用	パーソナリティ論の特性論の理解のため、可能ならばインターネット上にある「主要5因子性格検査システム（デモ版）（村上宣寛、村上千恵子）」を実施してみてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	臨床医学・医療学概論																		
科目責任者	佐藤豊展																		
単位数他	1単位（15時間） 理学必修・作業必修・言語必修 1セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																		
科目概要	高校を卒業し、初めて医療に関する専門教育を受けることになる新入学 1 年生に、医療全般についての概要を学んでほしい。最新の知識や高度な技術を習得するだけでは良い医療者にはなれない。病人の気持ちを理解できる医療者になれるよう倫理的問題等についても広く学修する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられたテーマについて参考文献などを通じて調査する。 2. 取得した知識を 2-3 分の与えられた時間にまとめあげる。 3. 医療について概論的な知識を他人に分かり易く説明できるようにする。 4. 医療従事者としての心構えに関する自分の考えを述べられるようにする。 																		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：この講義で何を学ぶか、健康と疾病</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：医学と医療</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：保健・医療の体系</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：病気の診断・治療</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：医療と社会</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：医療・介護の体系</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：医療システム</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：医療経済学と医療政策</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：この講義で何を学ぶか、健康と疾病	佐藤豊展	第 2 回：医学と医療	片桐伯真	第 3 回：保健・医療の体系	伊藤信寿	第 4 回：病気の診断・治療	片桐伯真	第 5 回：医療と社会	片桐伯真	第 6 回：医療・介護の体系	矢倉千昭	第 7 回：医療システム	柴本 勇	第 8 回：医療経済学と医療政策	佐藤豊展
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：この講義で何を学ぶか、健康と疾病	佐藤豊展																		
第 2 回：医学と医療	片桐伯真																		
第 3 回：保健・医療の体系	伊藤信寿																		
第 4 回：病気の診断・治療	片桐伯真																		
第 5 回：医療と社会	片桐伯真																		
第 6 回：医療・介護の体系	矢倉千昭																		
第 7 回：医療システム	柴本 勇																		
第 8 回：医療経済学と医療政策	佐藤豊展																		
アクティブラーニング	配布資料や授業ノート、課題を見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので、自己学修を心掛けましょう。授業内で、グループディスカッションをします。積極的に発言しましょう。																		
授業内の ICT 活用	webclass を利用して、各自で授業の振り返りをします。																		
評価方法	筆記試験 50%，課題提出物 50%																		

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問について、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『健康支援と社会保障制度 1. 医療概論』康永 秀生、医学書院
参考図書	『医学概論』日野原 重明、医学書院
事前・事後学修	事前学修：シラバスで次回の授業内容を確認し、教科書を読んでおくこと（20分）。 事後学修：授業内容を振り返り、出された課題を行うこと（20分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3411 研究室 時間等：毎週月曜 9-12 時、水曜日 13 時～14 時 上記以外でもメール（atsunobu-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「医師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う。1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。履修者を 3 グループに分けて、履修者は対面授業を 5～6 回、メディア授業を 2～3 回受講することとなる。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を 1 名配置し、教育の質を維持する。

科目名	内科系医療学
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主な内科系疾患に関する代表的な病態と診断方法（画像診断含む）や基準・治療方法（臨床薬学含む）について基本となる知識を身につける。具体的には呼吸器系疾患、膠原病と類縁疾患、内分泌代謝疾患、循環器疾患、消化管疾患、肝臓、胆道、膵臓の基礎と臨床、感染症などを学習する。
到達目標	リハビリテーションを行っている患者さんで問題になる頻度の高い各疾患の病態や診断方法、治療について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>俵祐一, 矢部広樹, 横村光司, 志智大介, 岡俊明, 北川哲司, 長澤正通, 松島秀樹</p> <p><俵 祐一> 1. 内科系医療学とリハビリテーション</p> <p><横村 光司> 1.呼吸器感染症（上気道炎・気管および気管支炎・肺炎・胸膜炎・膿胸、抗酸菌感染症）、急性呼吸不全、慢性呼吸不全について 2.気管支喘息と COPD, 間質性肺炎、肺癌について</p> <p><矢部 広樹> 1.代表的な代謝疾患（特に糖尿病）について 2.内分泌代謝系の基礎, 代表的な内分泌疾患（特に甲状腺疾患）について</p> <p><志智 大介> 1.感染症学と臨床（感染症成立の病態生理について, 日常診療で遭遇しやすい代表的な感染症や病原菌について） 病院職員の知っておくべき感染制御について（病院で働く職員として知っておくべき病院感染とその対処） 2.膠原病や関節リウマチとその類縁疾患, 自己免疫系疾患成立の病態生理, 膠原病や関節リウマチなど免疫疾患の各論 関節リウマチ患者へのケア</p> <p><岡 俊明> 1.循環器系の解剖、生理, 循環器疾患の症状と検査 2.血圧の異常、心不全の病態, 虚血性心疾患（狭心症・急性心筋梗塞）</p> <p><北川 哲司> 1.消化管疾患の症候とその病態生理, 消化管疾患の検査法 2.口腔・食道・胃の疾患、小腸、大腸の疾患</p> <p><長澤 正通> 1.肝臓疾患の総論、肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総論</p> <p><松島 秀樹> 1.腎臓の構造と働き、腎疾患の症候や検査・診断・治療の進め方、頻度が高い腎疾患、慢性腎臓病（CKD）の概念 2.腎機能障害（急性腎不全、慢性腎不全）、血液浄化療法（血液透析、腹膜透析）、長期透析の合併症</p>

	<p><俵 祐一></p> <p>1. 人体の加齢現象、及びサルコペニア・フレイルの概念と病態について、サルコペニアの治療について まとめ</p> <p>※講師の事情により順番が前後する場合があります。</p>
アクティブラーニング	事前学修を促し、重要な部分は授業中に学生に質問しながら行う。
授業内のICT活用	必要に応じて動画等を用います。
評価方法	定期試験 60%、Webclass の内容（リアクションペーパー） 40%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』医学書院
参考図書	『なるほどなっとく！ 内科学』南山堂
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業回に該当するテキストの章を読んで、授業に参加してください。 ・講義内容、配布資料、テキストなどを参考とし、事後学修してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【藤田さより】、【佐藤豊展】、【高橋大生】を配置し、質疑応答に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	整形外科系医療学																														
科目責任者	佐々木 寛二																														
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修・作業必修 3セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																														
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																														
科目概要	整形外科臨床医の観点からリハビリテーションに必要な知識について学ぶ																														
到達目標	1. リハビリテーションに必要な解剖を覚える 2. リハビリテーションに必要な疾患と治療およびリハビリテーションとの関係について覚える																														
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> それぞれの専門領域に対する整形外科臨床医による総論と各論</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 運動器リハビリテーション総論1</td> <td>佐々木 寛二</td> </tr> <tr> <td>2. 運動器リハビリテーション総論2</td> <td>佐々木 寛二</td> </tr> <tr> <td>3. 骨折と救急治療</td> <td>三宅 央哲</td> </tr> <tr> <td>4. 高齢者の骨折 股関節疾患 骨粗鬆症</td> <td>遠藤 浩一</td> </tr> <tr> <td>5. 肩の疾患</td> <td>阿部 真行</td> </tr> <tr> <td>6. 手肘の疾患1</td> <td>神田 俊浩</td> </tr> <tr> <td>7. 手肘の疾患2</td> <td>神田 俊浩</td> </tr> <tr> <td>8. 足の疾患</td> <td>滝 正徳</td> </tr> <tr> <td>9. 膝の疾患1</td> <td>鈴木 浩介</td> </tr> <tr> <td>10. 膝の疾患2</td> <td>鈴木 浩介</td> </tr> <tr> <td>11. 脊椎の疾患1 (頰椎)</td> <td>野坂 潮</td> </tr> <tr> <td>12. 脊椎の疾患2 (胸椎腰椎)</td> <td>野坂 潮</td> </tr> <tr> <td>13. 脊椎の疾患3 (脊髄損傷)</td> <td>石井 啓介</td> </tr> <tr> <td>14. リウマチ、悪性腫瘍</td> <td>石井 啓介</td> </tr> <tr> <td>15. スポーツ障害、アスレチックリハビリテーション</td> <td>船越 雄誠</td> </tr> </table> <p>授業は1. 2. ののち、3-15 は順序は不同である。</p>	1. 運動器リハビリテーション総論1	佐々木 寛二	2. 運動器リハビリテーション総論2	佐々木 寛二	3. 骨折と救急治療	三宅 央哲	4. 高齢者の骨折 股関節疾患 骨粗鬆症	遠藤 浩一	5. 肩の疾患	阿部 真行	6. 手肘の疾患1	神田 俊浩	7. 手肘の疾患2	神田 俊浩	8. 足の疾患	滝 正徳	9. 膝の疾患1	鈴木 浩介	10. 膝の疾患2	鈴木 浩介	11. 脊椎の疾患1 (頰椎)	野坂 潮	12. 脊椎の疾患2 (胸椎腰椎)	野坂 潮	13. 脊椎の疾患3 (脊髄損傷)	石井 啓介	14. リウマチ、悪性腫瘍	石井 啓介	15. スポーツ障害、アスレチックリハビリテーション	船越 雄誠
1. 運動器リハビリテーション総論1	佐々木 寛二																														
2. 運動器リハビリテーション総論2	佐々木 寛二																														
3. 骨折と救急治療	三宅 央哲																														
4. 高齢者の骨折 股関節疾患 骨粗鬆症	遠藤 浩一																														
5. 肩の疾患	阿部 真行																														
6. 手肘の疾患1	神田 俊浩																														
7. 手肘の疾患2	神田 俊浩																														
8. 足の疾患	滝 正徳																														
9. 膝の疾患1	鈴木 浩介																														
10. 膝の疾患2	鈴木 浩介																														
11. 脊椎の疾患1 (頰椎)	野坂 潮																														
12. 脊椎の疾患2 (胸椎腰椎)	野坂 潮																														
13. 脊椎の疾患3 (脊髄損傷)	石井 啓介																														
14. リウマチ、悪性腫瘍	石井 啓介																														
15. スポーツ障害、アスレチックリハビリテーション	船越 雄誠																														
アクティブラーニング	講義のみ																														
授業内のICT活用	一部、スライドやプリントの配布を用意																														
評価方法	定期試験 70% リアクションペーパーの内容 30%																														
課題に対するフィードバック	試験の解答を配布する																														

指定図書	『標準整形外科学』 医学書院
参考図書	
事前・事後学修	事前学習は必要としないが、事後の知識整理は必要である。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	耳鼻咽喉科学																														
科目責任者	香取 幸夫																														
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 3セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																														
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																														
科目概要	高齢社会の訪れこともない、音声言語、聴覚、嚥下の機能に障害のある患者さんに対する治療の需要は増しており、言語聴覚士が専門の職種として治療に携わり社会貢献することが求められている。本授業の目的はこれらの障害に関する耳鼻咽喉科疾患の病態と検査法を理解し、さらにこの領域のリハビリテーションの必要性と基礎知識を学ぶことにある。																														
到達目標	1.頭頸部領域の解剖と生理を理解する。 2.難聴、嚥下障害ならびに音声障害の病態を理解する。 3.耳鼻咽喉科領域の代表的な疾患について、その病態を理解する。																														
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">第1回： 耳・唾液腺の解剖と生理</td> <td style="width: 30%;">香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第2回： 難聴</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第3回： めまい</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第4回： 顔面神経麻痺、唾液腺の疾患</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第5回： 口腔・咽頭の解剖と生理、疾患</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第6回： 鼻・副鼻腔の解剖と生理、疾患</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第7回： 耳鼻咽喉科と免疫疾患（アレルギー性鼻炎、扁桃病巣感染症）</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第8回： 喉頭・気管の解剖と生理、音声生成のしくみ</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第9回： 喉頭の疾患とその治療、音声改善の治療</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第10回： 嚥下に関わる解剖と生理、嚥下障害の診断と治療</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第11回： 頭頸部がん（1）</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第12回： 試験課題の提示と学習</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第13回： 試験課題に関する学生発表と解説（1）</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第14回： 試験課題に関する学生発表と解説（2）</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第15回： 試験課題に関する学生発表と解説（3）</td> <td>香取幸夫</td> </tr> </table>	第1回： 耳・唾液腺の解剖と生理	香取幸夫	第2回： 難聴	香取幸夫	第3回： めまい	香取幸夫	第4回： 顔面神経麻痺、唾液腺の疾患	香取幸夫	第5回： 口腔・咽頭の解剖と生理、疾患	香取幸夫	第6回： 鼻・副鼻腔の解剖と生理、疾患	香取幸夫	第7回： 耳鼻咽喉科と免疫疾患（アレルギー性鼻炎、扁桃病巣感染症）	香取幸夫	第8回： 喉頭・気管の解剖と生理、音声生成のしくみ	香取幸夫	第9回： 喉頭の疾患とその治療、音声改善の治療	香取幸夫	第10回： 嚥下に関わる解剖と生理、嚥下障害の診断と治療	香取幸夫	第11回： 頭頸部がん（1）	香取幸夫	第12回： 試験課題の提示と学習	香取幸夫	第13回： 試験課題に関する学生発表と解説（1）	香取幸夫	第14回： 試験課題に関する学生発表と解説（2）	香取幸夫	第15回： 試験課題に関する学生発表と解説（3）	香取幸夫
第1回： 耳・唾液腺の解剖と生理	香取幸夫																														
第2回： 難聴	香取幸夫																														
第3回： めまい	香取幸夫																														
第4回： 顔面神経麻痺、唾液腺の疾患	香取幸夫																														
第5回： 口腔・咽頭の解剖と生理、疾患	香取幸夫																														
第6回： 鼻・副鼻腔の解剖と生理、疾患	香取幸夫																														
第7回： 耳鼻咽喉科と免疫疾患（アレルギー性鼻炎、扁桃病巣感染症）	香取幸夫																														
第8回： 喉頭・気管の解剖と生理、音声生成のしくみ	香取幸夫																														
第9回： 喉頭の疾患とその治療、音声改善の治療	香取幸夫																														
第10回： 嚥下に関わる解剖と生理、嚥下障害の診断と治療	香取幸夫																														
第11回： 頭頸部がん（1）	香取幸夫																														
第12回： 試験課題の提示と学習	香取幸夫																														
第13回： 試験課題に関する学生発表と解説（1）	香取幸夫																														
第14回： 試験課題に関する学生発表と解説（2）	香取幸夫																														
第15回： 試験課題に関する学生発表と解説（3）	香取幸夫																														
アクティブラーニング	試験課題に対する発表と評価を行います。																														
授業内のICT活用																															

評価方法	定期試験 100% ただし、第 13~15 回での発表内容を試験評価の一部とします。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いてフィードバックします。 必要に応じて講義の中で適宜フィードバックします。
指定図書	「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 編集：鳥山 稔／田内 光 (医学書院)」
参考図書	「あたらしい耳鼻咽喉科・頭頸部外科」 編集：香取幸夫／日高浩史 (中山書店)
事前・事後学修	事前学修：次回の講義内容のキーワードを学習してください。 事後学修：配布資料を再度見直して、重要事項をマイノートに記載してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	神経内科系医療学																																
科目責任者	大橋寿彦																																
単位数他	2単位数 (30時間) 理学必修・作業必修 3セメスター																																
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																
科目概要	リハビリテーションの実践に必要な身体障害に関する基本的な医学的理解を深めるために、身体障害の原因となる神経系の疾患について病態生理、診断や治療の知識を身に付ける。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる 2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する 3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する 4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ガイダンス、頭痛</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>2. 中枢神経系の解剖・機能</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>3. しびれ</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>4. めまい</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>5. 脳血管障害</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>6. 運動神経疾患</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>7. パーキンソン症候群</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>9. 認知症</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>10. 感染症</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>11. 脱髄疾患</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>12. 電気生理</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>13. 末梢神経障害</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>14. 筋疾患、内科との関連疾患</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>15. 画像</td> <td>佐藤</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	1. ガイダンス、頭痛	大橋	2. 中枢神経系の解剖・機能	大橋	3. しびれ	内山	4. めまい	佐藤	5. 脳血管障害	大橋	6. 運動神経疾患	大橋	7. パーキンソン症候群	内山	8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山	9. 認知症	大橋	10. 感染症	内山	11. 脱髄疾患	佐藤	12. 電気生理	大橋	13. 末梢神経障害	佐藤	14. 筋疾患、内科との関連疾患	内山	15. 画像	佐藤
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
1. ガイダンス、頭痛	大橋																																
2. 中枢神経系の解剖・機能	大橋																																
3. しびれ	内山																																
4. めまい	佐藤																																
5. 脳血管障害	大橋																																
6. 運動神経疾患	大橋																																
7. パーキンソン症候群	内山																																
8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山																																
9. 認知症	大橋																																
10. 感染症	内山																																
11. 脱髄疾患	佐藤																																
12. 電気生理	大橋																																
13. 末梢神経障害	佐藤																																
14. 筋疾患、内科との関連疾患	内山																																
15. 画像	佐藤																																
アクティブラーニング	なし																																
授業内のICT活用	なし																																
評価方法	定期試験 100%																																
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。																																
指定図書	なし																																
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』医学書院																																

事前・事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業の実施について	

科目名	臨床神経学																		
科目責任者	大橋寿彦																		
単位数他	1単位数(15時間) 言語必修 3セメスター																		
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																		
科目概要	リハビリテーションを实践するうえで、身体障害の原因となる神経系疾患について病態生理、診断や治療の知識を身につける。本講義では神経系の解剖、生理、機能については別講義に譲り主に疾患について学ぶ。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる 2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する 3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する 4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる 																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 脳血管障害</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>2. 運動神経疾患</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>3. パーキンソン症候群</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>4. 認知症</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>5. 脱髄疾患</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>6. 電気生理</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>7. 末梢神経障害</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>8. 筋疾患、内科との関連疾患</td> <td>内山</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	1. 脳血管障害	大橋	2. 運動神経疾患	大橋	3. パーキンソン症候群	内山	4. 認知症	大橋	5. 脱髄疾患	佐藤	6. 電気生理	大橋	7. 末梢神経障害	佐藤	8. 筋疾患、内科との関連疾患	内山
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
1. 脳血管障害	大橋																		
2. 運動神経疾患	大橋																		
3. パーキンソン症候群	内山																		
4. 認知症	大橋																		
5. 脱髄疾患	佐藤																		
6. 電気生理	大橋																		
7. 末梢神経障害	佐藤																		
8. 筋疾患、内科との関連疾患	内山																		
アクティブラーニング	なし																		
授業内のICT活用	なし																		

評価方法	定期試験 100%
課題に対するフィードバック	授業のなかで質問に対し回答する。
指定図書	なし
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』医学書院
事前・事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	形成外科学																		
科目責任者	杉村友紀																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 3 セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																		
科目概要	形成外科とは「組織欠損や変形の修復・再建を担当する外科」で、動き（機能性）および見た目（整容性）の両方の改善を目指します。体表の再建のみならず、骨や腸など深部組織の再建も行います。手術後のリハビリテーションは非常に重要で、密接なかわりがあります。																		
到達目標	以下の項目等を学び、リハビリテーションと形成外科との関わりについて理解する。 1. 形成外科学について 2. 創傷治癒と瘢痕やケロイドについて 3. 頭蓋顎顔面の先天異常について 4. 皮弁や皮膚移植など組織移植について 5. 外傷・熱傷・皮膚潰瘍について																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td> <td><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第 1 回： 形成外科学総論</td> <td>瀧口徹也</td> </tr> <tr> <td>第 2 回： 創傷治癒・瘢痕ケロイド</td> <td>瀧口徹也</td> </tr> <tr> <td>第 3 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (1)</td> <td>加持秀明</td> </tr> <tr> <td>第 4 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (2)</td> <td>加持秀明</td> </tr> <tr> <td>第 5 回： 組織移植 (1)</td> <td>中川雅裕</td> </tr> <tr> <td>第 6 回： 組織移植 (2)</td> <td>瀧澤義徳</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 外傷・熱傷</td> <td>杉村友紀</td> </tr> <tr> <td>第 8 回： 皮膚潰瘍</td> <td>杉村友紀</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回： 形成外科学総論	瀧口徹也	第 2 回： 創傷治癒・瘢痕ケロイド	瀧口徹也	第 3 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (1)	加持秀明	第 4 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (2)	加持秀明	第 5 回： 組織移植 (1)	中川雅裕	第 6 回： 組織移植 (2)	瀧澤義徳	第 7 回： 外傷・熱傷	杉村友紀	第 8 回： 皮膚潰瘍	杉村友紀
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第 1 回： 形成外科学総論	瀧口徹也																		
第 2 回： 創傷治癒・瘢痕ケロイド	瀧口徹也																		
第 3 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (1)	加持秀明																		
第 4 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (2)	加持秀明																		
第 5 回： 組織移植 (1)	中川雅裕																		
第 6 回： 組織移植 (2)	瀧澤義徳																		
第 7 回： 外傷・熱傷	杉村友紀																		
第 8 回： 皮膚潰瘍	杉村友紀																		
アクティブラーニング	毎回リアクションペーパーを用いて、講義の中での疑問や感想を、学生自身が考えるようにしている。学生へ質問するなど、双方向の授業展開をしている。																		
授業内の ICT 活用	なし																		
評価方法	リアクションペーパー50%、定期試験 50%																		
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーによる質問等には、口頭で回答している。																		
指定図書	なし																		
参考図書	『言語聴覚療法シリーズ 8 器質性構音障害』 齊藤裕恵編著、建帛社 『標準形成外科学 第 7 版』 平林慎一監修、医学書院 『TEXT 形成外科学 改訂 3 版』 波利井清紀監修、南山堂																		

事前・事後学修	参考図書などを利用し、授業のテーマに沿って予習復習を行いましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業実施について	なし

科目名	精神医学系医療学Ⅰ
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1単位(15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神機能障害の基礎的な知識を学び、リハビリテーションとの関係について理解を深める。特にリハビリテーション場面において遭遇する可能性の高い精神疾患のメカニズムや治療方法に重点を置く。
到達目標	1. 精神機能障害とリハビリテーションとの関係について説明できる 2. 代表的な精神疾患の特性と治療について説明できる 3. 精神障害に対するリハビリテーションの目的と役割について説明できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、リハビリテーションと精神医学 新宮尚人 第2回：導入・精神医学とは 山岡功一 第3回：統合失調症 藤田さより 第4回：老年精神医学 三浦一也 第5回：精神障害の治療Ⅰ・薬物療法などの身体的治療 三浦一也 第6回：精神障害の治療Ⅱ・精神療法とリハビリテーション 三浦一也 第7回：通院・訪問医療など ゲストスピーカー 鴨藤祐輔 第8回：グループワーク、発表、授業のまとめ 新宮尚人</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、授業中に問いかけを行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	知識習得テスト70%、レポート30% レポート評価に、ルーブリックは用いない。

課題に対するフィードバック	レポートもしくは発表に対してコメントをします。
指定図書	上野武治編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』医学書院
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所に通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「医師、作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う。 1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を 1 名配置し、教育の質を維持する。

科目名	精神医学系医療学Ⅱ
科目責任者	飯田 妙子
単位数他	1単位（15時間） 作業必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	外因性精神障害、パーソナリティ障害、摂食障害、発達障害等の精神障害の概念と症状の特徴、経過、治療法を学び、またそれらの障害に対する地域生活支援（通院、訪問、デイケア、就労等）の基本的な考え方や最新の支援法について知識を深める。精神障害の地域生活支援に関連する法制度について学ぶ。
到達目標	①各精神障害の概念、症状、経過およびその治療法についてのポイントを述べることができる。 ②精神障害者に対する地域生活支援について、概要や最新の支援法のポイントを述べることができる。 ③精神障害者の地域生活支援に関連する法制度について概要を述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、地域での支援について 飯田 妙子 第2回：外因性精神障害（依存症） 新宮 尚人 第3回：パーソナリティ障害 新宮 尚人 第4回：気分障害 藤田さより 第5回：神経症性障害 藤田さより 第6回：精神遅滞、発達障害 飯田 妙子 第7回：摂食障害、てんかん 飯田 妙子 第8回：ライフサイクルにおける精神障害 飯田 妙子</p> <p>※テーマや内容は、進度により変更の可能性はある。 詳細はオリエンテーションで説明する。</p>
アクティブラーニング	内容を深めるために、適宜グループ学修、ディスカッションを行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題の提出およびフィードバックを実施します。また、グループ学修時の情報収集において、PCを使用します。
評価方法	レポート30% 知識修得テスト70% なお、レポートの評価にはルーブリックは用いません。

課題に対するフィードバック	知識修得テストは、WebClass にて実施します。知識修得テスト、レポートのフィードバックについては、WebClass にて返答、解説します。希望者には時間を調整して、フィードバックを行います。
指定図書	上野武治編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』第4版. 医学書院
参考図書	授業時に適宜、紹介します。
事前・事後学修	事前：各テーマに該当する教科書の箇所を目を通しておくこと 事後：授業後に WebClass 内の知識修得テストに回答すること（第2回～8回；計7回×20分） 初回授業時に配布する精神医学に関する過去問題集の中から各テーマに該当する問題を解き、レポートを作成すること。（10問、90分程度） レポート課題の詳細については、初回授業時に説明します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（taeko-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	小児科系医療学 I																		
科目責任者	白井 憲司																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																		
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。 小児の特徴である発育・発達の概念、予防医学や common disease について学ぶ。																		
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 一般的な小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回 小児科総論</td> <td>白井</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 先天異常と遺伝病</td> <td>松下</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 新生児・未熟児医療</td> <td>白井</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 小児神経疾患①「脳性麻痺, てんかんなど」</td> <td>吉村</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 小児神経疾患②「神経筋疾患など」</td> <td>吉村</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 重症心身障害児医療について</td> <td>今市</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 小児の集中治療など</td> <td>南野</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 発達障害</td> <td>白井</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回 小児科総論	白井	第 2 回 先天異常と遺伝病	松下	第 3 回 新生児・未熟児医療	白井	第 4 回 小児神経疾患①「脳性麻痺, てんかんなど」	吉村	第 5 回 小児神経疾患②「神経筋疾患など」	吉村	第 6 回 重症心身障害児医療について	今市	第 7 回 小児の集中治療など	南野	第 8 回 発達障害	白井
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第 1 回 小児科総論	白井																		
第 2 回 先天異常と遺伝病	松下																		
第 3 回 新生児・未熟児医療	白井																		
第 4 回 小児神経疾患①「脳性麻痺, てんかんなど」	吉村																		
第 5 回 小児神経疾患②「神経筋疾患など」	吉村																		
第 6 回 重症心身障害児医療について	今市																		
第 7 回 小児の集中治療など	南野																		
第 8 回 発達障害	白井																		
アクティブラーニング	なし																		
授業内の ICT 活用	なし																		

評価方法	定期試験 80%、授業態度 20%
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第5版
参考図書	なし
事前・事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常に意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業の実施について	

科目名	小児科系医療学Ⅱ																		
科目責任者	白井 憲司																		
単位数他	1単位（15時間）理学必修・作業必修 3セメスター																		
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																		
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。 小児の特徴である発育・発達の概念、予防医学や common disease について学ぶ。																		
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 一般的な小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 小児期の感染症と予防接種</td> <td>白井</td> </tr> <tr> <td>第2回 発達栄養学</td> <td>松下</td> </tr> <tr> <td>第3回 小児の循環器疾患</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>第4回 小児の呼吸器疾患</td> <td>南野</td> </tr> <tr> <td>第5回 小児の内分泌疾患</td> <td>板野</td> </tr> <tr> <td>第6回 小児の消化器・泌尿器疾患</td> <td>白井</td> </tr> <tr> <td>第7回 小児のアレルギー・免疫疾患</td> <td>荻田</td> </tr> <tr> <td>第8回 まとめ</td> <td>白井</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回 小児期の感染症と予防接種	白井	第2回 発達栄養学	松下	第3回 小児の循環器疾患	村上	第4回 小児の呼吸器疾患	南野	第5回 小児の内分泌疾患	板野	第6回 小児の消化器・泌尿器疾患	白井	第7回 小児のアレルギー・免疫疾患	荻田	第8回 まとめ	白井
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回 小児期の感染症と予防接種	白井																		
第2回 発達栄養学	松下																		
第3回 小児の循環器疾患	村上																		
第4回 小児の呼吸器疾患	南野																		
第5回 小児の内分泌疾患	板野																		
第6回 小児の消化器・泌尿器疾患	白井																		
第7回 小児のアレルギー・免疫疾患	荻田																		
第8回 まとめ	白井																		
アクティブラーニング	なし																		
授業内のICT活用	なし																		
評価方法	定期試験 80%、授業態度 20%																		

課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第5版
参考図書	なし
事前・事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常に意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	リハビリテーション栄養学																		
科目責任者	柴本 勇																		
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 4セメスター																		
DP番号と科目領域	DP2専門																		
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	リハビリテーションの効果を最大限発揮するためには、栄養状態が良好なことが望まれる。近年では、サルコペニア・フレイルなどリハビリテーションに影響する病態が注目されている。今後、保健・医療・福祉分野で活躍するリハビリテーション職者に必要な栄養学的知識を得る。Nutrition Support Team(NST)の活動も学ぶ。																		
到達目標	1. 栄養評価・栄養ケアマネジメントの概要を説明できる 2. 栄養アセスメントができる 3. リハビリテーション職種として栄養介入が模擬的にできる 4. NSTの概要を説明できる																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第2回：栄養補給とエネルギー代謝・必要栄養素と栄養量</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第3回：リハビリテーションと栄養療法・栄養サポートチーム</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第4回：栄養アセスメントとその実際（実技）</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第5回：病態別栄養療法</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第6回：病態別栄養療法の実際</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第7回：疾患別栄養療法の実際</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第8回：疾患別栄養療法の実際</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは	柴本 勇	第2回：栄養補給とエネルギー代謝・必要栄養素と栄養量	高山真希	第3回：リハビリテーションと栄養療法・栄養サポートチーム	高山真希	第4回：栄養アセスメントとその実際（実技）	柴本 勇	第5回：病態別栄養療法	ゲストスピーカー	第6回：病態別栄養療法の実際	ゲストスピーカー	第7回：疾患別栄養療法の実際	ゲストスピーカー	第8回：疾患別栄養療法の実際	ゲストスピーカー
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは	柴本 勇																		
第2回：栄養補給とエネルギー代謝・必要栄養素と栄養量	高山真希																		
第3回：リハビリテーションと栄養療法・栄養サポートチーム	高山真希																		
第4回：栄養アセスメントとその実際（実技）	柴本 勇																		
第5回：病態別栄養療法	ゲストスピーカー																		
第6回：病態別栄養療法の実際	ゲストスピーカー																		
第7回：疾患別栄養療法の実際	ゲストスピーカー																		
第8回：疾患別栄養療法の実際	ゲストスピーカー																		
アクティブラーニング	Webclassを用いて行います																		
授業内のICT活用	なし																		
評価方法	定期試験：80%、小テスト20%																		
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、課題遂行・リアクションペーパーに対するコメントをします。毎回講義終了時に、毎回ディスカッションを行います。																		
指定図書	「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」（医歯薬出版）																		
参考図書	アボット栄養アセスメントキット（医科学出版社）																		

事前・事後学修	事前・事後学修はWebclassを用いて行います。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回講義時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士，言語聴覚士，管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイブリッド授業の実施について	2教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【柴本勇】、【高山真希】を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	1単位 (15時間) 理学選択・作業選択・言語選択 2セメスター (2022年度入学生) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター (2021年度入学生)
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	公衆衛生学は健康を保持、増進、予防するための実践的科学的である。社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための公衆衛生学の現状を理解する。具体的には、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞ 西川浩昭</p> <p>第1回 公衆衛生の概念、疾病予防 第2回 健康増進、公衆衛生活動 第3回 人口統計 第4回 健康指標 第5回 感染症対策、予防接種 第6回 食品衛生 第7回 生活習慣病の予防 第8回 国際保健、環境保健</p>
アクティブラーニング	WebClassを用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内のICT活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則として、定期試験(筆記) 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。) 再試験は実施しません

課題に対するフィードバック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClassへの提示などによって行う。
指定図書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学 2022 南江堂 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会(2022年8月末発行予定)
参考図書	丸井英二 編著 わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学 弘文堂 2020
事前・事後学修	前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。事前・事後学修では定義や法令、計算方法等を単に暗記するだけでなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	西川浩昭(1620研究室) E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
対外授業の実施について	

科目名	摂食嚥下障害学概論																														
科目責任者	佐藤 豊展																														
単位数他	2単位 (30 時間) 理学選択・作業選択 3セメスター 言語必修 5セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP2 専門																														
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																														
科目概要	食べ物を認知し、口に取り込んでから胃へと運ばれるまでの摂食・嚥下のメカニズムを理解する。神経疾患、器質的原因、発達障害、加齢変化で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、ライフステージでの摂食嚥下の変化や対処法について学ぶ。STが行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。嚥下障害の訓練に関わる栄養管理、経管栄養法、吸引の理論を学ぶ。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下のメカニズムを説明できる (嚥下のモデル、神経制御、気道防御、発達)。 2. 摂食嚥下障害の原因疾患と病態、症状を説明できる。 3. 摂食嚥下障害の合併症を説明できる。 4. 摂食嚥下障害の評価について基本的技法を説明できる (情報収集や理学的所見、簡易検査、精密検査)。 5. 嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査について評価用紙への記録方法を理解することができる。 6. 摂食嚥下障害の評価から、問題点の抽出や訓練プログラムの立案方法を理解できる。 7. 症例報告書の書き方が理解できる。 8. 栄養管理、経管栄養法、吸引について説明できる。 																														
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、佐久間佐織、ゲストスピーカー (金谷節子)</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:60%">第1回： 摂食嚥下障害の歴史、解剖</td> <td style="width:40%">佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： 生理学的基盤</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： 神経制御・嚥下関連筋群 ★レポート</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 摂食嚥下障害の病態と症状・合併症 ★小テスト (第1-4回)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態①神経疾患・筋疾患・器質的疾患</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第7回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態②自己免疫疾患・医原性・栄養障害</td> <td>柴本 勇・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査 ★小テスト (第5-7回)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回： ②スクリーニング 演習</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回： ③摂食場面の評価 演習 ★レポート</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第11回： ④嚥下内視鏡検査</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第12回： ⑤嚥下造影検査 ★レポート</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第13回： 経管栄養法、吸引</td> <td>佐久間 佐織・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第14回： 摂食嚥下障害と栄養管理</td> <td>金谷 節子</td> </tr> <tr> <td>第15回： 問題点の抽出・訓練プログラムの立案方法、症例報告書の書き方</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> </table>	第1回： 摂食嚥下障害の歴史、解剖	佐藤 豊展	第2回： 生理学的基盤	佐藤 豊展	第3回： 神経制御・嚥下関連筋群 ★レポート	佐藤 豊展	第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化	佐藤 豊展	第5回： 摂食嚥下障害の病態と症状・合併症 ★小テスト (第1-4回)	佐藤 豊展	第6回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態①神経疾患・筋疾患・器質的疾患	佐藤 豊展	第7回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態②自己免疫疾患・医原性・栄養障害	柴本 勇・佐藤 豊展	第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査 ★小テスト (第5-7回)	佐藤 豊展	第9回： ②スクリーニング 演習	佐藤 豊展	第10回： ③摂食場面の評価 演習 ★レポート	佐藤 豊展	第11回： ④嚥下内視鏡検査	佐藤 豊展	第12回： ⑤嚥下造影検査 ★レポート	佐藤 豊展	第13回： 経管栄養法、吸引	佐久間 佐織・佐藤豊展	第14回： 摂食嚥下障害と栄養管理	金谷 節子	第15回： 問題点の抽出・訓練プログラムの立案方法、症例報告書の書き方	佐藤 豊展
第1回： 摂食嚥下障害の歴史、解剖	佐藤 豊展																														
第2回： 生理学的基盤	佐藤 豊展																														
第3回： 神経制御・嚥下関連筋群 ★レポート	佐藤 豊展																														
第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化	佐藤 豊展																														
第5回： 摂食嚥下障害の病態と症状・合併症 ★小テスト (第1-4回)	佐藤 豊展																														
第6回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態①神経疾患・筋疾患・器質的疾患	佐藤 豊展																														
第7回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態②自己免疫疾患・医原性・栄養障害	柴本 勇・佐藤 豊展																														
第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査 ★小テスト (第5-7回)	佐藤 豊展																														
第9回： ②スクリーニング 演習	佐藤 豊展																														
第10回： ③摂食場面の評価 演習 ★レポート	佐藤 豊展																														
第11回： ④嚥下内視鏡検査	佐藤 豊展																														
第12回： ⑤嚥下造影検査 ★レポート	佐藤 豊展																														
第13回： 経管栄養法、吸引	佐久間 佐織・佐藤豊展																														
第14回： 摂食嚥下障害と栄養管理	金谷 節子																														
第15回： 問題点の抽出・訓練プログラムの立案方法、症例報告書の書き方	佐藤 豊展																														
アクティブラーニング	グループ学修形式を取り入れて行います。																														
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。																														
評価方法	小テスト 20%、レポート 20%、定期試験 60% レポートは、ルーブリックを用いない。																														

課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学第2版 (医学書院) 聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 (医歯薬出版)
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 (医歯薬出版) 藤島一郎・谷口洋著：脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 (医歯薬出版) 若林秀隆・藤本篤士編著：サルコペニアの摂食・嚥下障害 (医歯薬出版) 倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学 (医歯薬出版)
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclassで提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411研究室、月曜9:00~12:00 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士、看護師、管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	薬理・薬剤
科目責任者	大場 浩
単位数他	2単位 (30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	薬に関する基礎知識について講述したのち、具体的な疾患についてその代表的な薬と作用機序および有害作用について講述する。新薬情報にも言及する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の基礎知識、薬の主な作用機序、有害作用が理解できる 2. 主な精神疾患、神経疾患を理解し、その治療薬と作用機序および有害作用が理解できる 3. 生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症、など）の病態を理解し、治療薬と作用機序および有害作用が理解できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場 浩</p> <p>第 1 回：薬を理解するための基礎知識（薬の概念、特質、薬の分類など）</p> <p>第 2 回：生体内での薬の動きと作用機序</p> <p>第 3 回：薬の作用に影響する因子と副作用および有害作用</p> <p>第 4 回：感染症治療薬およびその有害作用（抗生物質、抗ウイルス薬）</p> <p>第 5 回：炎症とその発生机序および治療薬と有害作用（アレルギー、喘息、関節リウマチ）</p> <p>第 6 回：神経疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（脳梗塞、パーキンソン病、）</p> <p>第 7 回：精神疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（統合失調症、うつ病、認知症）</p> <p>第 8 回：循環器系疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（1）（高血圧、狭心症）</p> <p>第 9 回：循環器系疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（2）（不整脈、心不全）</p> <p>第 10 回：痛み発生机序と鎮痛薬の作用機序および有害作用 (侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛)</p> <p>第 11 回：代謝疾患治療薬とその作用機序および有害作用（1）（糖尿病）</p> <p>第 12 回：代謝疾患治療薬とその作用機序および有害作用（2） (脂質異常症、痛風、骨粗鬆症)</p> <p>第 13 回：消化器疾患および肝炎治療薬とその作用機序および有害作用</p> <p>第 14 回：抗がん薬とその作用機序および有害作用</p> <p>第 15 回：眠りの機序と催眠薬およびその有害作用</p>
アクティブラーニング	学生は、毎回の講義で理解した事柄を具体的にリアクションペーパーに記載して提出する。教師はその内容を吟味し、評価点の対象にしている。

授業内のICT活用	学生への理解をはかるため、インターネットの画像や動画を取り入れて説明している（例えば不整脈時の心臓の動画、免疫チェックポイント阻害薬の動画など）
評価方法	リアクションペーパー評価（15%）具体的な設問形式のレポート（85%）で評価する。
課題に対するフィードバック	講義内容の質問、意見、感想は、リアクションペーパーを利用してフィードバックする
指定図書	編集：内山 靖・藤井浩美・立石雅子「リハベリック 薬理学・臨床薬理学」 医歯薬出版（株）
参考図書	講義で随時紹介する。
事前・事後学修	教科書やインターネットなどで病気の概要や薬物の作用機序を知っておくと、講義が理解しやすい。
オープンエデュケーションの活用	提出レポートは、講義資料の他、インターネットや文献（例：医学のあゆみなどの医学雑誌）を十分活用してまとめることを勧めている。
オフィスアワー	e-mail o-hiroshi@sand.ocn.ne.jp へ
実務経験に関する記述	薬剤師として、OTC 薬局に7年勤務
メディア授業の実施について	

科目名	ケアマネジメント
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (30 時間) 作業選択 3セメスター 言語選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	私たちは、様々な社会資源に支えられて（社会資源を活用して）生活を送っているが、病気や障害、社会的不利により、生活上の困難が生じたり、それまで自ら活用してきた様々な社会資源の活用が困難な状況になってしまう場合もある。そのような場合に、それまで自らが活用してきた様々な社会資源に加え、新たに必要となる（活用すべき）社会資源をも含めて、複雑なサービス（サポート）のコーディネーション（マネジメント）を計画的かつ継続的に行うことにより、我々の生活を支えてくれる方法・過程がケアマネジメントである。
到達目標	① ケアマネジメントの基本的理解ができる。ソーシャルワークとの関係性についても学ぶ。 ② 介護保険制度の概要と、介護支援専門員（ケアマネージャー）の役割が分かる。 ③ 対人援助の基本原則が理解できる。ケアマネジメントと福祉・医療・介護等の関係性に興味を持つ事ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 落合 克能</p> <p>第 1 回：オリエンテーション・ケアマネジメント・社会保障制度の概略</p> <p>第 2 回：社会保障制度の概要① （財源、費用、年金保険制度）</p> <p>第 3 回：社会保障制度の概要② （医療保険制度）</p> <p>第 4 回：介護保険制度概要</p> <p>第 5 回：高齢者のケアマネジメントと介護保険制度</p> <p>第 6 回：ケアマネジメントの機能と基本的理解</p> <p>第 7 回：インテークの実際</p> <p>第 8 回：アセスメントの実際① 情報収集の実際</p> <p>第 9 回：アセスメントの実際② アセスメントの視点と方法</p> <p>第 10 回：アセスメントの実際③ ニーズの把握とプランニングに向けた目標設定</p> <p>第 11 回：プランニングの実際① 計画書作成の方法</p> <p>第 12 回：プランニングの実際② サービス計画案の説明と同意</p> <p>第 13 回：モニタリング、エバリュエーション、再アセスメント、プラン修正の実際</p> <p>第 14 回：ケアマネジメントにおける多職種連携</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を実施します。
授業内の ICT活用	授業で使用する資料の提供や課題提出などは、WEBCLASS を活用します。 また、グループワークにおいては、履修者各自のパソコンを使用して頂きます。また、グループワークの成果を発表する際には、プロジェクターを使用します。
評価方法	授業への取組姿勢 30%、中間レポート 20%、期末レポート 50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事前事後学習課題等については授業時にフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・『社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2021』メディックメディア ・白澤政和 (2019)『ケアマネジメント論 わかりやすい基礎理論と幅広い事例からまなぶ』ミネルヴァ書房 ・授業中に随時配布
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】病気後遺症や障がいにより生活上の困難が発生した場合に、どのような対応や課題ができるかについて、また、どのような制度やサービスが利用できるかについて、毎回の講義前に自己学修を 20 分程度行う。</p> <p>【事後学習】毎回の講義後、講義内容を整理し、自分の言葉で表現できるよう 20 分程度の事後学修を行う。WEBCLASS に入力。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	社会福祉学部所属の落合研究室 (2613 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。(katsutaka-o@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉士としてのソーシャルワーク実践、実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施につ いて	なし

科目名	カウンセリング
科目責任者	高柳弘行
単位数他	1単位(30時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	認知行動療法(CBT)のツールを介して、自分の思考・感情・行動を振り返り、自己コントロールを図ります。また、自己開示できる記録を介し受講者同士で面接スキルの練習をします。
到達目標	認知行動療法(CBT)の手法を学び、自分の実生活に当てはめ、自分に合うツールを活用できるようにします。また、面接スキルの基本を身につけます。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高柳弘行</p> <p>第1回：認知行動療法の概要 自分を大切にする(自分の強みを認めて、自分自身を大切にする)</p> <p>第2回：自分に優しくする(ありのままの自分自身を受け入れる)</p> <p>第3回：マインドフルになる(好奇心を持ち、判断を加えないで観察する)</p> <p>第4回：変わる準備を整える(どう変わりたいのかを考える) 思考・感情・行動(認知行動療法モデルを理解する)</p> <p>第5回：考え方(役に立つ思考と役に立たない思考を見きわめる) 思考の罫(よくある認知バイアスを理解する)</p> <p>第6回：考え方を变える(これまでよりバランスが取れている有用な考え方を検証して、身につける) 中核的思い込み(強固な考え方をを見つける)</p> <p>第7回：どのような気持ちになるかを理解する(様々な感情を認識する) 感情をコントロールする(感情を管理する方法を学ぶ)</p> <p>第8回：問題を解決する(問題に取り組む方法、それを克服する方法を学ぶ)</p> <p>第9回：よく調べる(実験を行なって自分の思考を検証する)</p> <p>第10回：恐怖に立ち向かう(難題を小さなステップに分ける)</p> <p>第11回：忙しく暮らす(活動を増やして気分を改善する)</p> <p>第12回：良い状態を保つ(自分に最も役立つ考えを憶えておく)</p> <p>第13回：ストレスマネジメント、セルフモニタリング、CBTの基本原則</p> <p>第14回：CBTの事例</p> <p>第15回：CBTの事例</p> <p>*面接スキル(傾聴)、アサーションの手法を随時入れていきます。</p>
アクティブラーニング	認知行動療法(CBT)のツールを自分に当てはめ、紙に書き出し、外側に出すことにより、自分の思考・感情・行動が認識できるようにします。リラクゼーション、ペアでの面接スキルやアサーションの練習なども実施します。
授業内のICT活用	なし
評価方法	リアクションペーパー50%、定期試験レポート50%

課題に対するフィードバック	授業中に受講者および講義担当者として話し合います。
指定図書	なし
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ポール スタラード著 松村未来・下山晴彦 監訳 浅田仁子 訳 (2020). 若者のための認知行動療法ワークブック 金剛出版 ・伊藤絵美 著 (2005). 認知療法・認知行動療法カウンセリング 星和書店
事前・事後学修	自宅で記入・記録するリアクションペーパー（練習課題）があれば、それを実行して下さい。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	講義担当者は「公認心理師」「臨床心理士」として心理アセスメントや心理面談などの臨床心理業務を実践している者です。
メディア授業の実施について	

科目名	音楽療法
科目責任者	山田 美代子
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業選択・言語選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	様々な領域における音楽療法の理論や技法を学ぶ。ビデオなど視聴覚教材を通じて、また実践現場を見学し、体験的に理解を深める。関心領域での音楽セッションをグループで計画し、発表をする。模擬的であってもその過程(計画～発表)で学んだことをディスカッションし、音楽療法を総括する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽療法の基本的な理論や技法を知る。 2. 対象者のニーズに合わせた具体的な音楽療法またその技術の実際を体験的に習得する。 3. 歌うという音楽活動を科学的な側面から理解する。 4. 医療音楽療法からコミュニティ音楽療法への関係とその実際を体験的に理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 山田美代子</p> <p>第 1 回：音楽療法とは 歴史・定義</p> <p>第 2 回：音楽療法の実践 セッションの実際</p> <p>第 3 回：コミュニティ音楽療法</p> <p>第 4 回：リハビリテーション領域における音楽療法</p> <p>第 5 回：精神科領域の音楽療法</p> <p>第 6 回：高齢者の音楽療法</p> <p>第 7 回：実践現場「The 合唱団」を体験 ①</p> <p>第 8 回：実践現場「The 合唱団」を体験 ②</p> <p>第 9 回：発達障害児の音楽療法</p> <p>第 10 回：生活の中での音・音楽療法</p> <p>第 11 回：音楽認知における脳機能画像(光トポグラフィ装置)に関する研究</p> <p>第 12 回：音楽療法の計画から模擬セッション ①</p> <p>第 13 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング②</p> <p>第 14 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング③</p> <p>第 15 回：発表とまとめ</p>
アクティブラーニング	第 7・8 回は、実習。第 12～15 回は、関心領域におけるセッションの計画から実践までをグループで PBL による取り組みを発表する。
授業内の ICT 活用	なし

評価方法	授業態度 30%、課題提出物 10%、レポート 10%、定期試験 50%
課題に対するフィードバック	第7・8回終了後、レポートを作成し提出する。通常授業リアクションペーパーへの回答は次の授業の最初に回答する。内容によっては個別にコメントし返却する。
指定図書	特になし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	対象領域や対象者によって用いる音楽は様々である為、事前学習として関連音楽について調べ、授業終了後に聞いたり歌ったりする等、関心の幅を広げる取り組みをする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	質問のある場合には、授業終了時前に申し出てほしい。終了後の場合、教務事務センターを介して受け付けをする。
実務経験に関する記述	本科目は「音楽療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1単位(15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションには、社会構造の変化や価値観の変遷と共にその時代に応じた考え方がある。この科目では、リハビリテーションの理念と歴史、保健医療福祉の専門職者に求められる基本的な知識や考え方について学修する。特に自身の専門領域に留まらず、関係領域の専門性についても知ることで、自身の職種の特性と役割を深く理解する。
到達目標	1. リハビリテーションの理念と歴史について説明できる 2. リハビリテーション・モデルとその適用例について説明できる。 3. 自身の専門領域の核となる特性と役割を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、リハビリテーションとは（理念と歴史） 新宮尚人</p> <p>第2回：リハビリテーションモデルと障害の理解 新宮尚人</p> <p>第3回：リハビリテーションとチーム医療（理学療法の役割と連携について） 有菌信一</p> <p>第4回：リハビリテーションとチーム医療（作業療法の役割と連携について） 伊藤信寿</p> <p>第5回：リハビリテーションとチーム医療（言語聴覚療法の役割と連携について） 谷 哲夫</p> <p>第6回：リハビリテーションとチーム医療（看護師の役割と連携について） 大山末美</p> <p>第7回：リハビリテーションとチーム医療（社会福祉士・精神保健福祉士の役割と連携について） 大場 義貴</p> <p>第8回：発表・授業のまとめ 新宮尚人</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、授業中に問いかけを行います。また、スチューデントスキル、スタディスキル獲得のために、可能な範囲で演習を取り入れます。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	授業中に獲得した知識を活用した、以下のテーマのレポートを提出する（100%） テーマ：チーム医療における（PT・OT・ST ※いずれかを記入）の役割 レポート評価に、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	希望者には、レポート内容のフィードバックを行います。

指定図書	特に指定しない。講義時にプリントを配布する。
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安としますが、事前学習では授業テーマの内容や各職種の概要について下調べをしておいてください。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、今後の学修に活用することで定着をはかるように努力してください。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」「看護師」「社会福祉士」「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う。 1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を 1 名配置し、教育の質を維持する。

科目名	リハビリテーション医療・医学 I																											
科目責任者	片桐伯真																											
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セメスター																											
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																											
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																											
科目概要	<p>医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。</p> <p>臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書だけの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。</p> <p>一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。</p>																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2.リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3.病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。 																											
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">担当者名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>リハビリテーション総論・概論</td> <td>藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>脳損傷のリハ：総論・リスク管理</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ</td> <td>高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ</td> <td>昆博之</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>神経疾患のリハビリテーション</td> <td>高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>摂食嚥下障害のリハビリテーション</td> <td>重松孝</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>地域リハ・社会的・職業的リハ・講義のまとめ</td> <td>片桐伯真</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	担当者名	第1回	リハビリテーション総論・概論	藤島一郎	第2回	脳損傷のリハ：総論・リスク管理	片桐伯真	第3回	脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群	片桐伯真	第4回	脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ	高橋博達	第5回	脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ	昆博之	第6回	神経疾患のリハビリテーション	高橋博達	第7回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	重松孝	第8回	地域リハ・社会的・職業的リハ・講義のまとめ	片桐伯真
回	内容	担当者名																										
第1回	リハビリテーション総論・概論	藤島一郎																										
第2回	脳損傷のリハ：総論・リスク管理	片桐伯真																										
第3回	脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群	片桐伯真																										
第4回	脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ	高橋博達																										
第5回	脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ	昆博之																										
第6回	神経疾患のリハビリテーション	高橋博達																										
第7回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	重松孝																										
第8回	地域リハ・社会的・職業的リハ・講義のまとめ	片桐伯真																										
アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。																											
授業内の ICT 活用	なし																											
評価方法	<p>基本的には定期試験 100%で評価する予定である。</p> <p>ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。</p>																											

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	リハビリテーション医学(Crosslink basic リハビリテーションテキスト) 上月正博、高橋仁美（編集）、メジカルビュー社
参考図書	なし
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	リハビリテーション医療・医学Ⅱ																											
科目責任者	片桐伯真																											
単位数他	1単位（15時間） 理学必修・作業必修 3セメスター																											
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																											
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																											
科目概要	<p>医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。</p> <p>臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書だけの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。</p> <p>一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。</p>																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2.リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3.病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。 																											
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 30%;">担当者名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断等）</td> <td>井上善也</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション</td> <td>井上善也</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>脊髄損傷のリハビリテーション</td> <td>井上善也</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>小児疾患のリハビリテーション</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>がんのリハビリテーション</td> <td>大野綾</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>リハビリテーションにおける運動学習</td> <td>藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>内部障害のリハビリテーション</td> <td>小川美歌</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>障害者スポーツ・講義のまとめ</td> <td>片桐伯真</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	担当者名	第1回	運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断等）	井上善也	第2回	関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	井上善也	第3回	脊髄損傷のリハビリテーション	井上善也	第4回	小児疾患のリハビリテーション	片桐伯真	第5回	がんのリハビリテーション	大野綾	第6回	リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎	第7回	内部障害のリハビリテーション	小川美歌	第8回	障害者スポーツ・講義のまとめ	片桐伯真
回	内容	担当者名																										
第1回	運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断等）	井上善也																										
第2回	関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	井上善也																										
第3回	脊髄損傷のリハビリテーション	井上善也																										
第4回	小児疾患のリハビリテーション	片桐伯真																										
第5回	がんのリハビリテーション	大野綾																										
第6回	リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎																										
第7回	内部障害のリハビリテーション	小川美歌																										
第8回	障害者スポーツ・講義のまとめ	片桐伯真																										
アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。																											
授業内のICT活用	なし																											

評価方法	基本的には定期試験 100%で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	リハビリテーション医学(Crosslink basic リハビリテーションテキスト) 上月正博、高橋仁美 (編集)、メジカルビュー社
参考図書	なし
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	リハビリテーション職種間連携の基礎
科目責任者	富澤 涼子
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	この科目では、これから皆さんが目指す職種について理解を深めるとともに、他職種を知り、その職種の役割を学びます。学科の枠を超えて小グループでディスカッションしながら、リハビリテーションに関わる専門職種間の連携の「意義・あり方」について考えていきます。
到達目標	①リハビリテーションに関連する職種を挙げるができる。 ②関連職種の専門性と関連性について説明できる。 ③保健・医療・福祉における専門職と連携の必要性を説明できる。 ④グループディスカッションを通して自らの考えをまとめ、伝える事が出来る。
授業計画	<p>担当教員 富澤涼子 矢倉千昭 小坂美鶴 田中なつみ 藤田さより 佐藤豊展</p> <p>リハビリテーション専門職種間連携の基礎では、2つのテーマについて、グループでの調査やディスカッションを行います。授業の最後には、発表会を行い、グループで話し合った内容を共有し、さらに理解を深めます。</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>【テーマ1】 自分の目指す専門職と、関連職種</p> <p>第1・2回 オリエンテーション 富澤・矢倉・小坂 グループディスカッションを通して自分の目指す専門職と、関連職種について理解する。</p> <p>【テーマ2】 各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性</p> <p>第3回 KJ法について 富澤・矢倉・小坂</p> <p>第4回 KJ法を用いて、各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性について考える。 富澤・矢倉・小坂</p> <p>第5・6回 グループ発表【テーマ2】の準備 富澤・矢倉・小坂</p> <p>第7・8回 グループ発表【テーマ2】 富澤・矢倉・小坂・田中・藤田・佐藤豊</p>
アクティブラーニング	グループ発表に向けて、グループディスカッションを中心に行います。
授業内のICT活用	なし

評価方法	レポート評価（ループリックは使用しない）：50% 発表：50% 計100%
課題に対するフィードバック	課題レポートの返却、プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。
指定図書	理学：奈良勲(編)「理学療法概論」(医歯薬出版) 作業：二木 淑子/能登 真一編：作業療法学概論 第4版, 医学書院, 東京, 2016. 言語：藤田郁代・笹沼澄子編「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」(医学書院) *指定図書は他学科の図書を購入する必要はありません。
参考図書	なし
事前・事後学修	毎回の事前学修(20分)：他学科の学生に概要を説明できるよう、指定図書をしっかり読むこと。毎回の事後学修(20分)：グループディスカッションを踏まえて、課題レポートに取り組むこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	2教室間での同時双方向型メディア授業を行う。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【富澤涼子】、【矢倉千昭】、【小坂美鶴】を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学	
科目責任者	梅田慈子	
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 4セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.顎口腔領域の発生・構造・疾患について理解する。 2.言語障害に関係ある歯科疾患について理解する。 3.言語障害への歯科的対応について理解する。 4.口腔ケアについて理解する。 5.加齢による口腔機能の低下について理解する。 	
科目概要	口から食べて健康を維持増進することが、この時代における人々の望みであり、かつ歯科医療の大きな役割である。皆さんは一般的な歯科医療に関わる訳ではない。しかし顎・顔面・口腔の構造、機能、疾病の治療の概要はもとより、摂食嚥下障害に関連した歯科学や口腔ケアに関する知識は将来必ず役に立つであろう。食生活は健康を支える大きな柱である。食物の入り口としての口腔の機能について理解することが大切である。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンスと口腔の基本構造</p> <p>第2回：口腔の発生と発育障害</p> <p>第3回：口腔の機能としての咀嚼、構音</p> <p>第4回：口腔の疾患と機能障害</p> <p>第5回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患</p> <p>第6回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法</p> <p>第7回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損</p> <p>第8回：歯科疾患について</p> <p>第9回：高齢者と歯科、口腔ケアについて</p> <p>第10回：摂食嚥下障害と歯科</p> <p>第11回：中枢神経系による口腔機能障害</p> <p>第12回：リハビリテーションと歯科</p> <p>第13回：実習</p> <p>第14回：実習</p> <p>第15回：実習</p>	<p><担当教員名></p> <p>大野友久</p> <p>竹下育男</p> <p>野本亜希子</p> <p>大野友久</p> <p>竹内啓人</p> <p>隅田由香</p> <p>隅田由香</p> <p>福永暁子</p> <p>福永暁子</p> <p>鴨田勇司</p> <p>鴨田勇司</p> <p>梅田慈子</p> <p>梅田慈子</p> <p>梅田慈子</p> <p>梅田慈子</p>
アクティブラーニング	口蓋床を用いたパラトグラムの実習	
授業内のICT活用	なし	
評価方法	定期試験 100%	
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示	

指定図書	『言語聴覚士に必要な歯科の知識』植松宏 監修、インテルナ出版
参考図書	授業中に紹介する。
事前・事後学修	講義内容については各講師の初回授業時に紹介し、課題や事前学習についてはその都度提示する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「歯科医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	呼吸・発声・発語に関わる器官の解剖と生理を学習し、正常な発話メカニズムを理解する。呼吸は音声を発する原動力となり、喉頭は発声機能をつかさどり、その上部の声道(咽頭・口腔・鼻腔)の形態が言語音の共鳴の変化をもたらし、口唇・舌・下顎などの運動が様々な音の産生をもたらす。こうした正常な機能を理解することは、2年次から学ぶ音声障害、構音障害、嚥下障害などの病態を把握し、適切な治療計画を考慮する基盤となる。
到達目標	1. 呼吸器系の解剖生理および病態について説明できる。(30%) 2. 喉頭の解剖生理および病態について説明できる。(35%) 3. 構音器官の解剖生理および病態について説明できる。(35%)
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：呼吸器系の基本構造・呼吸運動 柴本 勇</p> <p>第2回：呼吸機能検査・呼吸器系の病態 柴本 勇</p> <p>第3回：喉頭の基本構造 金沢英哲</p> <p>第4回：喉頭の病態、喉頭機能検査(内視鏡、ストロボスコーピーなど) 金沢英哲</p> <p>第5回：喉頭の機能(発声時の喉頭調節)、音声機能の評価 柴本 勇</p> <p>第6回：構音器官の基本構造 佐藤豊展</p> <p>第7回：構音器官の検査・病態 佐藤豊展</p> <p>第8回：構音障害の臨床 佐藤豊展</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、演習、ディスカッションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	・ICT機器を利用して授業内で臨床映像や音声等を閲覧しながら行う演習を取り入れて行います。
評価方法	定期試験70%(試験100点満点とし、70%換算にします) 小テスト10% レポート20% ※達成度はルーブリックに基づいて確認します ※定期試験は、到達目標の割合で出題します。
課題に対するフィードバック	小テストについては、次の授業で解説します。
指定図書	城本修、原由紀編：「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖・生理は、専門科目の基礎になります。毎時限の知識を確実にしていくため、予習・復習を行いましょう。 ・小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。復習する習慣をつけましょう。 ・毎回の授業ではWebclassを活用して事前学修と事後学修を行います。

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3408研究室、時間については初回授業時に提示します。 提示時間に関わらず、 isamu-s@seirei.ac.jp にご連絡しアポイントメントをとって頂ければ質 問や追加説明等対応を致します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士、医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目 です。
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て	

科目名	聴覚系の構造・機能・病態
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間が音を聞く仕組みについて、聴器の構造と機能に基づいて理解し、そこに障害（難聴）が生じた場合、どのように聞こえに影響が及ぼされるのか学修する。
到達目標	聴器の解剖学的構造と各器官の機能の理解に基づいて、以下の項目について説明できる。 ①人間が音を聞いて知覚するまでの経路と仕組み。 ②伝音性、内耳性、後迷路性の難聴の種類・特性と障害部位の関連。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>1回 シラバス説明・聴力と聞こえの仕組みの概要、難聴の種類と障害部位</p> <p>2回 聴器の構造と機能：外耳、両耳聴と方向感</p> <p>3回 聴覚検査</p> <p>4回 中耳</p> <p>5回 内耳</p> <p>6回 内耳</p> <p>7回 中枢聴覚路</p> <p>8回 中枢聴覚路／聴覚伝導のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や聴器の模型製作を行い、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	定期テスト90%、平常点（授業態度、リアクションペーパー）10%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	『耳鼻咽喉科学』鳥山実編、医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て	

科目名	神経系の構造・機能・病態												
科目責任者	佐藤順子												
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 2 セメスター												
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎												
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。												
科目概要	<p>言語聴覚機能に欠かせない認知や判断、それに伴う反応は脳を含めた神経系の機能と複雑なメカニズムによって行われる。本講義では言語聴覚療法を行うにあたり、その基礎となる神経系の構造と機能、ならびにその障害における病態について学ぶ。</p> <p>講義では、神経系の構造は模型や図を使って部位を確認する。機能や病態についてはグループワークで自ら調べて理解し、他者にも説明できるようにする。さらに、臨床現場で関わる疾患についてグループワークで神経とのメカニズムと病態を学修する。</p>												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系の構造と機能が理解できるようになる。 2. 脳のある部位が損傷されることによって、どのような障害が現れるのか理解できる。 												
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; border-bottom: none;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: center; border-bottom: none;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border-top: none;"> 第 1 回～第 4 回：①オリエンテーション（事前に DVD を視聴し全体像を把握する） ②神経系の全体像と大脳の構造（脳の模型を用いて部位を確認） ③大脳と神経の機能と病態（グループごとに参考文献をみてまとめる） </td> <td style="border-top: none; text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">第 5 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説</td> <td style="border-top: none; text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">第 6 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説</td> <td style="border-top: none; text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">第 7 回：辺縁系・間脳・脳幹・小脳の機能と病態 グループ発表と解説</td> <td style="border-top: none; text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">第 8 回：まとめ</td> <td style="border-top: none; text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大脳全体(P16-17)： 2. 前頭葉 (P20-23)： 3. 後頭葉(P24-25)： 4. 側頭葉 (P26-27)： 5. 頭頂葉 (P28-33)： 6. 大脳辺縁系(P34-36)： 7. 大脳基底核・間脳(P37-39)： 8. 脳幹(P40-41, 212)： 9. 小脳(P42-43)： 10. 脳動脈(P56, 58)： 	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回～第 4 回：①オリエンテーション（事前に DVD を視聴し全体像を把握する） ②神経系の全体像と大脳の構造（脳の模型を用いて部位を確認） ③大脳と神経の機能と病態（グループごとに参考文献をみてまとめる）	佐藤順子	第 5 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子	第 6 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子	第 7 回：辺縁系・間脳・脳幹・小脳の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子	第 8 回：まとめ	佐藤順子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>												
第 1 回～第 4 回：①オリエンテーション（事前に DVD を視聴し全体像を把握する） ②神経系の全体像と大脳の構造（脳の模型を用いて部位を確認） ③大脳と神経の機能と病態（グループごとに参考文献をみてまとめる）	佐藤順子												
第 5 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子												
第 6 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子												
第 7 回：辺縁系・間脳・脳幹・小脳の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子												
第 8 回：まとめ	佐藤順子												
アクティブ ラーニング													

授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	定期試験（70％） 確認テスト（20％） 発表（10％）
課題に対するフィードバック	確認テストについては、各自で採点してもらいます。 発表時に解説し、リアクションペーパーにまとめと質問を書いて提出してもらいます。
指定図書	『病気がみえる VOL.7 脳・神経』医療情報科学研究所編集メディックメディア
参考図書	なし
事前・事後学修	〔事前学修〕 重要事項をWebclassにアップするのでテキストを参考に予習すること。 〔事後学修〕 授業の内容を復習し、小テストを各自で実施すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：11:45～12:15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	1. 言語聴覚士に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 2. 1の知識を得ることで、これまでどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。
授業計画	第1回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」 第2回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成） 第3回： 乳児期の発達（基本的信頼感） 第4回： 幼児期前半の発達1（第1次反抗期、言語能力の発達） 第5回： 幼児期前半の発達2（自律性、トイレトレーニング） 第6回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達） 第7回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ） 第8回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係） 第9回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成） 第10回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達） 第11回： 中年期の発達1（中年期危機） 第12回： 中年期の発達2（アイデンティティの再体制化） 第13回： 高齢期の発達（エイジング） 第14回： 発達障害の理解と支援1（学習障害、注意欠如多動性障害） 第15回： 発達障害の理解と支援2（自閉スペクトラム症）
アクティブラーニング	アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。
授業内のICT活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験70%、授業への取り組み状況30%(リアクションペーパー等)
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。

指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。 メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	認知心理学
科目責任者	岩渕 俊樹
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	私たちは常に環境からの情報を受け取ったり、環境に対して働きかけたりしながら生きています。認知心理学とは、このような時に私たちの脳と心がどのように働いているかを研究する学問です。この講義では、知覚、言語、思考など、環境との相互作用の中で生じる心の働き、すなわち認知の仕組みについて学びます。ヒトの認知について知ることは、さまざまな神経疾患・精神疾患のメカニズムを学ぶ上での基礎となります。
到達目標	1. 人の認知過程や特徴に関する基礎的な用語を習得する。 2. さまざまな臨床症状の背後にある認知的背景について考察できるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>岩渕 俊樹</p> <p>第1回：認知心理学とは (オリエンテーション)</p> <p>第2回：感覚と知覚 (1)</p> <p>第3回：感覚と知覚 (2)</p> <p>第4回：感覚と知覚 (3)</p> <p>第5回：注意・記憶</p> <p>第6回：言語と思考 (1)：知識の表象と言語処理</p> <p>第7回：言語と思考 (2)：問題解決と意思決定</p> <p>第8回：自己と他者</p>
アクティブラーニング	各回とも主に配布資料を用いながら講義形式で行いますが、「認知の仕組み」を実際に体験し、それについて考えてもらう時間を設けます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 60%、リアクションペーパー20%、小テストまたは課題 20%

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで提出された質問への回答や授業中の小テストの解説は、WebClass を介した返信や資料配布などにより随時行います。
指定図書	なし
参考図書	『言語聴覚士のための心理学 第2版』(医歯薬出版/山田弘幸 編) 『最新認知心理学への招待 改訂版』(サイエンス社/箱田裕司ら 著)
事前・事後学修	各回のキーワードをまとめ、知識を整理する事後学修を行ってください。理解を深めるために小テストまたは課題を課す場合があります。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接行うか、WebClass またはメールで連絡してしてください。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	

科目名	学習心理学
科目責任者	岩渕 俊樹
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトを含むさまざまな動物は、環境に適応するためにさまざまな行動パターンを後天的に獲得していきます。このように経験によって新しい行動パターンを獲得していくプロセスを学習といいます。学習心理学は、どのように学習が生じるかという基礎的なメカニズムについて多くの知見を提供してきました。これらの知見は教育や医療の分野でもさまざまに応用されています。本講義では、ヒトやヒト以外の動物でどのように学習が起こるのかについて学び、それらの知識がどのようにリハビリテーションに活用されるかを考えていきます。
到達目標	1. 学習、条件付け、動機付けなどに関する基礎的な研究方法や用語を理解し、説明できる。 2. 上の知識をもとに、学習心理学の知見が教育や医療の現場にどう活かされているかを理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>岩渕俊樹</p> <p>第1回：学習とは何か（オリエンテーション）</p> <p>第2回：古典的条件付けとオペラント条件付け（1）</p> <p>第3回：古典的条件付けとオペラント条件付け（2）</p> <p>第4回：学習と記憶（1）</p> <p>第5回：学習と記憶（2）</p> <p>第6回：さまざまな情報の学習</p> <p>第7回：学習の理論と応用</p> <p>第8回：まとめ</p>
アクティブラーニング	各回とも主に配布資料を用いながら講義形式で行いますが、学習や記憶のしくみについて体験し、それについて考えてもらう時間を設けます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 60%、リアクションペーパー20%、小テストまたは課題 20%

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで提出された質問への回答や授業中の小テストの解説は、WebClass を介した返信や資料配布などにより随時行います。
指定図書	なし
参考図書	『言語聴覚士のための心理学 第2版』(医歯薬出版/山田弘幸 編) 『学習心理学への招待 改訂版』(サイエンス社/御領謙ら 著)
事前・事後学修	各回のキーワードをまとめ、知識を整理する事後学修を行ってください。理解を深めるために小テストまたは課題を課す場合があります。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接行うか、WebClass またはメールで連絡してしてください。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	

科目名	心理測定法
科目責任者	高橋 晃
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	言語聴覚士国家資格試験に出題される「心理測定法」分野について講義・演習・実験などを通じて学習する。 必要に応じて他の心理学分野の知識（感覚知覚心理・臨床心理・実験心理など）についても触れる。
到達目標	1. 目に見えない「心」の測定の原理を理解できるようになる 2. さまざまな心理測定技法の特性を理解し、実践できるようになる 3. 言語聴覚士国家試験問題に適切に解答できるようになる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高橋 晃</p> <p>第 1 回：「心理測定法」分野の概要 / 感覚知覚概要 本分野の概要と国家試験の性質について概説する また感覚・知覚分野の必須用語を解説する</p> <p>第 2 回：精神物理学的測定法(1) 精神物理学的測定法として「ミュラー・リヤー錯視」の簡易実験（調整法）を行なう</p> <p>第 3 回：精神物理学的測定法(2) 精神物理学的測定法として「ミュラー・リヤー錯視」の簡易実験（極限法・恒常法）を行なう</p> <p>第 4 回：精神物理学的測定法(3) 精神物理学的測定法として「マグニチュード推定法」の簡易実験を行なう</p> <p>第 5 回：態度の測定 態度測定技法としての「リッカート法」「サーストーン法」の説明と実習を行なう</p> <p>第 6 回：テスト法 各種のテスト法における信頼性と妥当性・各種の測定技法についての解説を行なう</p> <p>第 7 回：数値尺度と統計処理 数値尺度の理解とその前提となる統計処理技法について説明と実習を行なう</p> <p>第 8 回：相関係数と因子分析 因子分析について、その前提となる相関係数の概念を含めて解説を行なう</p> <p>第 9 回：信号検出理論・実験計画・誤差 ノイズ下での測定理論である「信号検出理論」、測定のための「実験計画」、測定に附随する「誤差」の解説を行う</p> <p>第 10 回：心理テスト 代表的な“心理測定手法”である「知能検査」「性格検査」の解説を行う</p> <p>なお、各テーマの終わりには対応する国家試験問題の抜粋を解く</p>

アクティブラーニング	グループ学修を取り入れて体験実習等を行なう
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 100%。
課題に対するフィードバック	講義中に実施する国家試験の過去問課題 ならびに定期試験について解答解説を行なう。
指定図書	なし
参考図書	「心理測定法への招待 ― 測定からみた心理学入門」市川伸一著 サイエンス社(1991)
事前・事後学修	各回の最後に国家試験問題と同等の問題を出題するため、それに類する「言語聴覚士試験」の過去問題に対して 40 分程度の予習・復習が必須である
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	質問等はメール(akirtaka@inf.shizuoka.ac.jp)での連絡とする
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	言語学
科目責任者	氏平 明
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。
科目概要	ことばを言語学の領域で捉えて、小言語学 (形態論・統語論・意味論) からその体系と理論を概観する。日本語を日本語学の枠組みから、その文法に見られる法則や理論を学ぶ。
到達目標	1. 言語学の考え方と専門用語を理解する。 2. 日本語文法の分析方法を身に着ける。 3. 国試の問題に解答できる応用力を身に着ける
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 氏平 明</p> <p>第 1 回：ことばに対する言語学の考え方・ことばとは言語学とは</p> <p>第 2 回：ソシュールからブルームフィールド, チョムスキー, プリンズ・スモレンスキーまで・言語学の研究概要とその歴史</p> <p>第 3 回：超分節的特徴, アクセントとイントネーション, (音韻論)</p> <p>第 4 回：形態音素交代, その種類, 連濁の理論・音韻論と形態論の狭間, (形態論)</p> <p>第 5 回：有標と無標, 右枝分かれと左枝分かれの構造, IC 分析 (統語論 1)</p> <p>第 6 回：IC 分析の限界, 生成文法 1, 標準理論, (統語論 2)</p> <p>第 7 回：生成文法 2, X^{bar}理論から GB, ミニマリストへ, (統語論 3)</p> <p>第 8 回：語の意味と意味の種類, 成分分析とプロトタイプ, (意味論 1)</p> <p>第 9 回：意味の展開, 文の意味, 談話構造 (グライスの公理), (意味論 2)</p> <p>第 10 回：日本語の品詞とその活用 (日本語文法形態論 1)</p> <p>第 11 回：日本語の格文法と項構造, 複合語の構造, (日本語文法形態論 2)</p> <p>第 12 回：文法のカテゴリー, 「は」と「が」の構造と意味, (日本語文法統語論 1)</p> <p>第 13 回：日本語文法のカテゴリー 2, ヴォイス, (日本語文法統語論 2)</p> <p>第 14 回：日本語文法のカテゴリー 3, 動詞の種類その展開, (日本語文法統語論 3)</p> <p>第 15 回：日本語文法のカテゴリー 4, 直示, テンス, アスペクト, モダリティ, (日本語文法統語論 4)</p>

アクティブ ラーニング	言語学や日本語学では、個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので、言語の各現象や各事柄について内省で確認し、その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。
授業内の ICT活用	無し
評価方法	定期試験 100%で判断する。定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する。すなわち本試験は、すべて客観式の学んだことの応用問題で、正誤のいずれかを判断し、部分点はない。再試験は、本試験とは別問題で、主観問題を加えて部分点が加点される形式をとる。課題は講義全範囲からの細かな指示からなり、試験においてノート、配布物、図書の持ち込みは無し。
課題に対す るフィード バック	再試験受験者には、本試験の解説を配布する。課題作成者には再試験の解説を配布する。
指定図書	講義はすべて配布したハンドアウトを指標として進める。 ハンドアウトには講義の項目とキーワードと概要が記されている。授業を学生が聞いて、そこに説明と要点を書きこんでいく。参考図書に書かれていることを修正する内容も多々ある。
参考図書	『入門言語学』 ジーンエイチソン, KINSEDO, 『日本語の音声』 窪蘭晴夫, 岩波書店, 『新日本語の統語構造』 三原健一・平岩健, 松柏社, 『新しい日本語学入門』 庵功雄, スリーエーネットワーク, 氏平 明(2011)「言語聴覚士教育と臨床のための音声学Ⅰ」『福岡教育大学附属特別支援教育センター研究紀要』3, 23-39. 氏平 明(2014)「言語聴覚士教育と臨床のための音声学Ⅱ」『福岡教育大学附属特別支援教育センター研究紀要』6, 1-13.
事前・ 事後学修	事前学習は不要, 習ったことの復習, 要点3点, でその細分9事項を必ず毎回復習すること。時間は30分。定期試験前に学んだ言語学・日本語学と音声学の音韻論も含めて, 全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試験は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	参考図書や科目責任者の論文を読んでください。
オフィス アワー	毎週1回の集中講義なので, 講義時間の合間に教員に質問すること。
実務経験に 関する記述	無し
メディア 授業実施 について	なし

科目名	音声学・音韻論
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	音声学の知識は、構音障害の診断治療を行う際に必須である。母音や子音の特徴や分類を理解し、それぞれの音の聴覚的な印象と音声学的な表記方法を学ぶ。特に現代日本語音について、実際に聴取し国際音声記号で表記する演習を行う。 音韻論は、音声プランニングを形成する過程を体系的理論的に理解する。具体的には分節素と音韻素性のシステム、音素の体系、プロソディ、すなわちモーラ、音節、フットで構成される諸単位からなる、リズム、アクセント、イントネーションの諸相とその理論。
到達目標	1. 音声生成のメカニズムを説明することができる。 2. 言語音の特徴や分類を理解し、自らの発声発語器官の運動を内省しながら産生できる。 3. 国際音声記号 (IPA) を用いて、聴取した音を表記できる。 4. 構音実行過程と頭の中の音声プランニングの過程を区別し、それらを連続的に構成するシステムと理論を理解できる。
授業計画	〔音声学〕 担当者：小坂美鶴 第 1 回：音声と音声学（音声学とは、音声器官の名称） 第 2 回：音声生成のプロセス（呼吸、発声、共鳴、構音） 第 3 回：国際音声記号（IPA） 第 4 回：子音の分類、子音の分類 第 5 回：子音の産生と聴覚的印象：破裂音、鼻音 第 6 回：子音の産生と聴覚的印象：ふるえ音とはじき音 第 7 回：子音の産生と聴覚的印象：摩擦音と接近音 第 8 回：基本母音と母音の様々な特徴、二重調音、二次的調音 第 9 回：演習 音声記号の音読と表記 〔音韻論〕 担当者：氏平明 第 10 回：音声学と音韻論：発話産出過程概観 第 11 回：音声単位と音韻単位：単音、分節素、音素と音素論 第 12 回：音韻素性の体系：主要音類、方法、場所とそれらの階層 第 13 回：音声のまとまり（プロソディ）の形態とその機能：音節、モーラ、フット 第 14 回：リズム、アクセントとイントネーション、形態とその機能 第 15 回：アクセントの規則、語句と複合語、アクセントと方言
アクティブラーニング	〔音声学〕 音声学では、実際に音声記号の音読や表記の演習を交えながら進める。 〔音韻論〕 音韻論では個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので、音声の各現象や音韻論の事柄について内省で確認し、その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。すなわち各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10% 〔音声学〕 定期試験 40%、小テスト 10% 〔音韻論〕 定期試験 50%（定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する）

課題に対するフィードバック	<p>[音声学] 小テストについては、次の授業で返却して解説する。</p> <p>[音韻論] 音韻論の再試験受験者には、本試験の解説を配布する。</p>
指定図書	<p>斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂</p>
参考図書	<p>窪蘭晴夫『日本語の音声』岩波書店、窪蘭晴夫・本間猛『音節とモーラ』研究社 氏平 明「言語聴覚士教育と臨床のための音声学Ⅱ」第6号, pp. 1-14, 2014 氏平 明「言語聴覚士教育と臨床のための音韻論Ⅰ」第8号, pp. 1-11, 2016 福岡教育大学教育総合研究所附属特別支援教育研究紀要 これらの図書は言語学にも共通。</p>
事前・事後学修	<p>[音声学] 音声学では、自らの発声発語器官の運動を内省しながら、声を出して練習すること。また、事前にレジュメを配布する。レジュメには授業での達成目標と確認問題が記載してあるため、それぞれ目標を達成しているか確認しておくこと。</p> <p>[音韻論] 音韻論は事前学習は不要、習ったことの復習、要点3点、でその細分9事項を必ず毎回復習すること。時間は30分。定期試験前に学んだ全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試験は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>IPAの実際の音声は以下のURLにて確認することができる。 http://www.coelang.tufs.ac.jp/ipa/index.htm</p>
オフィスアワー	<p>[音声学] リハビリテーション学部、3402研究室、水曜13:00~14:20 [音韻論] 音韻論は集中講義なので、講義時間の合間に教員に質問すること。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対面授業の実施について	

科目名	音声学・音響学演習
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	音響学演習では、音声に関わる各種物理量（音の強さ、周波数等）と基礎となる属性（大きさ、高さ、音色）等について、実際にパーソナルコンピュータ上の音響分析ソフト等を用いて音響学的分析の演習を行う。 音声学演習では、現代共通日本語の単音、および連続発話における特徴的な撥音・促音・長音の特徴や、同化・転換・調音結合などについて理解する。また、超分節的要素の種類や役割について学ぶ。
到達目標	1. 音の物理的性質・音声の音響的特徴を理解できる。 2. 日本語音の特徴を理解し、正しく IPA 表記できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>〔音響学演習〕 担当者：中井孝芳 第1回 音の強さのレベル、音圧レベルと音の大きさのレベル(演習) 第2回 周期と高調波、フーリエ変換 (演習) 第3回 音声生成の音響理論 (演習) 第4回 母音と子音の音響特徴、超分節的要素の音響特徴と知覚(演習) 第5回 サウンドスペクトログラムを読む① 第6回 サウンドスペクトログラムを読む②</p> <p>〔音声学演習〕 担当者：小坂美鶴 第7回 音声学復習 第8回 日本語の単音とその特徴：清音・拗音・濁音・半濁音 第9回 日本語の単音とその特徴：母音（長母音・二重母音・無声音化） 第10回 日本語の単音とその特徴：撥音・促音・調音 第11回 日本語の単音とその特徴：子音 第12回 連続発話と音環境による影響：同化、転換、調音結合音節とモーラ 第13回 音声の超分節的要素と評価 第14回 演習：日本語の IPA 表記 第15回 日本語における音声学のまとめ</p>
アクティブラーニング	演習科目です
授業内のICT活用	なし

評価方法	音響学演習：小テスト50% 音声学演習：小テスト50%
課題に対するフィードバック	それぞれの授業での課題は次回の開始時にフィードバックします
指定図書	〔音響学演習〕 小松崎篤・藤田郁代・岩田誠・広瀬肇 「言語聴覚士テキスト 第2版」 医歯薬出版 〔音声学演習〕 斎藤純男 「日本語音声学入門」 三省堂
参考図書	音響学演習：なし 音声学演習：授業開始時にレジユメを配布します
事前・事後学修	〔音響学演習〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習をすること。 〔音声学演習〕 小テストの内容は事前に告知するので、しっかりと復習して臨むこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	〔音響学演習〕 講義の前後の時間 〔音声学演習〕 リハビリテーション学部、3402 研究室、水曜 13:00～14:20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	なし

科目名	音響学	
科目責任者	中井 孝芳	
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 4セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	音や音声の物理的な特性とその表現方法について理解し、聴覚や音声の学習に必要な知識を得る。数学と物理に関する基本的な学習から始め、音や音声の物理的特性を学ぶ。授業では、音声波形や音響分析に関わる視覚的資料を多用することで、分かりやすく解説する。	
到達目標	1. 音の物理的性質を説明できる。 2. 音声の音響的特徴を説明できる。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：音の基礎（波動と振動、純音、複合音、周波数） 第 2 回：音の物理的側面①（音圧・音の強さとデシベル） 第 3 回：音の物理的側面②（波形と周波数スペクトル） 第 4 回：音の特性（音の伝播、反射と干渉、共鳴） 第 5 回：音声生成の音響理論① 第 6 回：音声生成の音響理論② 第 7 回：音響分析の基礎 第 8 回：サウンドスペクトログラム① 第 9 回：サウンドスペクトログラム② 第 10 回：母音の音響特徴と知覚 第 11 回：連続音声中の母音の音響特性とその知覚 第 12 回：子音・半母音の音響特徴と知覚 第 13 回：サウンドスペクトログラム③ 第 14 回：サウンドスペクトログラム④ 第 15 回：調音結合、超分節的特徴、声の個体差、自然性</p>	<p><担当教員名></p> <p>中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳</p>
アクティブラーニング	例題の提示とその解説	
授業内の ICT 活用	wavesufer(KTH (スウェーデン、王立工科大学) の開発した音声のスペクトログラム、ピッチ軌跡などの表示ができるソフトウェア)による音声データ (中井が録音したもの) の試聴と表示	
評価方法	期末試験 (筆記、100%) による。	
課題に対するフィードバック	例題の解説	

指定図書	言語聴覚士テキスト第3版 医歯薬出版、2018
参考図書	授業中に紹介する。
事前・事後学修	事前に指定図書の該当箇所を読んでおく(20分)こと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習(60分)をすること。
オープンエデュケーションの活用	wavesufer、このソフトウェアの使用方法(日本語)のwebサイトの紹介 声帯振動の様子を観測したwebサイトの紹介
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	

科目名	聴覚心理学
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している
科目概要	聴覚や音声について学習する上で必要な音に関する基本的な知識を学びます。本講義では最低限必要な数学と物理に関する学習から始め、音の物理的な特性とその表現方法、音声の物理的な特性について学習を進めます。さらに、自身の聴覚を通して、音の物理的な特性と聴覚との関連を体験することで「聴こえ」についての知識を深めます。これらの知識や経験が臨床とどのように関わるのか解説しながら授業を進めていきます。
到達目標	1. 音の物理的性質・心理的知覚を説明できる。 2. 音の知覚について説明できる。 3. 聴覚心理学の基本的な用語について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋</p> <p>1 回 聴覚心理学とは何か/音の物理的性質と心理的知覚 (サウンドスペクトログラムで音を見る)</p> <p>2 回 音の大きさの知覚 (聴覚閾値、可聴範囲、等ラウドネス曲線)</p> <p>3 回 音の大きさ (ラウドネス: loudness) / SPL と HL、ソーン尺度、聴覚リクルートメント</p> <p>4 回 音の高さ (ピッチ: pitch) / 純音の周波数弁別、メル尺度</p> <p>5 回 マスキングの基礎 (マスキングの音響的特徴)</p> <p>6 回 マスキング (臨界帯域、同時マスキング、非同時マスキング)</p> <p>7 回 両耳聴と音源定位 (加算、融合、方向知覚)</p> <p>8 回 騒音と聴覚 (音による環境理解、環境騒音)</p>

アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や演習を行い、その内容についてグループで討議する。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 90%、平常点 10%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	吉田友敬、「言語聴覚士の音響学入門 2 訂版」、海文堂出版
参考図書	なし
事前・事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：9時30分～10時30分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	言語発達学
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	ことばが出現するために必要な基礎的能力が発達する乳児期の段階から、会話や文字を獲得する児童期までのことばの発達について概説する。また、ことばの発達に関連するコミュニケーション、社会性、認知発達等についても学び、それぞれの領域についての苦手さを持つ子どもについての特徴についても触れていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期、児童期までのことばの定型発達について理解できる 2. ことばの発達に関連する領域の発達について、ことばの発達と関連付けて理解できる 3. 定型発達を基礎にして言語発達障害を理解する視点を持つことができる
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂美鶴</p> <p>第1回 言語発達の理論的基礎</p> <p>第2回 前言語期のコミュニケーションの発達</p> <p>第3回 幼児期から就学までの言語発達 (1) 語彙</p> <p>第4回 幼児期から就学までの言語発達 (2) 統語</p> <p>第5回 幼児期から就学までの言語発達 (3) 談話</p> <p>第6回 幼児期から就学までの言語発達 (4) 音韻意識</p> <p>第7回 学童期の言語発達 (1) 学習言語</p> <p>第8回 学童期の言語発達 (2) 高次の認知的基盤</p>

アクティブ ラーニング	指定図書・参考書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20%
課題に対す るフィード バック	小テストはフィードバックを行い、返却します。
指定図書	なし
参考図書	『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学』 深浦順一他 医学書院 『ことばの発達と障害 1/ことばの発達入門』 秦野悦子 大修館書店 『言語聴覚士のための言語発達障害学』 石田宏代、大石敬子 医歯薬出版株式会社 『よくわかる言語発達』 岩立志津夫、小椋たみ子 ミネルヴァ書房 『シリーズ臨床発達心理学④/言語発達とその支援』 岩立志津夫、小椋たみ子 ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	授業内容にあたる部分を事前に参考図書を読んでおきましょう。 小テストを実施しますので、しっかりと復習しておきましょう。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3402 教室 木曜日 13 : 00～14 : 20
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施につ いて	

科目名	国際リハビリテーション研修 (PT・OT)
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	1単位 (30時間) 理学選択・作業選択・言語選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門基礎
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国際リハビリテーション研修は、異なる文化・地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目差す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で通用する柔軟な倫理観を習得する。お互いの学生にとって可能性を拡大するために、学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修方法を用い、グローバルマインドを育む。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の尊厳や幸福を尊重するためのリハビリテーション医療の重要性を国際的視点で理解する。 ・研修地のリハビリテーション医療を通して、人を支援する経験を積む。 ・研修地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。 ・研修地の学生と交流を図りコミュニケーション能力を養う。 ・異なる文化圏の生活を経験し、研修地の歴史・伝統・文化を学ぶ。
授業計画	<p>担当教員名：高橋大生、鈴木達也、柴本勇、根地嶋誠すべての工程を担当教員が担当する <授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前研修 研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度 リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する 事前研修内容 1回目：オリエンテーション 2-3回目：医療現場で使用する医療英語を学ぶ 4-5回目：英語で（自分の言葉で）日本の理学療法・リハビリテーション医療について説明する 6-7回目：日本と研修先の文化・医療について学ぶ 8回目：学内 work 英語による OSCE 9回目：学内 work 英語での学内アテンド 10回目：英語によるプレゼンテーション 2. 研修書類の作成 自己紹介、学習目標を作成する 3. 海外研修 研修先の施設見学、授業見学、交流を行う Active Learning Project & Presentation Field Work 4. 研修報告会 研修後に報告書を提出し、報告会を行う <p>※グローバル教育推進センターに相談、指導を仰ぐことによって、研修を深く理解・遂行することができる。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。 ・参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。 ・プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら

	<p>学んでいくことを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。 学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。 アクティブラーニングとグループワークを通して実践的に活動する。
授業内のICT活用	ICT機器を用いて英語のビデオ教材を視聴し、グループワークの内容をプロジェクターで発表する。
評価方法	事前研修 30%、研修時態度 40% 課題レポート 30%
課題に対するフィードバック	事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。 課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。 研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する。 事前研修 1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則 60 分とする。
オープンエデュケーションの活用	自主学修として、以下の URL の講座の受講を勧めます。 東京大学 大学総合教育研究センター https://utokyo-ea.com/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3505 研究室 時間等：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	国際リハビリテーション研修 (ST)
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位 (30時間) 言語選択 2・4セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国際リハビリテーション研修は、異なる文化・地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、現地の専門研修を受け、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目差す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で活動できる柔軟な倫理観や価値観を習得する。学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修手法を取り入れ、国際リハビリテーションを経験し理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の尊厳を尊重したリハビリテーション医療について説明できる ・リハビリテーション医療を通じた人への支援を経験する ・見学や聴講などを通して、わが国や研修地のリハビリテーション事情を説明できる ・研修地の学生と交流しコミュニケーションを図ることができる ・異なる文化圏の生活を経験し、違いや共通点を分析できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 担当教員：柴本 勇</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前研修 研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度 リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する リスクアセスメントとリスクマネジメントを理解する 2. 研修書類の作成 自己紹介、学習目標を作成する 3. 海外研修 研修先の施設見学、授業見学、交流を行う Active Learning Project & Presentation 4. 研修報告会 研修後に報告会を行う。報告書を作成する
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。 ・参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。 ・プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら学んでいくことを促す。 ・各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。 ・学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。
授業内のICT活用	オンライン・ビデオ・チャット・ツールを使い、海外のリハビリテーション専門職とディスカッションをする。 WebClassまたはGoogle FormなどのICTツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	事前研修 30%、研修時態度40% 課題レポート30%
課題に対するフィードバック	事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。 課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。 研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。

指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3408研究室 火曜日12：00～13：00 上記以外でもメール（isamu-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	国際コミュニケーション演習
科目責任者	富澤 涼子
単位数他	1単位 (30時間) 理学選択・作業選択・言語選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国際実習の“前提科目”的な位置づけとして考える。語学力を高め、リハ専門職としてのコミュニケーション力を高める。国外における医療福祉現場を想定した演習を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション実践に求められる英語表記を理解することができる。 ・英語を使用して対象者にリハビリテーション技法を説明することができる。 ・ボディーラングエージ等を用いながら相手の状況や理解に合わせて英語で指導することができる。
授業計画	<p><担当教員名>富澤涼子、鈴木達也、高橋大生、モーテンヴァテン <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 富澤 リハビリテーション実践の内容について日本語で検討する。</p> <p>第2～7回：リハビリテーション実践の事前準備 富澤、鈴木、高橋 リハビリテーション実践の詳細を深めながら、対象者が理解しやすい英語表記を検討する。</p> <p>第8～11回：リハーサル 富澤、鈴木、高橋、ヴァテン リハビリテーション実践のリハーサルを繰り返し、より分かりやすい英語表記や声かけを検討する。</p> <p>第12～14回：英語でのリハビリテーション実践 富澤、鈴木、高橋 リハビリテーション実践を実施する。</p> <p>第15回：まとめ、振り返り 富澤 リハビリテーション実践を振り返り、今後の課題を検討する。</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	本授業は、PBLを取り入れて実施するため、主体的・積極的に参加をしてください。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。
評価方法	グループワークへの参加度 (50%) レポート (ルーブリックは使用しない) (50%)
課題に対するフィードバック	PBL実践の状況を適宜把握し、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。
指定図書	なし (講義の中で随時、関係資料を配布する)

参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に Webclass に掲示された資料を確認してください (第1～15回：各20分) ・授業後は授業内容の復習をしてください。また、担当箇所を上手く実践できるよう十分な練習を重ねてください。 (第1～15回：各20分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryoko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「作業療法士」「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際リハビリテーション援助論																														
科目責任者	高橋 大生																														
単位数他	1単位 (30時間) 理学・作業・言語選択 2セメスター																														
DP番号と科目領域	DP7 専門基礎																														
科目の位置付	DP(7)地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。																														
科目概要	<p>本科目では、リハビリテーション領域の国際援助について学習し国際的に実践する基盤を身につける。</p> <p>本科目は、リハビリテーション分野の国際活動、他国のリハビリテーション事情などについて語学・専門知識・専門技能・実践力を課題解決講義や他の受講者とのディスカッションを通じて学習する。本学大学院に留学中の他国リハビリテーション専門職による講義も展開する予定である。</p>																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの国際情勢について説明できる。 2. 国際活動におけるリハビリテーション専門職者の活動を説明できる。 3. 国際活動を行う上で、基礎的なスキルを説明し実践できる。 4. リハビリテーション専門職として国際援助を模擬的に実践できる。 																														
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p style="text-align: right;">高橋大生・柴本勇・富澤涼子・根地嶋誠</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">第1回：オリエンテーション</td> <td style="width: 20%;">高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第2回：グローバルヘルスにおける国際リハビリテーションの意義</td> <td>富澤涼子</td> </tr> <tr> <td>第3回：各国での医療制度やリハビリテーション事情</td> <td>富澤涼子</td> </tr> <tr> <td>第4回：国際支援機関での活動</td> <td>富澤涼子</td> </tr> <tr> <td>第5回：国際支援プロジェクト立案</td> <td>高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第6回：国際活動における理学療法士の専門性と役割</td> <td>根地嶋誠</td> </tr> <tr> <td>第7回：国際活動における言語聴覚士の専門性と役割</td> <td>柴本勇</td> </tr> <tr> <td>第8回：言語聴覚士と国際的支援</td> <td>柴本勇</td> </tr> <tr> <td>第9回：国際プロジェクト発表</td> <td>高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第10回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習①）</td> <td>高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第11回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習②）</td> <td>高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第12回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習③）</td> <td>高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第13回：CBR と災害時のリハビリテーション援助</td> <td>高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第14回：海外活動の実際</td> <td>柴本勇</td> </tr> <tr> <td>第15回：英語で大学を紹介しよう</td> <td>高橋大生</td> </tr> </table> <p>※グローバル教育推進センターの活動を積極的に活用することによって、国際活動を深く理解することができる。</p>	第1回：オリエンテーション	高橋大生	第2回：グローバルヘルスにおける国際リハビリテーションの意義	富澤涼子	第3回：各国での医療制度やリハビリテーション事情	富澤涼子	第4回：国際支援機関での活動	富澤涼子	第5回：国際支援プロジェクト立案	高橋大生	第6回：国際活動における理学療法士の専門性と役割	根地嶋誠	第7回：国際活動における言語聴覚士の専門性と役割	柴本勇	第8回：言語聴覚士と国際的支援	柴本勇	第9回：国際プロジェクト発表	高橋大生	第10回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習①）	高橋大生	第11回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習②）	高橋大生	第12回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習③）	高橋大生	第13回：CBR と災害時のリハビリテーション援助	高橋大生	第14回：海外活動の実際	柴本勇	第15回：英語で大学を紹介しよう	高橋大生
第1回：オリエンテーション	高橋大生																														
第2回：グローバルヘルスにおける国際リハビリテーションの意義	富澤涼子																														
第3回：各国での医療制度やリハビリテーション事情	富澤涼子																														
第4回：国際支援機関での活動	富澤涼子																														
第5回：国際支援プロジェクト立案	高橋大生																														
第6回：国際活動における理学療法士の専門性と役割	根地嶋誠																														
第7回：国際活動における言語聴覚士の専門性と役割	柴本勇																														
第8回：言語聴覚士と国際的支援	柴本勇																														
第9回：国際プロジェクト発表	高橋大生																														
第10回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習①）	高橋大生																														
第11回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習②）	高橋大生																														
第12回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習③）	高橋大生																														
第13回：CBR と災害時のリハビリテーション援助	高橋大生																														
第14回：海外活動の実際	柴本勇																														
第15回：英語で大学を紹介しよう	高橋大生																														
アクティブラーニング	グループディスカッション、国際支援活動等を実践しながら、到達目標を得る学習を行う。																														
授業内のICT活用	・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。																														
評価方法	課題提出物（レポート）50%、グループディスカッション 30%、学内での国際活動参加 20%																														

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに記された質問・課題を毎回の講義でフィードバック、指導、ディスカッションする。
指定図書	国際リハビリテーション学 (河野 真編 羊土社)
参考図書	なし
事前・事後学修	ディスカッションや演習内容を事前に提示するので、知識を得ると同時に・手技等の確認をおこなう。事前学習は、演習の振り返りを各自で行い担当教員にフィードバックする。事後学修時間の目安は1回の講義あたり原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	自主学修として、以下のURLの講座の受講を勧めます。 東京大学 大学総合教育研究センター https://utokyo-ea.com/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512 研究室（高橋研究室） 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール (daiki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	国際社会福祉論
科目責任者	富澤 涼子
単位数他	1単位数 (15時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国際社会福祉・国際リハの概念や理論、グローバリゼーションと社会福祉・リハ問題を学ぶ。後半は参加型の開発型福祉を踏まえ、自らの実践を考察するグループワークを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会福祉・国際リハとは何か、現状と課題について概略を述べることができる。 ・講義で取り上げた地球規模の問題やこれからの日本の社会福祉・リハビリテーションのあり方について意見を述べるができる。 ・国際的な社会福祉・リハビリテーション問題に関心が持てるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：「障害と開発」の動向 富澤涼子 途上国で障害者が直面する課題、障害問題が開発学の中でどのように位置づけられてきたか、国際リハビリテーション施策の動向について説明する。</p> <p>第2回：障害の社会モデルと分析の視点 富澤涼子 障害を理解する枠組みとして社会モデルを提示し、障害問題をどのように分析していくかの視点を説明する。</p> <p>第3回：国際的視野と国際バカロレア教育 モーテンヴァテン 国際的視野とは何か考え、バカロレア教育の意義について理解する。</p> <p>第4回：途上国での障害問題とリハビリテーションの現状 外部講師：Abuta Ogeto, 富澤涼子 ケニアの貧困問題や障害者が置かれた状況について説明する。</p> <p>第5回：国際社会福祉・国際リハビリテーションの概念 (CBR) 富澤涼子 国際リハビリテーションの概念や理論について説明をする。</p> <p>第6回：CBRに基づくプロジェクト立案 富澤涼子 CBRに基づく途上国でのプロジェクトをPBLにて立案する。</p> <p>第7回：精神保健福祉における人権と思想 佐々木正和 日本での精神障がいのある方への人権侵害について諸外国と比較して検証する。</p> <p>第8回：開発型社会福祉の事例－カンボジアでの教育・医療支援 鈴木光男 カンボジアの近現代史から現在の状況を知り、その中で日本のNPOやNGOの活動の具体を知る。また、学校をつくる会JHPの支援活動を中心に、保育・教育現場の支援活動について知り、今後の途上国支援のあり方を検討・協議する。</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	本授業は、PBLを用いたグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します。

授業内のICT活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	レポート (40%)、 グループワークへの参加度 (20%)、 プレゼンテーション (40%)
課題に対するフィードバック	グループワークや小テストにおいて学修状況を適宜把握し、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスをを行う。
指定図書	なし 講義の中で随時、関係資料を配布する
参考図書	中村優一他編著「グローバリゼーションと国際社会福祉」(中央法規) 高柳彰夫著：SDGs を学ぶ：国際開発・国際協力入門 (法律文化社) 大坪滋編：国際開発学入門―開発学の学際的構築 (勁草書房)
事前・事後学修	・授業前に Webclass に掲示された資料を確認してください (第1～8回：各20分) ・授業後はポートフォリオを作成し、授業内容の復習をしてください。また、関連する国際関連の情報を調べ、理解を深めてください (第1～8回：各20分)
オープンエデュケーションの活用	WHO https://www.who.int/ 国際リハビリテーション協会 https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/glossary/RI.html
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryoko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」「精神保健福祉士」「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	理学療法概論
科目責任者	高山 真希
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 1セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法概論では、リハビリテーションにおける理学療法の役割、治療技術、疾病と対象の理解、理学療法のプロセス（検査・評価、治療）と臨床思考、理学療法士の使命と倫理、さらに理学療法士の養成教育と生涯学習について学修する。
到達目標	1. 社会人として、理学療法士としての使命感、倫理観を持ち、基本的な臨床態度を習得できる。 2. リハビリテーションにおける理学療法に関する基本的な知識を身につけ、説明できる。 3. 理学療法士が活躍する専門領域を理解し、説明できる。
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブ・ラーニングによる授業を展開する</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備 高山真希 目標：これからの理学療法学科での学びを理解する ・アクティブ・ラーニングについて理解し、学修準備を進める ・理学療法の基礎知識（解剖学・生理学・運動学）の学習方法について理解する</p> <p>第2回：理学療法（士）とは 高山真希 ・テーマについてグループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答）を行う</p> <p>第3回：理学療法の専門領域（運動器系理学療法、スポーツ理学療法など） 根地嶋誠 第4回：第3回専門領域の理解と探究 高山真希 ・テーマについてグループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答）を行う ・基礎知識確認試験</p> <p>第5回：理学療法の専門領域（中枢神経系理学療法、老年期の理学療法など） 吉本好延 第6回：第5回専門領域の理解と探究 高山真希 ・テーマについてグループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答）を行う ・基礎知識確認試験</p> <p>第7回：理学療法の専門領域（内部障害系理学療法、誤嚥性肺炎の理学療法など） 俵 祐一 第8回：第7回専門領域の理解と探究 高山真希 ・テーマについてグループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答）を行う ・基礎知識確認試験 ・理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学・生理学・運動学ノートを使った学習記録を提出する</p> <p>第9回：理学療法の学びと可能性（臨床実習、新領域の理学療法など） 矢部広樹 第10回：第9回学びと可能性の理解と探究 高山真希 ・テーマについてグループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答）を行う ・基礎知識確認試験</p> <p>第11回：理学療法の学びと可能性（国際教育、新領域の理学療法など） 高橋大生 第12回：第11回学びと可能性の理解と探究 高山真希 ・テーマについてグループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答）を行う ・基礎知識確認試験</p> <p>第13回：理学療法の学びと可能性（実践学習、新領域の理学療法など） 高山真希</p>

	<p>第14回：第13回学びと可能性の理解と探究 高山真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについてグループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答）を行う ・基礎知識確認試験 <p>第15回：理学療法(士)の専門領域，可能性から，未来の理学療法を考える 高山真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回～第14回までの授業内容と解剖学・生理学・運動学の基礎知識確認試験実施 ・第2回～第14回までの授業のまとめ ・理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学・生理学・運動学ノートを使った学習記録を提出する
アクティブラーニング	<p>○グループディスカッション ○プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションで作成したグループ発表資料を WebClass にアップし，PC でグループ発表の資料を見ながら授業に参加する ・グループ発表後，教員の補足説明や問題提起などによるに質疑応答を行い，思考力を高め，知識の定着と理解を深める
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClass にグループディスカッションの内容をまとめたパワーポイントをアップし，プレゼンテーションを行う ・プレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う ・WebClass を活用し，補足説明などの情報共有を行う ・定期的に WebClass で基礎知識確認試験を実施し，学修の到達度を確認する
評価方法	<p>基礎知識確認試験 40%</p> <p>グループディスカッション・プレゼンテーション（質疑応答） 40%</p> <p>リアクションペーパー10%</p> <p>解剖学・生理学・運動学ノートの自主学習記録 10%</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて発表の途中で補足，終了後に総括を行う。 ・WebClass のアンケートの質問を確認し，WebClass の掲示板または次回の授業で回答する
指定図書	<p>細田多穂（編）「理学療法概論テキスト 改訂第3版」(南江堂)</p> <p>中島雅美（編）「理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第3版 (医歯薬出版)</p> <p>中島雅美（編）理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート 第3版 (医歯薬出版)</p> <p>中島雅美（編）理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 (医歯薬出版)</p>
参考図書	<p>千住秀明（監）「理学療法学テキスト I 理学療法学概論 第4版」(神陵文庫)</p>
事前・事後学修	<p>事前学修として，各回のテーマに関連する情報収集や資料収集を行う，基礎知識についてノートを活用し学習する（60分程度）</p> <p>事後学修として，授業の振り返り（基礎知識の補足，思考の整理など）を行い，リアクションペーパーに回答する（20分程度）</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>公益社団法人日本理学療法士協会のホームページにアップされている動画を活用する</p> <p>URL：http://www.japanpt.or.jp/general/tools/movie/list/</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3510 研究室</p> <p>時間については，初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア授業の実施について	

科目名	基礎理学療法学
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	理学療法の対象である、様々な疾患によって発現する症状・徴候、構造と機能の障害、運動や動作の障害について、解剖・生理・運動学の基礎知識を統合して、その発生および治療課程を理解し、説明することを目的とする。そのうえで、エビデンスに基づいた理学療法の評価や治療を選択することができることを目標とする。
到達目標	1. 理学療法の対象である病態ならびに障害について、発生および治療課程を理解・説明できる 2. 理学療法の対象である病態ならびに障害について、基本的な評価と治療を選択・実施できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ・担当教員></p> <p>第1回：オリエンテーション，運動療法学総論（俵）</p> <p>第2回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-1（俵・高山・田中） －病態ならびに障害の発生および治療課程を理解する</p> <p>第3回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-2（俵・高山・田中） －病態ならびに障害の理学療法評価と治療の選択</p> <p>第4回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-3（俵・高山・田中） －筋萎縮・筋力低下に対する理学療法評価の実施</p> <p>第5回：神経生理学的原理を用いた理学療法（俵・高山・田中） －神経生理学的原理の理論を理解する</p> <p>第6回：関節運動障害と理学療法-1（俵・高山・田中） －病態ならびに障害の理学療法評価とストレッチの理論を理解する</p> <p>第7回：関節運動障害と理学療法-2（俵・高山・田中） －関節運動障害に対するストレッチの実際</p> <p>第8回：関節運動障害と理学療法-3（金原・高山・田中） －関節運動学の理論を理解する</p> <p>第9回：関節運動障害と理学療法-4（金原・高山・田中） －関節運動学に基づいた理学療法評価と治療の選択</p> <p>第10回：関節運動障害と理学療法-5（金原・高山・田中） －関節運動学に基づいた理学療法評価の実施</p> <p>第11回：異常動作の評価と理学療法-1（高橋・高山・田中） －病態ならびに障害の発生を理解する</p> <p>第12回：異常動作の評価と理学療法-2（高橋・高山・田中） －病態ならびに障害の理学療法評価の選択</p> <p>第13回：異常動作の評価と理学療法-3（高橋・高山・田中） －異常動作に対する理学療法評価の実施</p> <p>第14回：理学療法の対象である病態ならびに障害に対する理学療法の実際（大曲・俵） －臨床場面での理学療法評価および治療と臨床推論</p> <p>第15回：確認テスト，振り返り，まとめ</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題をグループワークでまとめ、プレゼンテーションを行う ・授業時間中に適宜、学生間でディスカッションする時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技的なものに関しては演習を通して解説する

授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	プレゼンテーション内容 10%, 小テスト 30%, 課題提出物 10%, 確認テスト 50%
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションや小テストのフィードバック、演習での指導、等
指定図書	奈良勲監修, 「標準理学療法学 運動療法学 総論」 医学書院
参考図書	奈良勲監修, 「標準理学療法学 運動療法学 各論」 医学書院 奈良勲監修, 「標準理学療法学 病態運動学」 医学書院 柳澤健, 他訳, 「PNFハンドブック 第4版」 丸善出版 竹井仁, 他編, 「系統別・治療手技の展開 改定第3版」 協同医書出版
事前・事後学修	事前学修では各回の授業テーマに関連する解剖・生理・運動学の基礎知識を整理してください (50分)。 事後学修では基礎知識を統合し, グループでまとめたものや演習で行った内容を復習・練習してください (50分)。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3507 研究室 時間については, 初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (yuichi-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	理学療法研究の理論
科目責任者	金原一宏
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	臨床疑問や課題に対して、客観的な視点から探求することを目的に、理学療法に必要な理学療法研究に関する方法論を学習する。研究の方法論では、問題点の抽出から文献検索、仮説の立案、データ測定、結果の解釈、考察といった研究の流れに沿ってそれぞれに必要な知識の習得と理学療法に必要な倫理事項の確認を行い、リハビリテーション専門職を志す者としての冷静な態度、深い洞察力、高い倫理観を裏付ける広い教養を身につける。
到達目標	1.理学療法における研究活動の意義を理解する 2.研究疑問を具現化し、その解明の手順(研究計画書の作成)を理解する 3.理学療法研究を実践するにあたっての倫理感を養う
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 担当教員名：金原一宏 有菌信一 俵祐一</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 研究法総論 (1) 金原一宏</p> <p>第2回：研究法総論 (2) 金原一宏</p> <p>第3回：研究疑問の見つけ方 (1) 金原一宏</p> <p>第4回：研究疑問の見つけ方 (2) 金原一宏</p> <p>第5回：文献レビューの仕方 (1) 金原一宏</p> <p>第6回：文献レビューの仕方 (2) 金原一宏</p> <p>第7回：文献レビューに基づく仮説の設定 (1) 金原一宏</p> <p>第8回：文献レビューに基づく仮説の設定 (2) 金原一宏</p> <p>第9回：研究計画の作成 (1) 金原一宏</p> <p>第10回：研究計画の作成 (2) 金原一宏</p> <p>第11回：研究計画の作成 (3) 金原一宏</p> <p>第12回：理学療法研究に必要な統計学 俵 祐一</p> <p>第13回：理学療法研究に必要な倫理学 俵 祐一</p> <p>第14回：世界の理学療法研究 有菌信一</p> <p>第15回：大学院教育への発展 有菌信一</p>
アクティブラーニング	グループワーク等を予定しています
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションの際、パソコンを使用して行います。
評価方法	課題提出物：30%、研究計画書の作成：70%
課題に対するフィードバック	研究計画書の作成指導を通して進めていきます

指定図書	山田実 編著 PT・OT のための臨床研究はじめの一步 (羊土社)
参考図書	千住秀明 著 「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」 (神稜文庫) 対馬栄輝 著 「医療系データのとり方・まとめ方」 (東京図書) 対馬栄輝 著 SPSS で学ぶ医療系データ解析 (東京図書)
事前・事後学修	学修の成果はグループ指導教員との卒業研究テーマ、研究計画の作成に反映されます
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	理学療法研究の実践
科目責任者	有菌信一
単位数他	4単位 (120時間) 理学必修 8セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	理学療法研究の意義と、科学的・論理的な研究方法を修得する。具体的には、各担当指導教員の指導のもと、研究テーマの設定、研究計画の立案、データ収集・解析、考察を行い、その研究結果を卒業研究発表会で口演し、卒業論文を完成させることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.理学療法研究の意義を理解する。 2.一連の研究の流れ学び、各自の研究テーマに沿って研究を実施する。 3.研究結果を考察し、口述発表する。 4.卒業論文にまとめて報告する。
授業計画	<p>＜担当教員＞ 有菌信一 金原一宏 矢倉千昭 吉本好延 俵 祐一 根地嶋誠 矢部広樹 高橋大生 高山真希 田中なつみ (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞ 本科目は、担当指導教員によるゼミ形式で行うが、必要に応じて全体でも開講する。 研究内容、および研究方法は、指導教員の指導を受けて決定すること。 卒業研究の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法研究の意義と目的 ・ 研究疑問の発見 ・ 文献レビュー ・ 研究テーマの明確化 ・ 研究計画の作成 (倫理的考察も含む) ・ 研究方法 (対象者の設定、測定機器の使用、調査方法など) ・ データ収集 ・ データ解析と処理 ・ 考察 ・ 発表 ・ 論文執筆 <p>*卒業研究発表会を11月上旬頃に行う *卒業論文の提出は11月末頃とする</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション，資料作成
評価方法	抄録：30% 論文内容：35% 口頭発表：35%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。
指定図書	メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法 山田実編集 羊土社 PT・OTのための臨床研究のはじめの一步 山田実編著 羊土社
参考図書	なし
事前・事後学修	文献検討を十分に行って、研究に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	理学療法診断学概論
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2単位(30時間) 理学必修 2 Semester
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法において、理学療法診断(評価)は対象者の障害像を整理し、問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。授業では、理学療法診断に必要な基本的な態度、知識、技能について学修する。
到達目標	1. 理学療法を展開するうえでの診断(評価)の意義を理解する。 2. 理学療法評価の目的を理解し、障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。 3. 対象者とコミュニケーション、医療面接、基本的な検査・測定の実施を想起できる。
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備 俵 祐一 ・目標：これからの理学療法学科での学びを理解する。 ・グループワーク (GW) 課題の取り組み方、課題資料のまとめ方、GW 発表方法の確認。 ・理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学・生理学・運動学ノートを使った学修方法、知識確認試験について説明する。</p> <p>第2・3回：理学療法評価総論 俵 祐一 ・目標：理学療法評価の目的、障害モデルとの関連、検査法と検査対象を説明することができる。 ①理学療法評価の目的と意義についてまとめ、説明する。 ②理学療法評価に関連する障害モデルについてまとめ、説明する。 ③検査法と尺度、検査法の信頼性、妥当性、感度、特異度についてまとめ、説明する。</p> <p>第4・5回：検査・測定法の意義、目的、概要① 吉本 好延 ・目標：中枢神経疾患患者に行う検査の意義、目的、概要を説明することができる。</p> <p>第6・7回：検査・測定法の意義、目的、概要② 根地嶋 誠 ・目標：運動器疾患患者に行う検査の意義、目的、概要を説明することができる。</p> <p>第8・9回：検査・測定法の意義、目的、概要③ 俵 祐一 ・目標：内部障害疾患患者に行う検査の意義、目的、概要を説明することができる。</p> <p>第10・11回：検査・測定法の意義、目的、概要④ 矢部 広樹 ・目標：生活期の患者に行う検査の意義、目的、概要を説明することができる。</p> <p>第12・13回：検査・測定法の意義、目的、概要⑤ 高橋 大生 ・目標：義肢・装具使用患者に行う検査の意義、目的、概要を説明することができる。</p> <p>第14回：臨床推論の基礎 ・目標：これまでに提示した症例の情報を ICF で整理し、必要な検査・測定法、評価法をあげ、簡単な臨床推論ができる。</p> <p>第15回：理学療法診断(評価)の意義を考える。 俵 祐一</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容と解剖学・生理学・運動学の知識確認試験を実施する。 ・授業の振り返りおよびまとめを行う。
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題をグループワークでまとめ、プレゼンテーションを行う ・授業時間中に適宜、学生間でディスカッションする時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技的なものに関しては演習を通して解説する
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClass にプレゼンテーション用のパワーポイントをアップし、グループで発表を行う。 ・グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。 ・教員との質疑応答や教員からの文献紹介はWebClass の掲示板で知らせる。 ・定期的にWebClass で知識確認試験を実施し、学修の到達度を確認する。
評価方法	グループワーク資料・発表（質問）40%、参加・態度10%、知識確認試験50%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて発表の途中で補足、終了後に総括を行う。 ・WebClass のアンケートの質問を確認し、WebClass の掲示板または次回の授業で回答する。
指定図書	<p>細田多穂（監）「理学療法評価学テキスト 改訂第2版」（南江堂）</p> <p>中島雅美（編）「理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第3版（医歯薬出版）</p> <p>中島雅美（編）「理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート 第3版（医歯薬出版）</p> <p>中島雅美（編）「理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版（医歯薬出版）</p>
参考図書	千住秀明（監）「理学療法評価法 第3版」（神陵文庫）
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修として、グループワーク資料作成と発表練習を行う（50分）。 ・事後学修として、授業の振り返りとまとめを行う（50分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3507 研究室</p> <p>時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール（yuichi-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	理学療法診断技術学																															
科目責任者	田中 なつみ																															
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 3セメスター																															
DP番号と科目領域	DP2 専門																															
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																															
科目概要	理学療法において、理学療法診断（評価）は対象者の問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。本科目では、理学療法士として基本的な評価を実施できるようにするために、基本的な理学療法評価（筋力測定やバランス検査など）の種類や原理、実施方法などについて、基礎知識・技術・態度を身につける。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な理学療法対象疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 2. 基本的な理学療法評価の方法と原理を説明できる 3. 基本的な理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる 																															
授業計画	<p><担当教員> 田中なつみ、有菌信一、金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、俵 祐一、根地嶋誠、矢部広樹、高橋大生、高山真希</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第2回：関節可動域測定1</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第3回：関節可動域測定2</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第4回：関節可動域測定3</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第5回：徒手筋力検査1</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第6回：徒手筋力検査2</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第7回：徒手筋力検査3</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第8回：バイタルサイン</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第9回：理学療法診断技術学総合演習①</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第10回：画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第11回：感覚検査、反射検査、疼痛検査、バランス検査</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第12回：動作・歩行分析</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第13回：フィジカルアセスメント</td> <td>田中・矢部・高山</td> </tr> <tr> <td>第14・15回：理学療法診断技術学総合演習2</td> <td>全員</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ユニフォームで参加してください。</p>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員>	第1回：コースオリエンテーション	田中・矢部・高山	第2回：関節可動域測定1	田中・矢部・高山	第3回：関節可動域測定2	田中・矢部・高山	第4回：関節可動域測定3	田中・矢部・高山	第5回：徒手筋力検査1	田中・矢部・高山	第6回：徒手筋力検査2	田中・矢部・高山	第7回：徒手筋力検査3	田中・矢部・高山	第8回：バイタルサイン	田中・矢部・高山	第9回：理学療法診断技術学総合演習①	全員	第10回：画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識	田中・矢部・高山	第11回：感覚検査、反射検査、疼痛検査、バランス検査	田中・矢部・高山	第12回：動作・歩行分析	田中・矢部・高山	第13回：フィジカルアセスメント	田中・矢部・高山	第14・15回：理学療法診断技術学総合演習2	全員
<授業内容・テーマ等>	<担当教員>																															
第1回：コースオリエンテーション	田中・矢部・高山																															
第2回：関節可動域測定1	田中・矢部・高山																															
第3回：関節可動域測定2	田中・矢部・高山																															
第4回：関節可動域測定3	田中・矢部・高山																															
第5回：徒手筋力検査1	田中・矢部・高山																															
第6回：徒手筋力検査2	田中・矢部・高山																															
第7回：徒手筋力検査3	田中・矢部・高山																															
第8回：バイタルサイン	田中・矢部・高山																															
第9回：理学療法診断技術学総合演習①	全員																															
第10回：画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識	田中・矢部・高山																															
第11回：感覚検査、反射検査、疼痛検査、バランス検査	田中・矢部・高山																															
第12回：動作・歩行分析	田中・矢部・高山																															
第13回：フィジカルアセスメント	田中・矢部・高山																															
第14・15回：理学療法診断技術学総合演習2	全員																															

アクティブ ラーニング	本授業はグループワークを適宜採用したり、モデルケースを想定しての実際の技術演習を積極的に行いません。
授業内の ICT活用	動画資料などによる実技解説をプロジェクターを適宜利用して行います。
評価方法	小テスト 40%, リアクションペーパーの内容 20%, レポート 40% レポートはルーブリックを用いない。
課題に対する フィード バック	授業の実技にて、評価手技習得の達成度をフィードバックします。
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著 南江堂
参考図書	理学療法評価法：千住秀明監修，中島喜代彦編集（九州神陵文庫）
事前・ 事後学修	徒関節可動域測定，筋力検査，感覚検査，バランス検査，医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習，事後学習を行ってください。 特に上肢，下肢，頸部・体幹の解剖学，運動学の知識については事前学習に沿って各回の前に確認しておくこと（30分） 事後学修では実技の練習を中心に行ってください（30分）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ natsumi-t@seirei.ac.jp ）でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施に ついて	

科目名	神経系理学療法評価学
科目責任者	吉本好延
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	PR18-D2-2-専門-6
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目では、中枢神経疾患に伴う身体・精神機能障害、能力障害の把握に必要な症状発現のメカニズムと評価法について学習する。具体的には、中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う運動障害、感覚障害などの機能障害を理解する。中枢神経疾患における基本的な評価方法を理解し、実践できるようになる。
到達目標	1. 脳卒中患者の病態と障害を理解する。基本的な評価法を理解し、健常者に実践できる。 2. 神経難病患者の病態と障害を理解する。基本的な評価法を理解し、健常者に実践できる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞</p> <p style="text-align: center;">第 1 部：当授業方針・方法の説明</p> <p>第 1 回 コースオリエンテーション テーマ：「なぜ症状発現のメカニズムを学ぶのか？」</p> <p style="text-align: center;">第 2 部：脳卒中患者の病態・症状発現のメカニズムの理解と理学療法評価</p> <p>第 2 回 授業目標： ・運動麻痺のメカニズムが、キーワードを見ながら説明できる。 ・運動麻痺と歩行障害のつながりを一部説明できる。 事前課題①：右被殻出血で左下肢の BRS ステージがⅢの A さんを担当した。A さんに生じた症状のメカニズムを説明せよ。ただし、「片麻痺」「血腫」「内包後脚」「一次運動野」「錐体交差」「外側皮質脊髓路」「前皮質脊髓路」「体幹」の全てのキーワードを組み合わせて説明せよ。また、A さんの症状によって、どのような歩行障害が生じると予測されるか説明せよ。</p> <p>第 3 回 授業目標：模擬患者に BRS の判定ができるようになる 小テスト①（当日動画にて）：右被殻出血の A さんを担当した。同僚が A さんに BRS を行う。A さんの検査結果を示せ。また、そのように判定した理由を説明せよ。上肢編・下肢編 *『PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一 p312-330</p> <p>第 4 回 授業目標： ・感覚障害のメカニズムが、キーワードを見ながら説明できる ・感覚障害と歩行障害のつながりを一部説明できる。 事前課題②：左視床出血で右下肢の表在感覚・深部感覚ともに重度鈍麻の A さんを担当した。A さんに生じた症状のメカニズムを説明せよ。ただし、「血腫」「一次体性感覚野」「視床」「脊髓視床路」「視床皮質路」「表在感覚」「深部感覚」「後外側腹側核」の全てのキーワードを組み合わせて説明せよ。また、A さんの症状によって、どのような歩行障害が生じると予測されるか説明せよ。 *感覚障害の評価方法は、春セメスターの演習の授業内で終了（要確認）</p>

第5回

授業目標：今までの学習の理解度を確認し、さらなる理解を促すための学習ができる

小テスト：第2回～第4回の授業

小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ

その後、小テストの内容の振り返り

第6回

授業目標：

- ・痙縮のメカニズムが、キーワードを見ながら説明できる
- ・痙縮と歩行障害のつながりを一部説明できる。

事前課題③：左放線冠のBAD で右足関節底屈筋のMAS が2のAさんを担当しました。Aさんに生じた症状のメカニズムを説明せよ。ただし、「BAD」「皮質脊髓路」「網様体脊髓路」「皮質網様体路」「伸張反射」の全てのキーワードを組み合わせて説明せよ。また、Aさんの症状によって、どのような歩行障害が生じると予測されるか説明せよ。10/15

第7回

授業目標：今までの学習の理解度を確認し、さらなる理解を促すための学習ができる

小テスト：第2回～第6回の授業

小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ

その後、小テストの内容の振り返り

第8回

授業目標：

- ・運動失調のメカニズムが、キーワードを見ながら説明できる
- ・運動身長と歩行障害のつながりを一部説明できる。

事前課題④：右小脳出血で、右下肢の踵膝試験陽性、ロンベルグ試験陰性のAさんを担当した。Aさんに生じた症状のメカニズムを説明せよ。ただし、「小脳」「大脳小脳連関」「皮質橋小脳路」「小脳視床路」「視床皮質路」の全てのキーワードを組み合わせて説明せよ。また、Aさんの症状によって、どのような歩行障害が生じると予測されるか説明せよ。10/22

第9回

授業目標：

- ・意識障害のメカニズムが、キーワードを見ながら説明できる

事前課題⑤：脳幹出血でJCSがII-30のAさんを担当した。Aさんに生じた症状のメカニズムを説明せよ。ただし、「脳幹」「出血」「脳幹網様体賦活系」「大脳皮質」「覚醒」「認知」の全てのキーワードを組み合わせて説明せよ。また、Aさんに運動障害や感覚障害の異常があるかどうかを明らかにした場合、どのような検査を用いることが良いのか説明せよ。

第10回

授業目標：今までの学習の理解度を確認し、さらなる理解を促すための学習ができる

小テスト：第2回～第9回の授業

小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ

その後、小テストの内容の振り返り

第11回

中枢神経系キーワード確認試験（口頭試問形式） 全教員

	<p>第12回： 矢倉千昭 脳卒中の画像診断と高次脳機能障害を学ぶ ・学修目標：CT・MRI 画像から MRI 画像から、予測される障害（運動麻痺、感覚障害、高次脳機能障害）をあげることができる。 ・事前課題：脳の出血（被殻・視床）・梗塞（前大脳動脈、中大脳動脈、後大脳動脈、小脳・椎骨動脈）によって出現が予測される障害（運動麻痺、感覚障害、高次脳機能障害など）についてまとめなさい。 ・学修内容：授業では、脳出血と脳梗塞の画像の解説を行い、脳出血と脳梗塞の CT・MRI 画像の読解、出現が予測される障害について理解を深める。</p> <p style="text-align: center;">第3部：神経難病患者の病態・症状発現のメカニズムの理解・主な理学療法評価</p> <p>第13回： 矢倉千昭 パーキンソン病の評価を学ぶ。 ・学修目標：大脳基底核と錐体外路の構造と機能を理解し、パーキンソン病の病態と症状が出現する理由を述べることができる。パーキンソン病の症状を踏まえた評価項目をあげることができる。 ・事前課題：パーキンソン病の病態と症状の特徴についてまとめなさい。 ・学修内容：大脳基底核と錐体外路の構造と機能、パーキンソン病の病態、症状、評価について理解を深める。 ・小テスト：脳卒中の画像診断と高次脳機能障害、パーキンソン病の評価について解答する。</p> <p>第14回： 矢倉千昭 多発性硬化症の評価を学ぶ。 ・学修目標：多発性硬化症の要因、病態、症状を理解し、多発性硬化症の症状を踏まえた評価項目をあげることができる。 ・事前課題：多発性硬化症の病態と症状の特徴についてまとめなさい。 ・学修内容：多発性硬化症の病態と症状を踏まえた評価項目について理解を深める。</p> <p>第15回： 矢倉千昭 筋萎縮性側索硬化症の評価を学ぶ。 ・学修目標：筋萎縮性側索硬化症の要因、病態、症状を踏まえた評価項目をあげることができる。 ・事前課題：筋萎縮性側索硬化症の病態と症状の特徴についてまとめなさい。 ・学修内容：筋萎縮性側索硬化症の症状を踏まえた評価項目について理解を深める。 ・小テスト：多発性硬化症の評価、筋萎縮性側索硬化症の評価について解答する。</p>
<p style="text-align: center;">アクティブ ラーニング</p>	<p>授業前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業に課題を提示しています。事前学修を個人で行い、事前学習シートを webclass に提出してください。 ・事前学習シートには必ず参考文献を記載するようにしてください。 ・提出日は授業開始1日前の21時とします（事前学修）。 ・事前配布資料などを参考に理解を深めたうえで授業に臨んでください。 ・全ての資料を webclass にアップしています。どこから取り組んでいただいてもかまいません。 <p>授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・webclass で最初の出席確認を行います。 ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生が理解を促できるようにしてください。 ・インターネットの利用や学生同士の会話などは自由に行ってください。 ・席の移動も自由に行い、自分が最も学習効果が高いと思われる方法を選択してください。 ・授業終了後は授業用シート、または授業時に自身が記載したノートを webclass に提出してください。紙に書いている方は写真撮影してアップしてください。アップ後に、自己評価が入

	<p>力できるようになりますので、自己評価の入力をもって出席の最終確認を行うようにします。小テスト日以外は、毎回の自己評価の入力を忘れないようにしてください。</p> <p>授業後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。 ・授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、webclass に提出してください。次の授業開始 1 日前の 21 時とします (事後学修)。
授業内の ICT 活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・COVID19 の感染助教によっては ZOOM 活用
評価方法	小テスト (知識確認) : 60% 課題提出物 : 10% 口頭試問 : 30%
課題に対するフィードバック	・授業の途中で教員が随時補足していきます。
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを实践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著 (南山堂)
参考図書	『PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う (各授業 2 時間程度)。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する (各授業 2 時間程度)。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時~18 時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	内部障害系理学療法評価学
科目責任者	俵 祐一
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価するために必要である基礎的な知識と技能を備え、客観的かつ科学的観点から物事を洞察できる能力を習得する事を目的に、内部障害疾患（特に呼吸・循環・代謝系疾患）の病態生理ならびに疾患に対する理学療法評価を整理する。
到達目標	1.呼吸器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉え、説明することができる。 2.循環器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉え、説明することができる。 3.代謝系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉え、説明することができる。
授業計画	担当教員：俵祐一・有菌信一・矢部広樹・四十宮公平 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回 コースオリエンテーション 内部障害系理学療法学総論 (俵) ー内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素 第2回 呼吸器系理学療法評価学 (1) COPD, 間質性肺炎 (俵) ー呼吸器疾患に対する理学療法評価の方法と実際 第3回 呼吸器系理学療法評価学 (2) (俵) 第4回 呼吸器系理学療法評価学 (3) (俵) 第5回 呼吸器系理学療法評価学 (4) (俵) 第6回 循環器系理学療法評価学 (1) 狭心症, 急性心筋梗塞, 心不全 (有菌) 第7回 循環器系理学療法評価学 (2) (有菌) 第8回 循環器系理学療法評価学 (3) (有菌) 第9回 循環器系理学療法評価学 (4) (有菌) 第10回 呼吸器系循環器系理学療法評価学 (1) (俵) 第11回 呼吸器系循環器系理学療法評価学 (2) (俵) 第12回 腎臓および代謝系理学療法評価学 (1) (矢部) 第13回 腎臓および代謝系理学療法評価学 (2) (矢部) 第14回 急性期理学療法評価 (ゲスト四十宮・俵) 第15回 確認テスト、振り返り、まとめ
アクティブラーニング	・各セッションの課題をグループワークでまとめ、プレゼンテーションを行う ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間でディスカッションする時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技的なものに関しては演習を通して解説する
授業内のICT活用	PCで資料作成し、プロジェクターを用いてプレゼンテーションを行う
評価方法	小テスト 30%, 課題成果物 20%, 講義およびグループワークへの参加状況 20%, 確認テスト 30%
課題に対するフィードバック	・プレゼンテーションの途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う

指定図書	内部障害理学療法学テキスト 細田多穂著 南江堂 千住秀明著「呼吸リハビリテーション入門」(神稜文庫)
参考図書	なし
事前・事後学修	循環器疾患, 代謝疾患, 呼吸器疾患などをキーワードに事前学習を行ってください(30分)。症例報告などを中心に評価の実際について, 事後学習してください(30分)。
オープンエデュケーションの活用	呼吸器疾患の自主学修として、以下の URL のオンライン教材での学修を勧めます。 独立行政法人 環境再生保全機構： https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/copd/index.html
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (yuichi-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	運動器系理学療法評価学																														
科目責任者	根地嶋誠																														
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 4セメスター																														
DP番号と科目領域	DP2 専門																														
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																														
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し(画像所見含む)、それらに対する理学療法評価について学習する。特に整形外科的検査について、方法や原理、目的などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を概説できること、代表的な運動器疾患における評価方法の種類を挙げるができること、評価の方法を説明し実践できること、評価方法の原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 3. 理学療法評価の方法と原理を説明できる 4. 理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる 																														
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: right;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第2回：運動器系理学療法学総論2 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第3回：股関節の疾患と理学療法評価1 (変形性股関節症，THAの病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(高山)</td> </tr> <tr> <td>第4回：股関節の疾患と理学療法評価2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(高山)</td> </tr> <tr> <td>第5回：膝関節の疾患と理学療法評価1 (変形性膝関節症，TKAの病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第6回：膝関節の疾患と理学療法評価2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第7回：脊柱・骨盤の理学療法評価1 (腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第8回：脊柱・骨盤の理学療法評価2 (腰痛の病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第9回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第10回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第11・12回：総合演習 (病態と理学療法評価の理解)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋，高山)</td> </tr> <tr> <td>第13回：関節リュウマチの理学療法評価1 (関節リュウマチの病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(高山)</td> </tr> <tr> <td>第14回：関節リュウマチの理学療法評価2 (関節リュウマチの病態と理学療法評価)</td> <td style="text-align: right;">(高山)</td> </tr> <tr> <td>第15回：理学療法評価の実際 (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)</td> <td style="text-align: right;">(杉浦武)</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	(根地嶋)	第2回：運動器系理学療法学総論2 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	(根地嶋)	第3回：股関節の疾患と理学療法評価1 (変形性股関節症，THAの病態と理学療法評価)	(高山)	第4回：股関節の疾患と理学療法評価2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)	(高山)	第5回：膝関節の疾患と理学療法評価1 (変形性膝関節症，TKAの病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第6回：膝関節の疾患と理学療法評価2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第7回：脊柱・骨盤の理学療法評価1 (腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第8回：脊柱・骨盤の理学療法評価2 (腰痛の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第9回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第10回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第11・12回：総合演習 (病態と理学療法評価の理解)	(根地嶋，高山)	第13回：関節リュウマチの理学療法評価1 (関節リュウマチの病態と理学療法評価)	(高山)	第14回：関節リュウマチの理学療法評価2 (関節リュウマチの病態と理学療法評価)	(高山)	第15回：理学療法評価の実際 (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)	(杉浦武)
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																														
第1回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	(根地嶋)																														
第2回：運動器系理学療法学総論2 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	(根地嶋)																														
第3回：股関節の疾患と理学療法評価1 (変形性股関節症，THAの病態と理学療法評価)	(高山)																														
第4回：股関節の疾患と理学療法評価2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)	(高山)																														
第5回：膝関節の疾患と理学療法評価1 (変形性膝関節症，TKAの病態と理学療法評価)	(根地嶋)																														
第6回：膝関節の疾患と理学療法評価2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																														
第7回：脊柱・骨盤の理学療法評価1 (腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)	(根地嶋)																														
第8回：脊柱・骨盤の理学療法評価2 (腰痛の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																														
第9回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																														
第10回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																														
第11・12回：総合演習 (病態と理学療法評価の理解)	(根地嶋，高山)																														
第13回：関節リュウマチの理学療法評価1 (関節リュウマチの病態と理学療法評価)	(高山)																														
第14回：関節リュウマチの理学療法評価2 (関節リュウマチの病態と理学療法評価)	(高山)																														
第15回：理学療法評価の実際 (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)	(杉浦武)																														

アクティブラーニング	グループワーク（グループ発表，ディスカッション）
授業内のICT活用	webclass を用いた相互評価，資料の提示
評価方法	小テスト 15%，総合演習課題 30%，単元テスト 40%，リアクションペーパー15%
課題に対するフィードバック	小テストの解説，リアクションペーパーのコメント
指定図書	PT 入門 イラストでわかる運動器障害理学療法 第1版（医歯薬出版株式会社）
参考図書	標準整形外科学（医学書院）
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について 40 分程度学んでおくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	理学療法検査測定演習																																										
科目責任者	矢部 広樹																																										
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 3 セメスター																																										
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																										
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																										
科目概要	本科目は、理学療法診断技術学で学んだ知識と技術を整理、習得する。代表的な病態に対し、基本的な理学療法評価から必要なものを選択し、健常者を対象として基本的な検査測定を実施できることを目標とする。授業では、対象者への配慮と医療者としての接遇を身に付け、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、バイタルサイン、精神機能検査、感覚・反射検査、疼痛評価等を実施する																																										
到達目標	1. 健常者を対象に、基本的な理学療法評価を適切な技術と相手を尊重した態度で実施できる 2. 報告会や実技演習で経験したことを報告できる																																										
授業計画	<p><担当教員> 矢部広樹、俵 祐一、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、高山真希、高橋大生、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>関節可動域測定演習1 上肢・肩甲帯</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>関節可動域測定演習2 下肢</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>関節可動域測定演習3 頸部・体幹</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>徒手筋力検査1</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>徒手筋力検査2</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>徒手筋力検査3</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>バイタルサイン</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>実技総合演習①</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>画像診断, 血液検査, 医学的検査</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>感覚検査, 反射検査, 疼痛検査, バランス検査</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>動作・歩行分析</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>フィジカルアセスメント</td> <td>矢部・高山・田中</td> </tr> <tr> <td>第14・15回</td> <td>実技総合演習②</td> <td>全員</td> </tr> </table> <p>者へのメッセージ：ケーシーで参加してください。</p>	第1回	コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認	矢部・高山・田中	第2回	関節可動域測定演習1 上肢・肩甲帯	矢部・高山・田中	第3回	関節可動域測定演習2 下肢	矢部・高山・田中	第4回	関節可動域測定演習3 頸部・体幹	矢部・高山・田中	第5回	徒手筋力検査1	矢部・高山・田中	第6回	徒手筋力検査2	矢部・高山・田中	第7回	徒手筋力検査3	矢部・高山・田中	第8回	バイタルサイン	矢部・高山・田中	第9回	実技総合演習①	全員	第10回	画像診断, 血液検査, 医学的検査	矢部・高山・田中	第11回	感覚検査, 反射検査, 疼痛検査, バランス検査	矢部・高山・田中	第12回	動作・歩行分析	矢部・高山・田中	第13回	フィジカルアセスメント	矢部・高山・田中	第14・15回	実技総合演習②	全員
第1回	コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認	矢部・高山・田中																																									
第2回	関節可動域測定演習1 上肢・肩甲帯	矢部・高山・田中																																									
第3回	関節可動域測定演習2 下肢	矢部・高山・田中																																									
第4回	関節可動域測定演習3 頸部・体幹	矢部・高山・田中																																									
第5回	徒手筋力検査1	矢部・高山・田中																																									
第6回	徒手筋力検査2	矢部・高山・田中																																									
第7回	徒手筋力検査3	矢部・高山・田中																																									
第8回	バイタルサイン	矢部・高山・田中																																									
第9回	実技総合演習①	全員																																									
第10回	画像診断, 血液検査, 医学的検査	矢部・高山・田中																																									
第11回	感覚検査, 反射検査, 疼痛検査, バランス検査	矢部・高山・田中																																									
第12回	動作・歩行分析	矢部・高山・田中																																									
第13回	フィジカルアセスメント	矢部・高山・田中																																									
第14・15回	実技総合演習②	全員																																									
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れてアクティブラーニングを実施します																																										

授業内のICT活用	Webclass を用いてポートフォリオを作成します
評価方法	実技総合演習の遂行状況 70% 課題提出物(リアクションペーパー)30% 実技総合演習はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 (提示方法: WebClass に掲載および配布)
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、授業内では口頭で、授業後はWebClass を用いて個別にフィードバックする。グループ発表と演習のフィードバックは、授業内に口頭で行う。
指定図書	新・徒手筋力検査法: 津山直一・他訳 (協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた: 田崎義昭・他著 (南山堂) 理学療法評価学テキスト: 細田多穂著 南江堂 金原出版、PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版、才藤栄一監修
参考図書	「なし」
事前・事後学習	毎回の授業前に、授業に該当する事前課題を提示します。 上肢、下肢、頸部、体幹、それぞれの解剖学、運動学の知識について、事前課題に沿って各回の前に確認しておくこと (30分)。関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、バランス検査、運動負荷試験、医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習、事後学習を行ってください (30分)。 第9回、15回の総合演習では、振り返りの事後課題を設定します (30分)。
オープンエデュケーションの活用	「なし」
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3512 研究室 時間等: 毎週水曜日 12時~13時 上記以外でもメール (hiorki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	理学療法評価演習																														
科目責任者	高橋 大生																														
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 5 セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP4 専門																														
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																														
科目概要	高度な知識と技術を修得するために、疾患や障害に対する理学療法の知識・技術を学ぶ。実技演習により、理学療法現場に必要な臨床能力（知識・態度・技能）の修得を目指し、知識演習により、理学療法現場に対応した知識・思考力（臨床推論能力）を修得を目指す。 施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。																														
到達目標	これまで学習した基礎的な知識と専門的な知識を統合し、理解できる。具体的には、臨床理学療法評価実習Ⅱに必要な以下の3項目を修得する。 1. 知識：標準的な国家試験問題で6割程度解答できる 特に基礎編の知識を応用できる 2. 技術：基本的な理学療法評価を実践でき、各種疾患や障害についての知識と結びつけることができる 3. 態度：医療従事者と同等のレベルの言葉使いや行動をとることができる																														
授業計画	<p><担当教員> 高橋大生、有菌信一、矢倉千昭、吉本好延、金原一宏、根地嶋誠、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、田中なつみ、演習協力者 (すべての内容を教員全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回コースオリエンテーション：科目全体の流れを把握する。</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>第2回理学療法知識演習Ⅰ（運動器理学療法）</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第3回理学療法知識演習Ⅱ（運動器理学療法）</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第4回理学療法知識演習Ⅲ（神経理学療法）</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第5回理学療法知識演習Ⅳ（神経理学療法）</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第6回理学療法知識演習Ⅴ（内部障害理学療法）</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第7回理学療法知識演習Ⅵ（内部障害理学療法）</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第8回実技演習Ⅰ（臨床技能確認演習）</td> <td>(教員全員+演習協力者)</td> </tr> <tr> <td>第9回実技演習Ⅱ（臨床技能確認演習）</td> <td>(教員全員+演習協力者)</td> </tr> <tr> <td>第10回実技演習Ⅲ（臨床技能確認演習）</td> <td>(教員全員+演習協力者)</td> </tr> <tr> <td>第11回実技演習Ⅳ（臨床技能確認演習）</td> <td>(教員全員+演習協力者)</td> </tr> <tr> <td>第12回実技演習Ⅴ（臨床技能確認演習）</td> <td>(教員全員+演習協力者)</td> </tr> <tr> <td>第13回実技演習Ⅵ（臨床技能確認演習）</td> <td>(教員全員+演習協力者)</td> </tr> <tr> <td>第14回理学療法回知識演習Ⅶ（Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験）</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>第15回理学療法回知識演習Ⅷ（Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験）</td> <td>高橋</td> </tr> </table> <p>第2回～7回までに行なった学習を第8回～13回の実技演習で整理し、各領域の理学療法現場に対応した知識・思考力（臨床推論能力）を確認する</p>	第1回コースオリエンテーション：科目全体の流れを把握する。	高橋	第2回理学療法知識演習Ⅰ（運動器理学療法）	教員全員	第3回理学療法知識演習Ⅱ（運動器理学療法）	教員全員	第4回理学療法知識演習Ⅲ（神経理学療法）	教員全員	第5回理学療法知識演習Ⅳ（神経理学療法）	教員全員	第6回理学療法知識演習Ⅴ（内部障害理学療法）	教員全員	第7回理学療法知識演習Ⅵ（内部障害理学療法）	教員全員	第8回実技演習Ⅰ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)	第9回実技演習Ⅱ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)	第10回実技演習Ⅲ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)	第11回実技演習Ⅳ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)	第12回実技演習Ⅴ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)	第13回実技演習Ⅵ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)	第14回理学療法回知識演習Ⅶ（Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験）	高橋	第15回理学療法回知識演習Ⅷ（Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験）	高橋
第1回コースオリエンテーション：科目全体の流れを把握する。	高橋																														
第2回理学療法知識演習Ⅰ（運動器理学療法）	教員全員																														
第3回理学療法知識演習Ⅱ（運動器理学療法）	教員全員																														
第4回理学療法知識演習Ⅲ（神経理学療法）	教員全員																														
第5回理学療法知識演習Ⅳ（神経理学療法）	教員全員																														
第6回理学療法知識演習Ⅴ（内部障害理学療法）	教員全員																														
第7回理学療法知識演習Ⅵ（内部障害理学療法）	教員全員																														
第8回実技演習Ⅰ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)																														
第9回実技演習Ⅱ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)																														
第10回実技演習Ⅲ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)																														
第11回実技演習Ⅳ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)																														
第12回実技演習Ⅴ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)																														
第13回実技演習Ⅵ（臨床技能確認演習）	(教員全員+演習協力者)																														
第14回理学療法回知識演習Ⅶ（Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験）	高橋																														
第15回理学療法回知識演習Ⅷ（Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験）	高橋																														
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で患者役、医療従事者役を設定し、口頭で説明をする・評価をする（実技）ことで臨床現場を想定してグループ学修を進める。 iPadを活用し、実際に実技場面などをビデオに撮影し、その動画を確認しながら学生同士がお互いにフィードバックを行うことで、知識や実技向上に努め、学生自身の問題解決能力を養う。 																														
授業内のICT活用	WebClassを用いて資料の共有や提出物の確認等を行います。 ZOOMを利用した予習・復習を行います。																														

評価方法	<p>知識演習・技能演習：100%</p> <p>*知識演習と技能演習の結果から総合的に評価します。</p> <p>*口頭試問・臨床技能確認演習はルーブリックを使用して到達度を判定します。</p>
課題に対するフィードバック	<p>・知識演習 1回目：運動器理学療法、2回目：神経理学療法、3回目：内部障害理学療法について試験官である教員の質問に口頭で回答します。質問内容は、事前配布したキーワードリストから出題されます。キーワードの意味や繋がりについて専門用語を用いて説明します。</p> <p>・臨床技能確認演習 疾患情報を基に理学療法評価を実施します。 ※試験官が演習後にフィードバックを行います。 ※演習時間は一人15分程度、服装は実習着、身だしなみや態度も評価に含みます。</p>
指定図書	<p>理学療法評価学テキスト 細田多穂監修 南江堂、口頭試問キーワードリスト、これまでに履修した科目の指定図書など</p>
参考図書	なし
事前・事後学修	<p>計画的かつ自主的に学修を進めてください。これまで学んだ知識の整理、口頭説明、評価・治療の実施について、学修します。本科目は臨床理学療法評価実習Ⅰと並行して学修する科目です。臨床理学療法評価実習Ⅱのための前提科目です。事前・事後学修は原則60分程度行ってください。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間等：授業の際に提示します</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア授業の実施について	実施しない

科目名	基礎理学療法治療学
科目責任者	有菌信一
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	各種疾患・障害に共通して実施される基礎的な理学療法を実践するために、必要な基礎的な知識・技術を習得する。本科目では、痛みや運動障害に対する理学療法の基礎となるマッサージ、モビライゼーション（関節、神経）、固有受容性神経筋促通法（PNF）、ハンドリングならびに筋力トレーニングの基礎・技術を習得する。
到達目標	1. 痛みに対する運動療法の基本的知識・理論や技能を習得する。 2. 運動障害に対する運動療法の基本的知識・理論や技能を習得する。
授業計画	<p><担当教員>有菌信一 金原一宏 高山真希 高橋大生 田中なつみ <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：上肢 マッサージ、モビライゼーション（関節、神経）1 金原一宏 第2回：上肢 マッサージ、モビライゼーション（関節、神経）2 金原一宏 第3回：体幹 マッサージ、モビライゼーション（関節、神経）1 金原一宏 第4回：体幹 マッサージ、モビライゼーション（関節、神経）2 金原一宏 第5回：下肢 マッサージ、モビライゼーション（関節、神経）1 金原一宏 第6回：下肢 マッサージ、モビライゼーション（関節、神経）2 金原一宏 第7回：固有受容性神経筋促通法（PNF）の実践1 有菌信一 第8回：固有受容性神経筋促通法（PNF）の実践2 有菌信一 第9回：固有受容性神経筋促通法（PNF）の実践3 有菌信一 第10回：ハンドリングの実践1 有菌信一 第11回：ハンドリングの実践2 有菌信一 第12回：ハンドリングの実践3 有菌信一 第13回：筋力トレーニングの実践 高橋大生 第14回：各理学療法手技についての理解および実践の確認1 高山真希・田中なつみ 第15回：各理学療法手技についての理解および実践の確認2 高山真希・田中なつみ</p>
アクティブラーニング	グループワークおよび実技、演習を予定しています
授業内のICT活用	実技指導のための動画やプレゼンテーション資料はプロジェクターを利用して行います。
評価方法	実技テスト 80%、質疑応答 20%
課題に対するフィードバック	グループワークでの実技、演習での指導、等
指定図書	竹井仁, 他編, 「系統別・治療手技の展開 改定第3版」 協同医書出版 佐藤和紀 パリス・アプローチ 文光堂

参考図書	柳澤健, 他訳, 「PNFハンドブック 第4版」 丸善出版
事前・事後学修	マッサージ、モビライゼーション (関節, 神経)、固有受容性神経筋促通法 (PNF)、ハンドリング, 筋力トレーニングなどをキーワードに事前学習を行ってください。運動療法による治療の実際について, 症例報告などを中心に事後学習してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3503 研究室 時間については, 初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	小児理学療法学		
科目責任者	矢倉千昭		
単位数他	1 単位 (30 時間)	理学必修	4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。		
科目概要	子どもの正常発達とその原理、および小児疾患（脳性麻痺、二分脊椎、ペルテス病、筋ジストロフィー症、ダウン症など）の基礎（病態や障害像）を理解し、理学療法の評価と治療についての基礎理論と技術を学習することで、小児理学療法分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。		
到達目標	1. 子どもの理学療法に対する関心を高めることができる。 2. 子どもの正常発達過程とその原理、正常発達と異常発達の相違を説明することができる。 3. 子どもの理学療法に対する基本的な評価と治療の考え方を理解することができる。		
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：コースオリエンテーション、学修の準備 矢倉千昭 ・シラバスから学修内容を理解する 第 2 回：人間発達学の復讐 [講義] 大城昌平 ・目標：ヒトの正常発達を復習し、原始反射の消失、姿勢反応の統合と粗大運動の獲得の過程を理解する。 ※第 3 回～第 14 回までの授業は、GW 発表資料は授業前に作成しておき、授業では GW 発表がすぐできるようにしておくことが望ましい。 第 3 回：発達・運動発達の評価、脳性麻痺総論 [GW] 矢倉千昭 第 4 回：発達・運動発達の評価、脳性麻痺総論 [発表・解説] 矢倉千昭 事前課題：出生から生後 12 ヶ月までの姿勢反射と運動発達を整理し、姿勢反射の異常によって生じる運動発達障害についてまとめる [個人] GW 課題：1 課題 3 グループ ①脳性麻痺の定義、疫学、原因と病理、分類（病型）について説明する ②脳性麻痺の症状と二次障害について説明する ③脳性麻痺に対する理学療法の評価から治療までの概要を説明する 授業内容：グループワーク発表のあと、脳性麻痺の運動発達の特徴について解説し、脳性麻痺に対する理学療法評価の着目点を理解する。 ・第 3 回、第 4 回の知識確認試験 第 5 回：脳性麻痺に対する理学療法の評価と治療 [GW・発表] 矢倉千昭 第 6 回：脳性麻痺に対する理学療法の評価と治療 [質疑・解説] 矢倉千昭 ・目標：脳性麻痺に対する理学療法の評価と治療の基本的な考え方を理解する 事前課題：脳性麻痺の痙直型四肢麻痺、痙直型両麻痺、痙直型片麻痺、アテトーゼ型の障害の特徴についてまとめる [個人] ・GW 課題：1 課題 3 グループ ①痙直型四肢麻痺に対する理学療法の評価と治療の考え方を述べる [症例検討] ②痙直型両麻痺に対する理学療法の評価と治療の考え方を述べる [症例検討] ③アテトーゼに対する理学療法の評価と治療の考え方を述べる [症例検討] 授業内容：グループワーク発表のあと、脳性麻痺の理学療法について解説し、脳性麻痺に対する理学療法の評価と治療の着目点を理解する。 ・第 5 回、第 6 回の知識確認試験 第 7 回：二分脊椎とペルテス病に対する理学療法の評価と治療 [GW・発表] 矢倉千昭 第 8 回：二分脊椎とペルテス病に対する理学療法の評価と治療 [質疑・解説] 矢倉千昭		

	<p>・目標：二分脊椎とペルテス病に対する理学療法の評価と治療の基本的な考え方を理解する 事前課題：L1～S1 までの髄節レベルと支配筋，残存レベルを確認するキーマッスルについてまとめる [個人]</p> <p>・GW 課題：1 課題3 グループ</p> <p>①二分脊椎の概念，障害像，理学療法の評価から治療までの概要を理解する ②二分脊椎に対する理学療法の評価と治療の考え方を述べるができる [症例検討] ③ペルテス病に対する理学療法の評価と治療の考え方を述べるができる [症例検討]</p> <p>授業内容：グループワーク発表のあと、小児の整形外科疾患に対する理学療法について解説する。</p> <p>・第7回，第8回の知識確認試験</p> <p>第9回：遺伝性疾患、知的障害に対する理学療法の評価と治療[GW・発表] 伊藤信寿 第10回：遺伝性疾患、知的障害に対する理学療法の評価と治療[質疑・解説] 伊藤信寿</p> <p>・目標：遺伝性疾患、知的障害に対する理学療法の評価と治療の基本的な考え方を理解する ・事前課題：遺伝性疾患や染色体異常により知的障害を示す疾患についてまとめる[個人] ・GW 課題：1 課題3 グループ</p> <p>①軽度知的障害に対する評価と治療の考え方を述べるができる [症例検討] ②重度知的障害に対する評価と治療の考え方を述べるができる [症例検討] ③強度行動障害に対する評価と治療の考え方を述べるができる [症例検討]</p> <p>・第9回、第10回の知識確認試験</p> <p>※ゲストスピーカーによる小児理学療法の授業</p> <p>第11回：小児の呼吸障害 背戸佑介 第12回：小児の呼吸障害 背戸佑介 第13回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ ゲストスピーカー 第14回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ ゲストスピーカー</p> <p>第15回：まとめ 矢倉千昭</p> <p>・全体の知識確認試験 ・小児理学療法学での学びを振り返る</p>
アクティブラーニング	<p>○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション</p> <p>・個人の事前課題で学修するための基礎知識を身につける。 ・グループワーク課題の作成とグループ発表を通じ、基本的な小児理学療法学を理解する。 ・グループ発表資料をWebClass にアップし、PC等を活用して授業に参加する。 ・グループ発表後、質疑応答を行い、教員が補足説明、文献等を提示し、知識の定着と理解を深める。</p>
授業内のICT活用	<p>・WebClass にプレゼンテーション用のパワーポイントをアップし、グループで発表を行う。 ・グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。 ・教員との質疑応答や教員からの文献紹介はWebClass の掲示板で知らせる。 ・定期的にWebClass のテストを実施し、学修の到達度を確認する。</p>
評価方法	<p>知識確認試験 40%，グループワーク資料・発表（質問）45%，参加・態度 15%</p>
課題に対するフィードバック	<p>・必要に応じて発表の途中で補足、終了後に総括を行う。 ・WebClass のアンケートの質問を確認し、WebClass の掲示板または次回の授業で回答する。</p>
指定図書	<p>小児理学療法学テキスト（南江堂）</p>
参考図書	<p>田原弘幸（編）理学療法学テキストⅧ「こどもの理学療法 第2版」（神陵文庫）</p>
事前・事後学修	<p>事前学修として、個人課題、グループワーク資料作成を行う（各回=30分）。 事後学修として、授業の振り返りとまとめを行う（各回=10分）。</p>

オープンエデュケーションの活用	Web でアップされている子どもの運動発達、脳性麻痺、二分脊椎などに関する動画を紹介する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	神経系理学療法治療学
科目責任者	吉本好延
単位数他	2 単位 (60 時間) 理学必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	PR18-D2-3-専門-1
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害を理解し、これらに対する理学療法の理論 (原理・原則) を学ぶ。総合学習は、評価結果を踏まえて、治療プログラムが立案できることを目標に、授業を行う。
到達目標	1. 脳卒中の病態と障害を理解し、基本的な理学療法の原理・原則を説明することができる。 2. 神経疾患、脊髄損傷の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p style="text-align: center;">第一部：脳卒中患者の理学療法評価の振り返り</p> <p>■第 1 回：吉本好延 ・事前課題①：「脳卒中患者 A さんの理学療法評価を立案してください。また、その理学療法評価が必要と考えた根拠 (症状発現のメカニズム) を説明してください。」</p> <p>■第 2 回：吉本好延 ・事前課題②：「あなたが立案した理学療法評価項目で仮に異常が明らかとなった場合、あなたはどのような理学療法アプローチを行います。」立案した理学療法評価とつながるようにアプローチを説明してください。</p> <p style="text-align: center;">第二部：回復期・慢性期脳卒中患者の理学療法</p> <p>■第 3 回：吉本好延 ・事前課題③：「反復運動は脳卒中患者の運動機能を改善させるのか?」。 ニューロン・アンマスキング・発芽形成・Hebb の法則・神経学的代償・皮質脊髄路・皮質間のネットワーク・シナプス伝達効率・可塑性の全てのキーワードを用いて説明してください。</p> <p>■第 4 回：吉本好延 ・事前課題④：症例提示：「麻痺側上肢の機能改善を促す介入は何か?」(webclass に詳細) 課題指向型アプローチ・トランスファーパッケージ・行動契約・モニタリング・問題解決技法・WMFT・MAL・CI 療法の全てのキーワードを用いて説明してください。</p> <p>■第 5 回：吉本好延 ・事前課題③-④の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ</p> <p>■第 6 回：吉本好延 ・事前課題⑤：症例提示：「麻痺側立脚期の膝折れを改善し、下肢への体重負荷を促すための介入は何か?」(webclass に詳細)。 長下肢装具・立位・歩行・杖・膝関節伸展筋・股関節伸展筋・部分免荷トレッドミル (懸垂装置) の全てのキーワードを用いて説明してください。</p> <p>■第 7 回：吉本好延 ・事前課題⑥：症例提示：「麻痺側遊脚期の足クリアランスを改善し、つまずきを防止するための介入は何か?」(webclass に詳細)。 短下肢装具・足関節背屈筋・股関節屈筋・筋緊張亢進・FES・立脚時間の短縮・立脚後期の股関節伸展・CPG の全てのキーワードを用いて説明してください。</p>

■第8回：吉本好延

・事前課題③-⑥の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ

■第9回：吉本好延

・事前課題⑦：「病棟での起き上がり動作練習は、プラットフォーム上での起き上がり動作練習よりADLの向上に有効か？」。

豊かな環境・腰痛・負担・可塑性・ベッド・課題指向型アプローチ・病棟リハビリ・看護師・身体活動・反復練習・在宅・課題特異性などのキーワードを用いて説明してください。

■第10回：吉本好延

・事前課題⑧：「認知行動療法は、慢性期脳卒中患者の運動を継続させる取り組みとして有効か？」(webclass に詳細)

身体活動・再発予防・廃用予防・転倒・行動変容・セルフモニタリング・目標設定・のキーワードを用いて説明してください。

■第11回：吉本好延

・事前課題③-⑧の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ

■第12回：吉本好延

・事前課題⑨：症例提示（総合学習）

第Ⅲ部：急性期脳卒中患者の理学療法

■第13回：吉本好延

・事前課題⑩：「脳内出血患者の離床開始（リハ中止）基準となる血圧の値は、脳梗塞患者より低めに設定されるのはなぜか？」開頭血腫除去術・頭蓋内圧・脳ヘルニア・ペナンプラ・虚血・血栓融解療法・出血性梗塞・脳浮腫の全てのキーワードを用いて説明してください。

■第14回：吉本好延

・事前課題⑪：「血圧の変動が激しい脳梗塞患者の離床をすすめる際に、起立性低血圧に注意する必要があるのはなぜか？」ペナンプラ・虚血・血栓融解療法・遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ (recombinant tissue-type plasminogen activator: rt-PA)・血行力学性梗塞の全てのキーワードを用いて説明してください。

■第15回：吉本好延

・事前課題③-⑪の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ

■第16回：吉本好延

・事前課題⑫：「発症後24時間以内の早期リハビリテーションは全ての患者に有効なのか？」。早期離床・ガイドライン・重症度・頭部挙上・虚血性ペナンプラ・脳出血の全てのキーワードを用いて説明してください。

■第17回：吉本好延・俵祐一

・事前課題⑬：症例提示：「嚥下障害患者の誤嚥性肺炎を予防するためのベッドサイドの介入は何か？」(webclass に詳細)：

誤嚥性肺炎・不顕性誤嚥・嚥下反射・食事・口腔内清拭・ポジショニング

■第18回：吉本好延

・事前課題③-⑬の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ

■第19回：芦澤遼太

・急性期病院から在宅復帰される患者への理学療法

・脳脊髄液・クリッピング術・再出血・脳血管攣縮・水頭症・ドレナージ・廃用症候群

■第20回：吉本好延

・事前課題⑭：症例提示（総合学習）

第四部：神経難病の理学療法

第21, 22回：パーキンソン病の理学療法治療：矢倉千昭

・事前課題：パーキンソン病に対する運動療法を3つあげ、治療目的、期待される効果についてまとめなさい。

・学修目標：パーキンソン病に対する理学療法プログラムをあげることができ、期待される効果、エビデンスレベルを述べることができる。

・学修内容：パーキンソン病に対する薬物療法、外科的治療法、トピックスとして再生医療などの最新情報を説明する。グループワーク：パーキンソン病の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。

第23, 24回：神経変性疾患と脳血管性によるパーキンソン症候群の理学療法評価と治療：矢倉千昭

・事前学修：パーキンソニズムを呈する神経変性疾患を1つあげ、各疾患の病態と症状についてまとめなさい。

・学修目標：パーキンソニズムを呈する疾患、その病態と症状を説明し、理学療法プログラムをあげることができる。

・学修内容：パーキンソニズムを呈する神経変性疾患、脳血管疾患の要因、病態、症状、診断、治療法について説明する。グループワーク：パーキンソン症候群の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。

・小テスト：第21-24回のテスト

第25, 26回：筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症の理学療法治療：矢倉千昭

・事前学修：YouTubeのALS患者の動画をみて、理学療法士の視点で、重要と考えられる問題点を3つあげ、その理由についてまとめなさい。

・学修目標：筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症の進行状況を踏まえた理学療法プログラムをあげることができる。

・学修内容：筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症に対する治療法を説明する。グループワーク：筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。

第27, 28回：パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症の理学療法の実際：ゲストスピーカー

第29, 30回：脊髄損傷の理学療法治療：矢倉千昭

・事前学修：残存レベルがC5、C6、C7、C8、Th1レベルの頸髄損傷患者が行うことができる上肢運動についてまとめなさい。

・学修目標：ミオトームとデルマトームを理解し、脊髄損傷に対する評価、残存機能を踏まえた理学療法プログラムをあげることができる。

・学修内容：脊髄損傷の要因、病態と症状、残存レベルと遂行可能な動作、脊髄損傷の評価について説明する。グループワーク：脊髄損傷の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。

・小テスト：第25, 26, 29, 30回の小テスト

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業に課題を提示しています。事前学修を個人で行い、webclass に提出してください。 ・提出日は授業開始1日前の21時とします（事前学修）。 ・授業資料は開始前までにアップします。 ・授業日はPBL形式でグループでの課題解決に努めてください。 ・<u>授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生が理解を促できるようにしてください。</u> ・授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、webclass に提出してください。授業開始1日前の21時とします（事後学修）。
授業内の ICT活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・COVID19の対応により ZOOM
評価方法	小テスト：90% 課題提出物：10%
課題に対する フィード バック	・webclass のタイムラインで随時行います。
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア 『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一
参考図書	
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う（各授業2時間程度）。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する（各授業2時間程度）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	3509 教室, 毎週水曜日 16時~18時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
遠隔授業 実施につい て	

科目名	内部障害系理学療法治療学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	2単位(60時間) 理学必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価し、情報の統合と的確な判断を行なうために必要な専門知識を習得する。本科目では、内部障害系疾患(特に呼吸・循環器系・代謝系疾患、がん)の病態構造を把握しながら、理学療法プログラムの立案・効果の検証までを解説する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 2. 循環器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 3. 代謝系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 4. がん患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>有菌信一・俵祐一・矢部広樹・町口輝</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 内部障害系理学療法治療学総論(有菌・俵) 一内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第2回：呼吸器系理学療法治療学(1)(有菌・俵) 一病態ならびに障害像の把握と理学療法評価の実践(COPD)</p> <p>第3回：呼吸器系理学療法治療学(2)(有菌・俵) 一呼吸器疾患に対する理学療法の実践(間質性肺炎)</p> <p>第4回：がん患者の理学療法治療学と呼吸器系理学療法治療学(有菌・俵) 一周術期における理学療法の評価と実践(周術期)</p> <p>第5回：集中治療領域の呼吸器系理学療法治療学(有菌・俵) 一人工呼吸器に対する理学療法の実践(人工呼吸器)</p> <p>第6回：がん患者の理学療法治療学(有菌・俵) 一化学療法、緩和ケアにおける理学療法の評価と実践(Best support care)</p> <p>第7回：循環器系理学療法治療学(有菌・俵) 一循環器疾患に対する理学療法の実践(心筋梗塞)</p> <p>第8回：循環器系理学療法治療学(有菌・俵) 一循環器疾患に対する理学療法の実践(心不全)</p> <p>第9回：循環器系理学療法治療学(有菌・俵) 一循環器疾患に対する理学療法の実践(心臓外科手術) 一心電図の実際</p> <p>第10回：身体所見の取り方、呼吸介助法(俵・有菌)</p> <p>第11回：吸引(俵・有菌)</p> <p>第12回：人工呼吸器(NPPV)と酸素療法の実際(俵・有菌)</p> <p>第13回：代謝系理学療法治療学(1)(矢部) 一病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践</p> <p>第14回：代謝系理学療法治療学(2)(矢部) 一代謝疾患に対する理学療法の実践：運動処方理論と実際</p> <p>第15回：急性期病院における理学療法治療学(ゲスト町口・有菌)</p> <p>*1回を2コマとする</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す

授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション, 資料作成
評価方法	テスト(60%), レポート(40%)にて評価する
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	内部障害理学療法学第2版 標準理学療法学 奈良勲監修 医学書院 呼吸・心臓リハビリテーション 居村茂幸監 羊土社
参考図書	なし
事前・事後学修	循環器疾患, 代謝疾患, 呼吸器疾患, がんなどをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に運動療法の実際について, 事後学習してください
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3513 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください. 講義と実習を組み合わせながら進めていきます. ユニフォームを着用して下さい. 1回は2コマです。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	運動器系理学療法治療学																																
科目責任者	根地嶋 誠																																
単位数他	2単位 (60時間) 理学必修 5セメスター																																
DP番号と科目領域	DP2 専門																																
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法プログラムを学習する。理学療法プログラムの種類や方法、原理などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を説明できること、代表的な運動器疾患に対するプログラムの種類を挙げることができること、具体的な方法を説明し実践できること、プログラムの原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法プログラムの項目を列挙できる 3. 理学療法プログラムの方法と原理を説明できる 4. 理学療法プログラムを適切な技術と態度で実施できる 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1・2 回：コースオリエンテーション、運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">高山</td> </tr> <tr> <td>第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">高山</td> </tr> <tr> <td>第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニア (末梢神経障害含め) の理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 15・16 回：技術演習 1 (症例検討：評価)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋, 高山</td> </tr> <tr> <td>第 17・18 回：技術演習 2 (症例検討：介入)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋, 高山</td> </tr> <tr> <td>第 19・20 回：下肢障害の理学療法の実際</td> <td style="text-align: right;">齊藤和快</td> </tr> <tr> <td>第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷, 肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (上肢疾患の理学療法の実際)</td> <td style="text-align: right;">松本武士</td> </tr> <tr> <td>第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)</td> <td style="text-align: right;">高山</td> </tr> <tr> <td>第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)</td> <td style="text-align: right;">高山</td> </tr> <tr> <td>第 29・30 回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)</td> <td style="text-align: right;">根地嶋</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1・2 回：コースオリエンテーション、運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)	根地嶋	第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)	高山	第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)	高山	第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニア (末梢神経障害含め) の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 15・16 回：技術演習 1 (症例検討：評価)	根地嶋, 高山	第 17・18 回：技術演習 2 (症例検討：介入)	根地嶋, 高山	第 19・20 回：下肢障害の理学療法の実際	齊藤和快	第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷, 肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (上肢疾患の理学療法の実際)	松本武士	第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)	高山	第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)	高山	第 29・30 回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)	根地嶋
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1・2 回：コースオリエンテーション、運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)	高山																																
第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)	高山																																
第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニア (末梢神経障害含め) の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 15・16 回：技術演習 1 (症例検討：評価)	根地嶋, 高山																																
第 17・18 回：技術演習 2 (症例検討：介入)	根地嶋, 高山																																
第 19・20 回：下肢障害の理学療法の実際	齊藤和快																																
第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷, 肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (上肢疾患の理学療法の実際)	松本武士																																
第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)	高山																																
第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)	高山																																
第 29・30 回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)	根地嶋																																
アクティブラーニング	グループディスカッションおよび発表																																

授業内のICT活用	webclass による相互評価, 資料の提示
評価方法	小テスト 20%, 技能総合演習 20%, 単元テスト 45%, 参加姿勢・リアクションペーパー 15%
課題に対するフィードバック	小テストの解説, リアクションペーパーのコメント
指定図書	整形外科リハビリテーション (羊土社)
参考図書	標準整形外科学 (医学書院) PT 入門 イラストでわかる運動器障害理学療法 第1版 (医歯薬出版株式会社)
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について学んでおくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	物理療法学の理論
科目責任者	金原 一宏
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	物理療法の定義、原理、種類、歴史、実施方法について調べ、収集する。
到達目標	1.各種の物理的刺激が生体に及ぼす影響を、科学的根拠に基づいた説明ができるようになる。 2..炎症や痛み等に対する物理療法が、治療技術として対象者に適応される際の目的、効果、副作用、禁忌、注意事項等を把握し、適切に物理療法手技の選択を行えることを目標とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>金原一宏 田中なつみ</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 物理療法学総論 金原一宏 田中なつみ</p> <p>第2回：温熱物理刺激（伝導熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する・ホットパックとパラフィンの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第3回：炎症・痛みに対する物理療法における生体反応について調べ知識を収集する 金原一宏 田中なつみ</p> <p>第4回：拘縮・痙性に対する物理療法における生体反応について調べ知識を収集する 金原一宏 田中なつみ</p> <p>第5回：温熱物理刺激（エネルギー変換熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第6回：極超短波と超音波の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第7回：寒冷物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第8回：寒冷療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第9回：電気物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第10回：経皮的電気刺激療法、神経筋電気刺激療法、クロナキシーの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第11回：電磁波と光線物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第12回：赤外線、紫外線、レーザー療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第13回：水治の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第14回：牽引療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p>

	<p>第 15 回：知識確認演習</p> <p style="text-align: right;">金原一宏 田中なつみ</p> <p>受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。</p>
アクティブラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションは、パソコン、プロジェクターを利用して行います。
評価方法	知識確認テスト 60%、レポート 10%、課題提出物 30%により総合的に評価する
課題に対するフィードバック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	イラストでわかる物理療法 監修者：上杉雅之 編集者：杉本雅治、菅原仁 医歯薬出版株式会社
参考図書	物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学）総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店 Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 編集：吉田英樹 メジカルビュー社
事前・事後学修	炎症・痛み・拘縮・痙性について、知識が必要であるため、事前に確認しておくこと。 事後学修は、各物理的的刺激が、どのように生体へ（炎症・痛み・拘縮・痙性など）、作用を及ぼすか確認しておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	物理療法学の実践
科目責任者	金原 一宏
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	物理療法学の理論で学んだ講義内容を学内実習にて体験する。また、各種物理的刺激が生体へ及ぼす影響について実際のデータを収集し、それぞれの科学的根拠について考察し発表する。
到達目標	上記の作業を通して、障害像にあった物理療法を選択し、さらに実践できるよう技術習得することを目的とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 金原一宏 根地鳴誠 高山真希 高橋大生 田中なつみ 安孫子幸子 第 1 回：金原、田中 コースオリエンテーション 実習前オリエンテーション 間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する。さらに間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第 2 回：金原、田中 バイオフィードバック療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 近年の物理療法について、特性と生体へ及ぼす影響、実施方法、適応、禁忌の知識を収集する</p> <p>第 3 回：金原、田中 実習 1：温熱・寒冷療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 2：電気療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする</p> <p>第 4 回：金原、田中 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 1・2）</p> <p>第 5 回：金原、田中 実習 3：牽引療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 4：マッサージを施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする</p> <p>第 6 回：金原、田中 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 3・4）</p> <p>第 7 回：金原、田中 実習 5：電磁波・光線療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 6：水治療法（全身浴・部分浴）を施行し、生体への影響を確認する共に実施方法の習得をする</p> <p>第 8 回：金原、田中 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 5・6）</p> <p>第 9、10 回：ゲスト 安孫子、金原、田中 世界の物理療法機器の最前線について（特別講義） 第 11、12 回：金原、根地鳴、高山、高橋、田中 実技総合演習</p> <p>第 13、14、15 回：金原、根地鳴、高山、高橋、田中 知識総合演習</p>

	受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。
アクティブラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。 実技総合演習では、ループリックを活用し、実技ビデオをグループで作成する。 学生同士で実技ビデオを参考に自身の実技をパソコンで分析し、実技スキル向上を図る。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーション際、パソコンを使用して行います。
評価方法	実技試験・口頭試問（50%）、小テスト（30%）、課題提出：レポート・（20%）により総合的に評価する。 実技試験は、ループリックを活用し実施する。
課題に対するフィードバック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	イラストでわかる物理療法 監修者：上杉雅之 編集者：杉本雅治、菅原仁 医歯薬出版株式会社
参考図書	物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学） 総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店 Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 編集：吉田英樹 メジカルビュー社 PT・OTのための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入 編 監修 才藤 栄一 金原出版
事前・事後学修	実習前に、各治療法を復習しておくこと。 撮影した実技ビデオを確認して実技総合演習に臨むこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	日常生活活動学の理論																														
科目責任者	矢部 広樹																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP2 専門																														
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																														
科目概要	日常生活活動(ADL)の概念を国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連, 評価方法, 支援機器など総合的に学ぶ。また, 寝返りや起き上がりなどの基本動作, 移乗・移動動作, 更衣・排泄などの身の回りの動作について分析し, 指導および介助方法の基礎を学び, 具体的な症例で目標となる日常生活活動とその援助方法の知識と技術を習得する。																														
到達目標	1. 日常生活活動の概念, 評価方法, 支援機器を説明できる 2. 日常生活活動の各動作を理解し, 説明できる 3. 症例に応じた日常生活活動を分析し, 指導および介助方法を説明できる																														
授業計画	<p><担当教員> 矢部広樹、有菌信一、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、俵 祐一、高山真希、高橋大生、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回: コースオリエンテーション 日常生活活動総論 1 日常生活活動の概念, 理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する</td> <td><担当教員名> 矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 2 回: 日常生活活動総論 2 国際生活機能分類(ICF)を学習する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 3 回: 日常生活活動評価の方法 Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 4 回: 起居移動動作 (臥位~座位) 寝返り動作, 起き上がり動作について理解し, 説明することができる</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 5 回: 起居移動動作 (座位~立位, 移乗動作) 立ち上がり動作, 車椅子への移乗動作を理解し, 説明することができる</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 6 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 1 大腿骨頸部骨折患者に対する起居移乗動作の介助方法</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 7 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 2 脳卒中片麻痺患者に対する起居移乗動作の介助方法</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 8 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 3 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 9 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 3 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 9 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 4 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法の応用を学習する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 10 回: 歩行補助具を用いた日常生活の介助方法 杖・歩行器の使用について説明することができる</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 11 回: 神経系疾患の日常生活活動 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 12 回: 運動器系疾患の日常生活活動 運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 13 回: 脊髄損傷の日常生活活動 脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 14 回、第 15 回: 客観的能力開発演習</td> <td>全員</td> </tr> </table> <p>授業は講義と演習形式のため, 動きやすい服装で出席してください。</p>	第 1 回: コースオリエンテーション 日常生活活動総論 1 日常生活活動の概念, 理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する	<担当教員名> 矢部広樹	第 2 回: 日常生活活動総論 2 国際生活機能分類(ICF)を学習する	矢部広樹	第 3 回: 日常生活活動評価の方法 Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する	矢部広樹	第 4 回: 起居移動動作 (臥位~座位) 寝返り動作, 起き上がり動作について理解し, 説明することができる	矢部広樹	第 5 回: 起居移動動作 (座位~立位, 移乗動作) 立ち上がり動作, 車椅子への移乗動作を理解し, 説明することができる	矢部広樹	第 6 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 1 大腿骨頸部骨折患者に対する起居移乗動作の介助方法	矢部広樹	第 7 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 2 脳卒中片麻痺患者に対する起居移乗動作の介助方法	矢部広樹	第 8 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 3 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法	矢部広樹	第 9 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 3 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法	矢部広樹	第 9 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 4 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法の応用を学習する	矢部広樹	第 10 回: 歩行補助具を用いた日常生活の介助方法 杖・歩行器の使用について説明することができる	矢部広樹	第 11 回: 神経系疾患の日常生活活動 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる	吉本好延	第 12 回: 運動器系疾患の日常生活活動 運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる	吉本好延	第 13 回: 脊髄損傷の日常生活活動 脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる	吉本好延	第 14 回、第 15 回: 客観的能力開発演習	全員
第 1 回: コースオリエンテーション 日常生活活動総論 1 日常生活活動の概念, 理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する	<担当教員名> 矢部広樹																														
第 2 回: 日常生活活動総論 2 国際生活機能分類(ICF)を学習する	矢部広樹																														
第 3 回: 日常生活活動評価の方法 Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する	矢部広樹																														
第 4 回: 起居移動動作 (臥位~座位) 寝返り動作, 起き上がり動作について理解し, 説明することができる	矢部広樹																														
第 5 回: 起居移動動作 (座位~立位, 移乗動作) 立ち上がり動作, 車椅子への移乗動作を理解し, 説明することができる	矢部広樹																														
第 6 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 1 大腿骨頸部骨折患者に対する起居移乗動作の介助方法	矢部広樹																														
第 7 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 2 脳卒中片麻痺患者に対する起居移乗動作の介助方法	矢部広樹																														
第 8 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 3 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法	矢部広樹																														
第 9 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 3 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法	矢部広樹																														
第 9 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 4 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法の応用を学習する	矢部広樹																														
第 10 回: 歩行補助具を用いた日常生活の介助方法 杖・歩行器の使用について説明することができる	矢部広樹																														
第 11 回: 神経系疾患の日常生活活動 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる	吉本好延																														
第 12 回: 運動器系疾患の日常生活活動 運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる	吉本好延																														
第 13 回: 脊髄損傷の日常生活活動 脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる	吉本好延																														
第 14 回、第 15 回: 客観的能力開発演習	全員																														

アクティブ ラーニング	本授業は、PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習を取り入れてアクティブラーニングを実施する
授業内の ICT活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する 動画を用いた教材を使用し、障害像の把握や理学療法評価の理解を促す
評価方法	レポート 40% OSCE 60% 演習・OSCE はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 (提示方法：WebClass に掲載および配布)
課題に対す るフィード バック	各回の授業、および事前事後学習は、次回の授業の冒頭にてフィードバックする グループ発表と実技のフィードバックは、授業内に口頭で行う
指定図書	日常生活活動学テキスト（南江堂） 金原出版、PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編 第 2 版、才藤栄一監修
参考図書	「なし」
事前・ 事後学修	・各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Web class で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください（各 30 分）。 ・1～10 回の授業では、毎回事後学習課題に対するレポートを提出すること（各 60 分）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	「なし」
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（hiroki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業 の実施につ いて	

科目名	日常生活活動学の実践																																
科目責任者	高山 真希																																
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 5 Semester																																
DP番号と科目領域	DP4専門																																
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
科目概要	疾患ごとの機能障害、活動制限の特徴を理解し、具体的な日常生活活動の評価方法と介入方法を学修する。特に本科目では、臨床場面での患者評価と指導を想定し、グループワークと演習を通して障害に対する日常生活活動の分析、指導および介助法について実践する。																																
到達目標	1. 日常生活活動の評価、指導方法を習得する。 2. 疾患および障害に対する日常生活活動の観察と動作分析に基づいた介助、指導法を習得する。 3. 日常生活活動に関する介助、指導を適切な接遇の元で実施できる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと実践するアクティブ・ラーニングについて理解する</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：シーティング -車椅子の採型、症例に合わせたシーティングを理解する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する (学外実習)</td> <td>高山真希・矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：運動器障害に対するADL指導 -関節リウマチに対するADL指導を学ぶ</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：運動器障害に対するADL指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対するADL指導を修得する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：中枢神経障害に対するADL指導 -脊髄損傷に対するADL指導を修得する</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：中枢神経障害に対するADL指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対するADL指導を修得する</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：患者の障害像とADL障害の理解 -患者の障害像とADL障害発生の関連を学修する</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第10回：患者の障害像とADL障害の評価1 -患者の障害像とADL障害の評価方法を学修する</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第11回：患者の障害像とADL障害の評価2 -実際の生活場面を想定したADL障害の評価方法を学修する</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第12回：ADL障害への介入方法 -実際の生活場面を想定したADL障害の介入方法を学修する</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第13回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第14回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第15回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する</td> <td>高山真希</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと実践するアクティブ・ラーニングについて理解する	高山真希	第 2 回：シーティング -車椅子の採型、症例に合わせたシーティングを理解する	矢部広樹	第 3 回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する (学外実習)	高山真希・矢部広樹	第 4 回：運動器障害に対するADL指導 -関節リウマチに対するADL指導を学ぶ	矢部広樹	第 5 回：運動器障害に対するADL指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対するADL指導を修得する	矢部広樹	第 6 回：中枢神経障害に対するADL指導 -脊髄損傷に対するADL指導を修得する	吉本好延	第 7 回：中枢神経障害に対するADL指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対するADL指導を修得する	吉本好延	第 8 回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する	吉本好延	第 9 回：患者の障害像とADL障害の理解 -患者の障害像とADL障害発生の関連を学修する	高山真希	第10回：患者の障害像とADL障害の評価1 -患者の障害像とADL障害の評価方法を学修する	高山真希	第11回：患者の障害像とADL障害の評価2 -実際の生活場面を想定したADL障害の評価方法を学修する	高山真希	第12回：ADL障害への介入方法 -実際の生活場面を想定したADL障害の介入方法を学修する	高山真希	第13回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	高山真希	第14回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する	高山真希	第15回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する	高山真希
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと実践するアクティブ・ラーニングについて理解する	高山真希																																
第 2 回：シーティング -車椅子の採型、症例に合わせたシーティングを理解する	矢部広樹																																
第 3 回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する (学外実習)	高山真希・矢部広樹																																
第 4 回：運動器障害に対するADL指導 -関節リウマチに対するADL指導を学ぶ	矢部広樹																																
第 5 回：運動器障害に対するADL指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対するADL指導を修得する	矢部広樹																																
第 6 回：中枢神経障害に対するADL指導 -脊髄損傷に対するADL指導を修得する	吉本好延																																
第 7 回：中枢神経障害に対するADL指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対するADL指導を修得する	吉本好延																																
第 8 回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する	吉本好延																																
第 9 回：患者の障害像とADL障害の理解 -患者の障害像とADL障害発生の関連を学修する	高山真希																																
第10回：患者の障害像とADL障害の評価1 -患者の障害像とADL障害の評価方法を学修する	高山真希																																
第11回：患者の障害像とADL障害の評価2 -実際の生活場面を想定したADL障害の評価方法を学修する	高山真希																																
第12回：ADL障害への介入方法 -実際の生活場面を想定したADL障害の介入方法を学修する	高山真希																																
第13回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	高山真希																																
第14回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する	高山真希																																
第15回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する	高山真希																																

アクティブ ラーニング	本授業は、PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習を取り入れて実施する
授業内の I CT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する
評価方法	グループ発表50%、自己学習記録・レポート50% グループ発表、レポート共にルーブリックを用いて評価します (ルーブリックの内容は授業中に提示し、WebClass に掲載および授業内で配布する)
課題に対す るフィード バック	各回の授業、および事前事後学習は、次回の授業の冒頭にてフィードバックする グループ発表と実技のフィードバックは、授業内に口頭で行う
指定図書	細田多穂監修 「日常生活活動学テキスト」 南江堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学習として、各回のテーマに関連する運動学・解剖学・生理学の知識から動作分析学、日常生活活動学、基礎理学療法学、神経系理学療法学、運動器系理学療法学、内部障害系理学療法学などで学修した内容と臨床理学療法生活支援実習で学んだ内容とを事前学修として復習してください。 事後学習として、各回の課題について学んだ内容を振り返り自己学習記録を作成し、WebClass へ提出してください。
オープン エデュケ ーション の活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業 の実施に ついて	

科目名	機能代償機器学の理論
科目責任者	高橋 大生
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	義肢装具を含めた環境や機器などの代償手段により、障害前とは異なる新たな代償機能を創造していく学問である。障害を受けた多様な身体機能について、機能代償機器（義肢・装具）を用いてどのように代償していくのかを、その構造・製作過程・使用方法を学びつつ、理学療法士の役割として求められる適合判定を中心に講義を展開していく。
到達目標	1. 障害の機能代償として使用する義肢・装具の種類、構造を理解し、説明できる。 2. 機能代償機器の適合判定（チェックアウト）について理解・説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション, 装具総論 第1章 高橋大生</p> <p>第2回：装具理解のための生態力学, 装具歩行の運動学 第2章 高橋大生</p> <p>第3回：①短下肢装具の種類, ②歩行における働き 第3章 高橋大生</p> <p>第4回：①長下肢装具の種類, ②歩行における働き 第4章 小テスト 高橋大生</p> <p>第5回：①靴型装具の種類, ②靴の補正 第5章 矢倉千昭</p> <p>第6回：下肢装具のチェックアウト 第6章 矢倉千昭</p> <p>①短下肢装具のチェックアウト, ②長下肢装具のチェックアウト</p> <p>第7回：①上肢装具の種類と適応, ②チェックアウト 第7, 8章 矢倉千昭</p> <p>第8回：①頸部体幹装具の種類と特徴, ②チェックアウト 第9, 10章 矢倉千昭</p> <p>第9回：切断, 末梢神経障害の理論 第16-18章 小テスト 高橋大生</p> <p>第10回：末梢神経障害, 切断者の評価, 断端管理 第19-21章 高橋大生</p> <p>第11回：切断者の評価総論 高橋</p> <p>第12回：義手, 義足概論 ゲスト 氷見 純・高橋</p> <p>第13回：下腿義足, 大腿義足概論 ゲスト 氷見 純・高橋</p> <p>第14回：義手, 義足の体験 ゲスト 氷見 純・高橋</p> <p>第15回：装具・切断のまとめと振り返り 確認テスト 高橋大生</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成・発表する。 ・グループワークの資料は教員がWebClassにアップし、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。 ・アクティブラーニングを通して模擬症例に対する理学療法を深く考える。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。 ・ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行います。
評価方法	小テスト30%、課題提出物40%、確認テスト30%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・理解度確認のための小テストを行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。

指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」（南江堂） 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修：「義肢装具のチェックポイント」（医学書院）
参考図書	高田治実 監修：「義肢・装具学」（羊土社） 川村次郎 編集：「義肢装具学」（医学書院） 清水順市、青木主税 監修；「リハビリテーション義肢装具学」（メジカルビュー社）
事前・事後学修	・事前学修としてグループワークで実施する課題の準備を行う。授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として振り返る。1コマあたりの事後学修時間は原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512 研究室（高橋研究室） 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール（daiki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	実施しない

指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」（南江堂） 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修：「義肢装具のチェックポイント」（医学書院）
参考図書	高田治実 監修：「義肢・装具学」（羊土社） 川村次郎 編集：「義肢装具学」（医学書院） 清水順市、青木主税 監修；「リハビリテーション義肢装具学」（メジカルビュー社）
事前・事後学修	・事前学修としてグループワークで実施する課題の準備を行う。授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として振り返る。1コマあたりの学修時間は原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512 研究室（高橋研究室） 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール（daiki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	実施しない

科目名	理学療法治療演習
科目責任者	高山 真希
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱの実習で担当した症例に関する知識の確認、および各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な評価・治療技術の確認を行い、それらを応用できるようにする。統合と解釈の演習では、症例の理解を通じて、理学療法士として基本的な評価・治療に関する総合的な能力を養い、理解していることを他者に的確に伝える技術を身につける。また、実技総合演習では、臨床現場で必要な能力(論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション力)を高め、実践可能なレベルを目指す。
到達目標	臨床理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱにおいて学修した専門的な知識・技術・態度を統合し、表現する 1 知識：標準的な理学療法対象症例の病態・障害像を統合・解釈し、説明できる 2 技術：基本的な理学療法評価・治療項目を挙げ、実施できる 3 態度：相手を尊重した言動・配慮ができる
授業計画	<p><担当教員> 高山真希, 有菌信一, 金原一宏, 矢倉千昭, 吉本好延, 俵祐一, 根地嶋誠, 矢部広樹, 高橋大生, 田中なつみ (すべての内容を全員で担当する), 演習協力者</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する 第2回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-1 第3回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-2 第4回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-3 臨床理学療法総合実習Ⅰで学んだことを症例報告・口頭試問で適切に表現することができる</p> <p>第5回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-1 第6回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-2 第7回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-3 臨床理学療法総合実習Ⅱで学んだことを症例報告・口頭試問で適切に表現することができる</p> <p>第8回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第9回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第10回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第11回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第12回 実技総合演習(OSCE) 第13回 実技総合演習(OSCE) 第14回 実技総合演習(OSCE) 第15回 実技総合演習(まとめと振り返り)</p> <p>中枢神経系・内部障害系・運動器系の理学療法に必要な臨床能力を習得する</p> <p>症例報告・口頭試問, 実技総合演習時は実習着で出席してください</p>

アクティブ ラーニング	演習科目
授業内のICT活用	ICTを活用して演習の様子を動画撮影し、確認しながらフィードバックし合う。
評価方法	実習後の知識・技術確認のため症例についての報告、口頭試問、OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)にて6割以上の成績であることが合格条件 知識確認のための症例報告・口頭試問50%、OSCE50% 計100% ルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対するフィードバック	症例報告会・口頭試問では、担当教員が報告内容に対して質問およびフィードバックする。 OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)では、終了後に教員からフィードバックを行う。 その他、試験課題の実施状況を動画撮影し、全体終了後にフィードバックする。
指定図書	神経系理学療法治療学・内部障害系理学療法治療学・運動器系理学療法治療学・日常生活活動学・機能代償機器学の指定図書 臨床理学療法評価演習の指定図書
参考図書	実習中に作成した空間概念図、資料、デイリーノート、チェックリストなど
事前・事後学修	原則40分を目安に学修する。 事前学修として、総合実習で経験した評価・治療技術について実技演習で解説・指導できるようにまとめる。 事後学修として、フィードバックを受けた内容についてまとめて整理し、技術を高める。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	

科目名	理学療法学総合演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP (6) 保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	理学療法士国家試験レベルの演習を通して、理学療法士に必要な知識を統合するとともに、臨床的な視点による問題解決能力を身につけることで、これまで学習してきた理学療法学を包括的にまとめる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士国家試験レベルの理学療法学の知識を修得することができる。 2. 理学療法士に必要な知識を統合することができる。 3. 臨床的な視点によって問題解決することができる。
授業計画	<p><担当教員名> (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>吉本好延、有菌信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一、高山真希、矢部広樹、高橋大生、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション - シラバス確認・スケジュールの説明 吉本</p> <p>第2回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 根地嶋</p> <p>第3回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 高山</p> <p>第4回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 吉本</p> <p>第5回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) GW 吉本</p> <p>第6回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 有菌</p> <p>第7回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 高山</p> <p>第8回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 矢倉</p> <p>第9回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) GW 吉本</p> <p>第10回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 矢部</p> <p>第11回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 俵</p> <p>第12回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 高橋</p> <p>第13回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 根地嶋</p> <p>第14回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 金原</p> <p>第15回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 金原</p> <p>1. 知識確認試験の目標点数 (2-4 回) (6 割 : 60 点/100 点)</p> <p>2. 知識確認試験の目標点数 (6-8 回) (6 割 : 60 点/100 点)</p> <p>3. 知識確認試験の目標点数 (10-15 回) (6 割 : 120 点/200 点)</p> <p>【内容】</p> <p>・累積合計点数が 240 点以上で合格とする。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・累積合計点数とする理由は、試験後の点数を踏まえて、今後の学修プラン（目標点数とスケジュールなど）を自身（他のゼミ生・担当教員）で再計画することを目的とするためである。
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・知識到達度確認試験は最終的な目標点数が示されており、目標点数を到達できるように学生は自身の学修プランを教員と共同で計画する
授業内のICT活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・リハドリル
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミグループ活動の取り組み状況：5% ・知識到達度確認試験：95%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・各時期の獲得点数から現在の学修状況と今後の学修プランを確認し、プランの妥当性やプランの実行可能性についてフィードバックを行う。
指定図書	『国試の達人 運動解剖生理学編』 IPEC、 『国試の達人 臨床医学編』 IPEC 『国試の達人 理学療法編』 IPEC
参考図書	
事前・事後学修	計画的にグループ学習を進めてください。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の知識を、確認しながら深めていきます。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	臨床理学療法見学実習
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	1単位(45時間) 理学必修 1 Semester
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目では、臨床現場の見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割について学ぶ。また、見学から社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病や対象の症状を理解し、多職種連携を体験する。
到達目標	見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割を理解する。また、社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病を罹患する対象の症状を理解して、今後の講義へ意欲を高める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学実習は初めての病院や施設での学びとなります。2年生からの臨床実習にもつながります。臨床実習指導者をはじめとするリハビリテーションスタッフ、医師、看護師などのスタッフが勤務している病院や姿勢の実習に必要なマナー、コミュニケーションを学ぶ準備学修を行います。 ・見学実習に向けた準備学修は、春Semesterに行います。2コマ5回の授業を計画しています。 ・事前学修はグループワークを行い、見学実習マナー・コミュニケーションマニュアルを作成し、身だしなみ、態度、言葉遣いを確認します。 ・定期試験後の見学実習前オリエンテーションで身だしなみのチェックを再度行います。 ・実習期間は9月中旬に実施予定で、2日で1施設を見学します。 ・実習配置は、後日連絡します。 ・見学実習では、複数の学生に対して実習指導者が説明を行います。 <p><見学実習スケジュール></p> <p>第1回(2コマ): 見学実習の内容と見学実習マナー・コミュニケーションマニュアル、感染予防マニュアルの作成の説明、グループワークの準備</p> <p>第2回(2コマ): グループワーク(マニュアル作成)</p> <p>第3回(2コマ): グループワーク(マニュアル完成)</p> <p>第4回(2コマ): グループワーク(寸劇による発表準備)</p> <p>第5回(2コマ): グループワーク(寸劇による発表)</p> <p>実習前オリエンテーション(定期試験終了後): オリエンテーション、身だしなみチェック</p> <p>見学実習(2日間): 1グループ1施設</p> <p>見学実習後午前: 見学実習のまとめ</p> <p>見学実習後午後: 報告会</p> <p>【学内実習について】</p> <p>状況により、遠隔授業による学内実習を実施する場合は、下記の予定で実施する</p> <p><学内実習スケジュール></p> <p>第1回(2コマ): 見学実習の内容と見学実習マナー・コミュニケーションマニュアル、感染予防マニュアルの作成の説明、グループワークの準備</p> <p>第2回(2コマ): グループワーク(マニュアル作成)</p> <p>第3回(2コマ): グループワーク(マニュアル完成)</p> <p>第4回(2コマ): グループワーク(寸劇による発表準備)</p> <p>第5回(2コマ): グループワーク(寸劇による発表)</p> <p>実習前オリエンテーション(定期試験終了後): オリエンテーション、身だしなみチェック</p> <p>学内実習(2日間): グループで見学実習する予定だった病院・施設の役割、行われているリハビリテーションについて調べる。</p>

	見学実習後午前：調べたことをまとめ、発表準備 見学実習後午後：報告会
アクティブラーニング	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝え、学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションの際、パソコンを使用して行います。
評価方法	実習状況 50%、レポートの作成・提出 30%、 報告会 20%
課題に対するフィードバック	各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝えます。課題について、グループで話し合ってください。欠席することの無いように体調管理をしてください。また、臨床の現場では、迅速に行動し、時間厳守を徹底してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	

科目名	地域理学療法学の理論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	地域で生活する対象者（障害者・高齢者）に対する理学療法に関わる項目（関連制度・法規、対象疾患、生活環境、予防、地域包括ケア）について学修する。地域リハビリテーション・地域理学療法概念、歴史、現状、課題を理解するとともに、理学療法士の役割や関連職種との連携・協働について学び、地域社会に求められる理学療法について考える。
到達目標	1. 地域リハビリテーション・地域理学療法に関連する項目について理解し、説明できる 2. 地域理学療法の実践現場や対象者の特徴を理解し、現状や課題について説明できる 3. 地域社会に求められる理学療法・理学療法士を自身の将来像と重ね合わせて説明できる
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備 矢倉千昭 ・シラバスから学修内容を理解する</p> <p>第2回：地域リハビリテーション学・地域理学療法学を考える[講義] 矢倉千昭</p> <p>※第3回～第14回までの授業は、GW 発表資料は授業前に作成しておき、授業ではGW 発表がすぐできるようにしておくことが望ましい。</p> <p>第3回：地域リハビリテーションの対象と理学療法士の役割[GW 発表] 矢倉千昭 第4回：地域リハビリテーションの対象と理学療法士の役割[解説・質疑] 矢倉千昭 目標：理学療法士が働く職場、対象者と家族、周りの活用できる社会資源について説明できるようになる。</p> <p>・GW 課題：1 課題3 グループ</p> <p>①対象者と家族・介護者、社会資源について説明する。 ②地域理学療法を実践する職場と業務内容について説明する。 ③CBR マトリックスとエンパワーメントについて説明する。</p> <p>第5回：地域リハビリテーションにおける制度[GW 発表] 矢倉千昭 第6回：地域リハビリテーションにおける制度[解説・質疑・知識確認試験] 矢倉千昭 目標：地域リハビリテーションの保険、支援制度について説明できるようになる。</p> <p>・GW 課題：1 課題3 グループ</p> <p>①医療保険と介護保険について説明する。 ②障害者総合支援法について説明する。 ③地域包括ケアシステムについて説明する。</p> <p>・知識確認試験</p> <p>第7回：地域リハビリテーションにおける職種間連携[GW 発表] 矢倉千昭 第8回：浜松市における地域包括ケアシステムの事業 [解説・質疑] 鈴木勝己、矢倉千昭 目標：地域リハビリテーションに関わる職種と役割について説明できるようになる。</p> <p>・GW 課題：1 課題3 グループ</p> <p>①地域リハビリテーション活動支援事業について説明する。 ②地域における施設間連携について説明する。 ③地域ケア会議について説明する。</p> <p>第9回：地域理学療法の実際を学ぶ[GW 発表] 矢倉千昭</p>

	<p>第10回：地域理学療法の実際を学ぶ[解説・質疑・知識確認試験] 矢倉千昭 目標：地域における理学療法アプローチについて説明できるようになる。 ・GW 課題：1 課題3 グループ ①小児期の地域理学療法についてアプローチの考え方を述べる[症例検討] ②成人期の地域理学療法についてアプローチの考え方を述べる[症例検討] ③高齢期の地域理学療法についてアプローチの考え方を述べる[症例検討] ・知識確認試験</p> <p>第11回：地域リハビリテーションの実際 ゲストスピーカー</p> <p>※生活環境支援について学修する。</p> <p>第12回：生活環境概論（生活環境改善の手法，福祉用具） 高山真希 第13回：生活環境概論（生活環境改善の手法，福祉用具） 高山真希 第14回：地域リハビリテーションの実際（障害別，障害者スポーツ） 高山真希 第15回：地域リハビリテーションの実際（障害別，障害者スポーツ） 高山真希</p>
アクティブラーニング	<p>○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク課題の作成とグループ発表を通じ、地域リハビリテーションを理解する。 ・グループ発表資料をWebClassにアップし、PCで資料を見ながら授業に参加する。 ・グループ発表後、質疑応答を行い、教員が補足説明、文献等を提示し、知識の定着と理解を深める。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClassにプレゼンテーション用のパワーポイントをアップし、グループで発表を行う。 ・グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。 ・教員との質疑応答や教員からの文献紹介はWebClassの掲示板で知らせる。 ・定期的にWebClassのテストを実施し、学修の到達度を確認する。
評価方法	知識確認試験 40%，グループワーク資料・発表（質問） 45%，参加・態度 15%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて発表の途中で補足、終了後に総括を行う。 ・WebClassのアンケートの質問を確認し、WebClassの掲示板または次回の授業で回答する。
指定図書	細田多穂（監）「地域リハビリテーション学テキスト」（南江堂）改訂第3版
参考図書	重森健太（編）「地域理学療法学」（羊土社）
事前・事後学修	<p>事前学修として、個人課題、グループワーク資料作成を行う（各回=60分）。</p> <p>事後学修として、授業の振り返りとまとめを行う（各回=20分）。</p>
オープンエデュケーションの活用	Webでアップされている地域リハビリテーションに関する動画を紹介する。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点から教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	地域理学療法学の実践
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	1単位(30時間) 理学必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	地域で生活する高齢者、障害者、子ども、労働者に対し、社会参加、介護予防、疾病・障害予防に関する実際の地域支援活動を体験する。また、地域包括支援センターの地域課題について検討することで、地域包括ケアシステムの実践を学ぶ。この科目を学ぶことで、地域マネジメントのノウハウを経験するとともに、理学療法士の知識と技術を用いた地域における社会貢献の実践力を高める。
到達目標	1. 地域包括ケアシステムの活動と地域包括支援センターの役割を理解することができる。 2. 介護予防事業、学校保健安全法や労働安全衛生法に基づく予防法を立案することができる。 3. 課題に対して主体的に行動し、的確な評価分析、解決策を立案、提言することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員></p> <p>第1回：オリエンテーション 矢倉千昭・根地嶋誠・高山真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題、介護予防、運動器検診、産学連携事業の課題を提示する ・グループワークの実施方法の説明する ・地域課題の解決策、介護予防、運動器検診、産学連携事業の報告の方法を説明する <p><地域包括ケアシステムの実践を学ぶ></p> <p>第2・3回：地域包括支援センターの地域課題の検討 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク：地域包括支援センターの地域課題の解決策をまとめる <p>第4・5回：地域包括支援センターの地域課題の検討・報告準備 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク：地域包括支援センターの地域課題の解決策をまとめ、地域包括支援センターに対する報告の準備をする <p>第6・7回：地域包括支援センターの課題検討 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターに対する地域課題の解決策の提案とディスカッションを行う ・授業での情報共有：地域包括支援センターの地域改題に関する報告会を行い、実践的な地域包括ケアシステムについて情報共有する <p><予防理学療法と産業理学療法の実践を学ぶ></p> <p>第8・9回：介護予防、運動器検診、産学連携事業の実践 矢倉・根地嶋・高山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防、産学連携事業、運動器検診の準備を行う <p>第10・11回：介護予防、運動器検診、産学連携事業の実践 矢倉・根地嶋・高山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防、産学連携事業、運動器検診の実践を行う <p>第12・13回：介護予防、運動器検診、産学連携事業の実践 矢倉・根地嶋・高山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防、産学連携事業、運動器検診の活動報告をまとめる <p>第14・15回：介護予防、運動器検診、産学連携事業の実践 矢倉・根地嶋・高山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の施設に対する介護予防、産学連携事業、運動器検診の活動報告を行う ・授業での情報共有：介護予防、産学連携事業、運動器検診についての報告会を行い、地域における理学療法士の社会貢献について情報共有する。 <p>各回で担当グループを決め、学内と地域施設(学外)において学修する。 フィールドワークで活動するときには、動きやすい服装(ポロシャツなど)で出席する。</p>

アクティブ ラーニング	○課題解決型学習、○グループワーク、○ディスカッション、○プレゼンテーション 地域理学療法学の理論で学んだことを活かし、授業で検討した課題と解決策、予防理学療法、産業理学療法の実際を主体的に学修する。 地域課題の報告、対象となる施設に対する活動、報告を行うため、プレゼンテーション資料の作成を行う。
授業内のICT活用	WebClassを用いて地域包括支援センターの地域課題の解決策、介護予防、運動器検診、産学連携事業の活動報告をまとめ、地域理学療法学の実践方法を共有する。 事後学修として、個々の活動内容およびフィードバックを受けた内容をまとめ、eポートフォリオに提出する。
評価方法	グループワークで作成・報告した資料40%、プレゼンテーション・ディスカッション40% 参加・態度20% 計100%
課題に対するフィードバック	立案した内容を学生および担当教員間で検討し、フィードバックし合う。 対象者(施設利用者)や施設職員に実施または提案したあと、フィードバックを受ける。 報告会にて学生間のディスカッション、教員による総括においてフィードバックする。
指定図書	※地域理学療法学の理論指定図書
参考図書	重森健太編集、「PT・OTビジュアルテキスト地域リハビリテーション学 第2版」 羊土社 参考図書や文献は授業内で紹介する。
事前・事後学修	事前学修として、グループワーク資料作成、報告準備、実践準備などを行う(各回=60分)。 事後学修として、個々の活動内容およびフィードバックを受けた内容をまとめる(各回=20分)。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目(11時55分～13時15分) 場所：3504研究室(矢倉研究室) 上記以外でもメール(chiaki-y@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	

科目名	臨床理学療法検査測定実習
科目責任者	田中 なつみ
単位数他	1 単位 (45 時間) 理学必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	理学療法診断技術学，理学療法検査測定演習にて学んだ理学療法評価の基本技術を，実際に病院・施設に行き，対象者に対し実践する．臨床現場において検査測定を体験することで，学内授業との統合を図り，臨床技能の向上を目指します． この科目では，実習施設の配置によって，通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われます．通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は，全ての臨床実習を通して1単位分実施されます
到達目標	基本的な検査測定（ROMT, MMT, 感覚検査, 深部腱反射検査, 病的反射など）を指導，監視のもと実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 田中 なつみ, 有蘭 信一, 金原 一宏, 矢倉 千昭, 吉本 好延, 俵 祐一, 根地鳴 誠, 矢部 広樹, 高橋 大生, 高山 真希 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下の内容をふまえ実習を実施する。 情意 (態度) 1) 礼儀正しい挨拶をする 2) 丁寧な言葉遣い, 適切な敬語を使う 3) 対象者に合わせた目線, 姿勢をとる 4) 対象者へ自ら話しかけ会話をする 認知 (知識) 1) 実施内容の説明と同意の方法を理解する 2) 検査測定のオリエンテーションを理解する 3) 検査測定の方法を理解する 運動技能 (技術) 1) 実施内容を説明し同意を得る 2) 検査測定のオリエンテーションを行う 3) 検査測定を正確に実施し, 信頼性の向上につとめる</p> <p>以下【学内実習について】 社会情勢を踏まえて, 同時双方向型遠隔実習または学内実習の方法にて実施する。 課題の提示, 課題の提出は全て WebClass を用いて行う。また, 教員のフィードバック及び指導は同時双方向型で行うか, WebClass 内でコメント・評価を行う。</p> <p>第1回: 臨床理学療法検査測定実習概論 —本実習の到達目標と課題提出物, 成績評価について共有を行う。また全体スケジュールを提示し, どのような能力を積み上げていくかを理解する。 第2回: 疾患毎に提示された症例に対する問題点の把握と理学療法評価の抽出を行う 第3回, 4回: 症例の概念図を作成する 第5回: 提示された症例に対する臨床場面を想定した OSCE を実施する</p> <p><全体の予定> ・毎朝 8:50 に朝礼を行う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中（9:00～11:45）は指定された個人課題を実施する. ・午後（13:00～17:00）は指定されたグループ課題を実施する. <p><授業内容・テーマ等> 以下の内容をふまえ学内実習を実施する.</p> <p>情意（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 礼儀正しい挨拶をする 2) 丁寧な言葉遣い，適切な敬語を使う 3) 模擬患者に合わせた目線，姿勢をとる 4) 模擬患者へ自ら話しかけ会話をする <p>認知（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施内容の説明と同意の方法を理解する 2) 検査測定のアリエンテーションを理解する 3) 検査測定の方法を理解する <p>運動技能（技術）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施内容を説明し同意を得る 2) 検査測定のアリエンテーションを行う 3) 検査測定を正確に実施し，信頼性の向上につとめる <p><課題提出物></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席管理—WebClass ・デイリーノート—実習の振り返りを WebClass へ提出 ・個人・グループ課題（空間概念図，実技動画） ・到達度チェックリスト ・健康観察表への登録—WebClass <p><学内課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告会 ・口頭試問
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2：1 実習による学生間で課題解決を図る
授業内の ICT活用	WebClass による学修成果物の管理・評価
評価方法	課題提出物（デイリーノート，空間概念図，動画資料）50%，報告会 30%，口頭試問 20%
課題に対する フィード バック	課題提出物と，口頭試問のフィードバックは，口頭試問実施後に担当教員から行います.
指定図書	臨床実習の手引き（実習前に必ず確認をして下さい）
参考図書	なし

事前・ 事後学修	原則1日あたり1時間を目安に事前・事後学修を行う。 事前学修として、代表的な疾患の理学療法評価を整理して下さい。 事後学修として、実習指導者、担当教員からの指導をまとめ、ファイル等に一元管理して下さい。必ず振り返りを行って下さい。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施につ いて	

科目名	臨床理学療法生活支援実習
科目責任者	高山 真希
単位数他	1 単位 (45 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床場面において理学療法の対象者に行う日常生活動作(寝返り、起き上がり、立ち座りおよび移乗、歩行、その他 ADL 動作全般)の介助技術を実習指導者の指導監視のもと、模倣することである。動作分析学、日常生活活動学、基礎理学療法学、神経系理学療法学、運動器系理学療法学、内部障害系理学療法学などで学修した内容と臨床現場で学んだ内容との統合を図る。
到達目標	理学療法の対象者に対して、日常生活動作(寝返り、起き上がり、立ち座りおよび移乗、歩行、その他 ADL 動作全般)の介助を実習指導者の指導監視のもと模倣できる。
授業計画	<p><担当教員> 高山真希, 有薗信一, 金原一宏, 矢倉千昭, 吉本好延, 俵祐一, 根地嶋誠, 矢部広樹, 高橋大生, 田中なつみ (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> 5 日間の臨床実習で下記の内容を実施する</p> <p>①情報収集および起居移乗動作の介助技術の習得 必要となる情報収集と適切な起居移乗動作を選択できる。 また、起居移乗動作の介助を実施するにあたって、その方法の利点や欠点を理解し、介助技術の向上に努める。</p> <p>②リスク管理 起居移乗動作の介助を実施するにあたって、対象者のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。 また、動作を観察・分析し、介助が必要となる要因を挙げられる。</p> <p>③対象者への説明 実施する起居移乗動作に関して、対象者へ適切に説明できる。</p> <p>学内実習に切り替わった場合は、学外実習で不足した日程を下記の通り実施する。</p> <p>①模擬患者を通した情報収集、および模擬患者への起居移乗動作の介助技術の習得 必要となる情報収集と適切な起居移乗動作を模擬患者から選択できる。 また、起居移乗動作の介助を実施するにあたって、その方法の利点や欠点を理解し、介助技術の向上に努める。</p> <p>②リスク管理 起居移乗動作の介助を実施するにあたって、模擬患者のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。 また、動作を観察・分析し、介助が必要となる要因を挙げられる。</p> <p>③対象者への説明 実施する起居移乗動作に関して、模擬患者へ適切に説明できる。</p> <p>この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われます。 通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して 1 単位分実施されます。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目 クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態
授業内の ICT活用	なし
評価方法	課題提出物(デイリーノート, 実施記録, 実習報告書)60%, 口頭試問 40% 口頭試問は, ルーブリックを用いて評価する
課題に対する フィード バック	実習は診療参加型実習 (クリニカルクラークシップ) および2:1の形態を基本とし, 実習指導者からその場でフィードバックを受ける. また, 学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで, 理解を深める. 口頭試問では, 担当教員が実施後にフィードバックする.
指定図書	臨床理学療法実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	原則1日あたり1時間を目安に学修する 事前学修として, 臨床理学療法実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください. 事後学修として, 実習指導者や担当教員から指導を受けたことをデイリーノートにまとめ, 次の実習までに復習しておいてください.
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3510 研究室 時間については, 事前説明時に提示します. 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施に ついて	

科目名	臨床理学療法評価実習 I
科目責任者	吉本 好延
単位数他	2 単位 (90 時間) 理学必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	本科目では、学外実習において、対象患者に理学療法に必要な情報収集、検査・測定を計画し、学外実習で得た情報を統合して問題点の抽出を行うことで、患者の障害の状態を的確に把握する。
到達目標	理学療法の対象に対する理学療法評価において、一部の検査測定および臨床推論を指導者監視の下、見学・模倣できる。
授業計画	<p><担当教員名> 吉本好延、有蘭信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、高橋大生、田中なつみ（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①情報収集および検査・測定技術の習得 必要となる情報収集と適切な検査・測定項目を選択できる。また検査・測定の実施にあたってその意義と方法を理解し、客観的で信頼性のある検査・測定技術の向上に努める。</p> <p>②リスク管理 実習の遂行にあたって、患者（施設利用者）のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。また、二次性障害（廃用症候群）の可能性と要因を挙げられる。</p> <p>③患者（施設利用者）への説明 実施する検査・測定に関して、患者（施設利用者）に対して適切に説明できる。</p> <p>④問題点の抽出 2001 年に WHO により提唱された国際生活機能分類（ICF；心身機能・身体構造、活動、参加）に基づき、問題点の抽出を行う。さらに、問題点相互の関連性を説明できる。</p> <p>⑤担当症例の空間概念図の作成 空間概念図を作成し、その発表ができる。</p> <p>*この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われます。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して 1 単位分実施されます。</p> <p style="text-align: center;">学内実習（COVID19 のため学外実習が困難な場合の措置）</p> <p>方法：原則的には遠隔授業形式で実施する。 事前学修・事後学修課題：webclass（ポートフォリオ）に提出する。 教員フィードバック：随時 模擬患者：実際に教員が診療していた患者を症例として情報提供・再現することで、学外実習を意識した学内実習を行う。</p> <p>第 1 回：臨床実習の概要 到達目標・行動目標の確認、クリニカル・クラークシップの理論と実践を説明し、本実習科目でどのような能力の獲得が必要なのかを理解する。</p> <p style="text-align: center;">第一部：模擬患者①</p>

第2回：模擬患者を用いた臨床推論の実践①

診療録・担当理学療法士からの初期情報をもとに、対象患者に必要と推察される理学療法評価を網羅的に立案し、なぜ選択した理学療法評価が必要なのか意義・方法を説明する。

第3回：模擬患者を用いた臨床推論の実践①

担当理学療法士や他部署から得られた追加情報をもとに、対象患者が最優先に改善すべき問題点は何かを根拠を含めて説明する。また、事前学修およびグループワークで選択した理学療法評価を実施する前に、担当理学療法士に口頭で確認を行い、どのような理学療法評価を行なうのかを、担当理学療法士と共同で選択する。初期情報・追加情報から考えられるリスク管理についても、担当理学療法士と情報共有を行う。

第4回：模擬患者に理学療法評価を実施①

前回立案した理学療法評価を、模擬患者に実施する。模擬患者と担当理学療法士は大学教員が実施する。問診・検査測定のアオリエンテーションは学生が行い、選択した理学療法評価は担当理学療法士が中心に行う。学生は観察者として、患者はもちろんのこと、担当理学療法士の評価およびリスク管理の方法についても注意を払う。理学療法評価結果をもとに問題点を明らかにする。

第5回：空間概念図の作成①

模擬患者の空間概念図を作成し、各自担当した模擬患者の障害像を整理する。空間概念図の説明を、担当理学療法士に口頭で行う。

第二部：模擬患者②

第6回：模擬患者を用いた臨床推論の実践②

診療録・担当理学療法士からの初期情報をもとに、対象患者に必要と推察される理学療法評価を網羅的に立案し、なぜ選択した理学療法評価が必要なのか意義・方法を説明する。

第7回：模擬患者を用いた臨床推論の実践②

担当理学療法士や他部署から得られた追加情報をもとに、対象患者が最優先に改善すべき問題点は何かを根拠を含めて説明する。また、事前学修およびグループワークで選択した理学療法評価を実施する前に、担当理学療法士に口頭で確認を行い、どのような理学療法評価を行なうのかを、担当理学療法士と共同で選択する。初期情報・追加情報から考えられるリスク管理についても、担当理学療法士と情報共有を行う。

第8回：模擬患者に理学療法評価を実施②

前回立案した理学療法評価を、模擬患者に実施する。模擬患者と担当理学療法士は大学教員が実施する。問診・検査測定のアオリエンテーションは学生が行い、選択した理学療法評価は担当理学療法士が中心に行う。学生は観察者として、患者はもちろんのこと、担当理学療法士の評価およびリスク管理の方法についても注意を払う。理学療法評価結果をもとに問題点を明らかにする。

第9回：空間概念図の作成②

模擬患者の空間概念図を作成し、各自担当した模擬患者の障害像を整理する。空間概念図の説明を、担当理学療法士に口頭で行う。

第三部：模擬患者③

第10回：模擬患者を用いた臨床推論の実践③

診療録・担当理学療法士からの初期情報をもとに、対象患者に必要と推察される理学療法評価を網羅的に立案し、なぜ選択した理学療法評価が必要なのか意義・方法を説明する。

	<p>第 11 回：模擬患者を用いた臨床推論の実践③ 担当理学療法士や他部署から得られた追加情報をもとに、対象患者が最優先に改善すべき問題点は何かを根拠を含めて説明する。また、事前学修およびグループワークで選択した理学療法評価を実施する前に、担当理学療法士に口頭で確認を行い、どのような理学療法評価を行なうのかを、担当理学療法士と共同で選択する。初期情報・追加情報から考えられるリスク管理についても、担当理学療法士と情報共有を行う。</p> <p>第 12 回：模擬患者に理学療法評価を実施③ 前回立案した理学療法評価を、模擬患者に実施する。模擬患者と担当理学療法士は大学教員が実施する。問診・検査測定のアオリエンテーションは学生が行い、選択した理学療法評価は担当理学療法士が中心に行う。学生は観察者として、患者はもちろんのこと、担当理学療法士の評価およびリスク管理の方法についても注意を払う。理学療法評価結果をもとに問題点を明らかにする。</p> <p>第 13 回：空間概念図の作成③ 模擬患者の空間概念図を作成し、各自担当した模擬患者の障害像を整理する。空間概念図の説明を、担当理学療法士に口頭で行う。</p> <p style="text-align: center;">第四部：報告会</p> <p>第 14 回：報告会（学生発表） 模擬患者①～③より患者を選択し、報告会で発表を行い、口頭試問を受ける。</p> <p>第 15 回：報告会（教員発表） 模擬患者①～③より患者を選択し、報告会で発表を行い、口頭試問を受ける。</p>
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリニカル・クラークシップによる診療参加型の実習形態 ・ 2：1 実習による学生間で課題解決を図る
授業内の ICT 活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・COVID19 の対応のため ZOOM 併用
評価方法	課題提出物：20% 口頭試問：40% 報告会：40%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前後にタイムラインを用いて教員が随時補足していく
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『PT・OT のための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各セッションの課題について事前学習を行う。 ・ 授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし

オフィス アワー	3509 教室、毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施に ついて	

科目名	臨床理学療法評価実習Ⅱ
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	4単位 (180時間) 理学必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法評価全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価（検査測定結果から統合と解釈を行い、適切な問題点の抽出およびゴール設定）を実習指導者の指導監視のもと協同参加・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 根地嶋誠、有藪信一、矢倉千昭、吉本好延、金原一宏、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、高橋大生、田中なつみ（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①診療の一部として指導監視のもと、理学療法評価を行い、統合と解釈により適切な問題点の抽出およびゴール設定を実施する。</p> <p>②技術習得過程は、見学にて説明および実際の方法を指導され、一部の検査測定を協同参加・実施する、見学～協同参加・実施レベルとする。</p> <p>③デイリーノート（体験したこと、技術的な覚え書きなど）を作成する。</p> <p>④チェックリスト（何をどれだけおこなったか）を作成する。</p> <p>⑤担当症例の空間概念図を作成し、指導者とディスカッションができる。</p> <p>この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習を実施する。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して1単位分実施する。</p> <p>【 学内実習について 】 状況により遠隔授業を実施する場合は、学内実習を下記の内容で実施する。</p> <p>方法：原則的には遠隔授業形式で実施する。 状況を踏まえ、一部学内での評価技術の実習を検討する。</p> <p>事前学修・事後学修課題：症例報告に関するポートフォリオ・実習資料集の作成、デイリーノート、各課題、症例報告の空間概念図をWebclassに提出する。</p> <p>教員フィードバック：講義内、Webclass、学内実技</p> <p>模擬患者：実際に教員が診療していた患者や臨床での症例を提示し、情報提供・再現することで、学外実習を意識した学内実習を行う。</p>

	<p>第1回：臨床理学療法総合実習の概要 到達目標・行動目標の確認、クリニカルクラークシップの理論と実践を説明し、本実習科目でどのような能力の獲得が必要なのかを理解する。</p> <p>第2回以降：模擬患者を用いた臨床推論の実践 4週間の評価実習のため、8：30より出席確認および朝礼を行う。 午前（8：30～12：00）は、模擬患者の評価に必要な知識習得を図る。 午後（13：00～17：30）は、模擬患者の症例報告に関する空間概念図作成のためのグループワークや指導者の講義による患者評価および結果の統合と解釈、問題点の抽出、ゴール設定などを行い、知識と技術の習得を図る。 17：30以降は、1日の実習を振り返り、デイリーノートを作成する。内容は、1日の実施した内容の報告、本日の学びのまとめ、自身で学んだ学習内容を記載する。</p> <p>上記の詳細については、学内実習の際、随時連絡をする。</p> <p>課題提出物 1) 出席表（Webclassにて実施。朝礼8：30、終礼17：30に出席確認を行う。） 2) デイリーノート（Webclassにて実施） 3) チェックリスト（各自記載する） 4) 臨床理学療法評価実習Ⅱ報告書（空間概念図 各自作成し提出） 5) 体調管理（Webclassにて実施）</p> <p>学内課題 1) 報告会 2) 口頭試問 3) OSCE（学内実習の場合）</p> <p>評価 症例に対する理学療法評価内容（検査測定結果からの統合と解釈、適切な問題点の抽出およびゴール設定）の評価は、実習後報告会と口頭試問で実施する。 実践的な評価技術（検査・測定技術）および臨床推論（思考過程）の評価は、OSCEで実施する。</p>
アクティブ ラーニング	<p>実習科目 ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2：1実習による学生間で課題解決を図る</p>
授業内のICT活用	<p>PCを用いて課題（空間概念図、資料作成、デイリーノート）に取り組む。</p>
評価方法	<p>課題提出物(デイリーノート、実習報告書など)50%、報告会25%、口頭試問25% 計100% 報告会・口頭試問はルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業で提示する。</p>
課題に対するフィードバック	<p>臨床現場では、クリニカルクラークシップによる診療参加型および2：1の実習形態を基本とし、実習指導者からその場でフィードバックを受ける。 また、学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで、理解を深める。 担当教員との症例報告会・口頭試問では、報告内容に対して質疑応答を行い、その内容を踏まえてフィードバックする。</p>
指定図書	<p>神経系理学療法治療学・内部障害系理学療法治療学・運動器系理学療法治療学・日常生活活動学・機能代償機器学の指定図書 臨床理学療法評価実習Ⅰ指定図書</p>

参考図書	臨床実習ガイドブック
事前・事後学修	<p>実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。</p> <p>原則40分を目安に学修する。</p> <p>事前学修として、症例の病態などの知識や評価・治療技術について調べ、考察をまとめる。</p> <p>事後学修として、フィードバックを受けた内容について確認し、整理をしてまとめる。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3505研究室</p> <p>時間については、初回授業時に提示します。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対面授業の実施について	

科目名	臨床理学療法総合実習技能評価
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位 (45 時間) 理学必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	PR18-D5-3-専門-2
科目の位置付	DP(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	対象者の状態をリハビリテーションの評価により理解し、根拠に基づく基本的なリハビリテーション技術を適切に選択ができるようにする。理学療法における臨床推論を実践的に学習し、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得する。
到達目標	1. 担当患者の問題点をあげ、問題点と考えられる理由を、根拠をもって示すことができる。 2. 考えられる問題点を改善させるために有効な理学療法治療を、根拠をもって示すことができる。
授業計画	<p><担当教員> 吉本好延、有菌信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵 祐一、高山真希、矢部広樹、高橋大生、田中なつみ</p> <p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 担当患者の臨床推論</p> <p>■ 主要な問題点を明らかにする 吉本好延</p> <p>到達目標：担当患者の主要な問題点は何かを、根拠をもって示すことができる</p> <p>事前課題①：担当患者を対象に、最も重要な問題点を一つ選択せよ。次に、その問題点が最も重要と考えた理由はなぜか記載せよ。ただし、最も重要と考えた理由を支持する根拠資料を示せ（1つ以上）。</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 批判的思考を学習・実践する ・ 主要な問題点以外の問題点が、選択されなかった理由はなぜか？ <p>（主要な問題点以外の問題点を 1 つ以上選択し、なぜその問題点を最優先に改善すべき問題点と考えなかったのか。根拠を示して説明する）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症例報告の準備：報告会の発表資料（概念図）を準備する。担当患者の主要な問題点・上記で選択した主要な問題点以外の問題点・主要な問題点を選択した根拠と根拠資料をまとめ、5 分程度で要点が他者に伝わるような発表資料を作成する。 ・ 1 グループ 2 名で発表、質疑応答 ・ 質疑応答：発表者の主張は、主観的な（感情的な）意見ではなく、論理性があり、納得できる主張かどうかを意識して聴講する。 ・ 振り返り：他者の意見を聞いて自身の主張を修正・補足する必要があるかどうか検討する。 ・ 再度別グループで同様の手順を実施する。 <p>■ 主要な問題点が生じた原因と、主要な問題点によって生じる（生じた）と考えられる転帰を明らかにする 吉本好延</p> <p>到達目標：実習で担当した患者の主要な問題点が生じた原因と、主要な問題点によって生じる（生じた）と考えられる転帰を、根拠をもって示すことができる。</p> <p>事前課題：選択した主要な問題点について、問題点が生じた原因と、主要な問題点によって生じる（生じた）と考えられる転帰を記載せよ。</p> <p>内容：</p> <p>選択した文献を目の前の患者に適応する場合の注意点、英文検索の方法の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した文献が目前の患者に適応できるかどうかを改めて再検討し、必要であれば問題点・アプローチの修正を行う。 ・ 問題点を改善させるためのアプローチは、具体的な運動内容・強度・時間・頻度（○回/日、○カ月）、その他配慮が必要なこと、を明確にする。 <p>授業内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 因果関係を学習・実践する

	<ul style="list-style-type: none"> ・原因と考えられた項目にぬかりはないか？ ・原因と考えられた項目の根拠は示されているか（臨床研究・メカニズム・エキスパートコンセンサス） ・転帰も原因と同様 ・症例報告の準備：報告会の発表資料（概念図）を準備する。根拠資料をまとめ、5分程度で要点が他者に伝わるような発表資料を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2名で発表、質疑応答 ・質疑応答：発表者の主張は、主観的な（感情的な）意見ではなく、論理性があり、納得できる主張かどうかを意識して聴講する。 ・振り返り：他者の意見を聞いて自身の主張を修正・補足する必要があるかどうか検討する。 ・再度別グループで同様の手順を実施する。 <p>■主要な問題点を改善させる理学療法アプローチを明らかにする 吉本好延</p> <p>到達目標：担当患者の主要な問題点を改善させるための理学療法アプローチを、根拠をもって示すことができる。</p> <p>事前課題：<u>主要な問題点として選択した項目を、改善させるための理学療法アプローチを立案せよ。ただし、「エビデンスピラミッド」を理解したうえで、選択した理学療法アプローチが有効と考えられる根拠を文献で示せ（RCTは英論文に多い）。</u></p> <p>授業内容：選択した文献を目の前の患者に適応する場合の注意点、英文検索の方法の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を踏まえて、選択した文献が目前の患者に適応できるかどうかを改めて再検討し、必要であれば問題点・アプローチの修正を行う。 ・問題点を改善させるためのアプローチは、具体的な運動内容・強度・時間・頻度（○回/日、○カ月）、その他配慮が必要なこと、を明確にする。 <p>2. 模擬患者の臨床推論（OSCE 学生提示資料に準じる） 全員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記で行った1. の手順に従って、模擬患者の主要な問題点を絞り込み、理学療法アプローチを立案する ・まずは健常者同士で練習を起さない、学生が想定した模擬患者で練習を行う。 ・OSCEを行う。 <p style="text-align: center;">学内実習時の対応 上記1.2の課題をオンラインで実施する。</p>
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業に課題を提示しています。事前学修を個人で行い、webclass に提出してください。 ・提出日は授業開始1日前の21時とします（事前学修）。 ・授業資料は開始前までにアップします。 ・グループワークはPBL形式で課題解決に努めてください。 ・授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、webclass に提出してください。授業開始1日前の21時とします（事後学修）。
授業内の ICT活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用
評価方法	課題提出物：30% 実技試験：70%
課題に対する フィード バック	・随時
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一

参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法総合実習 I
科目責任者	金原一宏
単位数他	6単位 (270時間) 理学必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラムを立案し、実践的な治療技能を実習指導者の指導監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 金原一宏、有菌信一、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一、高山真希、矢部広樹、高橋大生、田中なつみ（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。</p> <p>②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。（解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する）</p> <p>③デイリーノート（体験したこと、技術的な覚え書きなど）を作成する。</p> <p>④チェックリスト（何をどれだけおこなったか）を作成する。</p> <p>⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p> <p>この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習を実施する。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して1単位分実施する。</p> <p>【 学内実習について 】</p> <p>状況により遠隔授業を実施する場合は、学内実習を下記の予定で実施する</p> <p>方法：原則的には遠隔授業形式で実施する。社会状況を踏まえ、一部学内での評価治療技術の実習を検討する。</p> <p>事前学修・事後学修課題：症例報告に関する webclass（ポートフォリオ・実習資料集の作成）、デイリーノート、各課題、症例報告の空間概念図を提出する。</p> <p>教員フィードバック：講義内、Webclass、学内実技</p> <p>模擬患者：実際に教員が診療していた患者や臨床での症例を提示し、情報提供・再現することで、学外実習を意識した学内実習を行う。</p>

	<p>第1回：臨床理学療法総合実習の概要 到達目標・行動目標の確認、クリニカル・クラークシップの理論と実践を説明し、本実習科目でどのような能力の獲得が必要なのかを理解する。</p> <p>第2回以降：模擬患者を用いた臨床推論の実践 最終学年の総合理学療法実習のため、8：30より出席確認および朝礼を行う。 朝礼後、午前（8：30～12：00）は、模擬患者の評価及び治療技術に必要な知識習得を図る。 午後（13：00～17：30）は、症例報告に関する空間概念図作成ためグループワークや指導者による患者治療の評価および治療技術の習得を図る。 17：30～は、1日の実習を振り返りデイリーノートを作成する。内容は、1日の実施した内容の報告、本日の学びのまとめ、自身で学んだ学習内容を記載する。</p> <p>上記の詳細については、学内実習の際、随時連絡をする。</p> <p>課題提出物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出席表（Webclassにて実施。朝礼8：30、終礼17：30に出席確認を行う。） 2) デイリーノート（Webclassにて実施） 3) チェックリスト（各自記載する） 4) 臨床理学療法総合実習Ⅰ報告書（空間概念図 各自作成し提出） 5) 体調管理（Webclassにて実施） <p>学内課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 報告会 2) 口頭試問 3) OSCE <p>評価</p> <p>理学療法評価、治療プログラムの立案、ゴール設定の評価は、実習後プレゼンテーションと口頭試問で実施する。 実践的な治療技能、治療プログラムの修正の評価は、OSCEで実施する。</p>
アクティブラーニング	学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	なし
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)実習状況 50% 2)実習後プレゼンテーション（臨床理学療法実習Ⅴ報告書（空間概念図）） 30% 3)口頭試問 20%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし

参考図書	なし
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	臨床理学療法総合実習Ⅱ
科目責任者	俵 祐一
単位数他	6単位 (270時間) 理学必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 俵祐一, 有藪信一, 矢倉千昭, 吉本好延, 根地鳴誠, 金原一宏, 高山真希, 矢部広樹, 高橋大生, 田中なつみ (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> ①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。 ②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。(解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する) ③デイリーノート (体験したこと、技術的な覚え書きなど) を作成する。 ④チェックリスト (何をどれだけ行ったか) を作成する。 ⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p> <p>*この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われます。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して1単位分実施されます。</p> <p>【 学内実習について 】</p> <p>方法：原則的には遠隔授業形式で実施する。社会状況を踏まえ、一部学内での評価治療技術の実習を検討する。</p> <p>事前学修・事後学修課題：症例報告に関するwebclass (ポートフォリオ・実習資料集の作成)、デイリーノート、各課題、症例報告の空間概念図を提出する。</p> <p>教員フィードバック：講義内、Webclass、学内実技</p> <p>模擬患者：実際に教員が診療していた患者を症例として情報提供・再現することで、学外実習を意識した学内実習を行う。</p> <p>第1回：臨床理学療法総合実習の概要</p>

	<p>到達目標・行動目標の確認、クリニカル・クラークシップの理論と実践を説明し、本実習科目でどのような能力の獲得が必要なのかを理解する。</p> <p>第2回以降：模擬患者を用いた臨床推論の実践 最終学年の総合理学療法実習のため、8：30より出席確認および朝礼を行う。 朝礼後、午前（8：30～12：00）は、模擬患者の評価及び治療技術に必要な知識習得を図る。 午後（13：00～17：30）は、症例報告に関する空間概念図作成ためグループワークや指導者による患者治療の評価および治療技術の習得を図る。 17：30～は、1日の実習を振り返りデイリーノートを作成する。内容は、1日の実施した内容の報告、本日の学びのまとめ、自身で学んだ学習内容を記載する。</p> <p>上記の詳細については、学内実習の際、随時連絡をする。</p> <p>課題提出物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出席表（Webclassにて実施。朝礼8：30、終礼17：30に出席確認を行う。） 2) デイリーノート（Webclassにて実施） 3) チェックリスト（各自記載する） 4) 臨床理学療法総合実習Ⅰ報告書（空間概念図 各自作成し提出） 5) 体調管理（Webclassにて実施） <p>学内課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 報告会 2) 口頭試問 3) OSCE <p>評価</p> <p>理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定の評価は、実習後プレゼンテーションと口頭試問で実施する。 実践的な治療技能、治療プログラムの修正の評価は、OSCEで実施する。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・1：1実習による学生間で課題解決を図る ・学内実習では学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	なし
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)実習状況 50% 2)実習後プレゼンテーション（臨床理学療法総合実習Ⅱ報告書（空間概念図）） 30% 3)口頭試問 20%
課題に対するフィードバック	<p>各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う</p>
指定図書	なし

参考図書	なし
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (yuichi-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	国際理学療法実習
科目責任者	高橋 大生
単位数他	2単位 (90時間) 理学選択 6・7・8 Semester
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	海外の医療・教育機関において世界的な規模でリハビリテーションを学修する。リハビリテーション機関及び専門施設において、学内及び現地の指導者によるクリニカルクラークシップ (CCS) での実習を行い、海外での理学療法技術を体験し、修得することを目的とする。さらに、異なる文化について共有・理解を進め、生活習慣の異なる方々と専門領域を超えた幅広いコミュニケーションの実践を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 異なる文化圏の医療について概説することができる。 3分間、切れ目なく英語でコミュニケーションがとれる。 現地の医療機関での実習を通して、技術を修得する。 実習地と日本の理学療法との違いについて概説できる。
授業計画	<p><担当教員名>高橋大生 有蘭信一 金原一宏 すべての授業内容を3名の教員で分担・フォローする。</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 事前研修 (計10コマ) →学内での実習前学修を行う。 現地での実習 (期間:2週間程度) →医療・教育機関での講義への参加。 →現地学生・スタッフとの意見交換 (プレゼンテーション含む)。 →病院・専門施設での実習 (クリニカルクラークシップ) 事後研修 (課題) <ul style="list-style-type: none"> 課題レポート (間接評価) →グループワーク課題:研修で学んだことについてディスカッション内容をまとめる →海外体験実習報告書の作成。実習で学修した内容と内省について個人でまとめる →実習で学修した成果について報告会を実施する アセスメントテスト (直接評価:ペーパーテスト) →実習前後での行動特性を評価するため、コンピテンシーテストを用いる 英語による OSCE (直接評価:実技技能試験) 動画撮影し、研修前後比較をルーブリックを用いて評価する
アクティブラーニング	事前研修を通して、渡航先の生活・文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状、実習先の医療機関・施設について情報を収集する。また、事前学習で集めた情報を英語でアウトプットし情報交換する。英語を用いたプレゼンテーション、OSCE、ワークを行い、実習地での積極的なコミュニケーション能力の基盤を形成する。アクティブラーニングとグループワークを通して、柔軟性、積極性、行動力、リーダーシップなどグローバル人材に必要な人間力を養う。
授業内のICT活用	プレゼンテーションをプロジェクター使用により実施する。英語での OSCE など動画で撮影し、フィードバックを行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 事前研修:20% →英語でのプレゼンテーション →英語での質疑応答 →英語でのワーク →英語での OSCE 現地実習中の態度、プレゼンテーション、CCS の取り組み:50% 事後研修 (課題レポート、報告会、テスト、OSCE):30%

	成績は上記の内容について総合的に判定を行う
課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは引率教員、科目責任者が口頭で行う。
指定図書	指定図書なし 臨床実習ハンドブック、事前学習時の配布資料
参考図書	なし
事前・事後学修	英語は日常会話レベルがこなせるよう、毎日 30 分英会話学習を行うことを勧める。又、渡航先の言語で挨拶と自己紹介ができるように自己学習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間等：事前研修の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	理学療法教育学
科目責任者	有蘭信一
単位数他	1単位（15時間） 理学選択 8セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	保健医療福祉領域において、自らの専門性を自覚し、その責務を果たすことが求められます。理学療法士は、理学療法学生や若手理学療法士の教育を担い、また新しい評価方法や治療法の開発などによって理学療法の発展に寄与しなければなりません。そのためには、理学療法の教育指導の理念と方法を身につけることが大切です。本授業では、理学療法士の教育方法、特に臨床実習における学生指導についての基礎を学び、リハビリテーションの専門職業人として将来を展望した理学療法教育への関心を深めます。
到達目標	1.医学教育の動向、課題と方略を概説することができる 2.理学療法の教育方法（CBT、PBL、OSCE など）を概説することができる 3.理学療法士の臨床実習における学生指導についての基礎理論と基本技能を修得する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>有蘭信一、吉本好延</p> <p>第1回：医学教育の動向、理学療法士の現状と教育の課題を考える（有蘭信一、吉本好延）</p> <p>第2回：理学療法士の大学教育におけるカリキュラムプランニングを学ぶ：教育理念、教育目標、教育課程、授業、成績評価（有蘭信一、吉本好延）</p> <p>第3-4回：医学教育の教育手法：CBT、PBL、OSCE、ロールプレイなどを学習し、演習を行う（有蘭信一、吉本好延）</p> <p>第5-6回：臨床実習における教育方法について学び、また自身の体験からより良い実習指導のあり方を検討する（有蘭信一、吉本好延）</p> <p>第7-8回：理学療法士の「生涯学習」とキャリア形成について学ぶ（有蘭信一、吉本好延）</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題をグループワークで解決・発表する 授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする 授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション，資料作成
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの発表と内容：40% レポート提出と内容：60%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の途中で教員が随時補足していく 他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う

指定図書	なし（講義時に資料を配布する）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前に関係論文を配布するので、事前に読んで授業に出席すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	発展的理学療法学
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 : 専門領域
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	この授業では、将来、理学療法学の発展に寄与したいと考えている学生、大学院に進学したいと考えている学生を対象に、各理学療法分野の臨床および研究のトレンド、トピックスを学び、高度専門職者としての理学療法士になるために求められる知識、技術、思考力の基礎を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法をさらに発展させるための高度専門職者とは何かを考え、述べることができる 2. 大学院、専門技術を学ぶために必要な基本的な知識、技術、思考力を身につける 3. 理学療法士として、将来を展望した生涯学習への関心を深め自己研鑽することができる
授業計画	<p>※本授業の担当者は、大学院を兼務する教員とする。</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、発展的理学療法学とは 矢部広樹</p> <p>第2回：運動器系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 久保祐介</p> <p>第3回：神経系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 小松洋亮</p> <p>第4回：内部障害系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 渡邊英孝</p> <p>第5回：生活期療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 筒井真理子</p> <p>第6回：公衆衛生分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 前嶋康路</p> <p>第7回：がんリハビリ分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 小椋涼治</p> <p>第8回：世界へ発信する理学療法学士の研究活動について 矢部広樹</p>
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研究活動について概要を説明し、授業前に調べる。 ・受講した内容をリアクションペーパーに記載、提出する。
授業内の ICT 活用	Webclass にてポートフォリオを作成する

評価方法	授業態度 40%、レポート 60%
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパーに記載された質問にはメールやWebclassなどで回答する.
指定図書	なし (講義時に資料を配布します)
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の授業テーマについて、調べ考えて授業に出席する (30分). 授業の振り返りのレポートを作成する (30分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の3時限目 (11時55分～13時15分) 場所：3512 研究室 上記以外でもメール (hiroki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	作業療法概論																														
科目責任者	伊藤 信寿																														
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 1 セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP2 専門																														
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																														
科目概要	作業療法の基本的事項 (作業療法の理論背景の概要、作業療法の対象と実践背景の概要など) を学習する。作業療法について主体的に学習する習慣と方法を身につける。																														
到達目標	(1) 作業療法の歴史、作業活動と健康、作業療法の対象など、作業療法の概要について説明できる。 (2) 作業療法の背景と内容の概要について説明できる。																														
授業計画	<p><担当教員名>伊藤信寿、泉 良太、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、藤田さより 栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、主体的な学び</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：作業とは何か</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：作業療法の歴史</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：作業療法に関連する予備知識</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：作業の分析と治療への応用</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：作業療法で用いる理論・モデル①</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：作業療法で用いる理論・モデル②</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：身体領域における作業療法の実際</td> <td>泉、佐野</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：精神領域における作業療法の実際</td> <td>藤田、飯田</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：高齢期における作業療法の実際</td> <td>鈴木、栗田</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：発達領域における作業療法の実際</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：地域における作業療法の実際</td> <td>藤田、伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：社会保障制度の理解</td> <td>泉、藤田、伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：作業療法とは (発表)</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：授業のまとめ</td> <td>伊藤</td> </tr> </table> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>	第 1 回：オリエンテーション、主体的な学び	伊藤	第 2 回：作業とは何か	伊藤	第 3 回：作業療法の歴史	伊藤	第 4 回：作業療法に関連する予備知識	伊藤	第 5 回：作業の分析と治療への応用	伊藤	第 6 回：作業療法で用いる理論・モデル①	鈴木	第 7 回：作業療法で用いる理論・モデル②	鈴木	第 8 回：身体領域における作業療法の実際	泉、佐野	第 9 回：精神領域における作業療法の実際	藤田、飯田	第 10 回：高齢期における作業療法の実際	鈴木、栗田	第 11 回：発達領域における作業療法の実際	伊藤	第 12 回：地域における作業療法の実際	藤田、伊藤	第 13 回：社会保障制度の理解	泉、藤田、伊藤	第 14 回：作業療法とは (発表)	全員	第 15 回：授業のまとめ	伊藤
第 1 回：オリエンテーション、主体的な学び	伊藤																														
第 2 回：作業とは何か	伊藤																														
第 3 回：作業療法の歴史	伊藤																														
第 4 回：作業療法に関連する予備知識	伊藤																														
第 5 回：作業の分析と治療への応用	伊藤																														
第 6 回：作業療法で用いる理論・モデル①	鈴木																														
第 7 回：作業療法で用いる理論・モデル②	鈴木																														
第 8 回：身体領域における作業療法の実際	泉、佐野																														
第 9 回：精神領域における作業療法の実際	藤田、飯田																														
第 10 回：高齢期における作業療法の実際	鈴木、栗田																														
第 11 回：発達領域における作業療法の実際	伊藤																														
第 12 回：地域における作業療法の実際	藤田、伊藤																														
第 13 回：社会保障制度の理解	泉、藤田、伊藤																														
第 14 回：作業療法とは (発表)	全員																														
第 15 回：授業のまとめ	伊藤																														
アクティブラーニング	Think-Pair-Share やグループワークを行っていきます																														
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います。																														
評価方法	定期試験 (50%)、レポート・課題 (30%)、ポートフォリオ (20%) レポート、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。																														
課題に対するフィードバック	レポート返却後に個別で面接を実施し、ルーブリックを用いてフィードバックを行う。																														

ク	
指定図書	能登 真一編：作業療法学概論 第4版, 医学書院, 東京, 2021.
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：各回のテーマについて教科書を熟読しておくこと、授業計画で示した内容 事後学習：授業で示された内容等を確認
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	なし

科目名	作業科学と作業療法																																																				
科目責任者	鈴木 達也																																																				
単位数他	1単位 (30時間) 作業必修 2セメスター																																																				
DP番号と科目領域	DP2 専門																																																				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																																				
科目概要	作業療法は作業を通して人々の健康を促進します。本科目では、その作業療法の基礎学問である作業科学を理解し、作業療法士としてどのように人々の健康を促進するかを学びます。さらに、作業療法場面の治療、援助の指針になる作業療法の理論を学びます。																																																				
到達目標	作業的存在としての人間の理解を深める 作業の視点を通じた人間の健康を理解する 作業療法の理論と実践を知り専門性を理解する																																																				
授業計画	<科目担当教員> 鈴木達也・富澤涼子・飯田妙子・伊藤信寿・泉良太 藤田さより・佐野哲也・栗田洋平																																																				
	<授業内容・テーマ等> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 70%;"></th> <th style="width: 20%; text-align: center;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>内容</td> <td>担当教員</td> </tr> <tr> <td>第1回</td> <td>作業科学と作業療法</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>作業と遂行文脈</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>作業の主観的意味</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>作業と健康</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>作業的公正、作業的存在</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>作業療法と作業科学の歴史</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>作業と文化</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>作業と哲学</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>作業の枠組み</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>作業療法の理論と実践</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>実践報告 (精神科、就労支援、発達)</td> <td>藤田・飯田・伊藤</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>作業療法の理論・MTDLP と実践報告 (身体、高齢期、国際)</td> <td>飯田・泉・富澤・佐野・栗田</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>作業科学と作業療法の実践</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>海外の作業療法実践</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>学びの発表</td> <td>全教員</td> </tr> </tbody> </table>				<担当教員名>	回数	内容	担当教員	第1回	作業科学と作業療法	鈴木	第2回	作業と遂行文脈	鈴木	第3回	作業の主観的意味	鈴木	第4回	作業と健康	鈴木	第5回	作業的公正、作業的存在	鈴木	第6回	作業療法と作業科学の歴史	鈴木	第7回	作業と文化	鈴木	第8回	作業と哲学	鈴木	第9回	作業の枠組み	鈴木	第10回	作業療法の理論と実践	全教員	第11回	実践報告 (精神科、就労支援、発達)	藤田・飯田・伊藤	第12回	作業療法の理論・MTDLP と実践報告 (身体、高齢期、国際)	飯田・泉・富澤・佐野・栗田	第13回	作業科学と作業療法の実践	鈴木	第14回	海外の作業療法実践	鈴木	第15回	学びの発表	全教員
			<担当教員名>																																																		
	回数	内容	担当教員																																																		
	第1回	作業科学と作業療法	鈴木																																																		
	第2回	作業と遂行文脈	鈴木																																																		
	第3回	作業の主観的意味	鈴木																																																		
	第4回	作業と健康	鈴木																																																		
	第5回	作業的公正、作業的存在	鈴木																																																		
	第6回	作業療法と作業科学の歴史	鈴木																																																		
	第7回	作業と文化	鈴木																																																		
	第8回	作業と哲学	鈴木																																																		
	第9回	作業の枠組み	鈴木																																																		
	第10回	作業療法の理論と実践	全教員																																																		
	第11回	実践報告 (精神科、就労支援、発達)	藤田・飯田・伊藤																																																		
第12回	作業療法の理論・MTDLP と実践報告 (身体、高齢期、国際)	飯田・泉・富澤・佐野・栗田																																																			
第13回	作業科学と作業療法の実践	鈴木																																																			
第14回	海外の作業療法実践	鈴木																																																			
第15回	学びの発表	全教員																																																			
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション、PBL、プレゼンテーションを行います																																																				
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います																																																				

評価方法	小テスト 50%、グループプレゼンテーション 10%、レポート 20%、ポートフォリオ 20%、計 100% 小テストは講義開始時に行いますので、事前動画を確認してから授業に参加して下さい。 ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対するフィードバック	レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメントと返却
指定図書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう第2版、医歯薬出版、2017
参考図書	佐藤剛ら訳：作業科学、三輪書店 矢谷令子：作業療法学概論、医学書院 京極真ら：作業療法理論の教科書：メディカルビュー
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 講義中に事前課題および事後課題について提示する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	なし

科目名	研究法入門
科目責任者	富澤 涼子
単位数他	1単位(30時間) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	作業療法が医療専門職として存在し続けるには、他の療法との違いがどこにあり、社会の中でどのように機能し、どのような効果があるのかを明確に示さなければならない。その手段の1つが研究である。この科目では、早期に研究の基礎となる枠組みに触れ、研究の意義と面白さを実感し、4年間の学びの中に研究的視点を包含できることを目指す。
到達目標	1.研究の定義と研究の意義について説明できる 2.研究の分類(量的・質的など)と具体的進め方について説明できる 3.研究に伴う倫理的配慮とデータの管理の重要性について説明できる 4.自分の興味に基づくテーマを研究疑問の形で表現できる
授業計画	<p><担当教員名>富澤涼子、泉良太、伊藤信寿、藤田さより、新宮尚人</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、研究とは、作業療法研究の位置付け等 富澤涼子 研究とは何か、作業療法実践における研究の位置付けについて説明する。</p> <p>第2回：研究疑問と研究の様式(量的・質的)、研究の流れなど 泉良太 研究疑問の作り方、研究方法、研究の流れについて説明する。</p> <p>第3回：文献検索の仕方、図書館の利用：図書館司書による説明 泉良太 研究を行うにあたり必要な、文献検索、図書館の利用方法について説明する。</p> <p>第4回：研究計画書の作成と実施 泉良太 研究計画書の作成と実施の方法について説明する。</p> <p>第5～7回：質的研究法について 富澤涼子 質的研究の魅力、哲学、質の評価、データ収集方法について説明し、KJ法を用い、グループで質的研究を行うことも体験する。</p> <p>第8回：研究の倫理と管理 富澤涼子 研究倫理とは何か、なぜ必要か、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、個人情報保護、研究成果を発表する際の留意点について説明する。</p> <p>第9～11回：研究テーマの検討(PBL) 富澤涼子、泉良太 第1～8回までの講義内容を踏まえ、グループで研究計画書を作成する。</p> <p>第12～13回：興味あるテーマ発表(グループずつ) 富澤涼子、泉良太 各人が作成した研究計画書について発表する。</p> <p>第14～15回：作業療法研究の動向、研究の実際①、研究の実際②、研究の実際③ 富澤涼子、伊藤信寿、泉良太、藤田さより、新宮尚人 本科目のまとめとして、作業療法研究の動向、作業療法学科教員の研究の実際について紹介する。</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性はある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>
アクティブラーニング	本授業は、研究テーマをPBLで検討していきます。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します。

授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	知識確認テスト (45%) テーマ発表 (25%) ポートフォリオ内容 (30%) ・ポートフォリオ内容は、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	研究テーマに関するPBLでは、研究目的、方法、倫理的配慮等に関するフィードバックを随時行いながら進めていきます。
指定図書	竹田徳則・大浦智子編集：作業療法研究法. 医歯薬出版, 東京, 2017.
参考図書	山田孝編集：作業療法研究法. 医学書院, 東京, 2012. 友利幸之介他著：作業で創るエビデンス - 作業療法士のための研究法の学びかた. 医学書院, 東京, 2019
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebclassに掲示された資料を確認してください (第1～15回：各20分) ・授業後はポートフォリオを作成し、授業内容の復習をしてください (第1～15回：各20分) ・第4回、7回、8回目の授業終了後、Webclass内の小テストに回答してください (各10分)
オープンエデュケーションの活用	厚生労働省：研究に関する指針 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.h
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryoko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	作業療法評価学総論
科目責任者	飯田 妙子
単位数他	1 単位 (15 時間) 作業必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	まず、評価の理念について学習する。これは、以後の学習を進める上での基礎になる部分である。そして、医療・保健・福祉分野における包括的評価である ICF (国際障害分類: International Classification of Functioning, Disability and Health) について、障害の捉え方、使用法、適用について学ぶ。
到達目標	「作業療法における評価の基礎を学ぶ」ことをテーマに 1. 作業療法評価の基本概念について理解を深める。 2. 包括的評価である ICF について、障害の捉え方、使用法、適用について知識を得ることを目標とする。 3. 作業療法実践の基礎である、面接と ICF における活動と参加の評価法について理解を深める。
授業計画	<p><担当教員名> 飯田 妙子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回: 評価とは何か 評価とは何かについて説明する。</p> <p>第 2 回: 作業療法プロセスにおける評価の位置づけ 作業療法の実践プロセスのなかで評価はどこに位置づくかについて説明する。</p> <p>第 3 回: ICF 概念に基づいた包括的評価① 第 4 回: ICF 概念に基づいた包括的評価② ICF とは何か、ICIDH の問題点と ICF の利点、ICF の障害の捉え方について説明する。</p> <p>第 5 回: ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の使用法①) 第 6 回: ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の使用法②) ICF を用いてどのように包括的評価を行うかについて説明し、実践する。</p> <p>第 7 回: 面接法 作業療法を進める上での面接の目的、種類を説明する。</p> <p>第 8 回: ICF における活動と参加の評価法, まとめ 興味や関心と QOL (quality of life : 生活の質) の評価の目的、種類を説明する。 第 1~7 回までの復習と知識習得テストを実施する。</p>
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。

授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題の提出およびフィードバックを実施します。 また、グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	小テスト 20%、知識習得テスト 40%、レポート 40% レポート課題はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	小テスト、知識習得テスト、レポート提出によって、一人ひとりの学習状況を確認し、必要な学修について、適宜、アドバイスを行っていきます。
指定図書	能登真一：作業療法評価学 第3版、医学書院、2017 上田敏：ICFの理解と活用、萌文社、2005
参考図書	齋藤佑樹：作業で語る事例報告ー作業療法レジメの書きかた・考えかた、明昌堂、2014
事前・事後学修	① 授業前に該当部分の教科書、参考書を事前に読んでおくこと（各20分×8回） ② 第2回以降、授業開始時に前回の内容の小テストに回答すること（各10分×5問×7回） →間違えた箇所については、きちんと復習しておくこと ③ 第8回に知識習得テストに回答すること（30分×20問） ④ レポート「ICFを用いた作業療法評価について」を作成すること（80分×1000文字程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（taeko-i@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	作業療法評価学演習
科目責任者	藤田 さより
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	作業療法の基礎となる、「対象者との良好なコミュニケーション」、「観察評価」、「記録」について施設実習を通じて学び、それらの基礎力を身につける。また作業療法で用いる主要な評価法について理解し、実践する。さらに作業療法の評価から実施までの流れを理解する。
到達目標	①対象者の行動や表情、動きなどの「観察のポイント」を述べることができる。 ②対象者の行動や表情、動きなどを観察し、レポートに書くことができる。 ③情報収集・観察から得た情報から、考察を行い、レポートにまとめることができる。 ④作業療法にて用いる主要な評価の概要や流れを理解し、述べられる。 ⑤作業療法の対象領域について理解し、評価から作業療法実施までの流れを考え、述べられる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 科目担当 藤田さより 鈴木達也 泉良太 飯田妙子 <担当教員名></p> <p>第1回 オリエンテーション 藤田さより</p> <p>第2回 評価の基礎(観察、記録、考察)・評価をするうえで重要な視点 藤田さより</p> <p>第3回 演習：観察と記録の実践 藤田さより</p> <p>第4回 COPMについて 藤田さより</p> <p>第5回 演習：COPMの実践 藤田さより</p> <p>第6回 演習：COPMの実践 藤田さより</p> <p>第7回 OTIPMについて 鈴木達也・藤田さより</p> <p>第8回 AMPSについて 鈴木達也・藤田さより</p> <p>第9回 演習：AMPSとその実践 鈴木達也・藤田さより</p> <p>第10回 演習：AMPSとその実践 藤田さより</p> <p>第11回 AMPS その2 鈴木達也・藤田さより</p> <p>第12回 OTIPM その2 鈴木達也・藤田さより</p> <p>第13回 ESI(社会交流評価) 鈴木達也・藤田さより</p> <p>第14回 ESI 演習 鈴木達也・藤田さより</p> <p>第15回 演習：事例を読む 藤田さより</p> <p>第16回 PBL：作業療法の面接～介入～実践(作業療法面接) 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第17回 PBL：作業療法の面接～介入～実践(作業療法面接) 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第18回 PBL：作業療法の面接～介入～実践(ICFの活用) 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第19回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第20回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第21回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第22回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第23回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第24回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第25回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第26回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 藤田さより・飯田妙子</p> <p>第27回 生活行為向上マネジメントについて 泉 良太・藤田さより</p> <p>第28回 演習：生活行為向上マネジメントについて 泉 良太・藤田さより</p> <p>第29回 まとめ 藤田さより</p> <p>第30回 まとめ 知識確認テスト 藤田さより</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>

アクティブ ラーニング	PBLを行います。演習・実習科目です。
授業内のICT活用	PCによる演習、プレゼンテーション、webclassの事前事後学習での活用
評価方法	小テスト30% レポート70% (ポートフォリオおよびレポート)
課題に対する フィード バック	小テストは返却致します。レポートに関してはコメントを記入し返却致します。 フィードバックペーパーの内容に基づき次回授業時にコメントおよび講義等を行います。
指定図書	吉川ひろみ 『作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド』 医学書院 齋藤佑樹編 『作業で語る事例報告』 医学書院
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	「観察力」には、解剖・運動学の知識が必要不可欠です。その為に前半(1~14回)運動学・解剖学の復習を行ってください。初回に事前学修のためのテキストをお渡しします(毎回40分)。後半は(15~30回)は、COPM、AMPSの評価方法・評価項目について教科書を熟読し、演習に備えてください。また作業療法の各種理論についても資料を熟読してください(毎回40分)。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(sayori-f@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施につ いて	講義回においてはZOOMを用いた遠隔授業を実施する可能性があります。

科目名	身体領域作業療法評価学	
科目責任者	泉 良太	
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 4セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	講義、演習を通じて身体機能の評価方法を知り、身体機能の検査測定技術（関節可動域、筋力、筋緊張、感覚、脳神経、反射、姿勢反射、協調性、随意性、上肢機能検査等）および面接・観察技術を修得する。演習では実際の対象者に対して評価を行い、協力者からの指導を得る。演習後には評価結果から統合と解釈を実施し、対象者の生活との関連について理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害領域における作業療法評価の目的、適応、禁忌事項について説明できる。 2. 作業療法の評価計画を立案することができる。 3. 学修した評価を正しく実施できる。 4. 評価結果を統合解釈し、病態を的確に分析することができる。 5. 評価結果から生活にどのような影響を及ぼすのかを説明する事ができる。 	
授業計画	<p><科目担当教員> 泉良太、佐野哲也、伊藤信寿、富澤涼子、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : オリエンテーション、意識の評価</p> <p>第2回 : バイタルサインの測定、形態計測</p> <p>第3回 : バイタルサインの測定、形態計測</p> <p>第4回 : 関節可動域測定</p> <p>第5回 : 関節可動域測定</p> <p>第6回 : 関節可動域測定</p> <p>第7回 : 筋力検査</p> <p>第8回 : 筋力検査</p> <p>第9回 : 筋力検査</p> <p>第10回 : 筋力検査</p> <p>第11回 : 筋緊張検査、随意性検査 (BRS)</p> <p>第12回 : 感覚知覚検査</p> <p>第13回 : 感覚知覚検査</p> <p>第14回 : 脳神経検査</p> <p>第15回 : 脳神経検査</p> <p>第16回 : 反射検査、姿勢反射検査</p> <p>第17回 : 反射検査、姿勢反射検査</p> <p>第18回 : 演習 1</p> <p>第19回 : 演習 1</p> <p>第20回 : 演習 1</p> <p>第21回 : 協調性検査</p> <p>第22回 : 協調性検査</p> <p>第23回 : 上肢機能検査</p> <p>第24回 : 上肢機能検査</p> <p>第25回 : 事例検討 (演習 1 について)</p> <p>第26回 : 演習 2</p> <p>第27回 : 演習 2</p> <p>第28回 : 演習 2</p> <p>第29回 : 評価のまとめ</p> <p>第30回 : 評価のまとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p>

アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
評価方法	定期試験 30%、知識習得テスト 20%、実技試験 40%、ポートフォリオ 10%、計 100% 実技の達成度の評価にはルーブリックを用います。
課題に対するフィードバック	演習レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	能登真一：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版、医学書院、2017 津山直一、中村耕三：新・徒手筋力検査法 原著第10版、協同医書出版社、2020 鈴木則宏：神経診察クローズアップ 第3版、メジカルビュー社、2020
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください（各20分1～30回目）。 ・授業後はポートフォリオを作成し、実技の復習を実施してください（各20分1～28回目）。 ・4回目、10回目、16回目、24回目、28回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください（各10分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	高齢期作業療法評価学																																																	
科目責任者	鈴木 達也																																																	
単位数他	1単位 (30時間) 作業必修 5セメスター																																																	
DP番号と科目領域	DP2 専門																																																	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																																	
科目概要	高齢期に特徴的な身体、精神、認知面に関する生理的変化や環境面の評価法について学ぶ。作業療法の分野をはじめ標準化された評価法だけでなく、観察や面接から得られる情報を基に対象者が生きてきた人生を知り、作業療法プログラムを展開できることを学ぶ。施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。																																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の心身機能について特徴を把握する事が出来る 2.評価法の名前とその目的を理解し使用できる 3.評価法の種類（主観的、客観的、観察法・質問法、自己記入式等）を理解し使用できる 4.得られた結果を解釈しプログラム立案に役立てることが出来る 																																																	
授業計画	<p><担当教員名>鈴木達也・栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>人間作業モデル (MOHO) と面接評価法</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>作業遂行文脈と面接評価法</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>高齢者の意思、興味、価値、作業バランス</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ADL,BPSD、行動面の評価</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>認知機能・精神機能面の評価</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>高齢者体験</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>高齢者施設見学1</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>高齢者施設見学12</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>環境の評価、終末期における評価</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>介護負担・介護予防・健康増進</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>パーソンセンタードケア</td> <td>阿部邦彦</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>高齢者施設での集団活動1</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>高齢者施設での集団活動2</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>施設演習報告とまとめ</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> </tbody> </table>		回数	内容	担当教員	第1回	オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度	鈴木・栗田	第2回	人間作業モデル (MOHO) と面接評価法	鈴木・栗田	第3回	作業遂行文脈と面接評価法	鈴木・栗田	第4回	高齢者の意思、興味、価値、作業バランス	鈴木・栗田	第5回	ADL,BPSD、行動面の評価	鈴木・栗田	第6回	認知機能・精神機能面の評価	鈴木・栗田	第7回	高齢者体験	鈴木・栗田	第8回	高齢者施設見学1	鈴木・栗田	第9回	高齢者施設見学12	鈴木・栗田	第10回	環境の評価、終末期における評価	鈴木・栗田	第11回	介護負担・介護予防・健康増進	鈴木・栗田	第12回	パーソンセンタードケア	阿部邦彦	第13回	高齢者施設での集団活動1	鈴木・栗田	第14回	高齢者施設での集団活動2	鈴木・栗田	第15回	施設演習報告とまとめ	鈴木・栗田
回数	内容	担当教員																																																
第1回	オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度	鈴木・栗田																																																
第2回	人間作業モデル (MOHO) と面接評価法	鈴木・栗田																																																
第3回	作業遂行文脈と面接評価法	鈴木・栗田																																																
第4回	高齢者の意思、興味、価値、作業バランス	鈴木・栗田																																																
第5回	ADL,BPSD、行動面の評価	鈴木・栗田																																																
第6回	認知機能・精神機能面の評価	鈴木・栗田																																																
第7回	高齢者体験	鈴木・栗田																																																
第8回	高齢者施設見学1	鈴木・栗田																																																
第9回	高齢者施設見学12	鈴木・栗田																																																
第10回	環境の評価、終末期における評価	鈴木・栗田																																																
第11回	介護負担・介護予防・健康増進	鈴木・栗田																																																
第12回	パーソンセンタードケア	阿部邦彦																																																
第13回	高齢者施設での集団活動1	鈴木・栗田																																																
第14回	高齢者施設での集団活動2	鈴木・栗田																																																
第15回	施設演習報告とまとめ	鈴木・栗田																																																
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション PBL,施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。																																																	
授業内のICT活用	プレゼンテーションにPCを使用します																																																	
評価方法	成績は筆記試験 50%、小テスト 30%、レポート 10%、ポートフォリオ 10% ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。 ・ルーブリックの内容は授業中に提示する																																																	

課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションへのコメント
指定図書	矢谷令子監修：高齢期作業療法学 第3版：医学書院 田平隆行、田中寛之：Evidence Based で考える認知症リハビリテーション、医学書院
参考図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学4 老年期」作業療法全書，協同医書出版 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行きましょう
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	基礎作業学	
科目責任者	飯田 妙子	
単位数他	2単位数 (60 時間) 作業必修 2セメスター	
DP 番号と科目領域	DP3 専門	
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。	
科目概要	1.作業療法で利用される活動のうち、陶芸、織物、革細工、木工などの基本的技法を学ぶ。 2.各作業が人に与える身体的・心理的な影響を、自己を通して洞察出来る。 3.作業分析の基礎を学ぶ。	
到達目標	1.陶芸、織物、革細工、木工が人にどのような身体的・心理的影響を与えているか自分自身で感じ、述べることができる。 2.共同作品を作成し作業が人とのつながり、広がりをもたらす効果を感じ、述べることができる。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 身体表現 (演習)</p> <p>第 3 回 身体表現 (演習)</p> <p>第 4 回 身体表現 (演習)</p> <p>第 5 回 身体表現 (演習)</p> <p>第 6 回 陶芸 (実習)</p> <p>第 7 回 陶芸 (実習)</p> <p>第 8 回 陶芸 (実習)</p> <p>第 9 回 陶芸 (実習)</p> <p>第 10 回 陶芸 (実習)</p> <p>第 11 回 陶芸 (実習)</p> <p>第 12 回 革細工 (実習)</p> <p>第 13 回 革細工 (実習)</p> <p>第 14 回 革細工 (実習)</p> <p>第 15 回 革細工 (実習)</p> <p>第 16 回 革細工 (実習)</p> <p>第 17 回 革細工 (実習)</p> <p>第 18 回 さをり織り (実習、グループワーク)</p> <p>第 19 回 さをり織り (実習、グループワーク)</p> <p>第 20 回 さをり織り (実習、グループワーク)</p> <p>第 21 回 さをり織り (実習、グループワーク)</p> <p>第 22 回 さをり織り (実習、グループワーク)</p> <p>第 23 回 さをり織り (実習、グループワーク)</p> <p>第 24 回 木工 (実習、グループワーク)</p> <p>第 25 回 木工 (実習、グループワーク)</p> <p>第 26 回 木工 (実習、グループワーク)</p> <p>第 27 回 木工 (実習、グループワーク)</p> <p>第 28 回 木工 (実習、グループワーク)</p> <p>第 29 回 木工 (実習、グループワーク)</p> <p>第 30 回 まとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>飯田妙子</p> <p>河本のぞみ・飯田</p> <p>河本のぞみ・飯田</p> <p>河本のぞみ・飯田</p> <p>河本のぞみ・飯田</p> <p>綿貫克彦・藤田さより・飯田</p> <p>綿貫克彦・藤田さより・飯田</p> <p>綿貫克彦・藤田さより・飯田</p> <p>綿貫克彦・藤田さより・飯田</p> <p>綿貫克彦・藤田さより・飯田</p> <p>綿貫克彦・藤田さより・飯田</p> <p>永田征司・藤田・飯田</p> <p>永田征司・藤田・飯田</p> <p>永田征司・藤田・飯田</p> <p>永田征司・藤田・飯田</p> <p>永田征司・藤田・飯田</p> <p>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</p> <p>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</p> <p>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</p> <p>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</p> <p>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</p> <p>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</p> <p>杉本晃一郎・藤田・飯田</p> <p>杉本晃一郎・藤田・飯田</p> <p>杉本晃一郎・藤田・飯田</p> <p>杉本晃一郎・藤田・飯田</p> <p>杉本晃一郎・藤田・飯田</p> <p>飯田妙子</p>
	<p>・外部講師の都合により実施順が変更になる可能性があります。</p> <p>・授業スケジュールは初回授業時に配布します。</p>	

アクティブラーニング	演習科目です。 一部の授業内容においては、グループワークを取り入れて演習を行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	作品の完成および作業分析レポート 100% ルーブリック評価を用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	演習時には、適宜アドバイスをを行います。 作業分析レポートについては、返却時にコメントを記入します。
指定図書	山根寛編：『ひとと作業・作業活動』、三輪書店 クラフト学園研究室：革の技法楽しむための基本集、株式会社ヴォーグ社
参考図書	さをり織りの本「新・私の手織り SAORI」,城みさを,ぶどう社 つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル,古川宏(監修)
事前・事後学修	事前学修：各作業種目が人に与える影響について、教科書の作業分析例をみながら考えておくこと(各20分×5種目) 作業分析に必要な解剖学、運動学の知識の復習(各10分×5種目) 事後学修：作業分析を各作業種目で実施する(A4・1枚、各30分×5種目)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール(taeko-i@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	作業技術学																																
科目責任者	藤田 さより																																
単位数他	1単位 (30時間) 作業必修 3セメスター																																
DP番号と科目領域	DP3専門																																
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																
科目概要	作業療法として多く利用される活動（紙細工、園芸、籐細工、染物など）の実践を交えながら、各活動の基本的技法を学び、作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を考え、作業分析の基礎を学ぶ。さらに各作業の対象者への導入法を学ぶ。																																
到達目標	①作業療法として多く利用される活動を実践し、基本的技法を理解し、作品を完成できる。 ②作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を述べることができる。 ③各作業の対象者への導入方法（段階付け）を考え、作業分析シートに記入することができる。 ④実際に対象者に園芸活動を適切な方法で実践できる。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、作業分析について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析（絵画）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：実技演習：園芸療法と作業療法</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第7回：実技演習：室内園芸と作業分析</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第8回：実技演習：編む作業と作業分析（編み物）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第9回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第10回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第11回：実技演習：作業療法と音楽活動</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（染色）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（染色）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション、作業分析について	藤田さより	第2回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析（絵画）	藤田さより	第3回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析	藤田さより	第4回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第5回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第6回：実技演習：園芸療法と作業療法	藤田さより	第7回：実技演習：室内園芸と作業分析	藤田さより	第8回：実技演習：編む作業と作業分析（編み物）	藤田さより	第9回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）	藤田さより	第10回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）	藤田さより	第11回：実技演習：作業療法と音楽活動	藤田さより	第12回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）	藤田さより	第13回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）	藤田さより	第14回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（染色）	藤田さより	第15回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（染色）	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：オリエンテーション、作業分析について	藤田さより																																
第2回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析（絵画）	藤田さより																																
第3回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第4回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第5回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第6回：実技演習：園芸療法と作業療法	藤田さより																																
第7回：実技演習：室内園芸と作業分析	藤田さより																																
第8回：実技演習：編む作業と作業分析（編み物）	藤田さより																																
第9回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）	藤田さより																																
第10回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）	藤田さより																																
第11回：実技演習：作業療法と音楽活動	藤田さより																																
第12回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）	藤田さより																																
第13回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）	藤田さより																																
第14回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（染色）	藤田さより																																
第15回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（染色）	藤田さより																																
アクティブラーニング	実技・実践・演習・実習科目です。																																
授業内のICT活用	Webclassでの事前事後学習																																
評価方法	レポート80% 活動への取り組み・作品の完成20% レポートに関してはルーブリック評価を用いる。																																
課題に対するフィードバック	提出されたレポートコメントおよび評価を記入し返却致します。																																
指定図書	長崎 重信、浅沼 辰志：作業学 改訂第3版（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト） メディカルビュー																																

参考図書	原和子『園芸とリハビリテーション』エルゴ
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・作業分析を各作業すべてで実施します。作業分析に必要な解剖学・運動学について事前に復習してください。（毎回40分程度） ・事後学修では作業分析シートを記入し、作業が人に与える影響等について分析してください。 ・障害者の方への介入を行いますので、介助方法について事前に復習してください。（7、8回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	初回講義・個別で行う作業に関してはZOOMによるオンラインでの講義となる場合もあります。

科目名	神経系作業療法学																																																												
科目責任者	泉 良太																																																												
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 4セメスター																																																												
DP 番号と科目領域	DP4 専門																																																												
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																																												
科目概要	身体障害領域で主に作業療法の対象となる疾患の病態像および、疾患の特性を学修し、対象者に対しての作業療法実践課程の事例を通して基礎的な理論と知識・技術を学修する。疾患特性の復習を行い、疾患の特性と社会生活上の問題点を掘り下げて学習していく。																																																												
到達目標	1. 疾患の特徴を理解し、説明ができる。 2. 作業療法の対象となる方（疾患特性や社会背景など）に応じた介入を立案できる。 3. 作業療法の理論的枠組みを持った上で障害を説明することができる。																																																												
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員> 泉 良太、佐野哲也</p> <p>*事例検討はPBLで実施する。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 身体機能作業療法学の基礎</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第2回 脳血管障害 説明</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第3回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第4回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第5回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第6回 脳血管障害フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第7回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第8回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第9回 発表準備</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第10回 発表</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第11回 発表 フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第12回 糖尿病・透析の基礎</td> <td>西川達也</td> </tr> <tr> <td>第13回 糖尿病・透析の作業療法</td> <td>西川達也</td> </tr> <tr> <td>第14回 神経変性疾患 説明</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第15回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第16回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第17回 神経変性疾患フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第18回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第19回 事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第20回 発表準備</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第21回 発表</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第22回 発表 フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第23回 中間確認テスト</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第24回 振り返り</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第25回 循環器障害の基礎</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第26回 循環器障害の作業療法</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第27回 悪性腫瘍（がん）</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第28回 事例検討 フィードバック</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第29回 神経筋疾患</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第30回 事例検討 フィードバック</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> </table>	第1回 身体機能作業療法学の基礎	泉 良太、佐野哲也	第2回 脳血管障害 説明	泉 良太、佐野哲也	第3回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第4回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第5回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第6回 脳血管障害フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第7回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第8回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第9回 発表準備	泉 良太、佐野哲也	第10回 発表	泉 良太、佐野哲也	第11回 発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第12回 糖尿病・透析の基礎	西川達也	第13回 糖尿病・透析の作業療法	西川達也	第14回 神経変性疾患 説明	泉 良太、佐野哲也	第15回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第16回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第17回 神経変性疾患フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第18回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第19回 事例検討	泉 良太、佐野哲也	第20回 発表準備	泉 良太、佐野哲也	第21回 発表	泉 良太、佐野哲也	第22回 発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第23回 中間確認テスト	泉 良太、佐野哲也	第24回 振り返り	泉 良太、佐野哲也	第25回 循環器障害の基礎	佐野哲也、泉 良太	第26回 循環器障害の作業療法	佐野哲也、泉 良太	第27回 悪性腫瘍（がん）	佐野哲也、泉 良太	第28回 事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太	第29回 神経筋疾患	佐野哲也、泉 良太	第30回 事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太
第1回 身体機能作業療法学の基礎	泉 良太、佐野哲也																																																												
第2回 脳血管障害 説明	泉 良太、佐野哲也																																																												
第3回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第4回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第5回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第6回 脳血管障害フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																												
第7回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第8回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第9回 発表準備	泉 良太、佐野哲也																																																												
第10回 発表	泉 良太、佐野哲也																																																												
第11回 発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																												
第12回 糖尿病・透析の基礎	西川達也																																																												
第13回 糖尿病・透析の作業療法	西川達也																																																												
第14回 神経変性疾患 説明	泉 良太、佐野哲也																																																												
第15回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第16回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第17回 神経変性疾患フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																												
第18回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第19回 事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																												
第20回 発表準備	泉 良太、佐野哲也																																																												
第21回 発表	泉 良太、佐野哲也																																																												
第22回 発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																												
第23回 中間確認テスト	泉 良太、佐野哲也																																																												
第24回 振り返り	泉 良太、佐野哲也																																																												
第25回 循環器障害の基礎	佐野哲也、泉 良太																																																												
第26回 循環器障害の作業療法	佐野哲也、泉 良太																																																												
第27回 悪性腫瘍（がん）	佐野哲也、泉 良太																																																												
第28回 事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太																																																												
第29回 神経筋疾患	佐野哲也、泉 良太																																																												
第30回 事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太																																																												
アクティブラーニング	本授業は、PBL、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。																																																												

授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
評価方法	知識習得テスト70%及びポートフォリオ30%（まとめ、自己学修を含む）で判断します。 ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。 なお、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価し、ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックを実施します。 ポートフォリオ及び知識習得テスト返却時にフィードバックを実施します。
指定図書	山口昇、玉垣努、李範爽：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版、医学書院、2021
参考図書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください（各20分1、2回目、12～14回目、26、28回目）。 ・授業前にグループワーク課題を整理してください（各20分3～9回目、15～21回目、27、29回目）。 ・9回目、21回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください（各20分）。 ・ポートフォリオを作成してください（各20分1～30回目）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 本授業は、PBL、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、演習（スプリント作成）を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
評価方法	<p>知識習得テスト70%、ポートフォリオ30%（まとめ、自己学修を含む）で判断します。 ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。 なお、ポートフォリオと演習は、ルーブリックを用いて評価し、ルーブリックの内容は授業中に提示します。</p>
課題に対するフィードバック	<p>授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックを実施します。 ポートフォリオ及び知識習得テスト返却時にフィードバックを実施します。</p>
指定図書	<p>能登真一：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版、医学書院、2017 山口昇、玉垣努、李範爽：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版、医学書院、2021 日本整形外科学会：義肢装具のチェックポイント 第9版、医学書院、2021</p>
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 授業前に WebClass 内に提示された資料を確認してください（各 20 分 1、2 回目、5 回目、7 回目、11 回目、13 回目、15 回目、18 回目、25 回目、27、28 回目、30 回目）。 授業前にグループワーク課題を整理してください（各 20 分 3、4 回目、6 回目、8～10 回目、12 回目、14 回目、16、17 回目、26 回目、29 回目）。 10 回目、19 回目、30 回目の授業後に WebClass 内の小テストに回答してください（各 20 分）。 ポートフォリオを作成してください（各 20 分 1～30 回目）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tetsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	日常生活活動技術学
科目責任者	泉 良太
単位数他	1単位数(30時間数) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	基本的日常生活における作業の遂行方法を、疾患特有の心身機能・身体構造、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。 疾患別の福祉用具・住宅改修など環境調整の手段を学ぶ。
到達目標	1. ADL・IADLについて説明ができる。 2. ADL・IADL評価方法を述べる事ができる。 3. ADL・IADLの作業療法(直接的アプローチ・間接的アプローチ)を述べる事ができる。 4. 福祉用具・自助具・車いすについて説明ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第1回：オリエンテーション、ADL・IADLについて 泉 良太、佐野哲也 第2回：起居動作(臥位、寝返り、起き上がり)の評価 泉 良太、佐野哲也 第3回：起居動作(臥位、寝返り、起き上がり)の動作分析 泉 良太、佐野哲也 第4回：座位、立ち上がり、立位の評価 泉 良太、佐野哲也 第5回：座位、立ち上がり、立位の動作分析 泉 良太、佐野哲也 第6回：ADL評価尺度について 泉 良太、佐野哲也 第7回：ADL評価尺度について 泉 良太、佐野哲也 第8回：ADL評価尺度について 泉 良太、佐野哲也 第9回：ADL評価尺度について 泉 良太、佐野哲也 第10回：IADL・健康関連QOL尺度について 泉 良太、佐野哲也 第11回：福祉用具・自助具について 林 正春 第12回：福祉用具・自助具について 林 正春 第13回：車いすの調整について 泉 良太、佐野哲也 第14回：車いすの調整について 泉 良太、佐野哲也 第15回：まとめ 泉 良太、佐野哲也</p>
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
評価方法	定期試験50%、知識習得テスト30%、実技試験20%、計100% 実技の達成度の評価にはルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。

指定図書	柴 喜崇、下田信明：PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版、羊土社、2021
参考図書	伊藤 利之、江藤 文夫：新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際、医歯薬出版、2020
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください（各20分1～15回目）。 ・ 授業後はポートフォリオを作成し、実技の復習を実施してください（各20分1～15回目）。 ・ 5回目、9回目、14回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください（各10分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	日常生活活動技術学実習
科目責任者	佐野 哲也
単位数他	1単位数(45時間) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	日常生活における作業の遂行方法を、疾患別の機能障害、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。疾患別に福祉用具・住宅改修など環境調整の手段を学ぶ。
到達目標	①ADL・IADL 動作を疾患別に特徴を述べる事ができる。 ②ADL・IADL 動作を疾患別に介助と指導方法を述べる事ができる。 ③ADL・IADL 動作を疾患の特徴を踏まえて、実践することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員></p> <p>第1回：脳卒中片麻痺のADL・IADL 動作の特徴 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第2回：脳卒中片麻痺のADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第3回：脳卒中片麻痺のADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第4回：脳卒中片麻痺のIADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第5回：人工関節全置換術のADL・IADL 動作の特徴 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第6回：人工関節全置換術のADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第7回：人工関節全置換術のADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第8回：人工関節全置換術のIADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第9回：脊髄損傷のADL・IADL 動作の特徴 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第10回：脊髄損傷のADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第11回：脊髄損傷のIADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第12回：呼吸器疾患のADL・IADL 動作の特徴 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第13回：呼吸器疾患のADL・IADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第14回：関節リウマチのADL・IADL 動作の特徴 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第15回：関節リウマチのADL・IADL 動作の介助と指導方法 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第16回：神経難病のADL・IADL 動作の特徴 小出弘寿、佐野哲也</p> <p>第17回：神経難病のADL・IADL 動作の介助と指導方法 小出弘寿、佐野哲也</p> <p>第18回：脳性麻痺のADL・IADL 動作の特徴と介助方法 伊藤信寿、佐野哲也</p> <p>第19回：筋ジストロフィーのADL・IADL 動作の特徴と介助方法 伊藤信寿、佐野哲也</p> <p>第20回：演習 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第21回：演習 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第22回：全体のまとめ 佐野哲也、泉 良太</p> <p>第23回：全体のまとめ 佐野哲也、泉 良太</p>
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
評価方法	知識習得テスト50%、実技試験50%、計100% 実技の達成度の評価にはルーブリックを用いて評価します。

課題に対するフィードバック	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
指定図書	柴 喜崇、下田信明：PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版、羊土社、2021
参考図書	伊藤 利之、江藤 文夫：新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際、医歯薬出版、2020
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に WebClass 内に提示された資料を確認してください（各 20 分 1～23 回目）。 ・授業後はポートフォリオを作成し、実技の復習を実施してください（各 20 分 1～23 回目）。 ・4 回目、8 回目、11 回目、17 回目、22 回目の授業後に WebClass 内の小テストに回答してください（各 10 分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール（tetsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	高次脳機能障害学 (OT)		
科目責任者	鈴木 達也		
単位数他	2単位 (60時間) 作業必修 3セメスター		
DP番号と科目領域	DP4 専門		
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。		
科目概要	社会的問題としてとりあげられることが多くなった高次脳機能障害について学修を進めていきます。外見ではわかりづらい高次脳機能障害を、視聴覚教材や演習を用いて授業を進めていきます。また、中枢神経機能に関連する構造および高次脳機能の検査測定法について基礎的な理論と知識技術を学修する。さらに、高次脳機能障害者の取り巻く社会資源や環境についても学修する。		
到達目標	1.高次脳機能障害の症状について一般の人に対して説明することができる。 2.高次脳機能障害の評価を実施できる。 3.高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について家族に説明することができる。		
授業計画	<担当教員名>鈴木達也		
	回数	内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション・脳の構造を理解する	鈴木・栗田
	第2回	高次脳機能障害者とは何か?	鈴木・栗田
	第3回	高次脳機能障害の名称と症状	鈴木・栗田
	第4回	脳の構造と脳画像の見方	鈴木・栗田
	第5回	注意障害と作業療法 1	鈴木・栗田
	第6回	注意障害と作業療法 2	鈴木・栗田
	第7回	記憶障害と作業療法 1	鈴木・栗田
	第8回	記憶障害と作業療法 2	鈴木・栗田
	第9回	遂行機能と作業療法 1	鈴木・栗田
	第10回	遂行機能と作業療法 2	鈴木・栗田
	第11回	社会行動障害と作業療法 1	鈴木・栗田
	第12回	社会行動障害と作業療法 2	鈴木・栗田
	第13回	失語症と作業療法 1	鈴木・栗田
	第14回	失語症と作業療法 2	鈴木・栗田
	第15回	失語症と作業療法 1、中間確認テスト	鈴木・栗田
	第16回	失語症と作業療法 2	鈴木・栗田
	第17回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 1)	鈴木・栗田
	第18回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 2)	鈴木・栗田
	第19回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 3)	鈴木・栗田
	第20回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 4)	鈴木・栗田
	第21回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 5)	鈴木・栗田
	第22回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 6)	鈴木・栗田
	第23回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 7)	鈴木・栗田
	第24回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入 8)	鈴木・栗田
	第25回	認知機能と自動車運転 1	建木健
	第26回	認知機能と自動車運転 2	建木健
	第27回	高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する 1 ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネット しずおか	当事者家族
第28回	高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する 2	当事者家族	

	ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットワーク しずおか	
第29回	高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション1	鈴木・栗田
第30回	高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション2	鈴木・栗田
アクティブラーニング	PBL、TBL、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション	
授業内のICT活用	授業ごとに事前の予習動画を公開します。発表や情報報集にPCを使用します。	
評価方法	成績はポートフォリオ 20%、グループ課題 20%、iRAT30%、定期試験 30%で判断します TBL は開始時に iRAT (個別テスト) を行いますので、事前動画を確認してから授業に参加して下さい。	
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックをしていきます。 振り返り表及びポートフォリオ返却時にフィードバックを行います	
指定図書	標準作業療法学専門分野、高次脳機能作業療法学第2版、医学書院	
参考図書	作業療法全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害, 協同医書出版 和田 義明、リハビリスタッフ・支援者のためのやさしくわかる高次脳機能障害 症状・原因・評価・リハビリテーションと支援の方法、秀和システム 石合純夫「高次脳機能障害学」医歯薬出版 日本作業療法士協会「作業療法マニュアル身体障害(Ⅰ)」日本作業療法士協会 山鳥重, 早川裕子, 博野信次他「高次脳機能障害マエストロシリーズ①」医歯薬出版 鈴木孝治, 早川裕子, 種村留美他「高次脳機能障害マエストロシリーズ③」医歯薬出版 森惟明, 鶴見隆正「PT・OTのための脳画像のみかたと神経所見」医学書院 本田哲三「高次機能障害のリハビリテーション」医学書院	
事前・事後学修	講義ごとに事前動画を視聴してから参加して下さい。学修のテーマについて書籍及び文献等で調べてください。上記の教科書・参考図書が活用できます。事前・事後学修各回最低40分とします。	
オープンエデュケーションの活用	なし	
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。	
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。	
対外授業の実施について	なし	

科目名	精神領域作業療法学の基礎
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神障害作業療法を学ぶにあたって前提となる基本的事項を学習する。特に次の3点にポイントを置く。①精神医療の歴史と作業療法の歩みについてその関係性を検討する。②精神障害の特性について実際の事例を検討しながら学ぶ。③精神障害作業療法の目的と役割、治療構造について理解する。これらは精神障害作業療法の具体的プロセスと内容を学ぶ際の基礎となる。
到達目標	1. 精神医療の歴史と作業療法の歩みについて説明できる 2. 精神障害の特性について説明できる 3. 精神障害作業療法の目的と役割、治療構造について説明できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション 新宮尚人</p> <p>第2回：精神障害の特性について 新宮尚人</p> <p>第3回：精神保健医療福祉の動向と精神機能作業療法の歴史 新宮尚人</p> <p>第4回：精神保健医療福祉の動向と精神機能作業療法の歴史 新宮尚人</p> <p>第5回：統合失調症の基本的障害像 新宮尚人</p> <p>第6回：統合失調症の認知機能障害と評価尺度について 新宮尚人</p> <p>第7回：統合失調症の回復過程について 新宮尚人</p> <p>第8回：精神障害の特性とリカバリー 新宮尚人</p> <p>第9回：PBL 統合失調症の作業療法 1-① 新宮尚人</p> <p>第10回：PBL 統合失調症の作業療法 1-② 新宮尚人</p> <p>第11回：PBL 統合失調症の作業療法 2-① 新宮尚人</p> <p>第12回：PBL 統合失調症の作業療法 2-② 新宮尚人</p> <p>第13回：PBL発表 新宮尚人</p> <p>第14回：統合失調症の回復過程と作業療法について 新宮尚人</p> <p>第15回：精神保健福祉法/作業療法の実施規定 新宮尚人</p> <p>第16回：医療観察法における作業療法 冨澤涼子</p> <p>第17回：認知行動療法 新宮尚人</p> <p>第18回：認知機能障害に対するリハビリテーションと作業療法 新宮尚人</p> <p>第19回：気分障害の基本的障害像と作業療法について 飯田妙子</p> <p>第20回：気分障害の基本的障害像と作業療法について 飯田妙子</p> <p>第21回：神経症性障害の基本的障害像と作業療法について 新宮尚人</p> <p>第22回：神経症性障害の基本的障害像と作業療法について 新宮尚人</p> <p>第23回：摂食障害の基本的障害像と作業療法について 新宮尚人</p> <p>第24回：摂食障害の基本的障害像と作業療法について 新宮尚人</p> <p>第25回：精神障害者の就労支援について 藤田さより</p> <p>第26回：精神障害者の就労支援について 藤田さより</p> <p>第27回：精神科における面接について 藤田さより</p> <p>第28回：精神科における面接について 藤田さより</p> <p>第29回：学習した精神疾患の作業療法についてレビュー 新宮尚人</p> <p>第30回：授業のまとめ 新宮尚人</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、グループ学修や問題基盤型学習 (Problem Based Learning : PBL)を行います。

授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	知識習得テスト70%、レポート30% レポート評価に、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	知識習得テストについては、翌週の授業で解説を行います。
指定図書	1. 新宮尚人編：標準作業療法学 精神機能作業療法学 第3版. 医学書院 2. 上野武治編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』第4版. 医学書院 3. 山根 寛：精神障害と作業療法 新版. 三輪書店
参考図書	1. 朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版. 中央法規 2. 日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業治療学2 精神障害. 協同医学出版社 3. 山根 寛他：ひとと作業・作業活動 新版. 三輪書店 4. 山根 寛他：ひとと集団・場-集まり、集めることの利用- 第2版. 三輪書店 その他、必要に応じて授業中に紹介するその他、必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所を目を通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	対面で実施するため該当なし

科目名	精神領域作業療法学の応用	
科目責任者	藤田 さより	
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	小グループによる TBL、PBL、講義、演習を通じ、精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特性と具体的な作業療法アプローチについて学習する。関連理論や作業活動を軸とする作業療法の視点をいかに治療・援助に活かすのか詳細に検討する。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の基礎知識と疾患に伴う生活への影響について説明できる ・作業療法の基本プロセスについて説明できる ・精神系作業療法における評価（症状尺度、社会生活評価尺度等）について説明できる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、TBL 重要精神疾患 3 の作業療法について T</p> <p>第 2 回：TBL 重要精神疾患 3 の作業療法について TBL</p> <p>第 3 回：TBL 重要精神疾患 3 の作業療法について発表</p> <p>第 4 回：TBL 重要精神疾患 4 について講義</p> <p>第 5 回：TBL 重要精神疾患 4 について講義</p> <p>第 6 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度(PANSS, GAF, POMS など)</p> <p>第 7 回：観察法の講義と演習</p> <p>第 8 回：作業面接の講義と演習</p> <p>第 9 回：作業面接の講義と演習-</p> <p>第 10 回：社会機能尺度について演習と講義</p> <p>第 11 回：社会機能尺度について演習と講義</p> <p>第 12 回：認知行動療法・SST について講義</p> <p>第 13 回：実践家と当事者による講義 1</p> <p>第 14 回：実践家と当事者による講義 2</p> <p>第 15 回：最新の精神医療と授業のまとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより・飯田妙子</p> <p>藤田さより・飯田妙子</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより・飯田妙子</p> <p>藤田さより・飯田妙子</p> <p>藤田さより</p>
アクティブラーニング	TBL・PBLによる演習を行います。	
授業内のICT活用	Webclassによる事前事後学習（動画、パワーポイント使用）	
評価方法	レポート30% 小テスト20% 定期テスト50%	
課題に対するフィードバック	フィードバックペーパーに書かれた質問等は次回の講義で解説・返答致します。レポートに関してはコメントを書いて返却致します。テストの結果についてはお知らせしません。	
指定図書	<p>山根寛：精神障害と作業療法 第3版、三輪書店</p> <p>日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業治療学2 精神障害、協同医学出版社</p> <p>朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法、中央法規</p>	
参考図書	上野武治編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第3版』医学書院	
事前・事後学修	さまざまな精神疾患について学びます。各疾患の該当する箇所を事前事後で教科書を熟読すること。また各評価法に関しては同じ評価を用いた実践例が掲載されている事前事後に読んで重要なポイントをおさえておくこと（事前事後毎回40分）	

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ライブ授業の 実施につい て	講義・演習に関して ZOOM を用いたオンラインによる講義の場合があります。

	<p>第14回：その他の疾患について 目標：二分脊椎、骨関節疾患について説明できる 事前学修：二分脊椎、骨関節疾患の項目を通読し、説明資料を作成しておく</p> <p>第15回：まとめ 目標：第14回までに学修した内容を理解する 事前学修：第14回までの内容を復習する</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	反転授業、グループワーク
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。
評価方法	小テスト（60%以上）、ポートフォリオ（60%以上）、課題遂行（説明も含む）（60%以上）それぞれで60%以上が合格。 事前学習とポートフォリオはルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	小テストについて解説を行う。 授業中で質問時間を設ける。
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院
参考図書	上杉雅之（監修）イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社 岡庭 豊（企画）病気がみえる vol 7 脳・神経 メディックメディア
事前・事後学修	事前学修：提示した事前課題を遂行する（30分程度） 事後学修：単元テストに向け復習する（10分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	発達領域作業療法学の応用
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2単位 (60時間) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	発達領域における作業療法実践について学習する。具体的には、①疾患や障害に特有の適切な評価に必要とされる知識と検査の実施方法について学修する。さらに、評価結果を解釈し、総合的な視点から問題点を抽出し、適切な目標設定、作業療法プログラム立案までの過程を学修する。
到達目標	(1)発達領域における評価の目的、種類、およびその手順を説明できる。 (2)発達領域でよく用いられる検査のいくつかを行うことができる。 (3)評価結果から解釈、問題点抽出、目標設定、作業療法プログラムを立案することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>伊藤信寿</p> <p>第1,2回 発達領域における作業療法の実践 第3,4回 脳性まひ児に対する評価と解釈 第5,6回 脳性まひ児に対する評価の解釈 第7,8回 脳性まひ児に対するOTプログラム立案 第9,10回 脳性まひ児に対するOTプログラム立案 第11,12回 脳性まひ児に対する作業療法 第13,14回 自閉症スペクトラム障害に対する評価の解釈 第15,16回 自閉症スペクトラム障害に対するOTプログラム立案 第17,18回 AD/HDに対する評価の解釈 第19,20回 AD/HDに対するOTプログラム立案 第21,22回 学習障害に対する評価の解釈 第23,24回 学習障害に対するOTプログラム立案 第25,26回 知的発達障害に対する評価の解釈 第17,28回 知的発達障害に対するOTプログラム立案 第29,30回 発達領域における作業療法のまとめ</p>
アクティブラーニング	グループワーク
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。
評価方法	小テスト (60%以上)、ポートフォリオ (60%以上)、課題遂行 (説明も含む) (60%以上) それぞれで60%以上が合格。 事前学習とポートフォリオはルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	小テストについて解説を行う。 授業中で質問時間を設ける。 作業療法プログラムのレポートに対し、フィードバックを行う。

指定図書	イラストでわかる発達障害の作業療法 上杉雅之（監修） 医歯薬出版株式会社
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：提示した事前課題をまとめる（30分程度） 事後学修：授業の内容をポートフォリオに整理する（40分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

アクティブラーニング	PBL、TBL、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
授業内のICT活用	プレゼンテーションにPCを使用します
評価方法	成績はポートフォリオ 20%、グループ課題 10%、iRAT30%、定期試験 40%で判断します TBL は開始時に iRAT (個別テスト) を行いますので、事前動画を確認してから授業に参加して下さい。
課題に対するフィードバック	適宜、小テスト、ポートフォリオの確認を行い、学修の理解度、習得度を確認していく必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスを行う。
指定図書	矢谷令子監修：高齢期作業療法学 第3版：医学書院 田平隆行、田中寛之：Evidence Based で考える認知症リハビリテーション、医学書院
参考図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学4 老年期」作業療法全書、協同医書出版 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	事前学修 20 分以上、事後学修 20 分以上 各講義ごとにレジュメを配布し、教科書での該当箇所を言いますので、確認をすること。 単元終了時に小テストを行い、知識確認を行います。間違えた箇所は修正し、次回講義の際に提出すること。認知症の作業療法については TBL で行いますので、主体的・積極的な事前事後学修を期待します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：351 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	高齢期作業療法学演習		
科目責任者	鈴木 達也		
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択 5セメスター		
DP番号と科目領域	DP5 専門		
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。		
科目概要	高齢期領域の作業療法の実践に必要な技能を学び、高齢期領域に特徴的な疾病と病態、障害特性の関係を推論し、高齢者へ作業療法を実践する技能を経験し学びます、		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に作業暦を含めた面接が行えるようになる ・高齢者と信頼関係と治療的な共同関係を気づくことができる ・高齢期領域で用いられる技法を知り、対象者の特性に合わせて実践する ・高齢者に適したプログラムを立案実践できる。 		
授業計画	<担当：鈴木達也、栗田洋平>		
	回数	内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度	鈴木・栗田
	第2回	傾聴の技法、自己の治療的利用	鈴木・栗田
	第3回	作業療法と回想法・リアリティーオリエンテーション	鈴木・栗田
	第4回	作業療法とナラティブストーリー	鈴木・栗田
	第5回	自分史作りプロジェクト:ストーリーテリングとストーリーメイキング1	鈴木・栗田
	第6回	自分史作りプロジェクト:ストーリーテリングとストーリーメイキング2	鈴木・栗田
	第7回	高齢者施設の管理運営1	鈴木・栗田
	第8回	高齢者施設の管理運営2	鈴木・栗田
	第9回	高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践1	鈴木・栗田
	第10回	高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践2	鈴木・栗田
	第11回	自分史作りプロジェクト3	鈴木・栗田
	第12回	自分史作りプロジェクト4	鈴木・栗田
	第13回	高齢者と住環境整備	鈴木・栗田
	第14回	高齢者と住環境整備	鈴木・栗田
第15回	プロジェクト報告とまとめ	鈴木・栗田	
アクティブラーニング	グループワーク、PBL,施設見学、演習・施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。		
授業内のICT活用	プレゼンテーション、資料作成にPCを使用します		
評価方法	レポート50%、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。 ・ルーブリックの内容は授業中に提示する 		

課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーの返却、コメント
指定図書	矢谷令子監修：高齢期作業療法学 第3版：医学書院 田平隆行、田中寛之：Evidence Based で考える認知症リハビリテーション、医学書院
参考図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学4 老年期」作業療法全書，協同医書出版 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・ これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・ グループで相談し演習計画や評価の練習を行きましょう
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	精神領域作業療法学演習																																
科目責任者	藤田 さより																																
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択 6セメスター																																
DP番号と科目領域	DP5専門																																
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																
科目概要	精神科作業療法に関連する評価について臨床事例をベースとしたシナリオに基づき実践的に学習する。評価に基づいて具体的に作業療法プログラムを立案し、最終的に臨床実習で応用できる技術の習得を目指す																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業活動の特性を、作業療法の治療・援助に応用する視点について説明できる ・精神系作業療法におけるプログラム立案のポイントについて説明できる。 ・模範的に作業療法プログラムを実践できる 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：プログラム計画立案</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：プログラムの計画発表・準備</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：プログラム計画準備</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回：集団の利用</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：PBL プログラム立案演習①</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第7回：PBL プログラム立案演習②</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第8回：PBL プログラム立案演習③</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第9回：PBL プログラム立案演習④</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第10回：PBL プログラム立案演習⑤</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第11回：PBL 演習の振り返り</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：精神科領域における評価・レポートについて</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回：精神科領域における評価・レポートについて</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：臨床実習に関する講義</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：最新の精神障害作業療法の実際 授業のまとめ</td> <td>藤田さより</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際	藤田さより	第2回：プログラム計画立案	藤田さより	第3回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより	第4回：プログラム計画準備	藤田さより	第5回：集団の利用	藤田さより	第6回：PBL プログラム立案演習①	藤田さより・飯田妙子	第7回：PBL プログラム立案演習②	藤田さより・飯田妙子	第8回：PBL プログラム立案演習③	藤田さより・飯田妙子	第9回：PBL プログラム立案演習④	藤田さより・飯田妙子	第10回：PBL プログラム立案演習⑤	藤田さより・飯田妙子	第11回：PBL 演習の振り返り	藤田さより	第12回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより	第13回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより	第14回：臨床実習に関する講義	藤田さより	第15回：最新の精神障害作業療法の実際 授業のまとめ	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際	藤田さより																																
第2回：プログラム計画立案	藤田さより																																
第3回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより																																
第4回：プログラム計画準備	藤田さより																																
第5回：集団の利用	藤田さより																																
第6回：PBL プログラム立案演習①	藤田さより・飯田妙子																																
第7回：PBL プログラム立案演習②	藤田さより・飯田妙子																																
第8回：PBL プログラム立案演習③	藤田さより・飯田妙子																																
第9回：PBL プログラム立案演習④	藤田さより・飯田妙子																																
第10回：PBL プログラム立案演習⑤	藤田さより・飯田妙子																																
第11回：PBL 演習の振り返り	藤田さより																																
第12回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより																																
第13回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより																																
第14回：臨床実習に関する講義	藤田さより																																
第15回：最新の精神障害作業療法の実際 授業のまとめ	藤田さより																																
アクティブラーニング	この科目はPBLと演習・実践を行います。																																
授業内のICT活用	パソコン（ワード、パワーポイント）を用いたグループ演習、講義、webclassを用いた事前事後学習																																
評価方法	レポート100% ルーブリック評価を用いる																																
課題に対するフィードバック	毎回のフィードバックペーパーに書かれた内容について次回の講義で回答致します。レポートの内容には評価・コメントをつけて返却致します。																																

指定図書	山根寛：精神障害と作業療法. 三輪書店 新宮尚人編『精神機能作業療法学』, 医学書院 山根寛他：ひとと集団・場- 集まり、集めることの利用-. 三輪書店
参考図書	デニスグリーンバーガー『うつと不安の認知療法練習帳』 創元社
事前・事後学修	精神障害領域の作業療法では集団作業療法が多く実践されます。そのためこの授業では主に集団作業療法を企画、実践したいと思いますので、集団についての要点および集団作業療法に関する実践例等の文献を事前・事後に読むようにしてください【事前事後学修40分】
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515研究室 時間 12：00～13：00 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	講義、グループワークに関してZOOMによるオンラインの授業になる場合があります。

科目名	発達領域作業療法学演習
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	近隣にある児童通所施設を利用している対象児に対して、評価、観察、解釈、作業療法プログラムを立案し、治療法の一部を実施する。施設等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	(1)対象児に対して評価を実施することができる。 (2)評価結果を解釈し問題点を抽出することができる。 (3)プログラムを立案し実施することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第1回 オリエンテーション, 障害児通所施設について 伊藤信寿</p> <p>第2、3回 脳性まひ児に対するハンドリング 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第4、5回 発達障がい児に対する感覚統合 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第6、7回 発達障がい児に対する感覚統合 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第8、9回 発達障がい児と遊びの体験 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第10、11回 発達障がい児に対する遊びの企画 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第12、13回 発達障がい児に対するOT実践 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第14、15回 実践のフィードバック、まとめ 伊藤信寿、飯田妙子</p>
アクティブラーニング	グループワークを行い、各対象の作業療法プログラムを企画する。 障害児通所施設に通園している子どもに対して、実際に遊びを通して、観察評価、記録、遊びの企画、遊びの実践を行う。
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。
評価方法	レポート (50%), 演習 (遊びの企画・実践) (50%) レポートや演習はルーブリックを用いて評価する。 ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	作業療法プログラムのレポート、遊びの企画書のレポートに対し、ルーブリックを使用しながら、個別にフィードバックを行う。
指定図書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社

参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：実践の事前準備（30分程度） 事後学修：ループリックにより指摘されたことに関する振り返り（10分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	地域作業療法学
科目責任者	富澤 涼子
単位数他	2単位 (30時間) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域作業療法の基本的な考え方とライフステージに沿った、QOL の維持・向上を目指した作業療法の実践を学ぶ。作業療法実践に必要な法制度や作業療法実践を学ぶことで、作業療法対象者の全体像を捉えること、介入の方法・考え方を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活するクライアントの QOL を支援するために必要な基本的考え方を知る。 ・ライフステージに沿った法制度や作業療法実践を理解する。 ・作業療法士として地域に貢献するために必要な基礎的知識を身に付ける。
授業計画	<p><担当教員名> 富澤涼子、伊藤信寿、飯田妙子</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回: 地域リハビリテーションの流れ 富澤涼子 地域リハビリテーションの歴史と現状、考え方について説明する。</p> <p>第2回: ライフステージに沿った浜松市における法制度 富澤涼子、特別講師：浜松市障害福祉職員 浜松市職員より、浜松市の障害者、高齢者の生活状況と現在の市の取り組み、今後の課題等について説明する。</p> <p>第3回: 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割 富澤涼子 地域包括ケアシステムにおける作業療法の実践や作業療法士の地域支援の活動を知り、考える機会にする。</p> <p>第4～5回: 子どもの生活を支える作業療法 伊藤信寿 子育て支援や特別支援教育、学童保育における作業療法の役割、また、児童福祉における作業療法の役割について考える機会にする。</p> <p>第6～7回: 精神障害領域における地域作業療法 飯田妙子 不登校・引きこもりなど、思春期・青年期～成人期に至るまでの当事者の生活の変化を地域で支える作業療法（デイケア）の実践と課題について考える。</p> <p>第8～9回: 訪問における作業療法 富澤涼子 高齢者、子ども、精神障がい者などを対象にした訪問作業療法の実践やその役割について考える機会にする。</p> <p>第10～11回: 就労支援・職業・社会生活における作業療法 富澤涼子、特別講師：健木健 地域で障害を持つ人の就労を支えるための場づくりについて、制度や施策との連携、地域の資源の活用、新たな取りくみの創出の方法について説明する。</p> <p>第12～15回: 地域を創る支援 富澤涼子 地域作業療法について、介護保険制度の詳細と、現状行われている介護予防の取り組み、今後期待される取り組みについて PBL を実施する。</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	本授業は、PBLによるグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します。

授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。
評価方法	知識到達確認テスト 60% グループワークへの参加度 15% レポート（ルーブリックで評価） 25%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いて学修への関心や進行状況を確認していく。 必要に応じて課題遂行のためのアドバイスをを行う。
指定図書	太田睦美 編集：作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学，協同医書出版
参考図書	小川恵子編集：地域作業療法学（第2版）医学書院，2012
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に Webclass に掲示された資料を確認してください (第1～15回：各20分) ・授業後はポートフォリオを作成し、授業内容の復習をしてください (第1～15回：各20分) ・第3回、5回、7回、9回の授業終了後、WWebclass 内の小テストに回答してください (各10分) ・ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を 沢山持ちましょう。
オープンエデュケーションの活用	厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/index.html WAM・NET ホームページ https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	職業リハビリテーション学																																		
科目責任者	藤田 さより																																		
単位数他	2単位 (30時間) 作業必修 5セメスター																																		
DP番号と科目領域	DP7専門																																		
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。																																		
科目概要	地域作業療法の中で、近年、その活躍の場が広がりつつある職業関連活動を中心に、講義、演習を行います。また近隣地域での障害者に対する制度や取りくみや作業療法活動を調査し、作業療法士が地域で果たすべき役割、視点について理解します。																																		
到達目標	1. 職業リハビリテーションに関する制度、支援を理解する。 2. 職業関連活動で用いる各種評価法について理解し、実践できる。 3. 障害者に対する就労支援において重要なポイントを理解できる。 4. 障害者に対する就労支援において作業療法士の果たすべき役割を理解できる。 5. 地域で生活する障害者に対する施策について理解できる。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>担当教員：藤田さより</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1回：オリエンテーション 地域における課題（講義）</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：PBL：障害者の就労支援の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：PBL：障害者の就労支援の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：PBL：障害者の就労支援の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回：PBL：障害者の就労支援の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：実習：就労支援の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第7回：障害者特性に応じた就労支援の実際</td> <td>ゲストスピーカー 建木 健</td> </tr> <tr> <td>第8回：障害者特性に応じた就労支援の実際</td> <td>ゲストスピーカー 建木 健</td> </tr> <tr> <td>第9回：障害者特性に応じた就労支援の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第10回：障害者特性に応じた就労支援の実際</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第11回：地域のニーズに応える作業療法の可能性</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ（講義）</td> <td>藤田さより</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	担当教員：藤田さより		第1回：オリエンテーション 地域における課題（講義）	藤田さより	第2回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより	第3回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより	第4回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより	第5回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより	第6回：実習：就労支援の実際	藤田さより	第7回：障害者特性に応じた就労支援の実際	ゲストスピーカー 建木 健	第8回：障害者特性に応じた就労支援の実際	ゲストスピーカー 建木 健	第9回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより	第10回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより	第11回：地域のニーズに応える作業療法の可能性	藤田さより	第12回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより	第13回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより	第14回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）	藤田さより	第15回：まとめ（講義）	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																		
担当教員：藤田さより																																			
第1回：オリエンテーション 地域における課題（講義）	藤田さより																																		
第2回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより																																		
第3回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより																																		
第4回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより																																		
第5回：PBL：障害者の就労支援の実際	藤田さより																																		
第6回：実習：就労支援の実際	藤田さより																																		
第7回：障害者特性に応じた就労支援の実際	ゲストスピーカー 建木 健																																		
第8回：障害者特性に応じた就労支援の実際	ゲストスピーカー 建木 健																																		
第9回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより																																		
第10回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより																																		
第11回：地域のニーズに応える作業療法の可能性	藤田さより																																		
第12回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより																																		
第13回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより																																		
第14回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）	藤田さより																																		
第15回：まとめ（講義）	藤田さより																																		
アクティブラーニング	PBL・実習・グループワーク、プレゼンテーションを行います。																																		
授業内のICT活用	Webclassを用いた事前事後学習 パワーポイントでのプレゼンテーション																																		
評価方法	レポート60%（ルーブリック評価を用いる）、小テスト 40%																																		

課題に対するフィードバック	フィードバックペーパーに記載いただいた内容について、次回の授業時に回答、解説等を致します。レポートには、評価、コメントを記載し、返却致します。
指定図書	職リハ用語集編集委員会編 『職業リハビリテーション用語集—障害者雇用・就労支援のキーワード』やどかり出版
参考図書	松為信雄, 菊池恵美子 編『職業リハビリテーション学』協同医書出版社 平賀昭信, 岩瀬義昭編集『作業療法学全書改訂第3版 職業関連活動』協同医書出版社
事前・事後学修	各種障害に応じた就労支援のあり方について学びますので、精神障害、知的障害、高次脳障害、発達障害についての障害特性について事前事後に学修してください。また就労支援に関する法制度に関しては、関連するホームページを閲覧するようにしてください。(毎回事前事後40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイブリッド授業の実施について	講義・PBLによるグループ学習に関して、ZOOMによるオンラインの授業になる場合があります。

科目名	臨床作業療法基礎実習
科目責任者	飯田 妙子
単位数他	1 単位数 (45 時間) 作業必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場（病院や施設）にて 5 日間の見学を中心とした実習を行います。実践現場で作業療法士の行っていることを見学し、対象者とのコミュニケーションを通じて、作業療法のイメージを具体化する機会となります。また各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気づき、課題の克服に取り組むための 4 年間の学習の動機づけとします。
到達目標	1.作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。 2.作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。 3.作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。 4.実習初日に指導を受けたことについて、最終日までに改善に取り組む。
授業計画	<p><担当教員名> 飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平、鈴木達也</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 学内オリエンテーション（実習前） 実習に向けた準備を行う（5～7月に3コマ実施予定） 第1回：オリエンテーション（目的、意義など）、標準予防策について 第2回：支援技術演習（車椅子）、コミュニケーション演習など 第3回：身だしなみチェック、電話のかけ方、お礼状の書き方など</p> <p>2. 実習施設における臨床実習 体験実習時期は一人5日間（8～9月に予定） 体験実習施設は未定</p> <p>3. 学内セミナー（実習後） 実習で学んだ知識や経験、今後の課題等を整理する 実習終了後に開催を予定（2コマ）</p> <p>*オリエンテーション、実習時期・実習施設、学内セミナーの詳細は追って連絡する *学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須</p> <p>*この科目は実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションで実習が行われる場合がある。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱのいずれかの実習の内、1単位分実施される。</p>
アクティブラーニング	実習科目です。 学内セミナーではグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題の提出およびフィードバックを実施します。また、学内セミナーでのグループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。

評価方法	事前課題 20%、実習先の評価 30%、レポート 50% 提出物の未提出や遅延により減点する。 実習の評価、レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	学内ではレポート、事前課題の取り組みに対するフィードバックを行う。 臨床実習中は、実習指導者より実習への取り組み、レポートに対するフィードバックを受ける。
指定図書	なし
参考図書	矢谷令子：作業療法学概論、医学書院
事前・事後学修	事前学修：実習前に、実習先の特徴および対象領域について調べる（40分、課題提出あり） 感染対策、標準予防策について動画を視聴し、視聴後に感染対策に関する小テストに回答する（20分程度） 事後学修：実習期間中においては自宅にてその日の振り返りを行い、レポートにまとめること（5日分） 実習報告書、学内セミナーの内容等をまとめたレポートを学内セミナー後に Webclass にて提出
オープンエデュケーションの活用	実習前の事前学修として、下記 URL のオンライン教材を指定します。（事前・事後学修欄を参照） 日本作業療法士協会：感染症対策の基本、作業療法での具体的感染対策について https://www.jaot.or.jp/covid-19/gyoumu_vol3_movie/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（ taeko-i@seirei.ac.jp ）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	臨床作業療法応用実習
科目責任者	鈴木 達也
単位数他	2単位数 (90時間) 作業必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場（病院や施設）にて 10 日間の見学を中心とした実習を行います。臨床作業療法基礎実習の経験を踏まえ、各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気づき、課題の克服に取り組むための学習の動機づけとします。 実習期間中には対象者との信頼関係を築き、面接・情報収集を行い評価計画の立案を目標とします。
到達目標	1.作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。 2.作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。 3.作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。 4.実習初日に指導を受けたことについて、最終日まで改善に取り組む。 5. 対象者との信頼関係を築く 6. 対象者との面接を通してニーズを理解する 7. 対象者のニーズを実現するための評価計画を立てることができる
授業計画	<p><担当教員名> 鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 1. 学内オリエンテーション 鈴木 実習前学内オリエンテーションは 11 月、12 月、1 月の 3 回を予定 実習の目的・課題を確認し事前課題に取り組む</p> <p>2. 実習施設における臨床実習 <担当教員名> 鈴木、飯田、佐野、栗田 実習時期は一人 10 日間 実習地でオリエンテーションを行い施設概要・ルールを把握し実行する 対象者との信頼関係を築く 対象者 1 名以上と面接を行い情報収集を行う 対象者 1 名以上に対しての評価計画を立案する 実習施設は未定、学内オリエンテーションで報告する</p> <p>3. 学内セミナー < <担当教員名> 鈴木、飯田、佐野、栗田 学内セミナーは実習終了から 2 月下旬までに開催を予定している オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する 学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須。</p> <p>*この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われる場合があります。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ、Ⅱいずれかの実習の内 1 単位分実施されます。</p>

アクティブラーニング	実習科目。学内セミナーではグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを行う
授業内のICT活用	オリエンテーション、学内セミナーでPCを使用します
評価方法	事前課題 20%、実習先の評価 30%、レポート 50%、 提出物の未提出や遅延により減点する。 レポートはルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	学内ではレポート、事前課題の取り組みに対するフィードバック 臨床実習中は実習指導者よりフィードバックを受ける
指定図書	なし
参考図書	矢谷令子：作業療法学概論、医学書院 能登真一ら編集：作業療法評価学、医学書院
事前・事後学修	事前学修：実習前に、実習先の特徴および対象領域について調べておくこと。(40分) 事後学修：実習期間中においては、自宅にてその日の振り返りを行いレポートしてまとめること。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	臨床作業療法評価実習
科目責任者	泉 良太
単位数他	8単位 (360時間) 作業必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>学内外で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習へ向けて準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督のもと、8週間の作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、作業療法士として臨床現場で活用できる基盤をつくることの3本柱で構成される。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職業人としての望ましい態度や行動をとることができる ・対象者を理解する為の評価を実施できる ・対象者の全体像を把握できる ・対象者の作業療法計画を立案できる ・記録、報告をすることができる ・管理、運営について理解することができる ・内省を通して、行動の改善を行う事ができる
授業計画	<p><担当教員名> 泉 良太、伊藤 信寿、富澤涼子、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する 2 実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> 1～2週 オリエンテーション OTRの作業療法見学・理解 OTRの作業療法技術の見学・模倣・実施 3～5週 情報収集、評価計画立案、評価 6週 利点・問題点の抽出 7週 目標設定、治療計画立案 8週 治療実施（可能であれば、合格基準には含めない。） 実施内容の記録と振り返り 実習総括 3 学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> 1) 学んだことの整理 2) 担当事例（症例）および施設の報告 3) その他 <p>学内オリエンテーションは、第1回 8月上旬に実施予定 第2回 9月上旬に実施予定 第3回 9月下旬・10月中旬予定</p> <p>臨床実習時期は、10月下旬から12月中旬 学内セミナーは、1月上旬と下旬</p> <p>臨床実習施設は決定次第、連絡する。</p>

	<p>臨床実習指導者会議は9月に実施予定</p> <p>*この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われる場合があります。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ、Ⅱいずれかの実習の内1単位分実施されます。</p>
アクティブ ラーニング	学内セミナーでは、グループワークを含む。
授業内のIC T活用	WebClassにて資料配布を行う
評価方法	臨床実習指導者による最終評価をもとに、学内セミナーにおける報告内容と報告書およびポートフォリオの内容を考慮して、総合的に判断する。なお実習の成績評価は、実習中の教員訪問や電話などによる確認の中で、指導者・学生・教員の3者の協議も含めて判断する。実習地での到達度評価75%、学内演習25%（事前準備、事後の振り返り、実習オリエンテーション、実習セミナーを含む）。また、事例報告の達成度の確認には、ルーブリックを用いる。
課題に対す るフィード バック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点について内省を促し、確認する。
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）*オリエンテーション時に配布
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・学内で学習したすべての科目（基礎医学、臨床医学、作業療法専門科目）および面接・観察・検査・測定の実習を実施する（2週間程度） ・事例報告による作業療法の流れの確認、文献による作業療法のエビデンスを確認する（2週間程度）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3414 研究室</p> <p>時間については初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外 授 業 の 実 施 に 関 し て	なし

科目名	臨床作業療法総合実習 I
科目責任者	富澤 涼子
単位数他	7単位 (315 時間) 作業必修 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備をすること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下、7 週間の作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>1. 臨床作業療法評価実習を踏まえ、さらに実践的な臨床能力を養うために1 点目を最低限の目標とするが、2 点目についてもさらなる発展的な学習機会として経験を積むことが望ましい。</p> <p>対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。</p> <p>作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。</p>
授業計画	<p><科目担当教員> 富澤涼子、伊藤信寿、泉良太、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする。</p> <p>2. 実習施設における臨床実習 第1 週目 オリエンテーション OTR の作業療法見学・模倣・実施 第2 週目 担当対象者紹介、情報収集、評価計画立案、評価 第3 週目 評価、問題点・利点の抽出 第4 週目 目標設定、治療計画立案 第5 週目 治療実施、実施内容の記録と振り返り 第6 週目 治療実施 第7 週目 治療実施、実習総括</p> <p>3. 学内セミナー 1) 学んだことの整理 2) 担当事例 (症例) および施設の報告 3) その他</p> <p>・臨床作業療法評価実習の経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。 ・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用います。 *この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われる場合があります。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実</p>

	習、臨床作業療法総合実習 I,IIいずれかの実習の内 1 単位分実施されます。
アクティブラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	実習科目です。
評価方法	実習指導者による最終評価 75% その他（症例報告書、セミナーでの報告、ポートフォリオ） 25% 計 100%
課題に対するフィードバック	実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導（事例報告指導含む）
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	オリエンテーション時に随時連絡
事前・事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 ・ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 ・総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	臨床作業療法総合実習Ⅱ
科目責任者	藤田さより
単位数他	7単位(315時間) 作業必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下7週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床実習Ⅰ、Ⅱにおける内省を通して、指導者の指導のもと、以下の4点について模倣実施することを目標とする。</p> <p>(1)対象者に対し適切な評価を選択し、実施し、目標設定することができる。</p> <p>(2)対象者に対し適切な治療・指導・援助を計画し、実施することができる。</p> <p>(3)作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直し、修正することができる。</p> <p>(4)記録・報告を適切に行うことができる。</p>
授業計画	<p><担当教員> 藤田さより、富澤涼子、伊藤信寿、泉良太、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p>実習前オリエンテーション(1日) 初日：実習地オリエンテーション 1週目：作業療法の見学、対象者とのコミュニケーション、担当外対象者の作業療法の補助、見学 2週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学 3週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学 4週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学 5週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学 6週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学 7週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>実習後：学内セミナー 2日間 1) 学んだことの整理 2) 担当事例(症例) および施設の報告 3) その他</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。 *この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われる場合があります。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ、Ⅱいずれかの実習の内1単位分実施されます。</p>
アクティブラーニング	<p>実習科目です。</p> <p>Ⅰ期終了後、Ⅱ期実習までに2週間の期間があるので、その間にⅡ期の振り返りを踏まえ、課題となった点を整理し、Ⅱ期実習に向けた知識・技術確認などの準備を行うことが求められる。</p>
授業内のICT活用	実習科目です。

評価方法	臨床実習指導者による最終評価75% その他(学内セミナー、症例報告書, ポートフォリオ) 25%
課題に対するフィードバック	実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導(事例報告指導を含む)
指定図書	臨床実習ガイドブック(最新版)
参考図書	なし
事前・事後学修	・評価実習、総合実習Ⅰでの課題を踏まえ、総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515研究室 月曜日～金曜日 12:00～13:00 上記以外でもメール(sayori-f@seirei.ac.jp)でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は作業療法の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	実習地訪問指導、事前・事後指導はZOOMによるオンラインになる可能性があります。また施設での実習が困難となった場合はオンラインでの学内実習に変更となる可能性があります。

科目名	作業療法学内総合実習 I	
科目責任者	鈴木 達也	
単位数他	1 単位 (45 時間) 作業必修 6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	これまでに学んだ作業療法の学習を踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。作業療法の介入方法について学習する施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.作業療法介入のリーズニングについて説明できる 2.作業療法の介入理論について選択できる 3.対象者の状態をこれまでに学んだ評価を用いて理解できる 4.評価結果を基に対象者のニーズに適したプログラムを立案できる 	
授業計画	担当教員：鈴木達也、伊藤信寿、泉良太、冨澤涼子、藤田さより、飯田妙子 佐野哲也、栗田洋平 <授業内容・テーマ等> <担当教員名>	
	回数	内容
	第1回	オリエンテーション
	第2回	OTIPM (作業療法介入プロセスモデル) 作業療法の面接法
	第3回	学内実習1 (面接)
	第4回	学内実習1 (面接)
	第5回	学内実習1 (面接)
	第6回	作業遂行分析の視点と AMPS
	第7回	作業遂行分析の視点と AMPS
	第8回	クリニカルリーズニングと理論選択
	第9回	クリニカルリーズニングと理論選択
	第10回	学内実習2 (作業遂行観察と評価)
	第11回	学内実習2 (作業遂行観察と評価)
	第12回	学内実習2 (作業遂行観察と評価)
	第13回	介入方法の選択とエビデンス
	第14回	介入方法の選択とエビデンス
	第15回	学内実習3 (プログラム立案と介入)
	第16回	学内実習3 (プログラム立案と介入)
	第17回	学内実習3 (プログラム立案と介入)
	第18回	評価結果の解釈
	第19回	作業療法の目標設定
	第20回	作業療法の実践
	第21回	事例報告のまとめかた
	第22回	事例検討
第23回	事例検討	

科目名	臨床マネジメント論																																
科目責任者	藤田さより																																
単位数他	1単位 (30時間) 作業必修 8 Semester																																
DP番号と科目領域	DP7専門																																
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。																																
科目概要	4年間の総まとめとして、獲得した知識・技能の整理と統合をはかり不足している知識を補完する。また作業療法士として働くうえで必要な制度、組織、運営等について学び、臨床実践に備える。また、実習で作成したレポート等を活用し、MTDLPに関する理解を深める。 国家試験に向けて自分に合った勉強方法や対策を確認する。																																
到達目標	(1) 作業療法の実践に必要な制度、組織、管理・運営等を理解することができる。 (2) 様々な分野における作業療法の実践を理解することができる。 (3) 生活行為向上マネジメントについて理解し、概要を説明することができる。 (4) 国家試験の自分に合った勉強方法を獲得し、模擬試験で合格ラインへ到達する。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 組織管理運営</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回 作業療法教育について</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第3回 作業療法教育と臨床実習指導について</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第4回 後輩指導体験</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回 グループワーク</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回 グループワーク</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第7回 グループワーク プレゼンテーション</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第8回 生涯学習について</td> <td>岡庭隆門 (ゲストスピーカー)</td> </tr> <tr> <td>第9回 日本作業療法士協会・静岡県作業療法士会について</td> <td>岡庭隆門 (ゲストスピーカー)</td> </tr> <tr> <td>第10回 地域生活支援について</td> <td>宮崎宏興 (ゲストスピーカー)</td> </tr> <tr> <td>第11回 地域生活支援について</td> <td>宮崎宏興 (ゲストスピーカー)</td> </tr> <tr> <td>第12回 後輩育成について</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第13回 生活行為向上マネジメントについて (講義)</td> <td>泉良太・佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第14回 生活行為向上マネジメントについて</td> <td>泉良太・佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第15回 生活行為向上マネジメントについて</td> <td>泉良太・佐野哲也</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回 組織管理運営	藤田さより	第2回 作業療法教育について	鈴木達也	第3回 作業療法教育と臨床実習指導について	鈴木達也	第4回 後輩指導体験	藤田さより	第5回 グループワーク	藤田さより	第6回 グループワーク	藤田さより	第7回 グループワーク プレゼンテーション	藤田さより	第8回 生涯学習について	岡庭隆門 (ゲストスピーカー)	第9回 日本作業療法士協会・静岡県作業療法士会について	岡庭隆門 (ゲストスピーカー)	第10回 地域生活支援について	宮崎宏興 (ゲストスピーカー)	第11回 地域生活支援について	宮崎宏興 (ゲストスピーカー)	第12回 後輩育成について	ゲストスピーカー	第13回 生活行為向上マネジメントについて (講義)	泉良太・佐野哲也	第14回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太・佐野哲也	第15回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太・佐野哲也
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回 組織管理運営	藤田さより																																
第2回 作業療法教育について	鈴木達也																																
第3回 作業療法教育と臨床実習指導について	鈴木達也																																
第4回 後輩指導体験	藤田さより																																
第5回 グループワーク	藤田さより																																
第6回 グループワーク	藤田さより																																
第7回 グループワーク プレゼンテーション	藤田さより																																
第8回 生涯学習について	岡庭隆門 (ゲストスピーカー)																																
第9回 日本作業療法士協会・静岡県作業療法士会について	岡庭隆門 (ゲストスピーカー)																																
第10回 地域生活支援について	宮崎宏興 (ゲストスピーカー)																																
第11回 地域生活支援について	宮崎宏興 (ゲストスピーカー)																																
第12回 後輩育成について	ゲストスピーカー																																
第13回 生活行為向上マネジメントについて (講義)	泉良太・佐野哲也																																
第14回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太・佐野哲也																																
第15回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太・佐野哲也																																
アクティブラーニング	グループワーク、プレゼンテーション																																
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。																																
評価方法	各授業後におけるレポート (50%) , 国家試験模擬テスト (小テスト) の結果 (50%) レポートで評価するが、ルーブリックは用いない																																
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント、リアクションペーパーの質問に対して解説する																																
指定図書	なし																																

参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：実習で学んだことを復習する（20分） 事後学修：授業で学んだことをまとめる（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は作業療法の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	講義科目についてはZOOMを用いたオンラインで実施する可能性があります。

科目名	卒業研究
科目責任者	鈴木 達也
単位数他	4単位 (120 時間) 作業必修 8セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	4年間の専門的な授業や臨床実習を通して、疑問に思ったことや調べたいことを研究テーマとして、その疑問を解決する研究方法を学習し実施する。各担当教員のもと、研究課題の立案、研究課題の立案、研究方法の確立・実施、研究課題の考察を深め、発表及び論文作成を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究疑問を明確にすることが出来る 2. 研究疑問に対して解決する方法を期日までに実施する事が出来る。 3. 研究結果をまとめることが出来る 4. 研究結果を発表する事が出来る
授業計画	<p><担当教員名> 鈴木達也、伊藤信寿、泉良太、富澤涼子、藤田さより、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等> 研究疑問の設定 文献レビュー 研究目的と研究テーマの明確化 研究方法の決定 研究計画の作成 研究実施 研究分析 考察 論文執筆 発表用プレゼンテーションの作成 口頭発表 (発表7分 質疑3分) 卒業論文提出 11月上旬 (予定) 卒業論文発表 11月中旬 (予定) 1~3年生参加</p>
アクティブラーニング	グループ学修、ピアインストラクション、フィールドワーク等のいずれかをゼミ単位で実践、ゼミ単位のディスカッション、プレゼンテーション
授業内のICT活用	執筆、分析にPCが必要になります 発表はプロジェクターをいた報告会を行います
評価方法	研究論文70%、研究への取り組み20%、口頭発表10%
課題に対するフィードバック	研究への取り組み、発表内容についての指導教員からのコメントを行う

指定図書	竹田徳則・大浦智子編集：作業療法研究法. 医歯薬出版, 東京, 2017.
参考図書	友利幸之介・京極真・竹林崇：作業で創るエビデンス. 医学書院, 2019
事前・事後学修	自らの関心領域に関する文献を収集し、熟読, 文献リストを作成すること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511研究室 時間等：月、木、金曜日3限目、17時~18時 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	必用に応じて研究内容指導等, ZOOMによるオンライン指導を行う場合があります。

科目名	国際作業療法実習
科目責任者	鈴木 達也
単位数他	2単位数 (90 時間) 作業選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国内で学修した作業療法の基礎知識を土台に、海外のリハビリテーション関連施設での作業療法の実践に触れる実習である。作業療法士を目指す学生として、国際的な視野に立った視点の形成と、それに基づく新たな自己課題の発見および目標設定の機会とする。国内での教員の指導に加え、現地での教員による指導、作業療法関連スタッフの指導により実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習国のリハビリテーションの現状、作業療法士の役割について理解できる ・国際的な視野に立ち、作業療法士を目指す自己の課題を発見できる
授業計画	<p><担当教員名>鈴木達也、富澤涼子 ※現地での指導は、現地教員および、実習受入施設作業療法教員が行う。</p> <p><実習期間・人数> 実施期間：2022年2月上旬3月上旬までの間で2週間 対象人数：2名の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内オリエンテーション 実習前学内オリエンテーションは12月頃から週1回行う ・臨床実習 1週目 現地オリエンテーション、臨床実習施設にて実習 2週目 臨床実習施設にて実習 ・帰国後学内セミナー 実習の学びを報告する <p>オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する</p>
アクティブラーニング	本科目は実習科目です。事前研修は事前課題、ロールプレイ、プレゼンテーションを行います
授業内のICT活用	ICT機器を利用しながら双方向型の事前研修を実施します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ Learning Contract の内容 80% ・ 提出レポート 20%
課題に対するフィードバック	臨床実習施設にてフィードバックを受ける。帰国後にその記録を担当教員に提出し、フィードバックを受ける。

指定図書	なし
参考図書	菊池恵美子、山松ひさえ、吉川ひろみ：英語で学ぶ作業療法、シービーアール
事前・事後学修	事前学修（15時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ Leaning Contract(学習目的、方法)の作成指導 ・ 渡航・現地生活に関する指導・英会話講習（国際交流センター職員による） 事後学修（15時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国後はレポート（A4 サイズ 2～3 ページ）と感想を提出し、教員の指導を受ける
オープンエデュケーションの活用	外務省 https://www.mofa.go.jp/mofaj/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	レクリエーション演習																																	
科目責任者	泉 良太																																	
単位数他	1単位（30時間） 作業選択 4セメスター																																	
DP番号と科目領域	DP3 専門																																	
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																	
科目概要	<p>1. 様々な領域で用いられるレクリエーションを体験・企画し、その身体的・心理的効果を学修する。</p> <p>2. パラリンピック競技を体験し、余暇活動でもあるスポーツ面からの障害体験をする。</p> <p>3. 発達障害領域における治療法のひとつである感覚統合療法について理論、方法等について学修する。さらに、様々な対象グループに適応した感覚統合療法の企画から準備を行い、実際に対象児・者に対する指導を体験することにより、導入から感覚統合療法実施の実際を学修する。</p>																																	
到達目標	<p>1. レクリエーションを企画することができる。</p> <p>2. レクリエーションによる身体的・心理的効果について説明ができる。</p> <p>3. スポーツ面から障害児・者の理解ができる。</p> <p>4. 感覚統合療法を実施する対象児・者の理解ができる。</p> <p>5. 対象児・者に適した感覚統合療法の企画と準備ができる。</p>																																	
授業計画	<p><科目担当教員> 泉 良太、伊藤信寿</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: right;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第2回：レクリエーションについて</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第3回：レクリエーションの体験</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第4回：レクリエーションの企画</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第5回：レクリエーションの発表</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第6回：レクリエーションの発表</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第7回：パラリンピックについて</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第8回：パラリンピック競技の体験</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第9回：感覚統合療法について</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第10回：遊具で遊ぶ体験</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第13回：手づくり遊びの発表</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第14回：手づくり遊びの発表</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td style="text-align: right;">泉 良太</td> </tr> </tbody> </table>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション	泉 良太	第2回：レクリエーションについて	泉 良太	第3回：レクリエーションの体験	泉 良太	第4回：レクリエーションの企画	泉 良太	第5回：レクリエーションの発表	泉 良太	第6回：レクリエーションの発表	泉 良太	第7回：パラリンピックについて	泉 良太	第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太	第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿	第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿	第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第15回：まとめ	泉 良太
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																	
第1回：オリエンテーション	泉 良太																																	
第2回：レクリエーションについて	泉 良太																																	
第3回：レクリエーションの体験	泉 良太																																	
第4回：レクリエーションの企画	泉 良太																																	
第5回：レクリエーションの発表	泉 良太																																	
第6回：レクリエーションの発表	泉 良太																																	
第7回：パラリンピックについて	泉 良太																																	
第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太																																	
第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿																																	
第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿																																	
第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																	
第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																	
第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																	
第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																	
第15回：まとめ	泉 良太																																	

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。 ・演習科目です
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します
評価方法	レポート 40%、課題に対する取り組み 30%、発表 30%、計 100%
課題に対するフィードバック	レポート・発表・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、事前課題に回答すること（各回 40 分 2～14 回目） ・2 回目、7 回目、9 回目の授業後に WebClass 内の小テストに回答すること（各回 10 分）。 ・レポート「レクリエーション、感覚、発達障害について」を作成すること（120 分＝3 回分を要する）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	絵画療法
科目責任者	中道 芳美
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択 1セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	絵を描くことで、身体の諸機能への働きかけ、残存機能の維持と回復を促すことを知る。創造的な治療方法として、精神のリラックス効果、QOLの向上、心のケアを促すことを学ぶ。絵画による表現活動が人間に与える身体的、精神的、心理的、社会的な影響や効果について理解する。生涯学習の理解と応用を絵画から学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵画を通して、自己表現や他者との関わりを学ぶ。 2. 絵画制作の実技を通して、表現技術を学ぶ。(学生各自の実習体験) 3. 他者への共感的態度をもち、豊かな対人関係を築いて、チーム医療の実践ができる能力を身につける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>中道 芳美</p> <p>第1回：ガイダンス、知的障害児者、心身障害児者、高齢者(認知症含)作品紹介、世界の画家たち紹介 (障害者含む)</p> <p>第2回：実技体験、クレヨン、水彩絵の具の使い方表現、方法を学ぶ</p> <p>第3回：実技体験、模写、写生</p> <p>第4回：実技体験、自分の作品を描く</p> <p>第5回：実技、自分の作品を仕上げる、継続する大切さを学ぶ</p> <p>第6回：共同制作に取り組む、グループに分かれて話し合う</p> <p>第7回：共同制作作品のテーマに合う画材を学ぶ。世界の画家作品を参考とする。</p> <p>第8回：春の花の共同制作</p> <p>第9回：夏の花の共同制作</p> <p>第10回：行事用の共同制作</p> <p>第11回：右ききの人は左手で描くということ…実技体験</p> <p>第12回：残存機能の維持と回復を促す体験実技</p> <p>第13回：精神的影響、リラックス効果の体験実技</p> <p>第14回：絵てがみを描く、小さな画用紙使用</p> <p>第15回：作品完成、全体評価</p> <p>屋外での実技は天候により変動あり</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし

評価方法	実技・課題提出物 30%、授業態度 50%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	なし
指定図書	なし
参考図書	世界の画家作品（画集等）、講師が用意する。
事前・事後学修	なし
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「絵画講師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	発展的作業療法学
科目責任者	泉 良太
単位数他	1単位 (15 時間) 作業選択 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	作業療法領域における最近の研究内容を調べ、臨床実習で学修した知識および理論との統合を行う。また、最新の作業療法についてその方法と根拠について理解を深め、実際の対象者に合わせた作業療法が提供できるようにする。
到達目標	1. 各領域の最近の研究内容について説明できる。 2. 最新の作業療法の方法と根拠について列挙できる。
授業計画	<p><科目担当教員> 泉良太、伊藤信寿、富澤涼子、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : 身体領域作業療法における最近の研究内容について 泉 良太</p> <p>第2回 : 精神領域作業療法における最近の研究内容について 飯田妙子</p> <p>第3回 : 地域作業療法における最近の研究内容について 富澤涼子</p> <p>第4回 : 発達領域における最近の研究内容について 伊藤信寿</p> <p>第5回 : 就労支援における最近の研究内容について 藤田さより</p> <p>第6回 : 高齢期作業療法における最近の研究内容について 鈴木達也</p> <p>第7回 : 身体領域作業療法における最近の研究内容について (運動器系) 佐野哲也</p> <p>第8回 : 高齢期作業療法における最近の研究内容について (ロコモティブシンドローム) 栗田洋平</p> <p>*全ての回において、事前の文献抄読を必須とします。</p>

アクティブラーニング	・本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示を実施します。
評価方法	レポート（文献抄読）50%、知識習得テスト50%、計100%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント
指定図書	竹田徳則（編）：作業療法研究法、医歯薬出版、2017
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に文献抄読を行ってください（各回40分1～8回目）。 ・レポート「興味を持った研究領域について」を作成してください（120分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	言語聴覚障害学概論																														
科目責任者	柴本 勇																														
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 1セメスター																														
DP番号と科目領域	DP3専門																														
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。																														
科目概要	コミュニケーションの意義、種類、過程を学修した上で、言語聴覚障害学の歴史、現状、展望および言語聴覚障害の概要を学ぶ。小グループによるグループワークやコミュニケーション演習を通じて、言語聴覚障害学の基礎を主体的に学ぶ。さらに職業倫理、他職種との協働活動や連携の重要性、職能団体の役割と活動参加の意義を学ぶ。また、言語聴覚障害や言語聴覚士の臨床像を理解した上で、言語聴覚障害基礎実習へと移行する。																														
到達目標	1. コミュニケーションの意義、種類、過程が理解できる。 2. 言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚療法の対象、言語聴覚療法の概要が理解できる。 3. 言語聴覚士の臨床が理解できる。																														
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">第 1回：オリエンテーション(講義)</td> <td style="width: 30%;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 2回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 3回：言語聴覚療法の歴史</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 4回：言語聴覚療法の倫理</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 5回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い①)</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 6回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い②)</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 7回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い③)</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8回：グループワーク発表</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 9回：コミュニケーションの基本</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第10回：コミュニケーション演習</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第11回：小児言語障害の臨床</td> <td>小坂美鶴</td> </tr> <tr> <td>第12回：発声発語障害の臨床</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第13回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床</td> <td>谷 哲夫</td> </tr> <tr> <td>第14回：聴覚障害の臨床</td> <td>大原重洋</td> </tr> <tr> <td>第15回：摂食嚥下障害の臨床</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> </table>	第 1回：オリエンテーション(講義)	柴本 勇	第 2回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇	第 3回：言語聴覚療法の歴史	柴本 勇	第 4回：言語聴覚療法の倫理	柴本 勇	第 5回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い①)	柴本 勇	第 6回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い②)	柴本 勇	第 7回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い③)	柴本 勇	第 8回：グループワーク発表	柴本 勇	第 9回：コミュニケーションの基本	柴本 勇	第10回：コミュニケーション演習	柴本 勇	第11回：小児言語障害の臨床	小坂美鶴	第12回：発声発語障害の臨床	柴本 勇	第13回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫	第14回：聴覚障害の臨床	大原重洋	第15回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展
第 1回：オリエンテーション(講義)	柴本 勇																														
第 2回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇																														
第 3回：言語聴覚療法の歴史	柴本 勇																														
第 4回：言語聴覚療法の倫理	柴本 勇																														
第 5回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い①)	柴本 勇																														
第 6回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い②)	柴本 勇																														
第 7回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い③)	柴本 勇																														
第 8回：グループワーク発表	柴本 勇																														
第 9回：コミュニケーションの基本	柴本 勇																														
第10回：コミュニケーション演習	柴本 勇																														
第11回：小児言語障害の臨床	小坂美鶴																														
第12回：発声発語障害の臨床	柴本 勇																														
第13回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫																														
第14回：聴覚障害の臨床	大原重洋																														
第15回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展																														
アクティブラーニング	WebClassを用いて事前・事後学修を行う。 グループワークで様々な言語・コミュニケーション障害をもつ患者様の気持ちを理解するために主体的に学習する。																														
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。																														
評価方法	定期テスト80% リアクションペーパー10% グループ活動 (発表) 10%																														
課題に対するフィードバック	毎回の講義のリアクションペーパーに対して、次回講義時又は講義前にフィードバックする。 レポート・グループ学習では、評価視点を公開し自身でもフィードバックできるようにする。																														
指定図書	藤田郁代編 「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論第2版」 医学書院 食とコミュニケーション出版会「笑顔のかたちⅠ」																														

参考図書	大森孝一他編集：言語聴覚士テキスト第3版. 医歯薬出版
事前・事後学修	グループ学習では、指定された課題をグループで討議し、同時に自ら調べて答えを導き出す手法で行っていきます。言語聴覚障害については、講義前にあらかじめ指定図書を読み予習するように心がけてください。 WebClassを用いて、事前事後学修課題を提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3408研究室 時間等：毎週火曜 12：00～13：00 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
IT授業の実施について	

科目名	言語聴覚障害診断学																				
科目責任者	佐藤 豊展																				
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 5セメスター																				
DP番号と科目領域	DP4専門																				
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。																				
科目概要	1セメスターから5セメスターまでに学修した評価学の総まとめの科目である。獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、評価実習に備える。言語聴覚障害者にご協力いただき、成人の言語聴覚障害を総合的に評価し鑑別診断する。言語聴覚障害者を評価するための計画を立案する。面接や観察から言語聴覚障害の有無、種類、重症度をおおよそ把握し、適切な評価方法を選択・実施する。得られた情報や結果を統合し、全体像の把握、問題点の抽出、訓練プログラムの立案を行う。																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害の評価診断の基本的な手続きを説明し、模擬的に実施できる。 2. リハビリテーション専門職を目指す学生としての的確な行動がとれるよう、専門知識に偏らない社会常識を身につけることができる。 3. 収集する情報の種類と収集方法を計画・立案し、説明できる。 4. 言語聴覚障害者に対して、自由会話・情報収集からその障害像を把握し、適切な評価法を選択・説明できる。 5. 結果を分析後、得られた情報や結果を統合し、それらを説明できる。 6. 全体像を把握し、問題点の抽出方法を説明できる。 7. 症例報告書（情報、評価）の枠組みを説明し、模擬的に作成できる。 																				
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、評価診断について 目的、評価の技法、臨床データの解釈（妥当性・信頼性、正常値・標準値）、プロセスなど</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第2-3回： インテーク面接、会話・行動評価 ビデオ演習</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第4-5回： トランスファー・バイタルチェック</td> <td style="text-align: right;">高山真希</td> </tr> <tr> <td>第6回： 症例演習の発表、計画検討 ★評価計画書</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊、谷、佐藤順</td> </tr> <tr> <td>第7回： 準備</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊、谷、佐藤順</td> </tr> <tr> <td>第8-9回： 症例演習①（初回面接） ★日誌</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊、谷、佐藤順</td> </tr> <tr> <td>第10-11回： 症例演習②（総合検査） ★日誌</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊、谷、佐藤順</td> </tr> <tr> <td>第12-13回： 症例演習③（総合検査・掘り下げ検査） ★日誌、症例報告書</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊、谷、佐藤順</td> </tr> <tr> <td>第14-15回： OSCE（客観的臨床能力試験）</td> <td style="text-align: right;">全教員</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：オリエンテーション、評価診断について 目的、評価の技法、臨床データの解釈（妥当性・信頼性、正常値・標準値）、プロセスなど	佐藤豊展	第2-3回： インテーク面接、会話・行動評価 ビデオ演習	佐藤豊展	第4-5回： トランスファー・バイタルチェック	高山真希	第6回： 症例演習の発表、計画検討 ★評価計画書	佐藤豊、谷、佐藤順	第7回： 準備	佐藤豊、谷、佐藤順	第8-9回： 症例演習①（初回面接） ★日誌	佐藤豊、谷、佐藤順	第10-11回： 症例演習②（総合検査） ★日誌	佐藤豊、谷、佐藤順	第12-13回： 症例演習③（総合検査・掘り下げ検査） ★日誌、症例報告書	佐藤豊、谷、佐藤順	第14-15回： OSCE（客観的臨床能力試験）	全教員
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																				
第1回：オリエンテーション、評価診断について 目的、評価の技法、臨床データの解釈（妥当性・信頼性、正常値・標準値）、プロセスなど	佐藤豊展																				
第2-3回： インテーク面接、会話・行動評価 ビデオ演習	佐藤豊展																				
第4-5回： トランスファー・バイタルチェック	高山真希																				
第6回： 症例演習の発表、計画検討 ★評価計画書	佐藤豊、谷、佐藤順																				
第7回： 準備	佐藤豊、谷、佐藤順																				
第8-9回： 症例演習①（初回面接） ★日誌	佐藤豊、谷、佐藤順																				
第10-11回： 症例演習②（総合検査） ★日誌	佐藤豊、谷、佐藤順																				
第12-13回： 症例演習③（総合検査・掘り下げ検査） ★日誌、症例報告書	佐藤豊、谷、佐藤順																				
第14-15回： OSCE（客観的臨床能力試験）	全教員																				
アクティブラーニング	演習科目です。																				

授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	演習の準備・実技 30% レポート等提出物 30% OSCE (客観的臨床能力試験) 40% OSCEの達成度はルーブリックを用いて評価をします。 レポートはルーブリックを用いない。
課題に対するフィードバック	各自フィードバックし、授業内に解説します。
指定図書	深浦順一、植田 恵編集「標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法評価・診断学」医学書院 深浦順一、爲数哲司、内山量史編著「言語聴覚士のための臨床実習テキスト」建帛社
参考図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
事前・事後学修	[事前学修] 次回の演習までの準備を行うこと [事後学修] 演習で実施した内容を分析し、まとめること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3411研究室 時間等：毎週月曜日 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	

科目名	失語症学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	失語症学では、失語症について全般的に理解する。古典的分類と失語症タイプ別の特徴、および言語情報処理モデルによる言語症状の分析、症候群などについて学ぶとともに、評価・鑑別について理解する。
到達目標	1. 様々な言語障害の症状を理解し、症候群としての失語症を捉える事ができる。 2. 言語障害の症状を言語情報処理モデルに当てはめることが出来る。 3. 言語障害の症状を古典的分類や認知神経心理学的な階層性に基づいて理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <授業内容・テーマ等> 谷 哲夫</p> <p>第 1回：失語症の定義，歴史，原因疾患，病巣，言語症状</p> <p>第 2回：言語の神経学的基盤</p> <p>第 3回：失語症の古典的分類① ウェルニッケーリヒトハイムの図</p> <p>第 4回：失語症の古典的分類② ボストン学派の分類</p> <p>第 5回：失語症の言語症状</p> <p>第 6回：失語症周辺の症状</p> <p>第 7回：前半の復習① 言語の神経学的基盤，失語の古典的分類を中心に</p> <p>第 8回：前半の復習② 失語症の症状，周辺症状を中心に</p> <p>第 9回：認知神経心理学的情報モデルの構造と意味</p> <p>第10回：認知神経心理学的解釈 症状の当てはめ</p> <p>第11回：認知神経心理学的解釈 階層性の理解</p> <p>第12回：認知神経心理学的解釈 掘り下げ検査の選択法</p> <p>第13回：認知神経心理学的解釈 失読・失書の当てはめ</p> <p>第14回：後半の復習① ログジェンモデルを中心に</p> <p>第15回：後半の復習② 掘り下げ検査を中心に</p>
アクティブ ラーニング	反転授業の実施のためWebClassを活用します

授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験 70% 毎回の小テスト（復習テスト） 20% レポート 10%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）の解説は授業の中で行います。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる予習・復習（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	失語・高次脳機能障害評価演習																																
科目責任者	谷 哲夫																																
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 4セメスター																																
DP番号と科目領域	DP5専門																																
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。																																
科目概要	失語・高次脳機能障害の 評価について、標準化されている検査法について、グループ演習により検査の手順、結果の集約と解釈、問題点の抽出などについて学ぶ。演習（グループ演習）は失語症の評価に関係する検査を実施する。その結果を集約・解釈し、掘り下げ検査を選択、実施する。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語・高次脳機能障害の症状を捉えことができる。 2. グループ演習によって各種検査の手続きを習得することができる。 3. 問題点を抽出し掘り下げ検査を選択することができる。 4. 失語・高次脳機能障害の検査の結果をまとめることができる。 																																
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回：SLTAの概要</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 2回：SLTAの実施方法①（動画による）</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 3回：SLTAの実施方法②（動画による）</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 4回：SLTAの実施方法③（動画による）</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 5回：SLTAの実施方法④（動画による）</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 6回：SLTAの実施方法⑤（動画による）</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 7回：SLTAのまとめ方</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 8回：SLTA分析と解釈</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 9回：WAB失語症検査</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第10回：WAB失語症検査</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第11回：失語症語彙検査</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第12回：失語症構文検査</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第13回：トークンテスト</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第14回：SLTA-ST</td> <td>谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第15回：重度失語症検査</td> <td>谷哲夫</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1回：SLTAの概要	谷哲夫	第 2回：SLTAの実施方法①（動画による）	谷哲夫	第 3回：SLTAの実施方法②（動画による）	谷哲夫	第 4回：SLTAの実施方法③（動画による）	谷哲夫	第 5回：SLTAの実施方法④（動画による）	谷哲夫	第 6回：SLTAの実施方法⑤（動画による）	谷哲夫	第 7回：SLTAのまとめ方	谷哲夫	第 8回：SLTA分析と解釈	谷哲夫	第 9回：WAB失語症検査	谷哲夫	第10回：WAB失語症検査	谷哲夫	第11回：失語症語彙検査	谷哲夫	第12回：失語症構文検査	谷哲夫	第13回：トークンテスト	谷哲夫	第14回：SLTA-ST	谷哲夫	第15回：重度失語症検査	谷哲夫
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1回：SLTAの概要	谷哲夫																																
第 2回：SLTAの実施方法①（動画による）	谷哲夫																																
第 3回：SLTAの実施方法②（動画による）	谷哲夫																																
第 4回：SLTAの実施方法③（動画による）	谷哲夫																																
第 5回：SLTAの実施方法④（動画による）	谷哲夫																																
第 6回：SLTAの実施方法⑤（動画による）	谷哲夫																																
第 7回：SLTAのまとめ方	谷哲夫																																
第 8回：SLTA分析と解釈	谷哲夫																																
第 9回：WAB失語症検査	谷哲夫																																
第10回：WAB失語症検査	谷哲夫																																
第11回：失語症語彙検査	谷哲夫																																
第12回：失語症構文検査	谷哲夫																																
第13回：トークンテスト	谷哲夫																																
第14回：SLTA-ST	谷哲夫																																
第15回：重度失語症検査	谷哲夫																																
アクティブラーニング	演習科目です（各グループで演習をし、授業中に検査を行い、報告書をまとめます）																																
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。																																
評価方法	定期試験 50% 提出物・報告書 50% 上記による評価なのでルーブリックは用いません。																																
課題に対するフィードバック	演習中に各グループを巡回し解説をします。最後に質疑応答を行います。各検査のまとめのフィードバックをします。																																
指定図書	『標準失語症検査マニュアル』日本高次脳機能障害学会編集 新興医学出版 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社																																

参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる事前・事後学修の提示（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に検査マニュアルを確認し、各自でマニュアル・評価用紙を準備すること。 〔事後学修〕 授業で実施した検査を実施すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 谷(3406研究室) 時間等：毎週月曜日 11:15～13:15 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	失語症治療学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	失語症治療学では、臨床における一連の流れについて学習する。病期別に具体的なアプローチ方法を提示し、実際の症例を通して症状の分析、採用すべき治療法、および予後予測の方法を学ぶ。
到達目標	1. 病期別に失語症治療に対する言語聴覚士の心構えや姿勢を理解できる。 2. 検査結果をまとめ訓練プログラムの立案の考え方を理解できる。 3. 患者の生活場面を想定した準備の必要性が理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1回：失語症治療の概要 病期別治療目的 谷</p> <p>第 2回：急性期の失語症治療 リスク管理 谷</p> <p>第 3回：回復期の失語症治療 治療目的 検査 谷</p> <p>第 4回：回復期の失語症治療 結果解釈 治療プラン・方法 谷</p> <p>第 5回：維持期（生活期）の失語症治療 介護保険制度 社会資源の活用 谷</p> <p>第 6回：維持期（生活期）の失語症治療 治療方法・効果 谷</p> <p>第 7回：治療の理論と技法① 刺激法の6原則 機能再編成法 遮断除去法 ほか 谷</p> <p>第 8回：治療の理論と技法② 評価サマリー 経過報告書の書き方 谷</p>
アクティブラーニング	反転授業の実施のためWebClassを使用する
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験 60% 毎回の小テスト（復習テスト） 20% レポート 20%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）を授業の中で実施します。

指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる予習・復習（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	定期試験(50%) 報告書・レポート(50%)
課題に対するフィードバック	グループで報告書を提出。各障害の発表後に解説を行います
指定図書	『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著 医学書院 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第3版』小寺富子監修 協同医書出版社 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社
参考図書	なし
事前・事後学修	[事前学修] Webcass を使用します 指定図書の該当箇所を読んで理解する。 [事後学修] 各症例の報告書を作成し、発表できるように準備をする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 谷(3406研究室) 時間等：毎週月曜日 11:15~13:15 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	失語・高次脳機能障害治療演習		
科目責任者	佐藤順子		
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター		
DP 番号と科目領域	DP5 専門		
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。		
科目概要	<p>【失語】失語症例への評価・鑑別及びその言語聴覚療法の演習を通して学ぶ。失語症治療学の学修を生かして演習形式で治療を学生同士で模擬的に実践する、失語症の全体像の把握、問題点の整理、治療プランの立案、実施が含まれる。</p> <p>【高次脳】高次脳機能障害の各検査のグループ演習を行い、報告書の作成を行う。評価においては、各種検査手続き、結果の集約と解釈について具体的に学ぶ。</p>		
到達目標	<p>【失語】</p> <ol style="list-style-type: none"> 失語症例に対するリハビリテーション技法を説明できる。 理論に基づいた訓練計画をグループで立案し、学生同士で模擬的に実施できる。 <p>【高次脳】</p> <p>グループ演習によって各種検査の手続きを習得し、結果の集約と解釈をすることができる。</p>		
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	
	【高次脳検査演習】		
	第 1 回：認知症検査 (MMSE, HDS-R, MoCA-J)	佐藤順子	
	第 2 回：前頭葉機能検査 (CAT, FAB)	佐藤順子	
	第 3 回：高次視知覚検査 (VPTA)	佐藤順子	
	第 4 回：記憶検査① (WMS-R, S-PA)	佐藤順子	
	第 5 回：標準高次動作性検査 (SPTA)	佐藤順子	
	第 6 回：記憶検査② (RBMT, Rey)	佐藤順子	
	第 7 回：知能検査 (WAIS-III, Raven, コース立方体)	佐藤順子	
	【失語演習】		
	第 8 回：失語症の基本的治療の模擬的確認①	谷	
	第 9 回：失語症の基本的治療の模擬的確認②	谷	
	第 10 回：認知神経心理学的情報モデルの解釈に基づいた治療の立案と模擬的確認①	谷	
	第 11 回：認知神経心理学的情報モデルの解釈に基づいた治療の立案と模擬的確認②	谷	
	第 12 回：演習 1 日目 1 提示症例に対する治療の模擬的実践 (グループ) ①	谷	佐藤豊
	第 13 回：演習 1 日目 2 提示症例に対する治療の模擬的実践 (グループ) ②	谷	佐藤豊
	第 14 回：演習 2 日目 1 修正した治療の模擬的実践 (グループ) ①	谷	佐藤豊
	第 15 回：演習 2 日目 2 修正した治療の模擬的実践 (グループ) ②	谷	佐藤豊

アクティブ ラーニング	演習科目 【失語】 グループ形式で演習を実施し、治療プログラムについて意見を出し合う。 【高次脳】 各グループで演習をし、授業では検査者として他の学生に検査を実施します。
授業内の ICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	【失語】 課題のレポート 15% 演習の技能 15% 症例発表の内容 20% 【高次脳】 報告書(50%)
課題に対す るフィード バック	【失語】 リアクションペーパーへのコメント 【高次脳】 演習中に解説をし、質疑応答を行います。 報告書を提出してもらい、適宜コメントを行います。
指定図書	【失語】 藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 【高次脳】『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著医学書院 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【失語】 [事前学習] : Webcass を利用 演習では事前に自分の課題を明確にしてレポート作成 [事後学習] : 症例報告書の再作成 ルーブリックによる到達度確認 【高次脳】 [事前学修] Webcass を使用します 指定図書の該当箇所を読んで理解する。 検査演習では、事前にマニュアルを作成し、検査ができるようにしておく。 [事後学修] 検査演習の報告書を作成する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	【失語】 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します 【高次脳】 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：13:00～14：15（水曜日） 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て	

科目名	言語発達障害学基礎実習(保育園)
科目責任者	小坂美鶴
単位数他	1単位(45時間) 言語必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	9月前半に保育園にて5日間実習を行う。指定されたクラスに入り、朝から夕方まで子どもたちと一緒に過ごす。乳幼児の全体的な発達や言語発達の実際に触れ、1年次と2年次春セメスターに学んだ知識を現場で再確認し、再統合することを目的とする。同時に、保育士の業務内容や幼児との接し方、保育園の社会的役割を学ぶ。
到達目標	1. 健常発達を理解し、実習を通して知識を再確認することができる。 2. 保育士の業務内容を説明できる。 3. 社会人としての基本的態度を養うことができる。
授業計画	<p><担当教員名> 小坂美鶴、谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、大原重洋、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 社会人としての基本的態度を学ぶ 1) 保育園職員に対する適切な態度、ことば遣い 2) 園児や保護者に対する適切な態度、ことば遣い 3) 実習生としての適切な身なり、服装、態度</p> <p>言語聴覚学科の学生として学ぶ 1) 食事、着替え、排泄など、日常生活上の行為の発達 2) コミュニケーションや言語の発達 3) 遊びの内容の発達 4) 運動能力の発達 5) 幼児の個性、個人差について 6) 保育士の業務全般 7) 保育士の幼児との係わり方 8) 保育園の社会的役割 ※実習前にオリエンテーションを実施する</p>
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学修レポート 30%、実習態度・日誌 50%、実習後レポート 20%、計100%
課題に対するフィードバック	実習レポート、事前事後学修、実習日誌については実習担当者からフィードバックを行う

指定図書	なし
参考図書	『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学』 玉井ふみ他 医学書院
事前・事後学修	事前学修：発達に関する復習課題、社会人としてのマナー等を実施する 事後学修：実習の振り返りを行う。 ※事前・事後学修は各担当教員と行う
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3402 研究室、水曜 13：00～14：20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	言語発達障害学
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	小児の認知言語心理的な発達段階を理解した上で、各種障害の病態と障害像、原因と発現メカニズムを学び言語発達支援に必要な考え方を学ぶ。さらに、子どもの発達段階や障害特性に即した指導・支援法を学修する。
到達目標	1. 小児の発達段階別の特徴を捉えることができる。 2. 言語発達を阻害する各種障害の病態と障害像を説明することができる。 3. 脳性麻痺、重複障害の基本的な知識、言語を習得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴</p> <p>第 1 回：言語発達障害とは 第 2 回：前言語期・語彙獲得期の言語発達と障害 第 3 回：幼児期の言語発達と障害 第 4 回：学童期の読み・書き・算数障害 第 5 回：評価・診断 第 6 回：知的能力障害の病態 第 7 回：自閉症スペクトラム障害の病態 第 8 回：注意欠如/多動性障害の病態 第 9 回：コミュニケーション障害（特異的言語障害を中心に） 第 10 回：コミュニケーション障害（社会的語用論的コミュニケーション障害） 第 11 回：後天性小児失語症 第 12 回：運動要害（チック症、発達性強調運動障害など） 第 13 回：学習障害の病態 第 14 回：脳性麻痺の基本的知識 第 15 回：重複障害の基本的知識</p>
アクティブラーニング	事前に学習箇所のノートをまとめる。
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期テスト 80%、小テスト 20%
課題に対するフィードバック	単元ごとに小テストを実施し、解説する。 リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	深浦順一他 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第 3 版」医学書院 2021

参考図書	なし
事前・事後学修	教科書の当該箇所をまとめ、必要に応じて他資料を用い、資料を作成し、発表の準備を行う。
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402 研究室 時間等：毎週木曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	特になし

科目名	言語発達障害評価演習
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	言語発達障害学評価演習では、小児領域で良く用いられる検査の理論と手技を学ぶことを目的としている。授業は検査演習を多く取り入れる。
到達目標	1. 各検査の概要・解説を説明できる 2. 各検査を正しく実施できる 3. 各検査の結果のまとめができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴</p> <p>第1回：ガイダンス・観察・行動記録</p> <p>第2回：発達検査、知能検査、言語検査の種類</p> <p>第3回：発達検査 (KIDS、DENVER II、遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査法ほか)</p> <p>第4回：言語検査「LC スケール」</p> <p>第5回：言語検査「LCSA」</p> <p>第6回：言語検査 (語彙検査、統語検査)</p> <p>第7回：言語検査「国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査」検査方法</p> <p>第8回：言語検査「国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査」結果のまとめ方</p> <p>第9回：発達・知能検査「新版-K式発達検査2020」検査内容</p> <p>第10回：発達・知能検査「新版-K式発達検査2020」結果のまとめ方</p> <p>第11回：発達・知能検査「WISC-IV」or「WISC-V」</p> <p>第12回：発達・知能検査「WPPSI-III」</p> <p>第13回：発達・知能検査「田中ビネー-V」</p> <p>第14回：認知神経心理学的検査「K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー」</p> <p>第15回：認知神経心理学的検査「DN-CAS」</p>
アクティブラーニング	演習科目です。実際の検査バッテリーは必ず手に取って確認しておくこと
授業内のICT活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期テスト80%、受講態度・リアクションペーパー20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーには解答例を示し、フィードバックを行います
指定図書	石田啓代。石坂邦代編集：言語聴覚士のための言語発達障害学第2版。医師薬出版株式会社
参考図書	小寺富子・倉井成子・佐竹恒夫 「国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査マニュアル」 エスコ アール 新版 K 式発達検査研究会 「新版 K 式発達検査法 2020 年度版 標準化資料と実施法」 ナカニシヤ出版

	<p>上野一彦・松田修・小林玄・木下智子 「日本版 WISC-IVによる発達障害のアセスメント ―代表的な指標パターンの解釈と事例紹介―」 日本文化科学社</p> <p>藤田和弘（監） 「KABC-IIによる心理アセスメントの要点」 丸善出版</p> <p>その他の検査のマニュアルを参考にしてください</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：該当する検査のマニュアルを事前によく読みこんでおくこと ・事後学修：授業で行った検査はマニュアルを見なくても出来るように何度も繰り返し練習しておくこと
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3402 研究室</p> <p>時間等：毎週木曜 11：15～13：15</p> <p>上記以外でも在室時随時対応します</p>
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	言語発達障害治療学
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	言語発達障害学 I、II を踏まえて、言語発達障害児への具体的な指導方法について、グループで討議するなどして多様な方法を共有することができる。
到達目標	1. 様々な発達障害に対する指導法を説明できる。 2. 様々な場面における支援方法について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴</p> <p>第 1 回：言語発達障害児者のコミュニケーション支援の基本的視点 第 2 回：発達段階に応じた指導・支援（前言語期～幼児期） 第 3 回：発達段階に応じた指導・支援（学童期） 第 4 回：障害特性に応じた指導・支援（知的能力障害） 第 5 回：障害特性に応じた指導・支援（自閉症スペクトラム障害） 第 6 回：障害特性に応じた指導・支援（注意欠如・多動性障害） 第 7 回：障害特性に応じた指導・支援（特異的言語発達障害） 第 8 回：環境調整（カウンセリングマインドを含む） 第 9 回：訓練法（認知発達治療からのアプローチ） 第 10 回：訓練法（語用論的アプローチ） 第 11 回：訓練法（TEACCH プログラム） 第 12 回：訓練法（インリアルアプローチ） 第 13 回：訓練法（応用行動療法） 第 14 回：ICT 支援 第 15 回：他職種連携</p>
アクティブラーニング	事前に学習個所のノートをまとめる。
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 80%、授業態度・リアクションペーパー 20%
課題に対するフィードバック	毎回の授業に関する質問へのアドバイス、発表時のフィードバックを適宜行う。
指定図書	深浦順一、藤野博、石坂邦代編集：標準言語聴覚障害言語発達障害第 3 版。医学書院。2021 年
参考図書	特になし

事前・事後学修	毎回の事前学習（40分）：教科書を読む。 毎回の事後学修（40分）：資料を読んで内容を確認する。
オープンエデュケーションの活用	特に無し。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402 研究室 時間等：毎週木曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	言語発達障害治療演習
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	言語発達障害児の言語・コミュニケーションの評価・指導プログラムを立案する。さらに、協力者の協力を得て実践した実際の臨床観察から、経過と結果、所見、方針を設定する。
到達目標	1. 様々なアプローチ技術を理解し、事例を通して応用することができる。 2. 発達段階や障害を考慮しつつ指導・訓練計画をグループで立案し実施し、それを言語化し、まとめることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴</p> <p>第 1 回：言語発達障害児の臨床における関連情報の収集 第 2 回：検査の種類と実際①（演習） 第 3 回：検査の種類と実際②（演習） 第 4 回：言語訓練の流れ（症例の紹介） 第 5 回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方（検査結果からの分析） 第 6 回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方（行動観察からの分析） 第 7 回：提示した症例の分析（ICF でのまとめ方を学ぶ） 第 8 回：提示した症例の分析（ビデオ観察からの分析方法を学ぶ） 第 9 回：提示した症例の分析（検査結果からのまとめ方を学ぶ） 第 10 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討（グループでの検討） 第 11 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの修正（グループでの検討） 第 12 回：症例の評価サマリーとゴール設定、治療計画の立案（グループでの検討） 第 13 回：報告書・症例発表用の原稿の作成（グループでの検討） 第 14 回：報告会① 第 15 回：報告会②</p> <p>※学外協力者の有無や日時などにより第 10 回以降の授業内容変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	WebClass 上の課題を踏まえて、協力者の協力を得て実践した実際の臨床観察から、経過と結果所見、方針を設定する際にはグループでの学習を行い、様々な意見をまとめることが中心となる。
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 80%、レポート・リアクションペーパー10%、グループ活動 10%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	深浦純一・内山千鶴子編著：言語聴覚士のための臨床実習テキスト，建帛社

参考図書	なし
事前・事後学修	教科書の当該箇所を纏め、必要に応じて他資料を用い、グループ毎に資料を作成し、発表の準備を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402 研究室 時間等：毎週木曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	発声発語障害学総論
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発声発語障害は、発声発語器官の構造・機能の問題によって、発話が音響学的に変化した状態である。本科目では、発声発語障害を構造・機能の側面から学び、それぞれがどのような症状と関連するかについて概要を学ぶ。疾患と発声発語障害についても学ぶ
到達目標	1. 発声発語障害の種類と特徴を説明することができる。 2. 発声発語障害を構造・機能的側面から分析できる。 3. 疾患と発声発語障害の関係を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>柴本 勇</p> <p>第1～2回：機能的要因による発声発語障害（機能的構音障害）</p> <p>第3～4回：構造的要因による発声発語障害（口蓋裂に伴う構音障害）</p> <p>第5～6回：運動的要因による発声発語障害（運動障害性構音障害）</p> <p>第7～8回：音声障害に伴う発声発語障害（音声障害）</p>
アクティブラーニング	グループ討議を実施します
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	レポート50%、グループ発表50%、計100% レポート評価についてはルーブリックは用いない
課題に対するフィードバック	グループ発表やレポートについてフィードバック・解説を行います。
指定図書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」(医学書院、2021)
参考図書	なし

事前・事後学修	指定図書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室：3号館 4階 3408 研究室 オフィスアワー：初回講義時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	音声障害学
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発声にかかわる喉頭の解剖と生理を理解し、音声障害を来す病理的メカニズムを学ぶ。異常な音声の評価方法(聴覚的評価・内視鏡検査・空気力学的検査・音響学的検査など)を知り、評価・診断に基づく治療方針の立て方を理解する。また、音声訓練の考え方と様々な手法を理解し、基礎的な技術を習得する。喉頭摘出後の代替音声についても理解する。
到達目標	1. 正常発声のメカニズム・病的発声のメカニズムを説明できる。 2. 音声障害の問題を適正に捉え、評価・分析できる。 3. 音声障害患者の問題を解決する適切な治療方法を具体的に提示できる。 4. 音声障害患者に対する医師や他専門職と連携した治療について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>◆第 1回：オリエンテーション・音声の産生と知覚 柴本 勇 (教科書：P2～9、P39～42) 【学習内容】喉頭の構造、喉頭の働き、喉頭の枠組み、喉頭筋、神経支配、声帯の構造、呼吸器の構造、呼吸の仕組み、発声と呼吸、発声のメカニズム</p> <p>◆第 2回：音声障害の症状とその原因 柴本 勇 (教科書：P58～59) 【学習内容】声の高さ・強さ・質・持続の異常、声の特殊な異常、声帯組織の器質的病変、声帯運動の異常、気管切開、無喉頭音声</p> <p>◆第 3回：音声障害の原因疾患と症状、関連障害 柴本 勇 (教科書：P61～75) 【学習内容】声帯組織の器質的病変、声帯運動の異常、声帯組織に著変な病変がない音声障害、発話障害、聴覚障害、内分泌障害、精神疾患</p> <p>◆第 4回：音声障害の評価法① 柴本 勇 (教科書：P76～81) 【学習内容】評価診断の原則、医師が行う検査(喉頭の観察法)、聴覚心理的評価</p> <p>◆第 5回：音声障害の評価法② 柴本 勇 (教科書：P82～91) 【学習内容】言語聴覚士が行う評価(声の高さ・強さ・持続)、機器を用いた検査、自覚的評価、評価の解釈、訓練適応</p> <p>◆第 6回：音声障害の治療(薬物療法、外科的治療を含む) 柴本 勇 (教科書：P94～117：P95～P102を除く) 【学習内容】医学的治療、行動学的治療、薬物療法、外科的治療、無喉頭音声、気管切開のコミュニケーション</p> <p>◆第 7回：音声障害の訓練法(演習) 柴本 勇 (教科書：P95～102) 【学習内容】声の衛生指導、生活環境設定、訓練手技の選択、各訓練手技：演習も含む</p> <p>◆第 8回：音声治療とチームアプローチ ゲストスピーカー (別資料) 【学習内容】ボイストレーナーとの連携</p>
アクティブラーニング	WebClass の活用・反転授業

授業内のICT活用	WebClass、ZOOM等を活用します。
評価方法	定期試験：50%、事前課題：30%、事前テスト10%、事後テスト10%
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、事前課題・リアクションペーパーに対するコメントをします。 毎回講義終了時に、事前テストの解説を行います。
指定図書	城本修、原由紀 編：「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」(医学書院)
参考図書	「新編 声の検査法」(医歯薬出版) 「動画で見る音声障害」(インテルナ出版)
事前・事後学修	WebClass を用いて、事前課題・事前テスト・事後テストを行います。 WebClassの機能を活用して質問を受けます。
オープンエデュケーションの活用	なし。ただし、講義の中で適宜参考になるWebsiteを用いたり、紹介したりしながら展開していきます。
オフィスアワー	研究室：3号館 4階 3408研究室 オフィスアワー：初回講義時に提示します。 ※随時メールでの質問を受けます。メール： isamu-s@seirei.ac.jp ※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

アクティブ ラーニング	異常構音の練習を実際に発音できるように練習します
授業内の ICT活用	なし
評価方法	小テスト 100%
課題に対する フィード バック	小テストは次の時間に返却し、フィードバックを行います
指定図書	「構音障害の臨床 -基礎知識と実践マニュアル- 改訂第2版」(金原出版、2003年)
参考図書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」(医学書院、2015)
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業初回に全てのレジュメを配布します。レジュメを見て教科書の該当箇所を読んでおき、空白部分の穴埋めをしておくといよいでしょう。 ・異常構音は自分で発音できるように、声に出して練習しましょう。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3402 研究室、水曜 13 : 00~14 : 20
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業 の実施につ いて	なし

科目名	成人構音障害学
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	運動障害性構音障害と口腔癌治療後など後天性の器質性構音障害について、発声メカニズムや症状を原因と関連づけて理解する。タイプ分類と特徴を理解し、症例の評価分析からタイプ分類ができるようになる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発話運動および発声発語の神経学的基盤を説明できる。 2. 成人系発話障害の原因と発症メカニズムを説明できる。 3. 運動障害性構音障害の定義、および障害構造を説明できる。 4. 運動障害性構音障害のタイプと病態生理、および症状を説明できる。 5. 器質性構音障害について説明できる。
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： オリエンテーション、発話運動の基礎（加齢変化含む） ★小テスト</p> <p>第2回： 発声発語の神経学的基盤とその病理 成人系発話障害の原因と発症メカニズム(運動性・器質性)</p> <p>第3回： 運動障害性構音障害の基礎理論 ★小テスト</p> <p>第4回： 痙性構音障害の病態・症状</p> <p>第5回： 弛緩性構音障害の病態・症状 ★小テスト</p> <p>第6回： 失調性構音障害の病態・症状</p> <p>第7回： 運動低下・運動過多性構音障害の病態・症状 ★小テスト</p> <p>第8回： 器質性構音障害（口腔・中咽頭がん） ★レポート</p>

アクティブ ラーニング	Webclass を活用して、レポート課題を行います。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	レポート 20%、小テスト 80% (計 4 回、各 20%) レポートは、ループリックを用いない。
課題に対す るフィード バック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第 1 巻 理論編」インテルナ出版 溝尻源太郎・熊倉勇美編著「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション—構音障害、摂食・嚥下障害」医歯薬出版
参考図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第 2 巻 臨床基礎編」インテルナ出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
事前・ 事後学修	1 回の事前・事後学修時間は 40 分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclass で提示します。 小テストは下記の通り行います。 ①第 1 回：発声発語の神経学的基盤とその病理 ②第 3 回：第 1～2 回の講義内容 ③第 5 回：第 3～4 回の講義内容 ④第 7 回：第 5～6 回の講義内容
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3411 研究室、月曜 9：00～12：00 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
代替授業 の実施につ いて	

科目名	発声発語障害評価演習																														
科目責任者	佐藤 豊展																														
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 5セメスター																														
DP番号と科目領域	DP5 専門																														
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力につなげることができる。																														
科目概要	小児構音障害学、成人構音障害学を踏まえて、実際に発声発語障害のある方にご協力頂き、評価から訓練プログラムの立案までをグループ演習で行う。 成人構音障害は、評価学について学んでいく。評価診断の原則やプロセスについて理論を学んでいく。運動障害性構音障害の発話評価、発声発語器官検査、神経学的検査について演習を通して学ぶ。検査後は、発生メカニズムや症状を原因と関連づけて分析し、タイプ分類や問題点の抽出を行う。グループ演習を用いた学習を通じて主体的に行う。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の構音障害の発話を聞き取り IPA で表記できる 2. 新版一構音検査、口蓋裂言語検査を実施し、結果をまとめることができる 3. 運動障害性構音障害の評価法を理解し、模擬的に実施することができる。 4. 各種評価結果を分析し、情報の統合方法を説明できる。 5. 問題点の抽出方法を理解することができる。 6. 症例報告書の書き方を説明できる。 																														
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、ゲストスピーカー</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 評価理論・概要（評価診断の原則・枠組み・プロセス、病期など）</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： 評価方法1：会話評価①</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： 評価方法1：会話評価②</td> <td>★レポート 佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査①</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査②</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： 評価方法3：神経学的検査</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第7回： 症例模擬演習（ビデオ演習）</td> <td>★レポート 佐藤豊展、柴本勇</td> </tr> <tr> <td>第8回： 検査結果のまとめ方、問題点の抽出・訓練プログラム立案、症例報告書の書き方</td> <td>★確認テスト 佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回： 機能性構音障害の評価</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第10回： 新版一構音検査①</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第11回： 新版一構音検査②</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第12回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA表記</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第13回： //</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第14回： 器質性構音障害の評価</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第15回： 口蓋裂言語検査</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> </table> <p>*第1～8回は成人構音障害、第8～15回は小児構音障害</p>	第1回： 評価理論・概要（評価診断の原則・枠組み・プロセス、病期など）	佐藤豊展	第2回： 評価方法1：会話評価①	佐藤豊展	第3回： 評価方法1：会話評価②	★レポート 佐藤豊展	第4回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査①	佐藤豊展	第5回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査②	佐藤豊展	第6回： 評価方法3：神経学的検査	佐藤豊展	第7回： 症例模擬演習（ビデオ演習）	★レポート 佐藤豊展、柴本勇	第8回： 検査結果のまとめ方、問題点の抽出・訓練プログラム立案、症例報告書の書き方	★確認テスト 佐藤豊展	第9回： 機能性構音障害の評価	ゲストスピーカー	第10回： 新版一構音検査①	ゲストスピーカー	第11回： 新版一構音検査②	ゲストスピーカー	第12回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA表記	ゲストスピーカー	第13回： //	ゲストスピーカー	第14回： 器質性構音障害の評価	ゲストスピーカー	第15回： 口蓋裂言語検査	ゲストスピーカー
第1回： 評価理論・概要（評価診断の原則・枠組み・プロセス、病期など）	佐藤豊展																														
第2回： 評価方法1：会話評価①	佐藤豊展																														
第3回： 評価方法1：会話評価②	★レポート 佐藤豊展																														
第4回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査①	佐藤豊展																														
第5回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査②	佐藤豊展																														
第6回： 評価方法3：神経学的検査	佐藤豊展																														
第7回： 症例模擬演習（ビデオ演習）	★レポート 佐藤豊展、柴本勇																														
第8回： 検査結果のまとめ方、問題点の抽出・訓練プログラム立案、症例報告書の書き方	★確認テスト 佐藤豊展																														
第9回： 機能性構音障害の評価	ゲストスピーカー																														
第10回： 新版一構音検査①	ゲストスピーカー																														
第11回： 新版一構音検査②	ゲストスピーカー																														
第12回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA表記	ゲストスピーカー																														
第13回： //	ゲストスピーカー																														
第14回： 器質性構音障害の評価	ゲストスピーカー																														
第15回： 口蓋裂言語検査	ゲストスピーカー																														

アクティブ ラーニング	演習はグループ形式で行います。 Webclass を活用して、レポート課題を行います。
授業内の ICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	定期試験 70%、レポート 20%、確認テスト 10% *小児構音障害：定期試験 50% *成人構音障害：定期試験 20%、レポート 20%、確認テスト 10% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対す るフィード バック	症例計画書・報告書、レポートの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編」インテルナ出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアルー 改定第2版」金原出版
参考図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編」インテルナ出版
事前・ 事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclass で提示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3411 研究室、月曜 15:00～17:30
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施につ いて	

科目名	発声発語障害治療演習																										
科目責任者	佐藤 豊展																										
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 6セメスター																										
DP番号と科目領域	DP5 専門																										
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。																										
科目概要	小児構音障害学、成人構音障害学、発声発語障害評価演習を踏まえて、発声発語障害の治療を学んでいく。講義では模擬的に治療を実施することで具体的な治療手技を習得する。事例検討を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の構音障害児の発話から、評価、治療プログラム立案、治療までの一連の臨床の流れを理解し、模擬的に実施することができる 2. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。 3. 事例検討時に症状や特徴を把握し、問題点の抽出や方針・目標・訓練プログラムの立案方法を理解できる。 4. 症例報告書の書き方を理解し、作成することができる。 																										
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、ゲストスピーカー</p> <table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td> <td><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第1回： 訓練理論/ 症例報告書の書き方 ★レポート</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： 機能改善訓練① (呼吸機能・発声機能)</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： 機能改善訓練② (鼻咽腔機能・口腔構音機能)</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： 機能改善訓練③ (口腔構音機能)</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 代償的訓練①</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： 代償的訓練②</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第7回： 代償的訓練③/AAC ★確認テスト (第1-6回)</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第8回： 小児の構音障害の評価</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第9回： 小児の構音障害の治療</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第10～11回： 症例演習 (グループごとにPBL にて実施)</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第12～13回： 症例演習 (グループごとにPBL にて実施)</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第14～15回： 症例発表</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> </table> <p>*第1～7回は成人構音障害、第8～15回は小児構音障害</p>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回： 訓練理論/ 症例報告書の書き方 ★レポート	佐藤豊展	第2回： 機能改善訓練① (呼吸機能・発声機能)	佐藤豊展	第3回： 機能改善訓練② (鼻咽腔機能・口腔構音機能)	佐藤豊展	第4回： 機能改善訓練③ (口腔構音機能)	佐藤豊展	第5回： 代償的訓練①	佐藤豊展	第6回： 代償的訓練②	佐藤豊展	第7回： 代償的訓練③/AAC ★確認テスト (第1-6回)	佐藤豊展	第8回： 小児の構音障害の評価	ゲストスピーカー	第9回： 小児の構音障害の治療	ゲストスピーカー	第10～11回： 症例演習 (グループごとにPBL にて実施)	ゲストスピーカー	第12～13回： 症例演習 (グループごとにPBL にて実施)	ゲストスピーカー	第14～15回： 症例発表	ゲストスピーカー
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																										
第1回： 訓練理論/ 症例報告書の書き方 ★レポート	佐藤豊展																										
第2回： 機能改善訓練① (呼吸機能・発声機能)	佐藤豊展																										
第3回： 機能改善訓練② (鼻咽腔機能・口腔構音機能)	佐藤豊展																										
第4回： 機能改善訓練③ (口腔構音機能)	佐藤豊展																										
第5回： 代償的訓練①	佐藤豊展																										
第6回： 代償的訓練②	佐藤豊展																										
第7回： 代償的訓練③/AAC ★確認テスト (第1-6回)	佐藤豊展																										
第8回： 小児の構音障害の評価	ゲストスピーカー																										
第9回： 小児の構音障害の治療	ゲストスピーカー																										
第10～11回： 症例演習 (グループごとにPBL にて実施)	ゲストスピーカー																										
第12～13回： 症例演習 (グループごとにPBL にて実施)	ゲストスピーカー																										
第14～15回： 症例発表	ゲストスピーカー																										

アクティブ ラーニング	演習はグループ形式で行います。 Webclass を活用して、レポート課題を行います。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	定期試験 80%、レポート 10%、確認テスト 10% *小児構音障害：定期試験 50% *成人構音障害：定期試験 30%、レポート 10%、確認テスト 10% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対す るフィード バック	症例報告書、確認テストの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 臨床実用編」インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアル－ 改定第2版」金原出版
参考図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編」インテルナ出版 西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編」インテルナ出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
事前・ 事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclass で提示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3411 研究室、月曜 15：00～17：30
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施につ いて	

科目名	流暢性障害学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	吃音は様々な要因によって引き起こされる。吃音症状は個別的であり、訓練方法も個別的でなければならない。吃音の改善に取り組む言語聴覚士は、言語症状だけでなく対象者の生育環境や人間関係などにも目を向ける必要がある。
到達目標	1. 吃音の疫学研究, 原因論, 分類法を学ぶ。 2. 吃音臨床の基本を習得する。 3. 吃音児 (者) の抱えている問題や悩みを理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1回：発話の流暢性の障害 原因論と進展 谷</p> <p>第 2回：幼児期の言語発達と発話の非流暢性 発達障害との合併 谷</p> <p>第 3回：吃音の評価方法① 概説 谷</p> <p>第 4回：吃音の評価方法② 実際 谷</p> <p>第 5回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法① 環境調整 谷</p> <p>第 6回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法② 直接法 谷</p> <p>第 7回：成人の吃音に対する訓練法 谷</p> <p>第 8回：吃音児者を取り巻く環境 セルフヘルプグループ 谷</p>
アクティブラーニング	反転授業の実施のためにWebClassを用いる
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験 70% 毎回の小テスト (復習テスト) 20% レポート 10%

課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）を授業の中で行います
指定図書	小林宏明・川合紀宗編著「特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」学苑社
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる予習・復習（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
教材授業の実施について	

課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学第2版 (医学書院) 聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 (医歯薬出版)
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 (医歯薬出版) 藤島一郎・谷口洋著：脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 (医歯薬出版) 若林秀隆・藤本篤士編著：サルコペニアの摂食・嚥下障害 (医歯薬出版) 倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学 (医歯薬出版)
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclassで提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411研究室、月曜9:00~12:00 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士、看護師、管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	摂食嚥下障害総合演習																																														
科目責任者	佐藤 豊展																																														
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 6セメスター																																														
DP番号と科目領域	DP5 専門																																														
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。																																														
科目概要	摂食嚥下障害の評価、問題点の抽出、訓練プログラムの立案、訓練手技について学ぶ。STが行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに行う精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。摂食嚥下障害への直接訓練や間接訓練について学んでいく。事例を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。																																														
到達目標	1. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に理解し、模擬的に実施することができる。 2. 症例報告書の書き方を説明できる。																																														
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、俵 祐一、ゲストスピーカー (金沢英哲)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定</td> <td>講義・演習</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： " ② "</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： " ③ "</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： " ④ "</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法</td> <td>講義・演習 ★小テスト</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第6回： " ②嚥下手技</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第7回： " ③食事介助</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第8回： " ④食事介助</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第9回： 呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法</td> <td>講義</td> <td>俵 祐一・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回： 肺理学療法</td> <td>演習</td> <td>俵 祐一・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第11回： 摂食嚥下障害の訓練</td> <td>実技演習 ★ルーブリック</td> <td>佐藤 豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第12回： 補綴的治療、報告書の書き方</td> <td>★小テスト</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第13回： 嚥下訓練のリスク管理 (気管切開含む)</td> <td></td> <td>金沢英哲</td> </tr> <tr> <td>第14回： 嚥下障害の手術的治療</td> <td></td> <td>金沢英哲</td> </tr> <tr> <td>第15回： 摂食嚥下障害の臨床</td> <td></td> <td>金沢英哲</td> </tr> </table>		第1回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	講義・演習	佐藤 豊展	第2回： " ② "		佐藤 豊展	第3回： " ③ "		佐藤 豊展	第4回： " ④ "		佐藤 豊展	第5回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	講義・演習 ★小テスト	柴本 勇	第6回： " ②嚥下手技		柴本 勇	第7回： " ③食事介助		柴本 勇	第8回： " ④食事介助		柴本 勇	第9回： 呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法	講義	俵 祐一・佐藤豊展	第10回： 肺理学療法	演習	俵 祐一・佐藤豊展	第11回： 摂食嚥下障害の訓練	実技演習 ★ルーブリック	佐藤 豊展・柴本 勇	第12回： 補綴的治療、報告書の書き方	★小テスト	佐藤 豊展	第13回： 嚥下訓練のリスク管理 (気管切開含む)		金沢英哲	第14回： 嚥下障害の手術的治療		金沢英哲	第15回： 摂食嚥下障害の臨床		金沢英哲
第1回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	講義・演習	佐藤 豊展																																													
第2回： " ② "		佐藤 豊展																																													
第3回： " ③ "		佐藤 豊展																																													
第4回： " ④ "		佐藤 豊展																																													
第5回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	講義・演習 ★小テスト	柴本 勇																																													
第6回： " ②嚥下手技		柴本 勇																																													
第7回： " ③食事介助		柴本 勇																																													
第8回： " ④食事介助		柴本 勇																																													
第9回： 呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法	講義	俵 祐一・佐藤豊展																																													
第10回： 肺理学療法	演習	俵 祐一・佐藤豊展																																													
第11回： 摂食嚥下障害の訓練	実技演習 ★ルーブリック	佐藤 豊展・柴本 勇																																													
第12回： 補綴的治療、報告書の書き方	★小テスト	佐藤 豊展																																													
第13回： 嚥下訓練のリスク管理 (気管切開含む)		金沢英哲																																													
第14回： 嚥下障害の手術的治療		金沢英哲																																													
第15回： 摂食嚥下障害の臨床		金沢英哲																																													
アクティブラーニング	演習は二人一組で行います。																																														
授業内のICT活用	ICT機器を利用して映像で確認しながら行います。																																														
評価方法	小テスト 20%、実技演習 15%、定期試験 65% 実技演習は、ルーブリックに基づいて確認する レポートは、ルーブリックを用いない。																																														
課題に対するフィードバック	レポートの解説を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。																																														

指定図書	標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学第2版 (医学書院) 聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 (医歯薬出版)
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 (医歯薬出版) 藤島一郎・谷口洋著：脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 (医歯薬出版) 若林秀隆・藤本篤土編著：サルコペニアの摂食・嚥下障害 (医歯薬出版) 倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学 (医歯薬出版)
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は各40分と考えています。 事前・事後学修は、適宜Webclassで提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411研究室、月曜15:00~17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「医師、言語聴覚士、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
遠隔授業の実施について	

アクティブ ラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や検査練習を行う。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	定期試験 90%、平常点 10%
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	日本聴覚医学会編：「聴覚検査の実際」南山堂 廣田栄子「特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援（シリーズ きこえ とことばの発達と支援」学苑社 城間将江、鈴木恵子、小淵千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 授業後に検査手技の練習を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業 の実施につ いて	なし

アクティブ ラーニング	演習科目です。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	定期試験 90%、平常点 10%
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	日本聴覚医学会編：「聴覚検査の実際。」南山堂 城間将江、鈴木恵子、小淵千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 グループ毎に演習の準備、補聴器の測定練習を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：9時30分～10時30分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業 の実施につ いて	なし

科目名	小児聴覚障害学
科目責任者	大原 重洋
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	乳幼児聴力検査の講義を通じて、小児の発達特性を踏まえた聴力評価法について理解し、実際の機器を用いて検査を実施する。
到達目標	1. 新生児聴覚スクリーニングに用いる検査の原理と手技について説明することができる。 2. 乳幼児聴力検査の原理を理解し、検査を実施することができる。 3. 聴覚障害児に固有の心理言語社会的能力の発達を理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>第1回 ①オリエンテーション、②小児聴覚障害学の最新のトピック</p> <p>第2回 乳幼児の聴覚発達と検査法の選定と鑑別</p> <p>第3回 聴力検査①乳幼児期 (PEEP SHOW)</p> <p>第4回 聴力検査②乳児期 (COR、VRA)</p> <p>第5回 新生児聴覚スクリーニングの理論と実際 (AABR、OAE、ABR、ASSR)</p> <p>第6回 早期発見と早期療育、聴覚ハビリテーション</p> <p>第7回 聴力検査③幼児期～学童期 (Play Audiometry)</p> <p>第8回 Play Audiometry 演習/PEEP SHOW、COR 演習※</p> <p>第9回 聴力検査④幼児期後期～学童期 (語音聴力検査)</p> <p>第10回 語音聴力検査演習/PEEP SHOW、COR 演習※</p> <p>第11回 聴力検査⑤乳児期 (BOA)</p> <p>第12回 BOA 演習/PEEP SHOW、COR 演習※</p> <p>第13回 演習 (実際の子ども)</p> <p>第14回 演習 (実際の子ども)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※グループごとに PEEP SHOW と COR について、ルーブリックに基づいて評価する。</p>

アクティブ ラーニング	乳幼児検査法については、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	定期試験 90%、平常点 10%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	城間将江、鈴木恵子、小淵千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院 廣田栄子「特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援（シリーズ きこえとことばの発達と支援）」学苑社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外授業 の実施につ いて	なし

科目名	小児聴覚障害演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	乳幼児聴力検査の講義を通じて、小児の発達特性を踏まえた聴力評価法について理解し、実際の機器を用いて検査を実施する。
到達目標	1. 新生児聴覚スクリーニングに用いる検査の原理と手技について説明することができる。 2. 乳幼児聴力検査の原理を理解し、検査を実施することができる。 3. 聴覚障害児に固有の心理言語社会的能力の発達を理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>第1回 ①オリエンテーション、②小児聴覚障害学の最新のトピック</p> <p>第2回 乳幼児の聴覚発達と検査法の選定と鑑別</p> <p>第3回 聴力検査①乳幼児期 (PEEP SHOW)</p> <p>第4回 聴力検査②乳児期 (COR、VRA)</p> <p>第5回 新生児聴覚スクリーニングの理論と実際 (AABR、OAE、ABR、ASSR)</p> <p>第6回 早期発見と早期療育、聴覚ハビリテーション</p> <p>第7回 聴力検査③幼児期～学童期 (Play Audiometry)</p> <p>第8回 Play Audiometry 演習/PEEP SHOW、COR 演習※</p> <p>第9回 聴力検査④幼児期後期～学童期 (語音聴力検査)</p> <p>第10回 語音聴力検査演習/PEEP SHOW、COR 演習※</p> <p>第11回 聴力検査⑤乳児期 (BOA)</p> <p>第12回 BOA 演習/PEEP SHOW、COR 演習※</p> <p>第13回 演習 (実際の子ども)</p> <p>第14回 演習 (実際の子ども)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※グループごとに PEEP SHOW と COR について、ルーブリックに基づいて評価する。</p>

アクティブ ラーニング	乳幼児検査法については、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	授業内で実施する実技テストテスト（40%）、実際の子どもへの検査演習（40%）、及び、リアクションペーパーの記述内容（20%）を併せて総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	城間将江、鈴木恵子、小淵千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院 廣田栄子「特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援（シリーズ きこえとことばの発達と支援）」学苑社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外授業 の実施につ いて	なし

科目名	成人聴覚障害学
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	この科目では聴覚障害学、聴覚機能評価演習、聴覚補償演習で学んだ評価・支援に関する知識を整理・統合することが目標です。成人期の聴覚障害者の聴覚障害の特徴を理解し、評価・診断、指導・支援について考えていきます。また視覚聴覚二重障害がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深め、支援方法および代替コミュニケーション手段について学習します。
到達目標	1. 中途失聴者・難聴者の聴覚保障およびコミュニケーション支援について説明できる。 2. 視覚聴覚二重障害の方の特徴を挙げることができる。 3. 聴覚障害者のための各種支援機器、社会福祉制度、社会資源について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋</p> <p>1回 成人期の聴覚障害の特徴</p> <p>2回 成人期の指導と支援/成人の評価</p> <p>3回 視聴覚二重障害 (盲ろう)</p> <p>4回 視聴覚二重障害 (盲ろう) 演習</p> <p>5回 中枢性聴覚障害</p> <p>6回 中枢性聴覚障害</p> <p>7回 聾学校高等部での学びと生活</p> <p>8回 聴覚障害者の終了指導・支援の実際 (外部講師)</p>

アクティブ ラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等を視聴し、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	定期試験 90%、平常点 10%
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	城間将江、鈴木恵子、小淵千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外授業 の実施につ いて	なし

科目名	聴覚補償演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	聴覚障害児・者の聴覚感覚を保証する補聴器や人工内耳の原理と特性を理解し、適合法を学習する。
到達目標	1. 補聴器の原理と機能を理解し、聴力レベルに応じて実際に調整することができる。 2. 人工内耳の原理・機能を理解し、プログラミング法を説明することができる。 3. 無線補聴システムの利用について説明することができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>1 回 補聴器の種類と適応 2 回 音響特性とその測定方法 3 回 カップリングシステムの意義と活用 4 回 補聴器の挿入利得、ファンクショナルゲイン 5 回 補聴器フィッティングプログラムの操作 6 回 補聴器フィッティングのあり方 (小児を中心に) 7 回 補聴器の JIS 8 回 補聴器の JIS 9 回 リニア増幅/ノンリニア増幅 1 0 回 リニア増幅/ノンリニア増幅 1 1 回 人工内耳の原義と特徴/適応と評価 1 2 回 人工内耳の適応と評価 1 3 回 無線補聴援助システム 1 4 回 小児の装用効果の評価 1 5 回 まとめ</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	定期試験 90%、平常点（授業態度、課題提出、リアクションペーパー） 10%
課題に対する フィード バック	演習における手技について、その場でフィードバックする。
指定図書	小寺一興「補聴器のフィッティングと適用の考え方」診断と治療社 廣田栄子「特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援（シリーズ きこえとことばの発達と支援）」学苑社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 グループ毎に演習の準備、補聴器の測定練習を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外授業 の実施につ いて	なし

科目名	臨床言語聴覚療法基礎実習
科目責任者	大原重洋
単位数他	1単位(45時間) 言語必修 1 Semester
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	本実習は、言語聴覚士の臨床活動の理解・言語聴覚障害者の理解を目的に、近隣の医療施設で言語聴覚療法の実際を見学する。臨床見学を通じて、言語聴覚士を志す動機を高め、医療職としての態度、社会でのマナーを身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見学施設の特徴を説明できる。 2. 言語聴覚士の臨床活動を説明できる。 3. 言語聴覚障害者・摂食嚥下障害者の症状や様子を説明できる。 4. 医療施設で自身の立場をわきまえて見学できる。 5. 見学を通じて自身で考えたことを発表できる。
授業計画	<p><担当教員名> 中村哲也、谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、佐藤順子、大原重洋、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下の日程及び内容を実施する。</p> <p>7月・8月：実習オリエンテーション・事前学習 9月6日～10日の期間中に5日間医療・介護施設で見学をする 9月に見学報告会及びレポート提出</p> <p>①事前学習：実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー ②実習施設への電話連絡 ③実習施設での見学：言語聴覚士の活動、言語聴覚療法の実際、言語聴覚障害者の症状、守秘義務の理解、記録 ④臨床言語聴覚療法基礎実習報告会での発表 ⑤臨床言語聴覚療法基礎実習レポート</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	事前学習 20%、見学施設での活動 40%、報告会 20%、レポート 20%
課題に対する フィード バック	オリエンテーション及び事前学習内容は、科目責任者が提示します。その後、各課題を実習施設担当教員に提出し、適時担当教員からフィードバックをします。見学施設での活動は、実習施設での担当言語聴覚士から担当教員を通じてフィードバックをします。
指定図書	『言語聴覚障害学概論』 編集 藤田郁代 医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	〔事前学習〕 実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー、実習施設への連絡方法をで行います。 〔事後学修〕 自身の基礎実習を振り返りながら、実習報告会の準備をし、自身の学びをレポートにまとめます。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3405 研究室、水曜 9 : 00～10 : 30
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外授業 の実施につ いて	なし

科目名	臨床言語聴覚療法評価実習
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2単位 (90 時間) 言語必修 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	言語聴覚障害の評価・診断・目標設定などについて学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例を通して学ぶ。これまで学内で学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認し、再統合する機会とする。また、臨床におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員および実習指導者に適切に報告・連絡・相談ができる。 2. 情報収集に始まり、適切な検査法を選択できる。 3. 検査・観察などを通して患児・者の全体像を把握し、文章化できる。 4. 社会人としての基本的態度を養う。
授業計画	<p><担当教員> 佐藤順子、谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、大原重洋、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について2週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT活用	なし
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対する フィード バック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>※言語聴覚障害診断学や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、評価実習の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclassの当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3407 研究室、月曜 15 : 00～17 : 30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施に ついて	

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習 I
科目責任者	大原 重洋
単位数他	6単位 (270時間) 言語必修 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、これまで学んだ専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、実際の症例の言語聴覚障害を評価・診断し、目標設定を行う。さらに訓練プログラムの立案ならびにその実践を通し、専門技術について学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. これまでに学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行、結果の解釈と鑑別診断、目標の設定などが行えるようになる。
授業計画	<p><担当教員> 大原重洋、谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、小坂美鶴、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について6週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成 <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT活用	なし
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対する フィード バック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。 実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習 I の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclass の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3405 研究室 水曜日：8 時 50 分～10 時 10 分</p> <p>上記以外でもメール (shigehiro-o@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施に ついて	

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	6単位 (270時間) 言語必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	言語聴覚療法の実践について学ぶ。総合実習では臨地施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例の言語聴覚障害の評価・診断から目標設定をし、訓練プログラムの立案ならびにその実践を通して専門技術を総合的に学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 最後の臨床実習としてこれまでに学修してきた専門知識や技術を再確認、再統合する。 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行を通して障害を正しく評価できる。 訓練プログラムを設定し、訓練を行うことができる。 報告書としてまとめ発表する。
授業計画	<p><担当教員> 小坂美鶴、谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、大原重洋、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について、6週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成 <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT活用	なし
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対する フィード バック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。 実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習 I の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclass の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業 の実施に ついて	

科目名	地域言語聴覚療法学
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	これまでの日本の医療・福祉の推移を概説し、地域リハビリテーションおよび地域言語聴覚療法の社会的背景、基本的概念を学修する。地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度を理解した上で、どのようなサービス下で言語聴覚療法が展開されているか理解する。地域言語聴覚療法の実践例を通して具体的なイメージを促すとともに、地域言語聴覚療法の現実的な問題点を整理する。
到達目標	1. 地域リハビリテーションの歴史的・社会的背景を概説できる。 2. 地域言語聴覚療法の概念と視点、言語聴覚士の役割を説明できる。 3. 医療、福祉、介護、発達・教育関連の制度・システムを理解できる。 4. 地域言語聴覚療法の実践例を通して、支援のプロセスと展開を理解できる。
授業計画	<p><担当教員名>佐藤 豊展, ゲストスピーカー</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：日本の医療・福祉の推移 地域包括ケアシステムと支えるシステム・制度 佐藤 豊展</p> <p>第 2-3 回：地域言語聴覚療法を支える医療、福祉、介護、発達・教育関連の制度とシステム ※グループワーク 佐藤 豊展</p> <p>第 4 回：地域言語聴覚療法を支える医療、福祉、介護、発達・教育関連の制度とシステム ※グループワーク 佐藤 豊展</p> <p>第 5 回：発表 佐藤 豊展</p> <p>第 6-8 回：地域言語聴覚療法の実践 ★レポート ゲストスピーカー</p>
アクティブラーニング	グループワークを多く取り入れて授業を進めていきます。 グループワークで考えたことは、共有できるように発表の場を設けます。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	レポート 50%, 発表 50% レポートは、ルーブリックを用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。

指定図書	半田理恵子, 藤田郁代編「地域言語聴覚療法学 (標準言語聴覚障害学)」医学書院
参考図書	森田秋子, 黒羽真美「在宅・施設リハビリテーションにおける言語聴覚士のための地域言語聴覚療法」三輪書店
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部, 3411 研究室, 月曜 15:00~17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	拡大代替コミュニケーション演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1単位 (30 時間) 言語必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	コミュニケーションを音声言語から拡大する方法、音声言語を代替する方法について演習を通じて学ぶ。本科目では、ローテクノロジー・ハイテクノロジー・スイッチの適応等のコミュニケーション方法の選択とその訓練法について模擬的に実施しながら理解を深めていく。
到達目標	1. 拡大代替コミュニケーションの種類と適応を説明できる。 2. 適切な拡大代替コミュニケーション方法選択ができる。 3. 拡大代替コミュニケーションの訓練を模擬的にできる。
授業計画	<p><担当教員名> 谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、佐藤順子、大原重洋、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション・人のコミュニケーション 第 2 回：拡大代替コミュニケーションとは 第 3 回：拡大代替コミュニケーションの種類と適応 第 4 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法① 第 5 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法② 第 6 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法③ 第 7 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法① 第 8 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法② 第 9 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法③ 第 10 回：スイッチの選択と適応① 第 11 回：スイッチの選択と適応② 第 12 回：拡大代替コミュニケーション訓練① 第 13 回：拡大代替コミュニケーション訓練② 第 14 回：拡大代替コミュニケーション訓練③ 第 15 回：まとめ ※講義内容は変更の可能性があります。</p>
アクティブ ラーニング	演習科目です
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	グループワークへの参加度 (実技含む) : 60% レポート : 40%
課題に対する フィード バック	グループ・ディスカッション、実技演習、発表に対するアドバイス・コメントをします。

指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	演習科目ですので、殆ど実技を行っていきます。 実技に必要な知識(復習)が必要です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

アクティブ ラーニング	演習科目です。
授業内の ICT活用	映像で確認することがある。
評価方法	レポート（60%）発表（40%）
課題に対する フィード バック	授業内に解説をします。
指定図書	『よくわかる卒論の書き方』白井利明他 ミネルヴァ書房 『論文の教室-レポート作成から卒論まで-』戸田山和久 NHK ブックス
参考図書	言語聴覚学科卒業論文
事前・ 事後学修	[事前学修] 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。 [事後学修] 授業で課題として出されたレポートを作成する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 谷(3406研究室) 時間等：毎週月曜日 11:15~13:15 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面 授 業 の 実 施 に つ い て	

科目名	言語聴覚学研究法演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位 (30時間) 言語必修 6 セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することgできる。
科目概要	言語聴覚障害学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身につけることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2. 先行研究の論文を読み、教員や他のメンバーに概要を伝えることができる。 3. 調査・実験計画を立案できる。 4. 適宜、ゼミで中間報告・ディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正できる。 5. 研究目的、関連する先行研究（5編以上）、研究方法、今後のスケジュールを記載したレポートを作成できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、佐藤順子、大原重洋、佐藤豊展 <授業内容・テーマ等> 各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なるが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていく。</p> <p>第 1回：卒業研究の概要説明</p> <p>第 2回：研究法の多様性を知る</p> <p>第 3回：テーマの仮設定</p> <p>第 4回：関係資料の収集</p> <p>第 5回：関係資料の整理</p> <p>第 6回：抄読会</p> <p>第 7回：先行研究の収集と整理</p> <p>第 8回：ゼミ報告（先行研究と自分のテーマとの関連性について）</p> <p>第 9回：ゼミ報告（先行研究に学ぶ研究法の選択）</p> <p>第10回：研究計画の立案</p> <p>第11回：ゼミ発表・報告</p> <p>第12回：研究計画の修正</p> <p>第13回：テーマの再確認と年間計画立</p>

	<p>第14回：レポートまとめ</p> <p>第15回：レポートまとめ</p>
アクティブ ラーニング	演習科目
授業内のIC T活用	なし
評価方法	<p>課題の提出物 70%</p> <p>ゼミ中の参加態度 30%</p> <p>ゼミ論文はルーブリックを提示する</p>
課題に対す るフィード バック	添削・返却して授業時間にフィードバックする
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	研究者計画に関する課題の遂行と修正（毎回、各40分）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3406研究室</p> <p>時間等：毎週月曜 11：15～13：15</p> <p>上記以外でも在室時随時対応します</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施につ いて	

科目名	言語聴覚障害学総合演習
科目責任者	佐藤順子
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	1セメスターから6セメスターまでに学修した内容の総まとめとして、獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、総合実習に備える。実際の言語聴覚障害者に訓練を行うなかで、実習生としての基本的な姿勢(身だしなみや態度、ことば遣い、症例や家族、他のスタッフに対する配慮など)を身につけるとともに、訓練プログラムの立案、訓練の実施、症例報告やレポート作成など、言語聴覚療法の治療学を総合的に再学習し整理する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害の治療の基本的手続きを説明することができる。 2. リハビリテーション専門職を目指す実習生としての確かな行動がとれるよう、専門知識に偏らない社会常識を身につけることができる。 3. 訓練方針や目標の立案方法を説明することができる。 4. 実際の言語聴覚障害児・者に対して訓練方針を立て、模擬的に訓練を実施することができる。 5. 症例報告書の枠組みを説明し、模擬的に作成できる。
授業計画	<p><担当教員> 佐藤順子、谷哲夫、柴本勇、大原重洋、小坂美鶴、佐藤豊展、</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：訓練方針・目標の立案方法、報告書の書き方 佐藤順</p> <p>第2回：演習オリエンテーション(成人)、訓練準備 *訓練計画書① 佐藤順・谷・佐藤豊</p> <p>第3-4回：症例演習①(成人) *日誌①+訓練計画書② 佐藤順・谷・佐藤豊</p> <p>第5-6回：症例演習②(成人) *日誌②+訓練報告書 佐藤順・谷・佐藤豊</p> <p>第7回：演習オリエンテーション(小児)、訓練準備 *訓練計画書③ 小坂・大原</p> <p>第8-9回：症例演習①(小児) *日誌③+訓練計画書④ 小坂・大原</p> <p>第10-11回：症例演習②(小児) *日誌④+訓練計画書⑤ 小坂・大原</p> <p>第12-13回：症例演習③(小児) *日誌⑤+訓練報告書 小坂・大原</p> <p>第14-15回：OSCE(客観的臨床能力試験) ※日誌⑥ 全教員</p>
アクティブラーニング	授業内では、適時、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	<p>演習の準備・実技 20%</p> <p>レポート等提出物 40%</p> <p>OSCE(客観的臨床能力試験) 40%</p> <p>OSCEの達成度はルーブリックを用いて評価をします。 レポートはルーブリックを用いない。</p>
課題に対するフィードバック	提出物・実技内容については、適時、フィードバックをします。
指定図書	なし

参考図書	<p>深浦順一、植田 恵編集「標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法評価・診断学」医学書院</p> <p>深浦順一、爲数哲司、内山量史編著「言語聴覚士のための臨床実習テキスト」建帛社</p> <p>藤田郁代、立石雅子編集「失語症学」医学書院</p> <p>小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版</p> <p>西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版</p>
事前・事後学修	<p>※指定図書以外に、これまでの授業で使用した教科書に戻って学修を深めることを勧めます。</p> <p>※毎回の講義終了時に、次回までの予習・復習内容を示します。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3407 研究室</p> <p>時間等：11:45～12:15（毎週月曜から木曜）</p> <p>上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	

科目名	卒業研究
科目責任者	佐藤豊展
単位数他	1単位 (30時間) 言語選択 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	言語聴覚療法学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2. 先行研究の論文を検索し、概要をまとめる。 3. 調査・実験計画を立案できる。 4. ゼミごとにディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 5. 研究目的、関連する先行研究、研究方法を記載した研究計画書を作成する。 6. 研究計画書をもとにデータを収集する。 7. データを解析し、理論的な考察ができる。 8. 研究内容をまとめ、論文を作成し、報告会でプレゼンテーションを実施する。
授業計画	<p><担当教員名> 佐藤順子、谷 哲夫、柴本 勇、小坂美鶴、大原重洋、佐藤豊展 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：卒業研究の概要の説明</p> <p>第 2 回：テーマの選定</p> <p>第 3 回：先行研究の収集と要約</p> <p>第 4 回：研究計画の立案</p> <p>第 5 回：研究計画の修正</p> <p>第 6 回：試験的データの収集・分析</p> <p>第 7 回：本実験の方法の再検討</p> <p>第 8 回：研究計画に基づいた実験・調査の遂行</p> <p>第 9 回：データの収集・整理</p> <p>第 10 回：統計処理・分析</p> <p>第 12 回：論文の作成・草稿の提出</p> <p>第 13 回：プレゼンテーションの作成</p> <p>第 14 回：卒業論文報告会で発表</p> <p>第 15 回：卒業論文の最終修正・提出</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です
授業内の ICT活用	なし
評価方法	卒業論文の完成度（70%）ゼミの態度（15%）発表（15%）
課題に対す るフィード バック	授業内に解説をします。
指定図書	教員ごとに指示します。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	ゼミの教員から出された課題を期日までに提出する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3411 研究室 時間等：月曜 15：00～17：30 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施につ いて	

科目名	言語聴覚障害学特別講義	
科目責任者	佐藤豊展	
単位数他	1単位 (15時間) 言語選択 8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5-4-専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	4年間学んだ言語聴覚士国家試験対象科目である専門基礎科目、専門科目の学習内容を振り返りながら、各科目の理解度と習得状況を確認する。また、知識が不十分な科目について学生自ら自覚し、必要な知識の再学習を行なう。	
到達目標	1. 国家試験、頻出用語を理解できる。 2. 調べたこと・覚えたことを人に教えることができる。 3. 模擬試験の結果をもとに、自己学習内容・時間を計画できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 オリエンテーション、解剖学 第2回 生理学 第3回 神経系の構造・機能・病態 第4回 臨床神経学 第5回 精神医学 第6回 医学総論、リハビリテーション医学 第7回 聴覚系の構造・機能・病態 第8回 耳鼻咽喉科学	<担当教員名> 佐藤豊展 佐藤豊展 谷 哲夫 佐藤豊展 佐藤豊展 谷 哲夫 大原重洋 大原重洋
アクティブラーニング	演習科目 (事前学修をして授業で質問、解説をします)	

授業内のICT活用	なし
評価方法	小テスト (100%)
課題に対するフィードバック	各担当教員から各自にフィードバックします。
指定図書	『言語聴覚士テキスト第3版』廣瀬肇監、医歯薬出版、2018 『2023年版 言語聴覚士国家試験 過去問題』大揚社
参考図書	なし
事前・事後学修	[事前学修] 各教科について事前にしっかり予習をすること。 [事後学修] 各科目で出された課題を提出すること。
オープンエデュケーションの活用	
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411 研究室、水曜 13 : 00～14 : 20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	国際言語聴覚療法実習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2単位 (90時間) 言語選択 6セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は国際的視点に立った言語聴覚療法の提供を目指し、国内外の連携施設において言語聴覚療法に関する実習を行う。本科目は単に言語聴覚療法の実習にとどまらず、地域社会や国際社会のニーズを的確にとらえ専門職としての貢献を考えることも含む。
到達目標	1. 地域社会・国際社会において言語聴覚療法のニーズを分析し説明できる。 2. 言語聴覚療法の必要性に応じ、専門職として対応ができる。 3. 国際社会で活動できるスキルを身につけることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 柴本 勇 事前学習(1W)：地域援助、文化、語学、言語聴覚学 実習(2W)：連携施設において、言語聴覚療法に関する実習 事後学修(1W)：自身の活動と地域社会・国際社会との関係性についてレフレクション
アクティブラーニング	実習科目です。 本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	事前学習20%、実習60%、事後学修20% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	実習中は毎日振り返りを行い、フィードバックをする。
指定図書	なし
参考図書	初回講義時に提示する。
事前・事後学修	連携施設に行く前に、援助方法・文化・語学等の事前学習を実施する。事後学修として、自身の活動が地域社会とどのような関係かを検討する。同時に自身の専門性の向上についても検討する。

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	研究室：3号館4階 3408研究室 初回講義時に提示します。 いつでも遠慮なく、メール(isamu-s@seirei.ac.jp)でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 ^テ 授業 の実施に ついて	

科目名	発展的言語聴覚療法学	
科目責任者	佐藤順子	
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語選択 8 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP7 専門	
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。	
科目概要	4年次まで学んできた言語聴覚学や言語聴覚療法に関する、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピック等更に発展的かつ最新情報を含めて学ぶ。学部から大学院への移行にふさわしい内容の学修を行う。高度専門職を目指す基盤を学ぶ。	
到達目標	1.言語聴覚療法の、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピックを説明できる。 2.最新の知識等を用いて発展的な言語聴覚療法を提供できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：高次脳機能障害の最新トピック 第 2 回：流暢性障害の最新トピック 第 3 回：摂食嚥下障害の最新トピック 第 4 回：言語発達障害の最新トピック 第 5 回：聴覚障害の最新トピック：教育領域も含めて 第 6 回：地域言語聴覚療法の最新トピック 第 7 回：言語聴覚療法と倫理 第 8 回：言語聴覚学研究と臨床	<担当教員名> 佐藤順子 谷哲夫 佐藤豊展 小坂美鶴 大原重洋 谷 哲夫 佐藤順子 柴本 勇
アクティブラーニング	ディスカッション・文献検討・症例検討等を行います。 小グループでの学修を行います。	
授業内の ICT 活用	なし	
評価方法	レポート 100%	

課題に対するフィードバック	口頭にてフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	ディスカッションの内容、文献の内容、症例に関する内容を事前・事後学修します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：11:45～12:15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	